

(案)

平成19年度独立行政法人統計センターの業務の実績に関する評価調書

- ・全体的評価表
- ・項目別評価総括表
- ・項目別評価調書

平成 19 年度独立行政法人統計センターの業務の実績に関する評価

目 次

	ページ	評 価
全体的評価表	1	
項目別評価総括表	4	
項目別評価調書		
第 1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置		
1 業務運営の高度化・効率化に関する事項	3 8	A A
2 効率的な人員の活用に関する事項	4 3	A
3 業務・システムの最適化に関する事項	4 5	A
(4 製表業務の民間開放に向けた取組)	4 7	A
第 2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置		
1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項		
(1) 国勢調査	4 9	A
(2) 事業所・企業統計調査	5 2	A
(3) 住宅・土地統計調査	5 5	A
(4) 就業構造基本調査	5 7	A A
(5) 全国物価統計調査	5 9	A
(6) 社会生活基本調査	6 1	A A
(7) 労働力調査	6 3	A A
(8) 小売物価統計調査	6 5	A A
(9) 家計調査	6 8	A
(10) 個人企業経済調査	7 2	A
(11) 科学技術研究調査	7 4	A
2 受託製表に関する事項	7 6	
(1) 人事院職員福祉局依託業務 (民間企業の勤務条件制度等調査)	7 7	A
(2) 人事院給与局委託業務 (国家公務員給与等実態調査、職種別民間給与実態調査、家計調査特別集計 (標準生計費関係・住宅関係・各分位関係) 平成 16 年全国消費実態調査特別集計 (標準生計費))	7 9	A
(3) 総務省人事・恩給局委託業務 (国家公務員 (特別職・自衛官) 給与実態調査、国家公務員退職手当実態調査)	8 2	A
(4) 総務省統計局委託業務 (家計消費状況調査)	8 5	A
(5) 公害等調整委員会事務局委託業務 (公害苦情調査)	8 7	A
(6) 文化庁委託業務 (サービス業基本調査特別集計 (芸術関連産業))	8 9	A

(7) 財務省委託業務（家計調査特別集計（特定品目）家計調査特別集計（世帯類型別））	9 1	A
(8) 厚生労働省委託業務（雇用動向調査、賃金構造基本統計調査）	9 3	A
(9) 経済産業省委託業務（平成 19 年商業統計調査）	9 5	A
(10) 国土交通省総合政策局委託業務（内航船舶輸送統計調査、建設工事統計調査、建築着工統計調査、船舶労働統計調査、建築物滅失統計調査、住宅用地完成面積調査、建設総合統計）	9 7	A
(11) 国土交通省自動車交通局委託業務（旅客自動車運送事業輸送実績調査、貨物自動車運送事業輸送実績調査）	1 0 1	A
(12) 都道府県委託業務（労働力調査都道府県別集計、東京都生計分析調査、平成 17 年国勢調査特別集計）	1 0 3	B
3 統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理に関する事項	1 0 7	A
4 技術の研究に関する事項	1 1 3	A
第3 予算（人件費の見積りを含む。）収支計画及び資金計画	1 1 7	A
第4 短期借入金の限度額	1 1 0	-
第5 重要な財産の処分等に関する計画	1 2 1	-
第6 余剰金の使途	1 2 2	-
第7 その他業務運営に関する事項		
1 施設及び設備に関する計画	1 2 3	-
2 人事に関する計画	1 2 4	A
3 その他業務運営に関する事項	1 2 6	A

**平成19年度独立行政法人統計センターの業務の実績
に関する全体的評価表（案）**

独立行政法人統計センターの業務の実績に関する全体的評価表（案）

業務の実績に関する項目別評価総括

<p>1 業務の効率化(人事に係るマネジメント)</p>	<p>統計センターでは、業務の高度化・効率化を図るため、<u>ITを活用した基盤整備が積極的に進められている</u>。平成 19 年度においては、製表業務に関する文書検索システムの運用開始、イントラネットの充実、家計調査の新たな製表システムの開発及び移行、市販の汎用ソフト・ツールを活用したサマリーシステムの適用拡大など情報通信技術を活用した基盤整備が進められている。特に、「新汎用サマリーシステム」(クライアント/サーバシステム用)を適用した開発では、従来の約 60 人日から約 50 人日に開発工数が削減されており、システム開発業務の効率化が図られている。また、生活時間行動分類自動格付けの研究成果を平成 18 年社会生活基本調査の生活時間行動分類格付事務に適用し、人手のみによる格付けと比較し、投入量が約 20% (304 人日) 削減されている。さらに、既に平成 20 年度に廃止することとしている経常調査用ホストコンピュータについて、廃止時期である 20 年 12 月までリース延長することで、機器を更新した場合と比べて約 2 億円の経費削減とするなど、業務手法の見直しを通じた業務経費の削減が進められている。<u>これらの取組みによる業務経費の削減は、国勢調査などのいわゆる周期統計調査以外の経常統計調査などに係る経費及び一般管理費についての、第 1 期中期目標の期末目標値である「3%以上削減」を大きく上回る 9.8% (約 1.1 億円) 削減に寄与しており、その経営努力は高く評価できる。以上を踏まえ、業務運営の高度化・効率化に向けた経営努力が積極的に行われていると判断できる。</u></p> <p>また、組織内でその階層に必要なスキルレベルを習得できるよう階層別研修の内容を見直すとともに、外部研修などに職員を積極的に派遣するなど職員の能力や資質の向上及び業務に資する知識の習得を推進している。また、内部研修を受講した職員の 80%以上の者から有意義であったとされ、研修の効果が高いものであると認められる。また、次期中期目標期間における組織体制について検討を行い、新たに統計センターに期待される役割を担う組織の整備を行うこととし、平成 20 年 4 月からの新たな中期目標期間において、新組織体制を実施することとしている。このように、職員の専門的能力の開発・向上に重点を置いた人材育成を推進するとともに、業務が機動的・効率的に実施できるような体制整備は着実に進められている。</p> <p>さらに、「業務・システム化最適化計画策定指針(ガイドライン)」に準じ、ホストコンピュータのダウンサイジング、統計センター LAN システムの切替えなどを推進し、対象となるシステムに係る年間経費について、本計画の最終年度である 23 年度に約 3 億 9000 万円の削減(18 年度経費 10 億 5840 万円 23 年度経費 6 億 6888 万円)が見込まれる「独立行政法人統計センターにおける業務・システム最適化計画」を平成 19 年 10 月に策定しており、今後の業務運営の効率化及び経費削減に大きく寄与することが期待できる。</p> <p>最後に、「規制改革・民間開放 3 か年計画(再改定)」に基づき、民間委託の方針を定め、平成 19 年就業構造基本調査及び平成 19 年全国物価統計調査の調査票の受付整理業務及び O C R 入力事務の民間委託を実施するなど、製表業務の民間開放に向けて積極的に取り組んでいると判断される。</p> <p>以上のことから、業務運営の高度化・効率化という所期の目標は、十分に達成されていると認められる。</p>
------------------------------	--

<p>2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上</p>	<p>国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表、受託製表、加工統計の作成・データベースの整備等については、全体として、総務省など委託者が策定した製表基準に基づき、効率的かつ適正に業務が実施され、要求された品質で製表結果等が期限までに提供されている。また、これら製表結果については、委託者からも「満足できる」との回答を得ている。これらのことから、品質と納期の両面において、委託者の要求を十分満たす業務が行われていると認められる。</p> <p>特に、<u>就業構造基本調査</u>では、製表業務の民間開放の方針に基づいて受付整理事務を民間事業者に委託したことのほか、事務に習熟した非常勤職員を投入したことによる作業能率の向上などによる<u>投入量の大幅な削減（対従来比 3,596 人日（24%）減）</u>、<u>社会生活基本調査</u>では、過年度の研究成果である生活時間行動分類の符号格付事務への<u>自動格付システムの導入、データチェック審査事務のPC化及び結果表審査事務の見直し</u>などによる投入量の大幅な削減（対従来比 2,379 人日（42%）減）、<u>小売物価統計調査</u>では、業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上などの徹底により投入量をこれまでの大幅な削減（平成 16 年度対前年度比 2,914 人日（22%）減、平成 17 年度対前年度比 510 人日（5%）減、平成 18 年度対前年度比 383 人日（4%）減）に引き続き削減（対前年度比 1,040 人日（11%）減）を実現している。このように、業務を大幅に効率化しつつ、国勢調査や家計調査などの製表業務において公表の早期化に対応するなど、業務の質が向上していることは高く評価できる。</p> <p>受託製表業務においては、これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながら取りまとめていくなど、効果的な支援を行っている。また、<u>ISMS 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図る</u>など組織的に情報セキュリティ対策が講じられたことは、業務運営に対する統計センター職員の意識向上に資するものと期待できる。</p> <p>技術の研究に関しては、製表技術に適用可能な研究に重点を置き、研究が進められており、データ・エディティングに関する研究、統計分類の自動格付に関する研究、統計ニーズの多様化に対応した製表方法に関する研究、情報処理技術に関する研究を行っている。特に、<u>生活行動分類自動格付法に関する研究成果については、平成 18 年社会生活基本調査の製表業務に適用し、投入量が約 20%削減され、高く評価できる。</u>また、平成 21 年経済センサス基礎調査における産業分類自動格付の実施を目標として研究を行うとともに、国勢調査を始めとする産業・職業分類及び全国消費実態調査を始めとする収支項目分類の自動格付けシステムの構築に向けた研究を開始するなど、研究成果の業務への適用を前提として進められている。</p> <p>以上のことから、<u>高品質の製表結果の提供という所期の目標は、十分に達成されていると認められる。</u></p>
<p>3 財務内容の改善</p>	<p><u>業務経費の削減については、平成 19 年度において中期目標期間の期末目標値である「3%以上の削減」を大きく上回る 9.8%削減を達成</u>しており、評価できる。</p> <p>また、随意契約については、前年度に比べ件数、年間支出額ともに減少し、情報の公開も適正になされており、新たに策定した「随意契約見直し計画」の着実な推進が認められる。</p> <p>さらに、外部監査人による監査の自発的な実施については、会計処理の適正性・透明性を高める上で評価できる。</p> <p>以上のことから、<u>適正な財務管理という所期の目標は、十分に達成されていると認められる。</u></p>

4 その他	<p>専門的な知識・技術が要求される製表業務を効率的・効果的に実施するため、新規採用活動の充実、退職職員の再任用、外部有識者の採用などにより、優秀な人材の確保に努めるとともに、<u>計画的な人員の削減（採用を含む転入の 84 人に対し、退職を含む転出を 95 人とした結果、常勤職員 11 人の削減）が実施される</u>など、適切な人事管理が行われている。</p> <p>また、良好な職場環境の維持・向上を図るため、平成 18 年度に引き続き、「安全衛生管理規程」に基づいた運用がなされ、メンタルヘルスの学習用ソフトウェア及びストレス分析ソフトウェアの活用などにより、職員のメンタルヘルスの意識向上など、メンタル面での健康にも十分配慮がなされている。</p> <p>さらに、防災に関する事項の周知徹底を図るとともに、I S M S 認証取得に当たり、L A N システムやホストコンピュータの運用に関する規程等の整理、遠隔地に設置しているデータバックアップ体制の再確認を行うことにより、事業継続計画を整備するなど、危機管理体制の整備が更に進められている。</p> <p>このほか、環境物品の 100% 調達を引き続き達成し、環境に配慮した業務運営がなされている。</p> <p>以上のことから、<u>統計センターの製表業務運営を側面から支援する取組の実施、体制整備という目標は、十分達成されていると認められる。</u></p>
<p>中期計画全体の評価（項目別評価等を踏まえた中期計画全体の達成状況）</p>	
<p>項目別評価を総合すると、平成 19 年度は、<u>国勢調査を始めとする各種統計調査の製表業務が基準に基づき進められ、要求された品質で製表結果等が期限内までに提供されたことにより、国民に対する政府統計データの迅速かつ多角的な提供に大きく貢献したと認められる。</u></p> <p>また、製表業務に関する文書検索システムの導入、イントラネットの充実、家計調査の新たな製表システムの開発・移行、市販の汎用ソフト・ツールを活用したサマリーシステムの適用統計調査の拡大など情報通信技術を活用した基盤整備が積極的に進められている。</p> <p>さらに、社会生活基本調査における符号格付事務への自動格付システムの導入、就業構造基本調査における一部事務の民間事業者への委託、並びに労働力調査における職員の専門性向上及び品質管理向上等に伴い、投入量が大幅に削減されるなど、製表を始めとする業務運営も効率的に行われていると認められる。</p> <p>以上のことから、第 1 期中期目標期間の最終年度である平成 19 年度においては、中期計画を<u>十分達成</u>したものと認められる。</p>	
<p>組織、業務運営等の改善、その他の提言</p>	
<p>これまでの第 1 期中期目標に対する取組状況をみると、I C T 等を活用し、業務の効率化・合理化を実施しつつ、統計の品質の維持・向上に努め、統計公表の遅延・遅滞を生じることもなく進めており、業務を効率的に運営する上で非常に効果的であった。このため、<u>次期中期目標に向け、投資効果を勘案しつつ、新たな製表システム等の開発に引き続き努めることが必要である。</u></p> <p>技術研究については、引き続き符号格付業務の自動化の研究及び未回答事項の機械的な補完方法の研究に重点を置き、国内外の技術動向に関する情報や外部有識者の知見を積極的に活用して、製表技術に関する研究を計画的に進め、研究の成果が実務に効果的に適用されることを大いに期待したい。</p>	

平成19年度独立行政法人統計センターの業務の実績
に関する項目別評価総括表（案）

独立行政法人統計センターの業務の実績に関する項目別評価総括表(案)

評価項目		評 価	
		評 価 (AA~D)	理 由
第1 業務運営 の効率化に関する 目標を達成する ために取るべき 措置	(1) 業務運営の高度化・効率化	AA	<p>【評価結果の説明】</p> <p>製表業務に関する文書検索システムの運用開始、イントラネットの充実、家計調査の新たな製表システムの開発及び移行、市販の汎用ソフト・ツールを活用したサマリーシステムの適用統計調査の拡大など、情報通信技術を活用した基盤整備が進められている。特に、「新汎用サマリーシステム」(クライアント/サーバシステム用)を適用した平成19年度国家公務員退職手当実態調査では、従来のシステム開発と比較して開発工数が削減(約60人日 約50人日)されており、システム開発業務の効率化が図られている。</p> <p>また、自動格付の研究成果を平成18年社会生活基本調査の生活時間行動分類格付事務に活用した結果、本事務における自動格付の格付率は約75%を達成し、人手のみによる格付方法に比べ、投入量が約20%(304人日)削減されている。</p> <p>さらに、両面印刷の徹底や電子メールの活用などにより、ペーパーレス化を一層推進した結果、総務部門のコピー用紙使用量を対前年度比6.1%削減し、前年度以下とするという平成19年度年度計画の目標を達成するとともに、ホストコンピュータからクライアント/サーバシステムへの移行に伴い平成20年度に廃止することとしている経常調査用ホストコンピュータについて、廃止時期である20年12月までリース延長することで、機器を更新した場合と比べて約2億円の経費削減とするなど、業務手法の見直しを通じた業務経費の削減が進められている。</p> <p>これらの業務経費の削減は、国勢調査などのいわゆる周期統計調査以外の経常統計調査などに係る経費及び一般管理費についての、<u>現中期目標の期末目標値である「3%以上削減」を大きく上回る9.8%(約1.1億円)削減に寄与</u>しており、その経営努力は高く評価できる。</p> <p>これらの取組の成果は、今後の業務運営の効率化及び経費削減に大きく寄与することが期待できることから、全体として、業務運営の高度化・効率化に向けた経営努力が積極的に行われていると判断できる。</p> <p>充実・拡充分野への職員の配置については、情報処理課に3人を増員配置し、ホスト系システムからオープン系システムへの移行体制を一層充実するとともに、平成18年度に引き続き、外部研究者2人を非常勤職員として採用し、製表技術に関する研究体制を一層充実するなど業務運営の高度化・効率化に向けた体制整備が一層進められている。</p> <p>さらに、「行政改革の重要方針」を踏まえ、総人件費改革に取り組み、更なる業務の効率化により、<u>目標どおり常勤職員を11人削減</u>し、国家公務員の定員の純減目標に準じた人員削減の取組を計画的かつ着実に実施していることは高く評価できる。</p> <p>以上のことから、目標を大幅に上回って達成していると判断した。</p>

			<p>「必要性」: 中央集計機関としての統計センターの業務運営のさらなる高度化と効率化を図るためには、情報通信技術を活用した基盤整備、職員の機動的配置、予算の効率的使用に今後も取り組む必要がある。</p> <p>「効率性」: ホストコンピュータからクライアント/サーバシステムへの移行に伴い平成20年度に廃止することとしている経常調査用ホストコンピュータについて、廃止時期である20年12月までリース延長することで、機器を更新した場合と比べて約2億円の経費削減とするなど、業務手法の見直しを通じた業務経費の削減が進められ、国勢調査などのいわゆる周期統計調査以外の経常統計調査などに係る経費及び一般管理費についての、現中期目標の期末目標値である「3%以上削減」を大きく上回る9.8%削減に寄与している。また、更なる業務の効率化により、着実に常勤職員数の削減に取り組み、目標どおり常勤職員を11人削減している。</p> <p>「有効性」: 中央集計機関としての統計センターの責務を着実に果たすためには、情報通信技術の活用及び組織体制の充実による高品質のサービスを低コストで提供するための基盤整備を着実に進めることが効果的である。</p>
--	--	--	--

	(2) 効率的な人員の活用	A	<p>【評価結果の説明】</p> <p>内部研修について組織内でその階層別に必要なスキルレベルを修得できるよう階層別研修の内容を見直すとともに、業務に密接なテーマを設定した特別講演会を実施したほか、外部研修などに職員を積極的に派遣するなど職員の能力や資質の向上及び業務に資する知識の習得を推進している。</p> <p>また、内部研修を受講した職員を対象にアンケート調査を実施した結果、「大変有意義だった」・「有意義だった」と回答した者の割合は約90%となり、目標である80%以上を達成したことから、<u>研修の効果が高い水準であったといえる。</u></p> <p>次期中期目標期間における組織体制について、現行の業務体制及び組織の問題点の整理を行った上で検討した結果、統計センターに期待されている新たな役割である政府統計共同利用システムの運用管理業務、平成21年度開始予定の統計調査票情報の二次利用に関する業務を担う組織の整備を行うとともに、<u>情報技術関連の組織を1つの部へ集約し、分類業務の高度化を図るための組織の整備を行うこととし、20年4月からの新たな中期目標期間において、その新組織体制を実施することとしている。</u></p> <p>このように、職員の専門的能力の開発・向上に重点を置いた人材育成を推進するとともに、業務が機動的・効率的に実施できるような体制整備は着実に進められている。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p><u>「必要性」:</u> 中央集計機関としての統計センターが行う製表業務には高度な専門性と高い技術レベルが要求されるため、職員の専門的能力の開発・向上に重点を置いた人材育成は必須である。</p> <p><u>「効率性」:</u> 統計センターに期待されている新たな役割である政府統計共同利用システムの運用管理業務、平成21年度開始予定の統計調査票情報の二次利用に関する業務を担う組織の整備を行うとともに、情報技術関連の組織を1つの部へ集約するなど、効率的な業務運営に向けた組織体制の整備が行われている。</p> <p><u>「有効性」:</u> 研修の見直しや業務に密接なテーマを設定した講演会の実施などにより、職員の専門性の向上を推進するとともに、現行の業務体制及び組織の問題点の整理を行った上で、新たな業務を担うこととなる次期中期目標期間における組織体制の見直しを行っている。これらは、高品質で低コストのサービスを提供する上で効果的である。</p>
--	---------------	---	--

	(3) 業務・システムの最適化	A	<p>【評価結果の説明】 「業務・システム最適化計画策定指針(ガイドライン)」(平成18年3月31日各府省情報化統括責任者(CIO)連絡会議決定)に準じ、先進事例調査、将来体系の作成、効果算出等を行い、平成19年10月に決定した「独立行政法人統計センターにおける業務・システム最適化計画」は、ホストコンピュータのダウンサイジング、統計センターLANシステムの切り替えなどを推進し、対象となるシステムに係る年間経費について、本計画の最終年度である23年度に約3億9000万円の削減(18年度経費 10億5840万円 23年度経費 6億6888万円)が見込まれているものである。</p> <p>このような計画を決定したことは、今後の業務運営の効率化及び経費削減に大きく寄与することが期待できることから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 経済センサス等の新たな統計調査に係る業務、新統計法を踏まえた統計データの二次利用、政府統計共同利用システムの運用管理に係る業務など新たな役割を積極的に担うこととなる一方で、行政機関と同様に徹底した合理化が求められていることから、業務・システムの最適化計画を着実に推進し、業務運営の更なる高度化・効率化を図ることが必要である。</p> <p>「効率性」: 業務・システムの最適化計画の策定にあたり、外部の支援業者を企画競争で選定するなど効率的に業務を行っている。</p> <p>「有効性」: 業務・システムの最適化計画を推進することにより、ハードウェアのダウンサイジングによる経費の削減、ハードウェア資源の統合及び標準化による全体合理化と経費削減が図られるため、統計センター全体の業務運営の効率化及び経費削減に効果的である。</p>
--	-----------------	---	--

	<p>(4) 製表業務の民間開放に向けた取組</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】</p> <p>「規制改革・民間開放推進3か年計画(再改定)」(平成18年3月31日閣議決定)に基づき、総務省統計局と一体となって、官民競争入札等監理委員会と連携しつつ、民間開放に向けた検討に資するための資料作成、検証等に取り組むとともに、符号格付事務の民間開放の具体化に向けて、符号格付事務を試行的に民間事業者へ委託し、実地に検証を行ったほか、調査票の受付・整理、データ入力及び符号格付以外の製表業務の民間開放に対する考え方について整理を行い、民間委託の方針が定められた。特に、符号格付事務の試行的民間委託については、格付精度向上を図るために、2回目を実施し、その結果を踏まえて今後実施予定の民間開放へ向けて準備を進めていくこととしている。</p> <p>さらに、定められた方針を受けて平成19年就業構造基本調査及び平成19年全国物価統計調査の調査票の受付整理事務及びOCR入力事務の民間委託を実施している。</p> <p>これらの取組の成果は、今後の業務運営の効率化及び経費削減に大きく寄与することが期待できることから、全体として、業務運営の高度化・効率化に向けた経営努力が積極的に行われていると判断できる。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」:</p> <p>国の厳しい行財政事情の下において、民間事業者の創意と工夫を活用して業務運営の一層の効率化を実現することが必要となっており、統計センターの業務についても、業務の種類、性格、専門性等を勘案し、業務運営の一層の効率化の観点から、官民競争入札、民間競争入札その他の民間開放を推進することとされていることを踏まえると、必要な取組である。</p> <p>「効率性」:</p> <p>統計センターの製表業務における符号格付事務は、統計センター全体の製表要員の投入量の約半分を占める主要業務となっており、民間開放によって当該業務の効率化を推進することが、統計センター業務の効率化の鍵を握ることとなる。</p> <p>「有効性」:</p> <p>経済センサス等の新たな統計調査に係る業務、新統計法を踏まえた統計データの二次利用、政府統計共同利用システムの運用管理に係る業務など新たな役割を積極的に担うこととなる一方で、「行政改革の重要方針」を踏まえた、人員削減の取組みを推進するための更なる合理化策の一つとして、有効な手段となり得ることが期待できる。</p>
--	----------------------------	----------	---

<p>第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置</p>	<p>1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表</p>	<p>A</p> <p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果を提出している。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。 符号格付事務及び追跡照合事務（事後調査集計）におけるシステムの動作環境の向上などにより事務の効率化（対従来比-4,143人日）を図ったものの、業務全体としての投入量は増加（対従来比+5,656人日（+10%））した。この増加は、主に平成20年度に予定していた符号格付事務の一部を19年度に前倒して実施したことなどによるものであり、この業務の前倒し分を除くと、業務全体の投入量は対従来比-547人日（-1%）となり、効率的な業務運営が行われていると認められる。 また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。 さらに、前回調査に比べ統計センターへの調査票の提出期限が約3週間延長されたことに加え、第3次基本集計及び抽出詳細集計の公表時期がそれぞれ約3か月、6か月早期化されたことにより、全体の製表期間が大幅に短縮され業務の負担増となったものの、業務を効率的に実施し、同局からの要望に柔軟に対応している。 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 符号格付事務及び追跡照合事務（事後調査集計）におけるシステムの動作環境の向上などにより事務の効率化（対従来比-4,143人日）を図ったものの、業務全体の投入量は予定より増加（対従来比+5,656人日（+10%））しているが、この増加は、主に平成20年度に予定していた符号格付事務の一部を19年度に前倒して実施したことなどによるものであり、この業務の前倒し分を除くと、業務全体の投入量は対従来比-547人日（-1%）となり、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 国勢調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた（製表基準に合致した）処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供（公表）が行われ、選挙区の画定、地方交付税交付金の算出、少子高齢化対策、産業政策、防災対策など関係方面において調査結果が利活用されている。</p>
	<p>(1) 国勢調査</p>	

	(2) 事業所・企業統計調査	A	<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果を提出している。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>業務全体の投入量は、予定より増加（対従来比+1,309人日(+19%））しているが、この増加は、総務省統計局からのデータ訂正依頼や年度計画になかった新産業分類組替え事務が急ぎょ依頼されたことによるものであり、これら予定外の業務量増加分を除くと、対従来比-332人日（-5%）となり、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>さらに、確報集計について、地方から提出される名簿データテープのデータ訂正が平成13年調査に比べ約1.7倍の約1万件と非常に多く発生したことに対して事務の方法を工夫することで対処するとともに、総務省統計局からのデータ訂正依頼により、44県分についてデータ訂正・チェックリスト審査以降の事務を再度行っている。また、新産業分類組替え事務の急な依頼については、その事務期間が約2か月間と非常にタイトなスケジュールであったことから、コンピュータによる自動組替えを行ったが、自動組替えができない事業所が約33万件と非常に多くなったために、自動組替えができない事業所については、キーワードにより個別データを検索した上で自動格付処理を行うなどして、格付精度を確保しつつ事務の効率化を図り対処している。このような多くの負担増があったものの、業務を効率的に実施し、同局からの要望に柔軟に対応している。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 業務全体としての投入量は予定より増加（対従来比+1,309人日(+19%））しているが、この増加は、主に総務省統計局からのデータ訂正依頼や新産業分類組替え事務が急ぎょ依頼されたことによるものであり、これら予定外の業務量増加分を除くと、業務全体としての投入量は対従来比-332人日（-5%）となり、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 事業所・企業統計調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、地方税制度、経済政策、雇用政策など関係方面において調査結果が利活用されている。</p>
--	----------------	---	--

	(3) 住宅・土地統計調査	A	<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>業務全体の投入量は、予定より増加（対従来比+130人日(+29%））しているが、この増加は、結果表数が増加（9表 11表）したことに加え、総務省統計局から提示された製表基準書に不明瞭な部分があり、その内容について同局との確認も含めた疑義等のやり取りに多くの人員を要したという外的要因によるものである。また、増加率は高いものの、試験調査という小規模な業務（製表業務全体の投入量実績計105,999人日のうち577人日）であり、全体に占める影響は低いと言える。</p> <p>また、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 業務全体の投入量は、予定より増加（対従来比+130人日(+29%））しているが、この増加は、結果表数の増加及び総務省統計局から提示された製表基準書の不明瞭による内容確認等のやり取りに多くの人員を要したという外的要因によるものであること、また、小規模な業務であり、全体に占める影響は低いと言える。</p> <p>「有効性」: 平成20年住宅・土地統計調査試験調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた（基準に合致した）処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局において、平成20年住宅・土地統計調査の実施計画の立案に必要な基礎資料として活用されることとなる。</p>
--	---------------	---	---

	(4) 就業構造基本調査	A A	<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき、定められた期限に向けて製表業務が行われている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>投入量については、他調査での符号格付事務経験を持つ、事務に習熟した非常勤職員を投入したことにより、研修が不要となったことに加え、作業能率が上がったこと、製表業務の民間開放の方針に基づいて受付整理事務を民間事業者へ委託したことにより業務量が減少したことなどにより、業務全体では予定より大幅に減少（対従来比-3,596人日（-24%））している。こうしたことから、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>また、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>以上のことから、目標を大幅に上回って達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 他調査での符号格付事務経験を持つ、事務に習熟した非常勤職員を投入したことにより、研修が不要となったことに加え、作業能率が上がったことなどにより、業務全体の投入量は予定より大幅に減少（対従来比-3,596人日（-24%））しており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>「有効性」: 就業構造基本調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた（製表基準に合致した）処理を行い、製表結果の期限までの同局への提出に向けて作業を進めている。同局では、迅速な統計調査結果の提供（公表）が行われることとなり、行政施策の企画立案、少子高齢化対策、雇用対策など関係方面において調査結果が利活用される。</p>
--	--------------	-----	---

	(5) 全国物価統計調査	A	<p>【評価結果の説明】 <u>総務省統計局から提示された製表基準書に基づき、定められた期限に向けて製表業務が行われている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</u> 平成20年度に予定していた事務の一部を19年度に前倒して実施したことによる業務量の増加（対従来比+213人日）などがある一方で、製表業務の民間開放の方針に基づいて受付整理事務を民間事業者に委託したことによる業務量の減少などにより、業務全体としての投入量は減少（対従来比-197人日（-4%））している。さらに、業務の前倒し分を除くと、業務全体の投入量は対従来比-410人日（-9%）となることから、効率的な業務運営が行われていると認められる。 また、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: <u>秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</u></p> <p>「効率性」: 平成20年度に予定していた事務の一部を19年度に前倒して実施したことによる業務量の増加などがある一方で、受付整理事務を民間事業者に委託したことによる業務量の減少などにより、業務全体の投入量は予定より減少（対従来比-197人日（-4%））している。さらに業務の前倒し分を除くと、業務全体の投入量は対従来比-410人日（-9%）となり、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>「有効性」: <u>全国物価統計調査の製表においては、総務省統計局からの要望内容に応じた（基準に合致した）処理を行い、製表結果の期限までの同局への提出に向けて作業を進めている。同局では、迅速な統計調査結果の提供（公表）が行われることとなり、価格の店舗間格差、銘柄間格差、地域間格差など物価行政の企画立案において調査結果が利活用される。</u></p>
--	--------------	---	---

	(6) 社会生活基本調査	A A	<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>生活時間行動分類の符号格付事務への自動格付システムの導入、データチェック審査事務のPC化及び結果表審査事務の見直しにより各事務の効率化が図られ、業務全体としての投入量は大幅に減少(対従来比-2,379人日(-42%))している。こうしたことから、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>また、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>以上のことから、目標を大幅に上回って達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 過年度の研究成果である生活時間行動分類の符号格付事務への自動格付システムの導入、データチェック審査事務のPC化及び結果表審査事務の見直しにより各事務の効率化が図られ、業務全体の投入量は予定より大幅に減少(対従来比-2,379人日(-42%))しており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>「有効性」: 社会生活基本調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、男女共同参画に関わる事項の基礎資料、少子高齢化対策、国民生活白書など関係方面において調査結果が利活用されている。</p>
--	--------------	-----	---

	(7) 労働力調査	A A	<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上及び品質管理向上による研修の縮小により事務の効率化が図られ、業務全体の投入量は、前年度に比べて大幅に減少(対前年度比-831人日(-14%))しているとともに、経常調査全体の投入量について対前年度比約4%削減を実現し、経常調査の投入量を前年度以下とするという平成19年度年度計画の目標の達成に大きく寄与するなど、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>また、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>以上のことから、目標を大幅に上回って達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上及び品質管理向上による研修の縮小により事務の効率化が図られ、業務全体の投入量は、前年度に比べて大幅に減少(対前年度比-831人日(-14%))しているとともに、経常調査全体の投入量について対前年度比約4%削減を実現し、経常調査の投入量を前年度以下とするという平成19年度年度計画の目標の達成に大きく寄与するなど、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 労働力調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、景気判断の指標、雇用対策、労働経済白書など関係方面において調査結果が活用されている。</p>
--	-----------	-----	---

	(8) 小売物価統計調査	A A	<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上などにより、事務の効率化が図られ、業務全体の投入量は、前年度に比べて大幅に減少（対前年度比-1,040人日(-11%)）している。これは、平成16年度(対前年度比-2,914人日(-22%))、平成17年度(対前年度比-510人日(-5%))、平成18年度(対前年度比-383人日(-4%))に引き続いた効率化であるとともに、経常調査全体の投入量について対前年度比約4%削減を実現し、経常調査の投入量を前年度以下とするという平成19年度年度計画の目標の達成に大きく寄与するなど、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>以上のことから、目標を大幅に上回って達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上などにより、事務の効率化が図られ、業務全体の投入量は、前年度に比べて大幅に減少（対前年度比-1,040人日(-11%)）している。これは、平成16年度(対前年度比-2,914人日(-22%))、平成17年度(対前年度比-510人日(-5%))、平成18年度(対前年度比-383人日(-4%))に引き続いた効率化であるとともに、経常調査全体の投入量について対前年度比約4%削減を実現し、経常調査の投入量を前年度以下とするという平成19年度年度計画の目標の達成に大きく寄与するなど、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 小売物価統計調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、年金額の改定率の改定の基準、デフレ対策、金融政策など関係方面において調査結果が活用されているところ。</p>
--	--------------	-----	--

	(9) 家計調査	A	<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>製表業務体制の見直しにより、家計簿の内容検査、符号格付・入力事務において事務の効率化が図られ、業務全体の投入量は、前年度に比べて減少（対前年度比-284人日(-1%)）しているとともに、経常調査全体の投入量について対前年度比約4%削減を実現し、経常調査の投入量を前年度以下とするという平成19年度年度計画の目標の達成に寄与するなど、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>また、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>さらに、平成20年1月からの標本改正に伴う調査打ち切り市町村及び調査開始市町村が多く、特例的な調査世帯の交替が発生したため、受付事務が複雑になるとともに、平成20年1月から世帯票の入力事務、年間収入調査票及び貯蓄等調査票のデータチェック審査事務の事務量（調査票枚数が約1.5倍）が増加したほか、総務省統計局からのチェック処理の変更や結果表の新規追加の依頼など予定外の業務が発生したが、同局の要望どおりに対応している。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 製表業務体制の見直しにより、家計簿の内容検査、符号格付・入力事務において事務の効率化が図られ、業務全体の投入量は、前年度に比べて減少（対前年度比-284人日(-1%)）しているとともに、経常調査全体の投入量について対前年度比約4%削減を実現し、経常調査の投入量を前年度以下とするという平成19年度年度計画の目標の達成に寄与するなど、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 家計調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、政府の景気判断の指標、国民経済計算における家計消費支出の推計、経済財政白書など関係方面において調査結果が利活用されている。</p>
--	----------	---	--

	(10) 個人企業経済調査	A	<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上などにより、事務の効率化が図られ、業務全体の投入量は、前年度に比べて減少（対前年度比-10人日(-1%)）しているとともに、経常調査全体の投入量について対前年度比約4%削減を実現し、経常調査の投入量を前年度以下とするという平成19年度年度計画の目標の達成に寄与するなど、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>また、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上などにより、事務の効率化が図られ、業務全体の投入量は、前年度に比べて減少（対前年度比-10人日(-1%)）しているとともに、経常調査全体の投入量について対前年度比約4%削減を実現し、経常調査の投入量を前年度以下とするという平成19年度年度計画の目標の達成に寄与するなど、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 個人企業統計調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、国民経済計算の推計、労働経済の分析、中小企業関係施策のための基礎資料など関係方面において調査結果が活用されている。</p>
--	---------------	---	--

<p>(11) 科学技術研究調査</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。 業務全体の投入量については、前年度に比べ増加（対従来比+99人日(+7%)）しているが、この主な増加要因は、秘匿方法の変更による業務量の増加であり、この秘匿方法の変更による業務量（対前年度比+119人日）の増加分を除くと、対前年度比20人日(1%)の減少となり、効率的な業務運営が行われていると認められる。 また、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 前年度に比べ業務全体の投入量は増加（対従来比+99人日(+7%)）しているが、この主な増加要因は、秘匿方法の変更による業務量の増加であり、この秘匿方法の変更による業務量の増加分（対前年度比+119人日）を除くと、対前年度比20人日(1%)の減少となり、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 科学技術研究調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、e-Japan重点計画ベンチマーク、科学技術白書、経済財政白書など関係方面において調査結果が利活用されている。</p>
----------------------	----------	---

	2 受託製表	A	<p>【評価結果の説明】 人事院職員福祉局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限に向けて製表業務が行われている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。 担当者の習熟による効率化が図られるとともに、準備事務が減少したことなどにより、<u>投入量は予定より減少（対従来比-135人日（-29%））</u>していることから、効率的な業務運営が行われていると認められる。 これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをしながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。 また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 担当者の習熟による効率化が図られるとともに、準備事務が減少したことにより、投入量は予定より減少（対従来比-135人日（-29%））しており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 公務員制度の運営など行政施策の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
	(1) 人事院職員福祉局委託業務(民間企業の勤務条件制度等調査)		

	<p>(2) 人事院給与局委託業務(国家公務員給与等実態調査、職種別民間給与実態調査、家計調査特別集計(標準生計費・住宅関係・各分位)平成16年全国消費実態調査特別集計(標準生計費・各分位))</p>	A	<p>【評価結果の説明】 人事院給与局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。 投入量は、予定より増加(対従来比+6人日(+2%))しているが、他の調査への影響もなかったことから、問題はない。 これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。 また、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。 さらに、平成19年国家公務員給与等実態調査において、各府省で入力されたデータの誤りにより、データ訂正件数が増大(約2.5倍)したことに対応している。 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 投入量は、予定より増加(対従来比+6人日(+2%))しているが、他の調査への影響もなかったことから、問題はない。</p> <p>「有効性」: 人事行政の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	--	---	---

	<p>(3) 総務省人事・恩給局委託業務（国家公務員（特別職・自衛官）給与実態調査、国家公務員退職手当実態調査）</p>	A	<p>【評価結果の説明】 総務省人事恩給局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>投入量が予定よりも増加（対従来比+300人日(+52%））しているが、これは、国家公務員退職手当実態調査において、平成19年度調査の追加依頼があったこと、また、「国家公務員の機関別・地域別の退職者数集計データ(仮)」の作成業務が緊急的に追加依頼されたこと、さらに、国家公務員退職手当制度の法改正に伴い、データチェック要領が変更されるなど集計業務に大幅な変更が生じたことに対応したためであり、他の業務への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスを言いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 投入量が予定よりも増加（対従来比+300人日(+52%））しているが、これは、国家公務員退職手当実態調査において、平成19年度調査の追加依頼があったこと、また、「国家公務員の機関別・地域別の退職者数集計データ(仮)」の作成業務が緊急的に追加依頼されたこと、さらに、国家公務員退職手当制度の法改正に伴い、データチェック要領が変更されるなど集計業務に大幅な変更が生じたことに対応したためであり、他の業務への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 人事行政の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	--	---	--

	<p>(4) 総務省統計局委託業務 (家計消費状況調査)</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。 準備事務の減少が主な要因であるが、投入量が予定よりも減少(対従来比-221人日(-61%))しており、効率的な業務運営が行われていると認められる。 また、平成19年10月にはI S M S認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。 さらに、既に公表済みの結果分について、民間事業者が作成したデータに重複データが含まれていることが判明したため、同局から再集計の依頼を受け、これに対応している。 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 投入量が予定よりも減少(対従来比-221人日(-61%))しており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 家計調査を補完する基礎資料など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	--------------------------------------	----------	---

	<p>(5) 公害等調整委員会事務局委託業務（公害苦情調査）</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 公害等調整委員会事務局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、同局からの調査票データの提出の遅れがあったものの、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。 投入量が予定よりも減少（対従来比-28人日(-9%)）しており、効率的な業務運営が行われていると認められる。 これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。 また、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 投入量が予定よりも減少（対従来比-28人日(-9%)）しており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 環境行政の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	------------------------------------	----------	---

	<p>(6) 文化庁委託業務(サービス業基本調査特別集計(芸術関連産業))</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 文化庁から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。 投入量が予定よりも増加(対従来比+13人日(+8%))しているが、他の業務への影響もなかったことから、問題はない。 新たに文化庁から受託した業務であるが、これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。 また、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 投入量が予定よりも増加(対従来比+13人日(+8%))しているが、他の業務への影響もなかったことから、問題はない。</p> <p>「有効性」: 文化芸術の振興など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	--	----------	---

	<p>(7) 財務省委託業務(家計調査特別集計(特定品目)家計調査特別集計(世帯類型別))</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 財務省から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同省の満足度についても、「満足できる」という状況である。 同省からの依頼の遅れに伴い業務が平成20年度に持ち越され、投入量が予定よりも減少(対従来比-72人日(-5%))しているが、このほかの業務全般においても効率的な業務運営が行われていると認められる。 これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。 また、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 投入量が予定よりも減少(対従来比-72人日(-5%))しており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 税体系の在り方の検討など行政施策の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	---	----------	--

	<p>(8) 厚生労働省委託業務 (雇用動向調査、賃金構造基本統計調査)</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 厚生労働省から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同省の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>投入量が予定よりも増加(対従来比+42人日(+5%))しているが、これは、雇用動向調査について、厚生労働省からの追加依頼に対応したこと、また、賃金構造基本統計調査について、同省からの報告誤りに対応し再集計を行ったことによるもので、他の業務への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 投入量が予定よりも増加(対従来比+42人日(+5%))しているが、これは、雇用動向調査について、厚生労働省からの追加依頼に対応したこと、また、賃金構造基本統計調査について、同省からの報告誤りに対応し再集計を行ったことによるもので、他の業務への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 雇用対策の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	--	----------	--

	<p>(9) 経済産業省委託業務 (平成19年商業統計調査)</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 経済産業省から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。</p> <p>速報集計のデータチェックが平成20年度に持ち越されたことなどのほか、速報集計での業務効率化が図られたことにより、投入量が予定よりも減少（対従来比-90人日(-36%)）しており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスを言いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>さらに、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 速報集計での業務効率化が図られるとともに、速報集計のデータチェックが平成20年度に持ち越されたことなどにより、投入量が予定よりも減少（対従来比-90人日(-36%)）しており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 経済対策などの企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	--	----------	--

	<p>(10) 国土交通省総合政策局委託業務(内航船舶輸送統計調査、建設工事統計調査、建築着工統計調査、船員労働統計調査、建築物滅失統計調査、住宅用地完成面積調査、建設総合統計)</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 国土交通省総合政策局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。 担当者の業務の習熟等により、投入量が予定よりも減少(対従来比-65人日(-3%))しており、効率的な業務運営が行われていると認められる。 これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。 また、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 担当者の業務の習熟等により、投入量が予定よりも減少(対従来比-65人日(-3%))しており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 住宅政策や交通政策などの企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	---	----------	--

	<p>(11) 国土交通省自動車交通局委託業務(旅客自動車運送事業輸送実績調査、貨物自動車運送事業輸送実績調査)</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 国土交通省自動車交通局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>投入量が予定よりも増加(対従来比+119人日(+17%))しているが、これは、平成18年度旅客自動車運送事業輸送実績調査において、新規調査事項が盛り込まれたことにより、製表基準書の確認事務が増加したこと、また、調査票の記入状態が悪くなかったことにより国土交通省自動車交通局への疑義が増加したことによるもので、他の業務への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスを言いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 投入量が予定よりも増加(対従来比+119人日(+17%))しているが、これは、平成18年度旅客自動車運送事業輸送実績調査において、新規調査事項が盛り込まれたことにより、製表基準書の確認事務が増加したこと、また、調査票の記入状態が悪くなかったことにより国土交通省自動車交通局への疑義が増加したことによるもので、他の業務への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 交通政策の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	--	----------	---

	<p>(12) 都道府県委託業務(労働力調査都道府県別集計、東京都生計分析調査、国勢調査特別集計)</p>	<p>B</p>	<p>【評価結果の説明】 都道府県などから提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する都道府県などの満足度についても、労働力調査都道府県別集計及び国勢調査特別集計については、「満足できる」という状況である。 担当者の業務の習熟等により、投入量が予定よりも減少（対従来比-524人日(-21%））しており、効率的な業務運営が行われていると認められる。 これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスを言いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。 また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。 東京都生計分析調査の平成20年1月調査分集計時に、プログラム誤りにより一部の結果数値に誤りのあることが判明し、プログラム修正を行った上で、18年4月調査分までさかのぼって再集計を行っている。しかし、再発防止策として、プログラム分析を十分に行うとともに、プログラムの仕様やプログラムそのものに誤りがないか、プログラム全体にわたるチェックを徹底するなどの措置が講じられている。 以上のことから、目標を概ね達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 担当者の業務の習熟等により、投入量が予定よりも減少（対従来比-524人日(-21%））しており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 地方公共団体における各種行政施策の基礎資料として活用されるなど関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	---	----------	--

	<p>3 統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>新たな業務である平成21年経済センサス-基礎調査の試験調査において、当初予定より基本数(調査対象事業所数)が大幅に減少したという要因もあるが、産業分類符号格付事務において自動格付システムの活用により人手による格付が減少したことなど業務全般的に効率化が図られていることから、投入量が予定よりも減少(対従来比-8,184人日(-64%))しており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理に関する業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 業務全般的に効率化が図られているほか、新たな業務である平成21年経済センサス-基礎調査の試験調査において、当初予定より基本数(調査対象事業所数)が大幅に減少したこと、また、産業分類符号格付事務において自動格付システムの活用により人手による格付が減少したことなどにより、投入量が予定よりも減少(対従来比-8,184人日(-64%))しており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な統計情報の提供(公表)が行われ、行政施策の企画立案のほか、学術研究、民間事業活動など幅広く加工統計データが利活用されている。</p>
--	--------------------------------------	----------	---

	4 技術の研究	A	<p>【評価結果の説明】 統計センターでは、製表技術に適用可能な研究に重点を置き、研究が進められている。 この方針の下で、データエディティングに関する研究、統計分類の自動格付に関する研究、統計二 ーズの多様化に対応した製表方法に関する研究、情報処理技術に関する研究を行っている。 このうち、統計分類の自動格付に関する研究では、平成18年度まで実施されていた生活時間行動分 類自動格付の研究成果を平成18年社会生活基本調査の生活時間行動分類格付事務に適用した。その結 果、本事務における自動格付率約75%を達成し、<u>人手のみによる格付方法に比べ、投入量が約20%削 減されたことは、高く評価できる。</u> さらに、平成18年度から研究を実施していた市区町村コード自動格付に関するアルゴリズムの研究 についてとりまとめ、この成果を平成20年住宅・土地統計調査の市区町村コード付与事務に適用する こととしている。 また、平成21年経済センサス-基礎調査における産業分類自動格付の実施を目標として、従来からの 知識や技術に基づく自動格付技法の改良を図る研究を行うとともに、平成19年4月に「統計分類自動 格付検討プロジェクト」を設置し、<u>国勢調査を始めとする産業・職業分類及び全国消費実態調査を始め とする収支項目分類の自動格付システムの構築に向けた研究を開始している。</u> このような取組は、製表業務への適用に向けた努力がなされているものであり、今後の業務運営の 効率化及び高度化にも大きく寄与することが期待できるものである。 また、製表技術の研究成果や国内外における製表技術の研究動向の調査分析結果、製表業務のマネ ジメントを含む製表技術関連文献の翻訳等の資料を5冊刊行するとともに、外部の研究者を招聘した 研究会である「データエディティング研究会」を3回開催したほか、サービス業基本調査の経理項目 の欠測値の補定方法に関する研究の成果をI S I第56回大会で発表するなど、積極的に製表技術の普 及及び研究の促進が図られている。 さらに、平成18年度に引き続き、外部研究者2人を非常勤職員として採用し、欠測値の補定処理に 関する研究を行うとともに、新たに調査票情報の秘匿技法の一種であるマイクロアグリゲーションに関 する研究を開始するなど、<u>外部研究者の積極的活用により研究体制の充実が図られている。</u> 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 統計センターが製表業務を迅速かつ正確に、また効率的に行うためには、製表技術に適用可能な研 究を実施することが必要不可欠であると言える。</p> <p>「効率性」: 外部研究者の非常勤職員としての採用、外部有識者を活用した研究会の開催など研究体制の充実が 図られており、また、研究成果を製表業務に適用し、投入量の削減（平成18年社会生活基本調査の生 活時間行動分類格付事務で、人手のみによる格付方法に比べ約20%減）を実現するなど、効率的な業 務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 上記の研究成果が製表業務に適用されれば、統計センターの業務運営は更に効率化されるものと期 待される。</p>
--	---------	---	---

<p>第3 予算(人件費の見積りを含む。)収支計画及び資金計画</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 達成目標である「財務管理の適正性」に関する評価については、次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当期総利益899百万円の発生要因は、人件費(退職手当を除く)について、期間進行基準を採用していることにより、期間対応予算で計上する収益と実績である費用との差異等(97百万円)に加え、中期目標期間最終年度における精算処理として、運営費交付金の期末残である運営費交付金債務を収益化したもの(803百万円)である。 <p>これらは、人件費については、超過勤務の縮減、育児休業等を取得した職員への欠員補充を行わなかったことなどにより、予算段階で想定していた人件費を実績が下回ったため、期間内の業務が十分に達成されていることを考慮すると、業務運営の効率化の結果として、評価できるものである。また、中期目標期間の精算処理部分についても、各事業年度において発生した運営費交付金の残余を翌年度に繰り越して活用してきた結果の残余であることから、当年度のみならず過年度も含めた業務手法・体制等の見直し等による効率化を推進した結果の累積として、評価できるものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務経費の削減については、中期目標期間の期末目標値である「<u>3%以上の削減</u>」に対し、19年度末において、<u>9.8%削減を達成し</u>、目標を大幅に上回って達成しているものと評価できる。 <p>また、常勤職員に対する人件費(法定福利費、退職手当除く)についても、前年度と比べ1%以上の削減を達成しており、経費全体の効率化が進んでいるものと評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随意契約については、前年度に比べ件数、年間支出額ともに減少し、一般競争入札の拡大が図られており、また、情報の公開も適正になされていることから、「<u>公共調達</u>の適正化について」への取組が着実に推進しているとともに、平成19年12月に策定した「<u>随意契約見直し計画</u>」に対しても、<u>着実に推進が図られていると認められる</u>。 <p>また、締結した契約については、契約ごとの各種情報が記載された一覧表を公表することにより契約の公正性、透明性の確保を図った業務運営が行われているものと評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部監査人による<u>監査の自発的な実施</u>については、会計処理の適正性、透明性を高める上で評価できる。 <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「<u>必要性</u>」: 予算監理を適切に行うことは、独立行政法人の前提条件である。</p> <p>「<u>効率性</u>」: 中期目標値を上回る業務経費の削減、人件費の削減及び随意契約の適正化が図られていることから、<u>効率的な業務運営が図られている</u>。</p> <p>「<u>有効性</u>」: 予算の設定、実績の確定、予算と実績の差異分析等に関する財務書類の限りでは、有効な財務・会計管理が行われているものと判断できる。</p>
-------------------------------------	----------	---

第4 短期借入金の限度額	該当なし	【評価結果の説明】 <u>「必要性」:</u> <u>「効率性」:</u> <u>「有効性」:</u>
第5 重要な財産の処分等に関する計画	該当なし	【評価結果の説明】 <u>「必要性」:</u> <u>「効率性」:</u> <u>「有効性」:</u>
第6 剰余金の使途	該当なし	【評価結果の説明】 <u>「必要性」:</u> <u>「効率性」:</u> <u>「有効性」:</u>

	1 施設及び設備に関する計画	該当なし	<p>【評価結果の説明】</p> <p>「必要性」: 「効率性」: 「有効性」:</p>
	2 人事に関する計画	A	<p>【評価結果の説明】</p> <p>中央集計機関としての統計センターは、利用者ニーズに即した製表業務を実施する上で、組織としての効率性を上げつつ、職員の専門的な知識・技術を向上させ、職員が意欲を持って職務に従事できる職場環境を作ることが重要である。こうした観点から、総務省統計局等との人事交流を実施し、広い視野を持った人材の養成を図るとともに、定年退職職員の再任用など専門性を有する人材を有効に活用することにより、<u>組織としての効率性を上げつつ、職員の専門的な知識・技術の向上に努めている。</u></p> <p>また、製表技術に関する研究業務に当たる外部研究者を2人非常勤職員として平成18年度から継続採用するとともに、平成17年度から引き続き、業務・システムの最適化を実現するため、CIO補佐官を1人非常勤職員として継続採用するなど専門的知識を有する職員の採用にも努めている。さらに、地方の専門学校に出向き、業務説明会を実施するなど、優秀な新規職員の採用に努めている。</p> <p>平成18年度に引き続き、「目標による管理」の手法を用いたSTEP制度を全組織及び全職員が実施し、職員自らが能力向上に努めている。</p> <p>さらに、業務の不断の効率化により、目標どおり常勤職員を11人削減し、計画的な人員の削減に取り組んでいることは高く評価できる。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 統計センターに対する社会的ニーズに応えるためには、組織としての効率性を上げつつ、職員の専門的な知識・技術を向上させ、職員が意欲を持って職務に従事できる職場環境を作ることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 定年退職職員の再任用など専門性を有する人材を有効に活用するとともに、外部研究者を採用し、外部の知見・能力の活用を図るなど効率的な取組が行われている。</p> <p>「有効性」: 外部研究者の採用、「目標による管理」の手法を用いたSTEP制度の実施は、職員の知識・技術の向上につながり、的確な業務運営を図る上で有効である。</p>

	3 その他	A	<p>【評価結果の説明】</p> <p>平成18年度に引き続き、職員の安全衛生及び健康管理について、「安全衛生管理規程」に基づいた運用がなされ、良好な職場環境の維持・向上に努めている。また、メンタルヘルスの学習ソフトウェア及びストレス分析ソフトウェアを活用することにより、職員によるメンタルヘルスの学習や定期的なストレス診断が行われている。これらの取組により、各職員のメンタルヘルス意識の向上が図られているなど職員のメンタル面での健康にも十分配慮がなされている。</p> <p>また、防災に関する事項の周知徹底を図るとともに、I S M S 認証取得に当たって、LANシステムやホストコンピュータの運用に関する規程や障害報告書等の整理や遠隔地に設置しているデータベースアップ体制の再確認を行うことにより、事業継続計画を整備するなど、危機管理体制の整備が図られている。</p> <p>さらに、環境物品の100%調達（紙製品は除く）を引き続き達成し、環境に配慮した業務運営がなされているほか、第2期中期計画を踏まえたホームページとパンフレットのリニューアルを行うなど広報にも意欲的に努めている。</p> <p>これら年度計画による目標の達成に加え、昨年末に閣議決定した「独立行政法人整理合理化計画」における法人の自律化に関して、「独立行政法人統計センター職員の倫理の保持に関する体制について」（平成15年4月1日倫理監督官決定）、「独立行政法人統計センター公益通報者保護規程」などを既に整備するなど、職務執行のあり方を始めとする内部統制の向上に資する措置にも取り組んでいる。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 上記の各取組はいずれも、社会の一員たる組織体が存続していくために必要不可欠な事項であり、引き続き、各項目については、常にその改善、改良が求められるものであり、そのための不断の努力が期待される。</p> <p>「効率性」: 安全衛生面、メンタルヘルス面などでの対応を図るため、統計センターが独自に対応を図るのみならず、専門家を活用することで効果的・効率的に対策が進められている。</p> <p>「有効性」: 上記取組は、公共財である統計データを提供する責務を担う統計センターが、その機能を十分に発揮する上で、有効的なものである。</p>
--	-------	---	--

平成19年度独立行政法人統計センターの業務の実績
に関する項目別評価調書（案）

独立行政法人統計センターの業務の実績に関する項目別評価調書（案）

中期計画の該当項目	第1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 業務運営の高度化・効率化に関する事項	
中期計画の記載事項		
<p>(1) 情報通信技術を最大限に活用して業務の高度化・効率化を推進するための基盤を積極的に整備する。</p> <p>(2) 業務運営の高度化・効率化の推進に伴い、充実・拡充を図るべき分野への職員の重点的配置を進めつつ、計画的に常勤職員数の削減を行っていくものとする。</p> <p>(3) 業務手法・体制等の見直しや文書のペーパーレス化の推進等により、業務運営を効率化することを通じ、業務経費（運営費交付金の総額から、退職手当を含む人件費及び周期統計調査に係る経費を除いたもの）について、新規追加、拡充部分を除き、期初年度に対する期末年度の割合を97%以下にする。</p> <p>(4) 「行政改革の重要方針」（平成17年12月24日 閣議決定）を踏まえ、平成17年度を基準として、平成18年度から平成22年度までの5年間で5%以上の人員の削減を実現するため、今中期目標期間の4年目及び5年目に当たる平成18年度及び平成19年度の2年間において2%以上の人員の削減に取り組む。また、役職員の給与に関し、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与規程等の見直しを進める。</p>		
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果		
小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果（具体的数値があれば記入）
(1) 情報通信技術を活用した基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報共有化を更に推進するため、製表業務に関し蓄積された文書情報の所在や内容等を容易に検索できる機能を持った文書検索システムの運用を開始するとともに、統計センターの情報を全体的に共有する場であるイントラネット(C-NET)の一層の充実を図る。 ・ 家計調査の製表事務の高度化・効率化を図るため、開発を進めている新たな製表システムへの移行を段階的に行う。 	<p style="text-align: center;"><u>製表業務に関する文書検索システムの導入</u></p> <p>製表業務の多様化とともに、電子化された資料等が増加してきていることから、情報利用の利便性を図ることにより、更に情報の共有化を推進するため、文書検索システムを導入し、平成19年5月から運用を開始した。</p> <p>平成19年度末には、約62万件の文書データについて全文検索が可能となっており、毎月の利用実績は、平均200件を超えている。</p> <p style="text-align: center;"><u>イントラネット(C-NET)の充実</u></p> <p>イントラネットの充実による統計センター全体の情報共有化を一層推進するため、統計調査等業務最適化、統計データアーカイブ等の情報を新たに掲載した。</p> <p>平成6年度に導入した現行システムのLAN環境等への適合性の低下への対応及び更なる効率化の推進を目的として、17年度から3年計画で家計調査の新たな製表システムの開発を行っている。</p> <p>平成19年度は、引き続き本システムの開発を進め、20年2月調査分から新システムへの移行を段階的に開始し、以後数回に分けて移行を完了させることとした。</p>

- プログラム開発の進捗と実績の管理や計画策定を的確に行うためのプロジェクト管理システムを運用し、引き続きプログラム開発の適切な進捗管理を行うとともに、蓄積した実績情報を活用した計画策定を試行的に行う。

プロジェクト管理システムによる各種システム開発の進捗管理及び実績情報の蓄積を継続するとともに、システム開発の計画策定に係数モデル見積法を試行的に適用し、従来方式である経験に基づく見積り工数及び実際の開発工数との比較検証を行った。
- プログラム開発業務の効率化及び正確性の確保を図るため、PC集計の標準的な集計システムとして、市販の汎用ソフト・ツールを活用して整備したサマリーシステムについて、適用統計調査の拡大を図るとともに、必要に応じた改良を行う。また、各種統計調査集計システムのクライアント/サーバシステムへの移行を推進するため、各種汎用システムの改修等を行う。

市販の汎用ソフト・ツールを活用した「新汎用サマリーシステム」(クライアント/サーバシステム)について、平成18年度の第1次開発に引き続き、19年度は第2次開発を完了し、平成19年就業構造基本調査、平成19年全国物価統計調査、平成19年度国家公務員退職手当実態調査等へ適用し、システム開発業務の効率化及び正確性の確保を図った。(平成19年度国家公務員退職手当実態調査の実績：従来方式 3人月、新システム 2.5人月)
また、各種汎用システムの改修として、受託製表のデータチェックシステムへの適用に向けた改良を行い、雇用動向調査、国家公務員退職手当実態調査等へ適用した。
- プログラム開発業務の効率化及び運用経費の削減を図るため、ホストコンピュータからクライアント/サーバシステムへ移行するための集計システムプログラム等の開発を段階的に行う。

「独立行政法人統計センターにおける業務・システム最適化計画」(平成19年10月29日策定)に基づくホストコンピュータのダウンサイジングを踏まえ、これまでホストコンピュータで行っている処理をクライアント/サーバシステムで行えるよう、集計システム等の開発を段階的に行っている。
平成19年度においては、雇用動向調査及び国家公務員退職手当実態調査のシステムを開発し、運用を開始したほか、平成19年就業構造基本調査、平成19年全国物価統計調査、受託製表等のクライアント/サーバシステム化を推進した。
- ホストコンピュータ用集計プログラム等の書換えやデータ移行検証、最新ソフトウェアの研究のほか、次期統計センターLANシステムにおいて既存システムが支障なく稼動するか検証を行うため、「研究・開発用LANシステム」を導入する。

ホストコンピュータ上で行っている処理をクライアント/サーバシステムで行うためのシステム開発用として、また、次期統計センターLANシステム(以下「次期LANシステム」という。)と同様の環境下において、既存のシステムが支障なく稼動するか検証等を行うことを目的として、平成19年8月に研究・開発用LANシステムを導入し、運用を開始した。

	<ul style="list-style-type: none"> 次期統計センターLANシステム導入の基本方針及び仕様書を作成する。 その他（生活時間行動分類の自動格付の研究成果の活用） 	<p>平成19年10月に「独立行政法人統計センターにおける業務・システム最適化計画」を策定し、次期LANシステム導入の基本方針を決定するとともに、21年1月からの次期LANシステムの運用開始に向け、仕様書を作成し、20年4月に官報告示による意見招請を実施することとしている。</p> <p>平成19年3月にまとめた生活時間行動分類（詳細分類）の自動格付の研究成果を平成18年社会生活基本調査の生活時間行動分類格付事務に活用した。 その結果、本事務における自動格付の格付率は、約75%を達成し、人手のみによる格付方法に比べ、投入量が約20%削減された。</p>
<p>(2) 充実・拡充分野への職員の配置</p>	<ul style="list-style-type: none"> 上記(1)のプログラム開発業務については、既存業務の合理化を図り、職員を配置転換するなどして対応する。また、製表業務の更なる高度化・効率化に資する研究を推進するため、研究分野への職員の配置を増加させる。 	<p>情報処理課に3人を増員配置し、ホスト系システムからオープン系システム（クライアント/サーバシステム）への移行体制を一層充実した。 また、平成18年度に引き続き、外部研究者2人を非常勤職員として採用し、製表技術に関する研究業務に配置した。</p>
<p>(3) 業務手法・体制等の見直しによる業務経費の削減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ホストコンピュータからクライアント/サーバシステムへの移行事業の一環として、平成19年度に更新時期が到来する機器については、当該機器の状態等を踏まえ、可能な限り新機種を導入を見送り、既存機器を延長して使用することにより、ホストコンピュータの経費削減を図る。また、両面印刷の徹底、電子メール、掲示板の活用等により、一層のペーパーレス化を推進し、業務運営における経費削減を図る。特に、管理部門のうち、経常的な業務を担当している部門においては、コピー用紙の年間使用量を前年度以下とする。 	<p><u>クライアント/サーバシステムへの移行に伴う経費削減</u> ホストコンピュータからクライアント/サーバシステムへの移行事業の一環として、平成20年度に廃止することとしている経常調査用ホストコンピュータについて、平成19年5月に既存機器の更新期限が到来したが、廃止時期である20年12月までリース延長して使用することとした。 これにより、機器を更新した場合と比較すると、平成19年度においては約2億円の経費削減となった。</p> <p><u>ペーパーレス化の推進による経費削減</u> 引き続き両面印刷の徹底や電子メールの活用等により、ペーパーレス化を一層推進した結果、総務部門のコピー用紙使用量は対前年度比6.1%の削減となり、前年度以下とする、という年度計画の目標を達成した。</p>

<p>(4) 行政改革の重要方針を踏まえた人員の削減</p>	<p>平成18年度、19年度の2年間において2%以上の人員の削減を実現するため、業務の効率化により、18年度の8人減に引き続き、19年度は11人の職員を削減する。</p>	<p>「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)を踏まえ、国家公務員の定員の純減目標に準じた人員削減の取組を行うとともに、給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを実施している。</p> <p>人員の削減 業務の効率化により、年度計画の目標である常勤職員11人削減を実現した(年度末常勤職員数は890人)。</p> <p>給与水準の現状 給与水準については、「一般職の職員の給与に関する法律」に準じた給与規則を適用しているものの、組織・職員構成の違い等から「独立行政法人の役員の報酬等及び職員の給与の水準(平成18年度)」における対国家公務員指数は「90.3」となっている。</p>	
<p>当該業務に係る事業費用</p>	<p>227,093千円</p>	<p>当該業務に従事する職員数</p>	<p>890人の内数</p>
<p>当該項目の評価</p>	<p>A A</p>		
<p>【評価結果の説明】 製表業務に関する文書検索システムの運用開始、イントラネットの充実、家計調査の新たな製表システムの開発及び移行、市販の汎用ソフト・ツールを活用したサマリーシステムの適用統計調査の拡大など、情報通信技術を活用した基盤整備が進められている。特に、「新汎用サマリーシステム」(クライアント/サーバシステム用)を適用した平成19年度国家公務員退職手当実態調査では、従来のシステム開発と比較して開発工数が削減(約60人日 約50人日)されており、システム開発業務の効率化が図られている。</p> <p>また、生活時間行動分類自動格付の研究成果を平成18年社会生活基本調査の生活時間行動分類格付事務に活用した結果、本事務における自動格付の格付率は約75%を達成し、人手のみによる格付方法に比べ、投入量が約20%(304人日)削減されている。</p> <p>さらに、両面印刷の徹底や電子メールの活用などにより、ペーパーレス化を一層推進した結果、総務部門のコピー用紙使用量を対前年度比6.1%削減し、前年度以下とするという平成19年度年度計画の目標を達成するとともに、ホストコンピュータからクライアント/サーバシステムへの移行に伴い平成20年度に廃止することとしている経常調査用ホストコンピュータについて、廃止時期である20年12月までリース延長することで、機器を更新した場合と比べて約2億円の経費削減とするなど、業務手法の見直しを通じた業務経費の削減が進められている。</p> <p>これらの業務経費の削減は、国勢調査などのいわゆる周期統計調査以外の経常統計調査などに係る経費及び一般管理費についての、<u>現中期目標の期末目標値である「3%以上削減」</u>を大きく上回る9.8%(約1.1億円)削減に寄与しており、その経営努力は高く評価できる。</p> <p>これらの取組の成果は、今後の業務運営の効率化及び経費削減に大きく寄与することが期待できることから、全体として、業務運営の高度化・効率化に向けた経営努力が積極的に行われていると判断できる。</p> <p>充実・拡充分野への職員の配置については、情報処理課に3人を増員配置し、ホスト系システムからオープン系システムへの移行体制を一層充実するとともに、平成18年度に引き続き、外部研究者2人を非常勤職員として採用し、製表技術に関する研究体制を一層充実するなど業務運営の高度化・効率化に向けた体制整備が一層進められている。</p> <p>さらに、「行政改革の重要方針」を踏まえ、総人件費改革に取り組み、更なる業務の効率化により、<u>目標どおり常勤職員を11人削減</u>し、国家公務員の定員の純減目標に準じた人員削減の取組を計画的かつ着実に実施していることは高く評価できる。</p>			

以上のことから、目標を大幅に上回って達成していると判断した。

「必要性」:

中央集計機関としての統計センターの業務運営の高度化と効率化を図るためには、情報通信技術を活用した基盤整備、職員の機動的配置、予算の効率的使用に取り組む必要がある。

「効率性」:

ホストコンピュータからクライアント/サーバシステムへの移行に伴い平成20年度に廃止することとしている経常調査用ホストコンピュータについて、廃止時期である20年12月までリース延長することで、機器を更新した場合と比べて約2億円の経費削減とするなど、業務手法の見直しを通じた業務経費の削減が進められ、国勢調査などのいわゆる周期統計調査以外の経常統計調査などに係る経費及び一般管理費についての、現中期目標の期末目標値である「3%以上削減」を大きく上回る9.8%削減に寄与している。また、更なる業務の効率化により、着実に常勤職員数の削減に取り組み、目標どおり常勤職員を11人削減している。

「有効性」:

中央集計機関としての統計センターの責務を着実に果たすためには、情報通信技術の活用及び組織体制の充実による高品質のサービスを低コストで提供するための基盤整備を着実に進めることが効果的である。

中期計画の該当項目	第1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 効率的な人員の活用に関する事項	
中期計画の記載事項		
効率的な製表業務の推進に必要となる高度な技術の継承・発展を図るため、研修等の職員の能力開発を積極的に行う。また、組織体制を見直し、業務の性格に応じた機能別の組織体制とするとともに、人員の重点的配置を行う。		
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果		
小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果（具体的数値があれば記入）
(1) 職員の能力開発	<ul style="list-style-type: none"> 外部研修・セミナー等へ職員を積極的に派遣し、情報処理技術等専門的能力の向上を図る。また、若手職員の早期育成の観点から、内部研修における階層別研修の体系を見直す。なお、研修を受講した職員に対して、研修内容等に関するアンケート調査を実施し、80%以上の者から、研修効果があったとの評価を得る。 目標による管理の手法を活用して、職員自らが業務に必要な能力を身に付けるような環境の定着を図る。 	<p><u>内部研修の見直し及び外部研修等への職員の派遣</u></p> <p>内部研修について、組織内でその階層に必要なスキルレベルを修得するため、階層別研修の内容を見直すとともに、「統計委員会の任務と課題について」等業務に密接なテーマを設定した特別講演会を実施した。</p> <p>また、外部研修等として、各省等が実施する研修会、セミナー等に積極的に職員を派遣した。これらにより、職員の能力・資質の向上及び業務に資する知識の習得を一層推進した。平成19年度は、内部研修延べ594人、外部研修等延べ284人、合計延べ878人が受講した(職員一人当たり1回に相当)。</p> <p><u>各課室等における業務研修の実施</u></p> <p>内部研修及び外部研修等に加え、各課室等において、それぞれの業務に必要な知識を有する人材を育成し、さらに製表業務を統一的かつ正確、迅速に処理するため、業務研修を実施した。平成19年度は、延べ4,765人が受講した(職員一人当たり5回に相当)。</p> <p><u>研修内容等に関するアンケート調査の実施</u></p> <p>研修の成果を測るため、内部研修を受講した職員を対象に研修内容等に関するアンケート調査を実施した結果、「大変有意義だった」・「有意義だった」と回答した者の割合は約90%となり、年度計画の目標である80%以上を達成した。</p> <p>平成18年度に引き続き、「目標による管理」の手法を用いたSTEP 制度に係る情報のイントラネットへの掲示、質疑応答の実施等同制度の定着化への取組を推進した。</p>

(2) 組織体制の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 機動的・重点的な業務運営の観点から、現行の業務体制の見直し・点検を実施し、時期中期目標期間における組織体制の在り方の検討を行う。 	<p>現行の業務体制及び組織の問題点の整理を行った上、次期中期目標期間における組織体制を検討した結果、統計センターに期待されている新たな役割である政府統計共同利用システムの運用管理業務、平成21年度開始予定の統計調査票情報の二次利用に関する業務を担う組織の整備を行うとともに、情報技術関連の組織を1つの部へ集約し、分類業務の高度化を図るための組織の整備を行うこととした。</p>	
当該業務に係る事業費用		当該業務に従事する職員数	890人の内数
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>内部研修について組織内でその階層別に必要なスキルレベルを修得できるよう階層別研修の内容を見直すとともに、業務に密接なテーマを設定した特別講演会を実施したほか、外部研修などに職員を積極的に派遣するなど職員の能力や資質の向上及び業務に資する知識の習得を推進している。</p> <p>また、内部研修を受講した職員を対象にアンケート調査を実施した結果、「大変有意義だった」・「有意義だった」と回答した者の割合は約90%となり、目標である80%以上を達成したことから、<u>研修の効果が高い水準であったといえる。</u></p> <p>次期中期目標期間における組織体制について、現行の業務体制及び組織の問題点の整理を行った上で検討した結果、統計センターに期待されている新たな役割である政府統計共同利用システムの運用管理業務、平成21年度開始予定の統計調査票情報の二次利用に関する業務を担う組織の整備を行うとともに、<u>情報技術関連の組織を1つの部へ集約し、分類業務の高度化を図るための組織の整備を行うこととし、20年4月からの新たな中期目標期間において、その新組織体制を実施することとしている。</u></p> <p>このように、職員の専門的能力の開発・向上に重点を置いた人材育成を推進するとともに、業務が機動的・効率的に実施できるような体制整備は着実に進められている。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 中央集計機関としての統計センターが行う製表業務には高度な専門性と高い技術レベルが要求されるため、職員の専門的能力の開発・向上に重点を置いた人材育成は必須である。</p> <p>「効率性」: 統計センターに期待されている新たな役割である政府統計共同利用システムの運用管理業務、平成21年度開始予定の統計調査票情報の二次利用に関する業務を担う組織の整備を行うとともに、情報技術関連の組織を1つの部へ集約するなど、効率的な業務運営に向けた組織体制の整備が行われている。</p> <p>「有効性」: 研修の見直しや業務に密接なテーマを設定した講演会の実施などにより、職員の専門性の向上を推進するとともに、現行の業務体制及び組織の問題点の整理を行った上で、新たな業務を担うことになる次期中期目標期間における組織体制の見直しを行っている。これらは、高品質で低コストのサービスを提供する上で効果的である。</p>			

中期計画の該当項目	第1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 業務・システムの最適化に関する事項		
中期計画の記載事項			
「独立行政法人等の業務・システム最適化実現方策」(平成17年6月29日各府省情報化統括責任者(CIO)連絡会議決定)に基づき、システムコスト削減、システム調達における透明性の確保及び業務運営の合理化を実現するため、国の行政機関の取組に準じて、刷新可能性調査等を通じ、平成19年度末までのできる限り早期に業務・システムに関する最適化計画を策定する。その策定に当たっては、業務運営の効率化・合理化に係る効果・目標を数値により明らかにする。なお、策定した最適化計画は速やかにインターネットの利用その他の方法により公表する。			
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果			
小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果(具体的数値があれば記入)	
	<ul style="list-style-type: none"> 業務運営の効率化・合理化に係る効果・目標を数値により明らかにした「業務・システム最適化計画」を策定する。策定に当たっては、外部の支援を受けるとともに、CIO補佐官の知見を活用する。また、策定した最適化計画を速やかにインターネットの利用その他の方法により公表する。 	<p>「業務・システム最適化計画策定指針(ガイドライン)」(平成18年3月31日各府省情報化統括責任者(CIO)連絡会議決定)に準じ、先進事例調査、将来体系の作成、効果算出等を行い、平成19年10月に「独立行政法人統計センターにおける業務・システム最適化計画」(以下「最適化計画」という。)を決定し、12月に、統計センターのホームページに掲載し公表した。</p> <p>なお、最適化計画の対象システムに係る年間経費については、本取組を始めた平成18年度に比べて、最適化計画の最終年度である23年度に、約3億9000万円の削減が見込まれている。</p>	
当該業務に係る事業費用	43,724千円	当該業務に従事する職員数	890人の内数
当該項目の評価	A		

【評価結果の説明】

「業務・システム最適化計画策定指針(ガイドライン)」(平成18年3月31日各府省情報化統括責任者(C I O)連絡会議決定)に準じ、先進事例調査、将来体系の作成、効果算出等を行い、平成19年10月に決定した「独立行政法人統計センターにおける業務・システム最適化計画」は、ホストコンピュータのダウンサイジング、統計センターLANシステムの切り替えなどを推進し、対象となるシステムに係る年間経費について、本計画の最終年度である23年度に約3億9000万円の削減(18年度経費 10億5840万円 23年度経費 6億6888万円)が見込まれているものである。

このような計画を決定したことは、今後の業務運営の効率化及び経費削減に大きく寄与することが期待できることから、目標を十分達成していると判断した。

「必要性」:

経済センサス等の新たな統計調査に係る業務、新統計法を踏まえた統計データの二次利用、政府統計共同利用システムの運用管理に係る業務など新たな役割を積極的に担うこととなる一方で、行政機関と同様に徹底した合理化が求められていることから、業務・システムの最適化計画を着実に推進し、業務運営の更なる高度化・効率化を図ることが必要である。

「効率性」:

業務・システムの最適化計画の策定にあたり、外部の支援業者を企画競争で選定するなど効率的に業務を行っている。

「有効性」:

業務・システムの最適化計画を推進することにより、ハードウェアのダウンサイジングによる経費の削減、ハードウェア資源の統合及び標準化による全体合理化と経費削減が図られるため、統計センター全体の業務運営の効率化及び経費削減に効果的である。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (1) 国勢調査	
中期計画の記載事項		
総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。		
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果		
小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果（具体的数値があれば記入）
	ア 総務省が明示した基準に基づいて精度の高い製表結果を期限までに提出する。 イ 品質管理活動の着実な実施等製表結果の精度を確保するための対策を講じるとともに、情報管理の徹底が要求される部署にあっては、I S M S 認証取得を目指し、その他の部署にあってはセキュリティの一層の向上を図る。	< 製表業務の実施状況 > 製表業務の実施状況は、表のとおりである。

区分	提出状況				満足度	投入量
	予定	実績	期限	適合度		
平成17年調査	第3次基本集計	19.12	19.11.28			実績 63,681人日 対従来比* 5,656人日 (10%)増 業務の前倒し分を除くと 対従来比 547人日 (1%)減
	抽出詳細集計	平成20年度に継続	平成20年度に継続	-		
	従業地・通学地集計その2	平成20年度に継続	20. 2.15			
	第3次基本集計に関する小地域集計	20. 2	19.12. 4			
	第3次基本集計に関する旧市町村別集計	19.12	19.11.28			
	事後調査集計	19. 9	19. 9.26			
	外国人に関する特別集計	平成20年度に継続	平成20年度に継続	-		
<p>* 対従来比：自動化や民間委託などの効率化を見込まない従来の方式によって今回の製表業務を行った場合の予定人員と、今回実績人員との比較</p> <p>ア 投入量 投入量増加の主な要因としては、平成20年度に予定していた符号格付事務の一部を19年度に前倒しして実施したことによる業務量の増加(対従来比+6,203人日)などがあった。 一方、符号格付事務及び追跡照合事務(事後調査集計)におけるシステムの動作環境の向上などにより、事務の効率化(対従来比-4,143人日)が図られた。 これらの結果、全体では対従来比5,656人日(10%)の増加となったが、業務の前倒し分を除くと、対従来比547人日(1%)の減少となる。</p> <p>イ 特記事項 平成17年国勢調査の製表に当たっては、前回調査に比べ、統計センターへの調査票の提出期限が約3週間延長されたこと、第3次基本集計及び抽出詳細集計の公表時期がそれぞれ約3か月、6か月早</p>						

		期化されたことにより、全体の製表期間が大幅に短縮されたことで業務の負担増となったが、他の業務とのスケジュールや要員の調整等を行って総務省統計局の要望どおりに対応した。	
当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数	当該業務に従事する職員数	63,681人日
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果を提出している。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>符号格付事務及び追跡照合事務（事後調査集計）におけるシステムの動作環境の向上などにより事務の効率化(対従来比-4,143人日)を図ったものの、業務全体としての投入量は増加（対従来比+5,656人日（+10%））した。この増加は、主に平成20年度に予定していた符号格付事務の一部を19年度に前倒しして実施したことなどによるものであり、この業務の前倒し分を除くと、業務全体の投入量は対従来比-547人日（-1%）となり、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>さらに、前回調査に比べ統計センターへの調査票の提出期限が約3週間延長されたことに加え、第3次基本集計及び抽出詳細集計の公表時期がそれぞれ約3か月、6か月早期化されたことにより、全体の製表期間が大幅に短縮され業務の負担増となったものの、業務を効率的に実施し、同局からの要望に柔軟に対応している。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 符号格付事務及び追跡照合事務（事後調査集計）におけるシステムの動作環境の向上などにより事務の効率化(対従来比-4,143人日)を図ったものの、業務全体の投入量は予定より増加(対従来比+5,656人日（+10%））しているが、この増加は、主に平成20年度に予定していた符号格付事務の一部を19年度に前倒しして実施したことなどによるものであり、この業務の前倒し分を除くと、業務全体の投入量は対従来比-547人日（-1%）となり、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 国勢調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、選挙区の画定、地方交付税交付金の算出、少子高齢化対策、産業政策、防災対策など関係方面において調査結果が利活用されている。</p>			

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (2) 事業所・企業統計調査
-----------	---

中期計画の記載事項

総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果（具体的数値があれば記入）																																											
	<p>ア 総務省が明示した基準に基づいて精度の高い製表結果を期限までに提出する。</p> <p>イ 品質管理活動の着実な実施等製表結果の精度を確保するための対策を講じるとともに、情報管理の徹底が要求される部署にあっては、I S M S 認証取得を目指し、その他の部署にあってはセキュリティの一層の向上を図る。</p>	<p>< 製表業務の実施状況 > 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="4">提出 状 況</th> <th rowspan="2">満足度</th> <th rowspan="2">投入量</th> </tr> <tr> <th>予 定</th> <th>実 績</th> <th>期 限</th> <th>適 合 度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">平成 18 年 調 査</td> <td>速報集計</td> <td>19. 6</td> <td>19. 6.27</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="5">実績 8,257 人日 対従来比 1,309人日 (19%)増 予定外の業務量 増加分を除くと 対従来比 332人日 (5%)減</td> </tr> <tr> <td>確報集計</td> <td>20. 1</td> <td>20. 1. 8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>調査区等に関する集計</td> <td>20. 3</td> <td>20. 2. 6~ 20. 2.25</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本所・支所の名寄せ集計</td> <td>平成20年 度に継続</td> <td>平成20年 度に継続</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>新産業分類組 替え事務</td> <td>-</td> <td>20. 1. 9 ~20. 3.10</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						区 分	提出 状 況				満足度	投入量	予 定	実 績	期 限	適 合 度	平成 18 年 調 査	速報集計	19. 6	19. 6.27			実績 8,257 人日 対従来比 1,309人日 (19%)増 予定外の業務量 増加分を除くと 対従来比 332人日 (5%)減	確報集計	20. 1	20. 1. 8			調査区等に関する集計	20. 3	20. 2. 6~ 20. 2.25			本所・支所の名寄せ集計	平成20年 度に継続	平成20年 度に継続	-		新産業分類組 替え事務	-	20. 1. 9 ~20. 3.10		
区 分	提出 状 況				満足度	投入量																																							
	予 定	実 績	期 限	適 合 度																																									
平成 18 年 調 査	速報集計	19. 6	19. 6.27			実績 8,257 人日 対従来比 1,309人日 (19%)増 予定外の業務量 増加分を除くと 対従来比 332人日 (5%)減																																							
	確報集計	20. 1	20. 1. 8																																										
	調査区等に関する集計	20. 3	20. 2. 6~ 20. 2.25																																										
	本所・支所の名寄せ集計	平成20年 度に継続	平成20年 度に継続	-																																									
	新産業分類組 替え事務	-	20. 1. 9 ~20. 3.10																																										

	<p>ア 投入量 投入量増加の主な要因としては、結果表審査の段階で、総務省統計局からデータ訂正依頼があったことにより、再度データ訂正、チェックリスト審査事務、結果表審査事務を行ったこと(対従来比+600人日)に加え、年度計画になかった新産業分類組替え事務が急きょ依頼されたこと(対従来比+1,041人日)による業務量の増加などがあった。 この結果、全体では対従来比1,309人日(19%)の増加となったが、これら予定外の業務量増加分を除くと、対従来比332人日(5%)の減少となる。</p> <p>イ 特記事項 確報集計については、名簿データテープのデータ訂正が約1万件(平成13年調査に比べ約1.7倍)と非常に多く発生し、データ訂正・チェックリスト審査事務のスケジュールがひっ迫した状態となり、チェックリストの出力方法を改善(2回に分けて出力していたものを1回にまとめて出力できるように工夫)するなどして対処した。 さらに、結果表審査の段階においても、総務省統計局からのデータ訂正依頼があったために、44県分についてデータ訂正・チェックリスト審査事務から再度行い、結果表審査事務のスケジュールがひっ迫した状態となった。 また、新産業分類組替え事務が急きょ依頼され、しかもその事務期間が約2か月間と非常にタイトなスケジュールであったことから、コンピュータによる自動組替えを行ったが、自動組替えができない事業所が約33万件と非常に多くなったために、自動組替えができない事業所については、キーワードにより個別データを検索した上で自動格付処理を行うなどして、格付精度を確保しつつ事務の効率化を図り対処した。 これらにより、業務の負担増となったが、他の業務とのスケジュールや要員の調整等を行って、投入量の大幅な変更や定められた期限への遅れもなく、同局の要望どおりに対応した。</p>		
当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数	当該業務に従事する職員数	8,257人日
当該項目の評価	A		

【評価結果の説明】

総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果を提出している。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。

業務全体の投入量は、予定より増加（対従来比+1,309人日(+19%））しているが、この増加は、総務省統計局からのデータ訂正依頼や年度計画になかった新産業分類組替え事務が急きょ依頼されたことによるものであり、これら予定外の業務量増加分を除くと、対従来比-332人日（-5%）となり、効率的な業務運営が行われていると認められる。

また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。

さらに、確報集計について、地方から提出される名簿データテープのデータ訂正が平成13年調査に比べ約1.7倍の約1万件と非常に多く発生したことに対して事務の方法を工夫することで対処するとともに、総務省統計局からのデータ訂正依頼により、44県分についてデータ訂正・チェックリスト審査以降の事務を再度行っている。また、新産業分類組替え事務の急な依頼については、その事務期間が約2か月間と非常にタイトなスケジュールであったことから、コンピュータによる自動組替えを行ったが、自動組替えができない事業所が約33万件と非常に多くなったために、自動組替えができない事業所については、キーワードにより個別データを検索した上で自動格付処理を行うなどして、格付精度を確保しつつ事務の効率化を図り対処している。このような多くの負担増があったものの、業務を効率的に実施し、同局からの要望に柔軟に対応している。

以上のことから、目標を十分達成していると判断した。

「必要性」:

秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。

「効率性」:

業務全体としての投入量は予定より増加（対従来比+1,309人日(+19%））しているが、この増加は、主に総務省統計局からのデータ訂正依頼や新産業分類組替え事務が急きょ依頼されたことによるものであり、これら予定外の業務量増加分を除くと、業務全体としての投入量は対従来比-332人日（-5%）となり、効率的な業務運営が行われている。

「有効性」:

事業所・企業統計調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、地方税制度、経済政策、雇用政策など関係方面において調査結果が利活用されている。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (3) 住宅・土地統計調査																								
中期計画の記載事項																									
総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。																									
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果																									
小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果（具体的数値があれば記入）																							
	<p>ア 総務省が明示した基準に基づいて精度の高い製表結果を期限までに提出する。</p> <p>イ 品質管理活動の着実な実施等製表結果の精度を確保するための対策を講じるとともに、情報管理の徹底が要求される部署にあっては、I S M S 認証取得を目指し、その他の部署にあってはセキュリティの一層の向上を図る。</p>	<p>< 製表業務の実施状況 > 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">区 分</th> <th colspan="4">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> <th rowspan="2">投入量</th> </tr> <tr> <th>予 定</th> <th>実 績</th> <th>期 限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 20 年調査</td> <td>試験調査 結果表</td> <td>19. 9</td> <td>19. 9. 7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td> 実績 577人日 対従来比 130人日 (29%) 増 </td> </tr> </tbody> </table> <p>投入量 結果表数増(9表 11表)に加え、総務省統計局から提示された製表基準書に不明瞭な部分があり、その内容について同局との確認も含めた疑義等のやり取りに多くの人員を要したため、対従来比130人日(29%)の増加となった。</p>				区 分		提出状況				満足度	投入量	予 定	実 績	期 限	適合度	平成 20 年調査	試験調査 結果表	19. 9	19. 9. 7				実績 577人日 対従来比 130人日 (29%) 増
区 分		提出状況						満足度	投入量																
		予 定	実 績	期 限	適合度																				
平成 20 年調査	試験調査 結果表	19. 9	19. 9. 7				実績 577人日 対従来比 130人日 (29%) 増																		
当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数	当該業務に従事する職員数	577人日																						
当該項目の評価	A																								

【評価結果の説明】

総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。

業務全体の投入量は、予定より増加（対従来比+130人日(+29%））しているが、この増加は、結果表数が増加（9表 11表）したことに加え、総務省統計局から提示された製表基準書に不明瞭な部分があり、その内容について同局との確認も含めた疑義等のやり取りに多くの人員を要したという外的要因によるものである。また、増加率は高いものの、試験調査という小規模な業務（製表業務全体の投入量実績計105,999人日のうち577人日）であり、全体に占める影響は低いと言える。

また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。以上のことから、目標を十分達成していると判断した。

「必要性」:

秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。

「効率性」:

業務全体の投入量は、予定より増加（対従来比+130人日(+29%））しているが、この増加は、結果表数の増加及び総務省統計局から提示された製表基準書の不明瞭による内容確認等のやり取りに多くの人員を要したという外的要因によるものであること、また、小規模な業務であり、全体に占める影響は低いと言える。

「有効性」:

平成20年住宅・土地統計調査試験調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた（基準に合致した）処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局において、平成20年住宅・土地統計調査の実施計画の立案に必要な基礎資料として活用されることとなる。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (4) 就業構造基本調査																						
中期計画の記載事項																							
総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。																							
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果																							
小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果（具体的数値があれば記入）																					
	<p>ア 総務省が明示した基準に基づいて精度の高い製表結果を期限までに提出する。</p> <p>イ 品質管理活動の着実な実施等製表結果の精度を確保するための対策を講じるとともに、情報管理の徹底が要求される部署にあっては、I S M S 認証取得を目指し、その他の部署にあってはセキュリティの一層の向上を図る。</p>	<p>< 製表業務の実施状況 > 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">区 分</th> <th colspan="4">提 出 状 況</th> <th rowspan="2">満足度</th> <th rowspan="2">投入量</th> </tr> <tr> <th>予 定</th> <th>実 績</th> <th>期 限</th> <th>適 合 度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成19年調査</td> <td>本集計</td> <td>平成20年度に継続</td> <td>平成20年度に継続</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> <td>実績 11,427人日 対従来比 3,596人日 (24%)減</td> </tr> </tbody> </table> <p>投入量 受付整理事務を民間事業者へ委託したことにより業務量が減少したこと、また、他調査での符号格付事務経験を持つ、事務に習熟した非常勤職員を投入したことにより、研修が不要となったことに加え、作業能率が上がったことなどで事務の効率化が図られ、対従来比3,596人日(24%)の減少となった。</p>		区 分		提 出 状 況				満足度	投入量	予 定	実 績	期 限	適 合 度	平成19年調査	本集計	平成20年度に継続	平成20年度に継続	-			実績 11,427人日 対従来比 3,596人日 (24%)減
区 分		提 出 状 況				満足度	投入量																
		予 定	実 績	期 限	適 合 度																		
平成19年調査	本集計	平成20年度に継続	平成20年度に継続	-			実績 11,427人日 対従来比 3,596人日 (24%)減																
当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数	当該業務に従事する職員数	11,427人日																				

当該項目の評価	A A
<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき、定められた期限に向けて製表業務が行われている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>投入量については、他調査での符号格付事務経験を持つ、事務に習熟した非常勤職員を投入したことにより、研修が不要となったことに加え、作業能率が上がったこと、製表業務の民間開放の方針に基づいて受付整理事務を民間事業者へ委託したことにより業務量が減少したことなどにより、<u>業務全体では予定より大幅に減少（対従来比-3,596人日（-24%））</u>している。こうしたことから、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。以上のことから、目標を大幅に上回って達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 他調査での符号格付事務経験を持つ、事務に習熟した非常勤職員を投入したことにより、研修が不要となったことに加え、作業能率が上がったことなどにより、業務全体の投入量は予定より大幅に減少（対従来比-3,596人日（-24%））しており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>「有効性」: 就業構造基本調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた（製表基準に合致した）処理を行い、製表結果の期限までの同局への提出に向けて作業を進めている。同局では、迅速な統計調査結果の提供（公表）が行われることとなり、行政施策の企画立案、少子高齢化対策、雇用対策など関係方面において調査結果が利活用される。</p>	

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (5) 全国物価統計調査
-----------	---

中期計画の記載事項

総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果（具体的数値があれば記入）																							
	<p>ア 総務省が明示した基準に基づいて精度の高い製表結果を期限までに提出する。</p> <p>イ 品質管理活動の着実な実施等製表結果の精度を確保するための対策を講じるとともに、情報管理の徹底が要求される部署にあっては、I S M S 認証取得を目指し、その他の部署にあってはセキュリティの一層の向上を図る。</p>	<p>< 製表業務の実施状況 > 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> <th rowspan="2">投入量</th> </tr> <tr> <th>予定</th> <th>実績</th> <th>期限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成19年調査</td> <td>平成20年度に継続</td> <td>平成20年度に継続</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> <td> 実績 4,454人日 対従来比 197人日(4%)減 業務の前倒し分を除くと 対従来比 410人日(9%)減 </td> </tr> </tbody> </table> <p>投入量 投入量増加の主な要因としては、平成20年度に予定していた事務の一部を19年度に前倒しして実施したことによる業務量の増加（対従来比+213人日）などがあった。 一方、受付整理事務を民間事業者に委託したことによる業務量の減少などにより、投入量が減少（対従来比-439人日）した。 これらの結果、全体では対従来比197人日(4%)の減少となったが、業務の前倒し分を除くと、対</p>						区分	提出状況				満足度	投入量	予定	実績	期限	適合度	平成19年調査	平成20年度に継続	平成20年度に継続	-			実績 4,454人日 対従来比 197人日(4%)減 業務の前倒し分を除くと 対従来比 410人日(9%)減
区分	提出状況				満足度	投入量																			
	予定	実績	期限	適合度																					
平成19年調査	平成20年度に継続	平成20年度に継続	-			実績 4,454人日 対従来比 197人日(4%)減 業務の前倒し分を除くと 対従来比 410人日(9%)減																			

		従来比410人日(9%)の減少となる。	
当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数	当該業務に従事する職員数	4,454人日
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき、定められた期限に向けて製表業務が行われている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>平成20年度に予定していた事務の一部を19年度に前倒しして実施したことによる業務量の増加(対従来比+213人日)などがある一方で、製表業務の民間開放の方針に基づいて受付整理事務を民間事業者へ委託したことによる業務量の減少などにより、業務全体としての投入量は減少(対従来比-197人日(-4%))している。さらに、業務の前倒し分を除くと、業務全体の投入量は対従来比-410人日(-9%)となることから、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>また、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 平成20年度に予定していた事務の一部を19年度に前倒しして実施したことによる業務量の増加などがある一方で、受付整理事務を民間事業者へ委託したことによる業務量の減少などにより、業務全体の投入量は予定より減少(対従来比-197人日(-4%))している。さらに業務の前倒し分を除くと、業務全体の投入量は対従来比-410人日(-9%)となり、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>「有効性」: 全国物価統計調査の製表においては、総務省統計局からの要望内容に応じた(基準に合致した)処理を行い、製表結果の期限までの同局への提出に向けて作業を進めている。同局では、迅速な統計調査結果の提供(公表)が行われることとなり、価格の店舗間格差、銘柄間格差、地域間格差など物価行政の企画立案において調査結果が活用される。</p>			

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (6) 社会生活基本調査
-----------	---

中期計画の記載事項

総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果（具体的数値があれば記入）																																	
ア 総務省が明示した基準に基づいて精度の高い製表結果を期限までに提出する。 イ 品質管理活動の着実な実施等製表結果の精度を確保するための対策を講じるとともに、情報管理の徹底が要求される部署にあっては、I S M S 認証取得を目指し、その他の部署にあってはセキュリティの一層の向上を図る。		<p>< 製表業務の実施状況 > 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="4">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> <th rowspan="2">投入量</th> </tr> <tr> <th>予 定</th> <th>実 績</th> <th>期限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">平成 18 年調査</td> <td>調査票 A に係る集計</td> <td>19. 8</td> <td>19. 8.29</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="3">実績 3,338 人日 対従来比 2,379人日 (42%)減</td> </tr> <tr> <td>調査票 B に係る集計</td> <td>19.11</td> <td>19.11.20</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>調査票 A の生活行動に係る特別集計</td> <td>-</td> <td>19. 5.14 ~ 20. 3.21</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						区 分	提出状況				満足度	投入量	予 定	実 績	期限	適合度	平成 18 年調査	調査票 A に係る集計	19. 8	19. 8.29			実績 3,338 人日 対従来比 2,379人日 (42%)減	調査票 B に係る集計	19.11	19.11.20			調査票 A の生活行動に係る特別集計	-	19. 5.14 ~ 20. 3.21		
		区 分	提出状況				満足度		投入量																										
			予 定	実 績	期限	適合度																													
		平成 18 年調査	調査票 A に係る集計	19. 8	19. 8.29			実績 3,338 人日 対従来比 2,379人日 (42%)減																											
調査票 B に係る集計	19.11		19.11.20																																
調査票 A の生活行動に係る特別集計	-		19. 5.14 ~ 20. 3.21																																
<p>投入量 生活時間行動分類の符号格付事務への自動格付システムの導入、データチェック審査事務のPC化及び結果表審査事務の見直しにより各事務の効率化が図られ、対従来比2,379人日(42%)の減少となった。</p>																																			

当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数	当該業務に従事する職員数	3,338人日
当該項目の評価	A A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>生活時間行動分類の符号格付事務への自動格付システムの導入、データチェック審査事務のPC化及び結果表審査事務の見直しにより各事務の効率化が図られ、業務全体としての投入量は大幅に減少（対従来比-2,379人日（-42%））している。こうしたことから、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>以上のことから、目標を大幅に上回って達成していると判断した。</p> <p>「必要性」:</p> <p>秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」:</p> <p>過年度の研究成果である生活時間行動分類の符号格付事務への自動格付システムの導入、データチェック審査事務のPC化及び結果表審査事務の見直しにより各事務の効率化が図られ、業務全体の投入量は予定より大幅に減少（対従来比-2,379人日（-42%））しており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>「有効性」:</p> <p>社会生活基本調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた（製表基準に合致した）処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供（公表）が行われ、男女共同参画に関わる事項の基礎資料、少子高齢化対策、国民生活白書など関係方面において調査結果が利活用されている。</p>			

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (7) 労働力調査
-----------	--

中期計画の記載事項

総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果（具体的数値があれば記入）																																																		
	<p>ア 総務省が明示した基準に基づいて精度の高い製表結果を期限までに提出する。</p> <p>イ 品質管理活動の着実な実施等製表結果の精度を確保するための対策を講じるとともに、情報管理の徹底が要求される部署にあっては、I S M S 認証取得を目指し、その他の部署にあってはセキュリティの一層の向上を図る。</p>	<p>< 製表業務の実施状況 > 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> <th rowspan="2">投入量</th> </tr> <tr> <th>予定</th> <th>実績</th> <th>期限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">基本集計</td> <td>毎月</td> <td>調査月の翌月下旬</td> <td>調査月の翌月下旬に終了</td> <td></td> <td rowspan="5"></td> <td rowspan="5">実績 5,024人日</td> </tr> <tr> <td>四半期平均</td> <td>四半期末月の翌月下旬</td> <td>四半期末月の翌月下旬に終了</td> <td></td> </tr> <tr> <td>半期平均</td> <td>半期末月の翌月下旬</td> <td>半期末月の翌月下旬に終了</td> <td></td> </tr> <tr> <td>年平均</td> <td>20. 1</td> <td>20. 1.24</td> <td></td> </tr> <tr> <td>年度平均</td> <td>平成20年度に継続</td> <td>平成20年度に継続</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">詳細集計</td> <td>四半期平均</td> <td>四半期末月の翌々月の月末</td> <td>四半期末月の翌々月の月末に終了</td> <td></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">対前年度比 831人日 (14%)減</td> </tr> <tr> <td>年平均</td> <td>20. 2</td> <td>20. 2.26</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>投入量 業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上及び品質管理向上による研修の縮小により事</p>						区分	提出状況				満足度	投入量	予定	実績	期限	適合度	基本集計	毎月	調査月の翌月下旬	調査月の翌月下旬に終了			実績 5,024人日	四半期平均	四半期末月の翌月下旬	四半期末月の翌月下旬に終了		半期平均	半期末月の翌月下旬	半期末月の翌月下旬に終了		年平均	20. 1	20. 1.24		年度平均	平成20年度に継続	平成20年度に継続	-	詳細集計	四半期平均	四半期末月の翌々月の月末	四半期末月の翌々月の月末に終了			対前年度比 831人日 (14%)減	年平均	20. 2	20. 2.26	
区分	提出状況				満足度	投入量																																														
	予定	実績	期限	適合度																																																
基本集計	毎月	調査月の翌月下旬	調査月の翌月下旬に終了			実績 5,024人日																																														
	四半期平均	四半期末月の翌月下旬	四半期末月の翌月下旬に終了																																																	
	半期平均	半期末月の翌月下旬	半期末月の翌月下旬に終了																																																	
	年平均	20. 1	20. 1.24																																																	
	年度平均	平成20年度に継続	平成20年度に継続	-																																																
詳細集計	四半期平均	四半期末月の翌々月の月末	四半期末月の翌々月の月末に終了			対前年度比 831人日 (14%)減																																														
	年平均	20. 2	20. 2.26																																																	

		務の効率化が図られ、対前年度比831人日(14%)の減少となった。	
当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数	当該業務に従事する職員数	5,024人日
当該項目の評価	A A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上及び品質管理向上による研修の縮小により事務の効率化が図られ、業務全体の投入量は、前年度に比べて大幅に減少(対前年度比-831人日(-14%))しているとともに、経常調査全体の投入量について対前年度比約4%削減を実現し、経常調査の投入量を前年度以下とするという平成19年度年度計画の目標の達成に大きく寄与するなど、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>以上のことから、目標を大幅に上回って達成していると判断した。</p> <p>「必要性」:</p> <p>秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」:</p> <p>業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上及び品質管理向上による研修の縮小により事務の効率化が図られ、業務全体の投入量は、前年度に比べて大幅に減少(対前年度比-831人日(-14%))しているとともに、経常調査全体の投入量について対前年度比約4%削減を実現し、経常調査の投入量を前年度以下とするという平成19年度年度計画の目標の達成に大きく寄与するなど、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」:</p> <p>労働力調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、景気判断の指標、雇用対策、労働経済白書など関係方面において調査結果が利活用されている。</p>			

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (8) 小売物価統計調査	
中期計画の記載事項		
総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。		
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果		
小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果（具体的数値があれば記入）
	<p>ア 総務省が明示した基準に基づいて精度の高い製表結果を期限までに提出する。</p> <p>イ 品質管理活動の着実な実施等製表結果の精度を確保するための対策を講じるとともに、情報管理の徹底が要求される部署にあっては、I S M S 認証取得を目指し、その他の部署にあってはセキュリティの一層の向上を図る。</p>	<p><製表業務の実施状況> 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p>

		区 分	提出状況				満足度	投入量		
			予 定	実 績	期 限	適合度				
	小売物価統計調査製表業務	東京都区部	調査月下旬	調査月下旬に終了			実績 8,340人日 対前年度比 1,040人日 (11%)減			
		全国	調査月の翌月下旬	調査月の翌月下旬に終了						
		年平均	12月調査分の完了時期	20. 1.11						
	消費者物価指数に関する製表業務	東京都区部	調査月下旬	調査月下旬に終了						
		全国	調査月の翌月下旬	調査月の翌月下旬に終了						
		四半期平均	3、6、9、12月調査分の完了時期	3、6、9、12月調査分の完了時期に終了						
		半期平均	6、12月調査分の完了時期	6、12月調査分の完了時期に終了						
		年平均	12月調査分の完了時期	20. 1.22						
		年度平均	3月調査分の完了時期	20. 4終了予定	-					
		地域差指数	平成20年度に継続	平成20年度に継続	-					
	<p>投入量 業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上などにより、事務の効率化が図られ、対前年度比1,040人日(11%)の減少となった。</p>									
	当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数	当該業務に従事する職員数		8,340人日					

当該項目の評価	A A
<p>【評価結果の説明】</p> <p>総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上などにより、事務の効率化が図られ、業務全体の投入量は、前年度に比べて大幅に減少(対前年度比-1,040人日(-11%))している。これは、平成16年度(対前年度比-2,914人日(-22%))、平成17年度(対前年度比-510人日(-5%))、平成18年度(対前年度比-383人日(-4%))に引き続いた効率化であるとともに、経常調査全体の投入量について対前年度比約4%削減を実現し、経常調査の投入量を前年度以下とするという平成19年度年度計画の目標の達成に大きく寄与するなど、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>以上のことから、目標を大幅に上回って達成していると判断した。</p> <p>「必要性」:</p> <p>秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」:</p> <p>業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上などにより、事務の効率化が図られ、業務全体の投入量は、前年度に比べて大幅に減少(対前年度比-1,040人日(-11%))している。これは、平成16年度(対前年度比-2,914人日(-22%))、平成17年度(対前年度比-510人日(-5%))、平成18年度(対前年度比-383人日(-4%))に引き続いた効率化であるとともに、経常調査全体の投入量について対前年度比約4%削減を実現し、経常調査の投入量を前年度以下とするという平成19年度年度計画の目標の達成に大きく寄与するなど、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」:</p> <p>小売物価統計調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、年金額の改定率の改定の基準、デフレ対策、金融政策など関係方面において調査結果が利活用されているところ。</p>	

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (9) 家計調査
-----------	---

中期計画の記載事項

総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果（具体的数値があれば記入）																																																										
	<p>ア 総務省が明示した基準に基づいて精度の高い製表結果を期限までに提出する。</p> <p>イ 品質管理活動の着実な実施等製表結果の精度を確保するための対策を講じるとともに、情報管理の徹底が要求される部署にあっては、I S M S 認証取得を目指し、その他の部署にあってはセキュリティの一層の向上を図る。</p>	<p>< 製表業務の実施状況 > 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">区 分</th> <th colspan="4">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> <th rowspan="2">投入量</th> </tr> <tr> <th>予 定</th> <th>実 績</th> <th>期限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">家計収支編</td> <td rowspan="2">二人以上の世帯</td> <td>全数</td> <td>調査月の翌月下旬</td> <td>翌月28日頃に終了</td> <td></td> <td rowspan="7"></td> <td rowspan="7">実績 31,447人日 対前年度比 284人日 (1%)減</td> </tr> <tr> <td>非農林</td> <td>調査月の翌々月上旬</td> <td>翌々月5日頃に終了</td> <td></td> </tr> <tr> <td>単身世帯</td> <td>全数</td> <td>調査月の翌々月中旬</td> <td>翌々月11日頃に終了</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総世帯</td> <td>全数</td> <td>調査月の翌々月中旬</td> <td>翌々月11日頃に終了</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">四半期平均</td> <td></td> <td>2、5、8、11月の中旬</td> <td>2、5、8、11月の中旬に終了</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">年平均</td> <td></td> <td>2月中旬</td> <td>2月中旬に終了</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">年度平均</td> <td></td> <td>5月中旬</td> <td>5月中旬に終了</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							区 分		提出状況				満足度	投入量	予 定	実 績	期限	適合度	家計収支編	二人以上の世帯	全数	調査月の翌月下旬	翌月28日頃に終了			実績 31,447人日 対前年度比 284人日 (1%)減	非農林	調査月の翌々月上旬	翌々月5日頃に終了		単身世帯	全数	調査月の翌々月中旬	翌々月11日頃に終了		総世帯	全数	調査月の翌々月中旬	翌々月11日頃に終了		四半期平均			2、5、8、11月の中旬	2、5、8、11月の中旬に終了		年平均			2月中旬	2月中旬に終了		年度平均			5月中旬	5月中旬に終了	
区 分		提出状況				満足度	投入量																																																					
		予 定	実 績	期限	適合度																																																							
家計収支編	二人以上の世帯	全数	調査月の翌月下旬	翌月28日頃に終了			実績 31,447人日 対前年度比 284人日 (1%)減																																																					
		非農林	調査月の翌々月上旬	翌々月5日頃に終了																																																								
	単身世帯	全数	調査月の翌々月中旬	翌々月11日頃に終了																																																								
	総世帯	全数	調査月の翌々月中旬	翌々月11日頃に終了																																																								
	四半期平均			2、5、8、11月の中旬	2、5、8、11月の中旬に終了																																																							
	年平均			2月中旬	2月中旬に終了																																																							
	年度平均			5月中旬	5月中旬に終了																																																							

		貯蓄・ 負債編	二人以上の世帯	非農林	調査月の4か月後の下旬	調査月の4か月後の下旬に終了				
				全数	調査月の4か月後の下旬	調査月の4か月後の下旬に終了				
			四半期平均		家計収支編の公表から3か月後	家計収支編の公表から3か月後に終了				
			年平均		家計収支編の公表から3か月後	家計収支編の公表から3か月後に終了				
		合成数 値編	二人以上 の世帯	全数	調査月の翌々月上旬	翌々月5日頃に終了				
				非農林	調査月の翌々月上旬	翌々月5日頃に終了				
			単身世帯	全数	調査月の翌々月中旬	翌々月11日頃に終了				
			総世帯	全数	調査月の翌々月中旬	翌々月11日頃に終了				
			四半期平均		2、5、8、11月の中旬	2、5、8、11月の中旬に終了				
			年平均		2月中旬	2月中旬に終了				
		平成18 年調査 準調査 世帯集 計	二人以上の世帯		19.10	19.10.5				
			単身世帯		19.10	19.10.5				
		平成19 年調査 準調査 世帯集 計	二人以上の世帯		平成20年度に継続	平成20年度に継続	-			
			単身世帯		平成20年度に継続	平成20年度に継続	-			

		<p>ア 投入量 製表業務体制の見直しにより、家計簿の内容検査、符号格付・入力事務において事務の効率化が図られ、対前年度比284人日(1%)の減少となった。</p> <p>イ 特記事項 平成20年1月からの標本改正に伴う調査打ち切り市町村及び調査開始市町村が多く、特例的な調査世帯の交替が発生したため、受付事務が複雑になるとともに、平成20年1月から世帯票の入力事務、年間収入調査票及び貯蓄等調査票のデータチェック審査事務の事務量(調査票枚数が約1.5倍)が増加した。 また、総務省統計局からのチェック処理の変更や結果表の新規追加の依頼にも対応した。 これらにより、業務の負担増となったが、他の業務とのスケジュールや要員の調整等を行って、投入量の大幅な変更や定められた期限への遅れもなく、同局の要望どおりに対応した。</p>	
当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数	当該業務に従事する職員数	31,447人日
当該項目の評価	A		

【評価結果の説明】

総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。

製表業務体制の見直しにより、家計簿の内容検査、符号格付・入力事務において事務の効率化が図られ、業務全体の投入量は、前年度に比べて減少（対前年度比-284人日(-1%)）しているとともに、経常調査全体の投入量について対前年度比約4%削減を実現し、経常調査の投入量を前年度以下とするという平成19年度年度計画の目標の達成に寄与するなど、効率的な業務運営が行われていると認められる。

また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。

さらに、平成20年1月からの標本改正に伴う調査打ち切り市町村及び調査開始市町村が多く、特例的な調査世帯の交替が発生したため、受付事務が複雑になるとともに、平成20年1月から世帯票の入力事務、年間収入調査票及び貯蓄等調査票のデータチェック審査事務の事務量（調査票枚数が約1.5倍）が増加したほか、総務省統計局からのチェック処理の変更や結果表の新規追加の依頼など予定外の業務が発生したが、同局の要望どおりに対応している。

以上のことから、目標を十分達成していると判断した。

「必要性」:

秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。

「効率性」:

製表業務体制の見直しにより、家計簿の内容検査、符号格付・入力事務において事務の効率化が図られ、業務全体の投入量は、前年度に比べて減少（対前年度比-284人日(-1%)）しているとともに、経常調査全体の投入量について対前年度比約4%削減を実現し、経常調査の投入量を前年度以下とするという平成19年度年度計画の目標の達成に寄与するなど、効率的な業務運営が行われている。

「有効性」:

家計調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、政府の景気判断の指標、国民経済計算における家計消費支出の推計、経済財政白書など関係方面において調査結果が利活用されている。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (10) 個人企業経済調査
-----------	--

中期計画の記載事項

総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果（具体的数値があれば記入）																																																																				
	<p>ア 総務省が明示した基準に基づいて精度の高い製表結果を期限までに提出する。</p> <p>イ 品質管理活動の着実な実施等製表結果の精度を確保するための対策を講じるとともに、情報管理の徹底が要求される部署にあっては、I S M S 認証取得を目指し、その他の部署にあってはセキュリティの一層の向上を図る。</p>	<p>< 製表業務の実施状況 > 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">集計区分</th> <th colspan="4">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> <th rowspan="2">投入量</th> </tr> <tr> <th>予 定</th> <th>実 績</th> <th>期 限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="9">動向調査票の製表業務（平成19年1～3月期、4～6月期、7～9月期、10～12月期）</td> <td rowspan="3">速報集計</td> <td>19. 5</td> <td>19. 5. 7</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="9"></td> <td rowspan="9">実績 1,034 人日 対前年度比 10人日 (1%)減</td> </tr> <tr> <td>19. 8</td> <td>19. 8. 3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>19.11</td> <td>19.11. 2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">確報集計</td> <td>20. 2</td> <td>20. 2. 5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>19. 5</td> <td>19. 5.25</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>19. 8</td> <td>19. 8.27</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">平成18年度集計</td> <td>19.11</td> <td>19.11.20</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>20. 2</td> <td>20. 2.22</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成18年調査構造調査票に関する製表業務</td> <td>平成18年集計</td> <td>19. 5</td> <td>19. 5.25</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>19. 6</td> <td>19. 6.25</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>投入量 業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上などにより、事務の効率化が図られ、対前年度比10人日(1%)の減少となった。</p>							区 分	集計区分	提出状況				満足度	投入量	予 定	実 績	期 限	適合度	動向調査票の製表業務（平成19年1～3月期、4～6月期、7～9月期、10～12月期）	速報集計	19. 5	19. 5. 7				実績 1,034 人日 対前年度比 10人日 (1%)減	19. 8	19. 8. 3			19.11	19.11. 2			確報集計	20. 2	20. 2. 5			19. 5	19. 5.25			19. 8	19. 8.27			平成18年度集計	19.11	19.11.20			20. 2	20. 2.22			平成18年調査構造調査票に関する製表業務	平成18年集計	19. 5	19. 5.25					19. 6	19. 6.25		
区 分	集計区分	提出状況				満足度	投入量																																																															
		予 定	実 績	期 限	適合度																																																																	
動向調査票の製表業務（平成19年1～3月期、4～6月期、7～9月期、10～12月期）	速報集計	19. 5	19. 5. 7				実績 1,034 人日 対前年度比 10人日 (1%)減																																																															
		19. 8	19. 8. 3																																																																			
		19.11	19.11. 2																																																																			
	確報集計	20. 2	20. 2. 5																																																																			
		19. 5	19. 5.25																																																																			
		19. 8	19. 8.27																																																																			
	平成18年度集計	19.11	19.11.20																																																																			
		20. 2	20. 2.22																																																																			
	平成18年調査構造調査票に関する製表業務	平成18年集計	19. 5	19. 5.25																																																																		
		19. 6	19. 6.25																																																																			

当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数	当該業務に従事する職員数	1,034人日
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上などにより、事務の効率化が図られ、業務全体の投入量は、前年度に比べて減少（対前年度比-10人日(-1%)）しているとともに、経常調査全体の投入量について対前年度比約4%削減を実現し、経常調査の投入量を前年度以下とするという平成19年度年度計画の目標の達成に寄与するなど、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>また、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」:</p> <p>秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」:</p> <p>業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上などにより、事務の効率化が図られ、業務全体の投入量は、前年度に比べて減少（対前年度比-10人日(-1%)）しているとともに、経常調査全体の投入量について対前年度比約4%削減を実現し、経常調査の投入量を前年度以下とするという平成19年度年度計画の目標の達成に寄与するなど、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」:</p> <p>個人企業統計調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、国民経済計算の推計、労働経済の分析、中小企業関係施策のための基礎資料など関係方面において調査結果が利活用されている。</p>			

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (11) 科学技術研究調査
-----------	--

中期計画の記載事項

総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果（具体的数値があれば記入）																		
	<p>ア 総務省が明示した基準に基づいて精度の高い製表結果を期限までに提出する。</p> <p>イ 品質管理活動の着実な実施等製表結果の精度を確保するための対策を講じるとともに、情報管理の徹底が要求される部署にあっては、I S M S 認証取得を目指し、その他の部署にあってはセキュリティの一層の向上を図る。</p>	<p>< 製表業務の実施状況 > 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="4">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> <th rowspan="2">投入量</th> </tr> <tr> <th>予 定</th> <th>実 績</th> <th>期 限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成19年調査</td> <td>19.12</td> <td>19.12. 4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td> 実績 1,580人日 対前年度比 99人日 (7%)増 秘匿方法の変 更を除くと 対前年度比 20人日 (1%)減 </td> </tr> </tbody> </table> <p>投入量 投入量増加の主な要因としては、秘匿方法の変更による業務量の増加(対前年度比+119人日)があった。</p>	区 分	提出状況				満足度	投入量	予 定	実 績	期 限	適合度	平成19年調査	19.12	19.12. 4				実績 1,580人日 対前年度比 99人日 (7%)増 秘匿方法の変 更を除くと 対前年度比 20人日 (1%)減
区 分	提出状況				満足度	投入量														
	予 定	実 績	期 限	適合度																
平成19年調査	19.12	19.12. 4				実績 1,580人日 対前年度比 99人日 (7%)増 秘匿方法の変 更を除くと 対前年度比 20人日 (1%)減														

		この結果、全体では対前年度比99人日(7%)の増加となったが、秘匿方法の変更による業務量の増加分を除くと、対前年度比20人日(1%)の減少となる。	
当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数	当該業務に従事する職員数	1,580人日
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>業務全体の投入量については、前年度に比べ増加(対従来比+99人日(+7%))しているが、この主な増加要因は、秘匿方法の変更による業務量の増加であり、この秘匿方法の変更による業務量(対前年度比+119人日)の増加分を除くと、対前年度比20人日(1%)の減少となり、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 前年度に比べ業務全体の投入量は増加(対従来比+99人日(+7%))しているが、この主な増加要因は、秘匿方法の変更による業務量の増加であり、この秘匿方法の変更による業務量の増加分(対前年度比+119人日)を除くと、対前年度比20人日(1%)の減少となり、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 科学技術研究調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、e - J a p a n 重点計画ベンチマーク、科学技術白書、経済財政白書など関係方面において調査結果が利活用されている。</p>			

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項														
中期計画の記載事項															
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。															
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果															
小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果（具体的数値があれば記入）													
	委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<p data-bbox="965 523 1384 555">< 受託製表に関する事務（総括） ></p> <p data-bbox="1025 555 1137 587">実施状況</p> <p data-bbox="1025 587 1637 619">受託製表業務全体の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1" data-bbox="972 635 2096 922"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="2">提 出 状 況</th> <th rowspan="2">満足度</th> <th rowspan="2">投入量</th> </tr> <tr> <th>期 限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="981 799 1093 831">受託調査</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td data-bbox="1906 715 2033 922">実績 9,683人日 対従来比 654人日 (6%)減</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1025 959 1115 991">投入量</p> <p data-bbox="987 991 2114 1054">担当者の製表業務への習熟などにより事務の効率化が図られ、対従来比654人日(6%)の減少となった。</p>		区 分	提 出 状 況		満足度	投入量	期 限	適合度	受託調査				実績 9,683人日 対従来比 654人日 (6%)減
区 分	提 出 状 況		満足度		投入量										
	期 限	適合度													
受託調査				実績 9,683人日 対従来比 654人日 (6%)減											

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (1) 人事院職員福祉局委託業務(民間企業の勤務条件制度等調査)																				
中期計画の記載事項																					
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。																					
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果																					
小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果(具体的数値があれば記入)																			
	委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<民間企業の勤務条件制度等調査> 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。																			
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="4">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> </tr> <tr> <th>予 定</th> <th>実 績</th> <th>期 限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成19年調査</td> <td>平成20年度に継続(20.4)</td> <td>平成20年度に継続(20.4終了予定)</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				区 分	提出状況				満足度	予 定	実 績	期 限	適合度	平成19年調査	平成20年度に継続(20.4)	平成20年度に継続(20.4終了予定)	-		
区 分	提出状況				満足度																
	予 定	実 績	期 限	適合度																	
平成19年調査	平成20年度に継続(20.4)	平成20年度に継続(20.4終了予定)	-																		
当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数	当該業務に従事する職員数	338人日																		
当該項目の評価	A																				
【評価結果の説明】 人事院職員福祉局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限に向けて製表業務が行われている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。 担当者の習熟による効率化が図られるとともに、準備事務が減少したことなどにより、 <u>投入量は予定より減少(対従来比-135人日(-29%))</u> していることから、効率的な業務運営が行われていると認められる。 これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。 また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。																					

<p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p>
<p>「効率性」: 担当者の習熟による効率化が図られるとともに、準備事務が減少したことにより、投入量は予定より減少（対従来比-135人日（-29%））しており、効率的な業務運営が行われている。</p>
<p>「有効性」: 公務員制度の運営など行政施策の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (2) 人事院給与局委託業務(国家公務員給与等実態調査、職種別民間給与実態調査、家計調査特別集計(標準生計費・住宅関係・各分位関係)、平成16年全国消費実態調査特別集計(標準生計費))
-----------	--

中期計画の記載事項

府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。

各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果(具体的数値があれば記入)																		
	委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<p>1 国家公務員給与等実態調査</p> <p>(1) 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="3">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> </tr> <tr> <th>予 定</th> <th>実 績</th> <th>期 限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成19年調査</td> <td>19. 8</td> <td>19. 8. 8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成20年調査</td> <td>平成20年度に継続</td> <td>平成20年度に継続</td> <td>-</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 特記事項 平成19年調査について、各府省で入力されたデータの誤りが大量に存在することが判明した。これによりデータ訂正件数が増大(約2.5倍)し集計スケジュールに大きな影響が出たため、人事院と協議し、集計手順の変更を行うとともに、他の業務とのスケジュールや要員の調整を行って、定められた期限への遅れもなく、同院の要望どおりに対応した。</p>	区 分	提出状況			満足度	予 定	実 績	期 限	平成19年調査	19. 8	19. 8. 8			平成20年調査	平成20年度に継続	平成20年度に継続	-	
区 分	提出状況			満足度																
	予 定	実 績	期 限																	
平成19年調査	19. 8	19. 8. 8																		
平成20年調査	平成20年度に継続	平成20年度に継続	-																	

2 職種別民間給与実態調査 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。	
区 分	提出状況
	予 定 実 績 期 限 適合度
平成19年調査	19. 7 19. 7.18
3 家計調査特別集計（標準生計費・住宅関係・各分位関係） 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。	
区 分	提出状況
	予 定 実 績 期 限 適合度
平成19年調査	平成20年度に継 続(20. 6) 平成20年度に継続 (20. 6終了予定) -
4 平成16年全国消費実態調査特別集計（標準生計費） (1) 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。	
区 分	提出状況
	予 定 実 績 期 限 適合度
平成16年調査 (平成19年度受託分)	平成20年度に継 続 (20. 5) 平成20年度に継続 (20. 4終了予定) -
(2) 特記事項 結果表の追加集計(12表分)を新たに受託した。	
当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数
	当該業務に従事する職員数
	258人日
当該項目の評価	A

【評価結果の説明】

人事院給与局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。

投入量は、予定より増加（対従来比+6人日（+2%））しているが、他の調査への影響もなかったことから、問題はない。

これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめているなど、効果的な支援を行っている。

また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。

さらに、平成19年国家公務員給与等実態調査において、各府省で入力されたデータの誤りにより、データ訂正件数が増大（約2.5倍）したことに対応している。

以上のことから、目標を十分達成していると判断した。

「必要性」:

秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。

「効率性」:

投入量は、予定より増加（対従来比+6人日（+2%））しているが、他の調査への影響もなかったことから、問題はない。

「有効性」:

人事行政の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (3) 総務省人事・恩給局委託業務(国家公務員(特別職・自衛官)給与実態調査、国家公務員退職手当実態調査)																									
中期計画の記載事項																										
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。																										
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果																										
小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果(具体的数値があれば記入)																								
	委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	1 国家公務員(特別職・自衛官)給与実態調査 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。																								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="4">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> </tr> <tr> <th>予 定</th> <th>実 績</th> <th>期 限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成18年度調査</td> <td>19. 7</td> <td>19. 6.13</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>				区 分	提出状況				満足度	予 定	実 績	期 限	適合度	平成18年度調査	19. 7	19. 6.13			-					
区 分		提出状況					満足度																			
		予 定	実 績	期 限	適合度																					
平成18年度調査		19. 7	19. 6.13			-																				
	2 国家公務員退職手当実態調査 (1) 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="4">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> </tr> <tr> <th>予 定</th> <th>実 績</th> <th>期 限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成19年度調査</td> <td>19.12 (20. 3)</td> <td>20. 3.11</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>国家公務員の機関別・地域別の退職者数集計データ(仮)作成</td> <td>19. 8</td> <td>19. 8. 2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				区 分	提出状況				満足度	予 定	実 績	期 限	適合度	平成19年度調査	19.12 (20. 3)	20. 3.11				国家公務員の機関別・地域別の退職者数集計データ(仮)作成	19. 8	19. 8. 2			
区 分	提出状況					満足度																				
	予 定	実 績	期 限	適合度																						
平成19年度調査	19.12 (20. 3)	20. 3.11																								
国家公務員の機関別・地域別の退職者数集計データ(仮)作成	19. 8	19. 8. 2																								
	(2) 提出状況 「官民人材交流センター」の制度設計の基礎資料に資するための「国家公務員の機関別・地域別の退職者数集計データ(仮)」の作成業務が緊急的に追加依頼された。また、平成19年度調査に																									

		<p>についても追加依頼があり、業務終了予定時期が平成19年12月から20年3月に変更されたが、それぞれ定められた期限までに製表結果を提出した。</p> <p>(3) 特記事項 「国家公務員の機関別・地域別の退職者数集計データ(仮)」の緊急的な作成業務の追加依頼に加え、国家公務員退職手当制度の法改正に伴い、データチェック要領が変更されるなど集計業務に大幅な変更が生じた。同要領の変更に伴いデータチェックリスト審査事務についても煩雑となり、集計スケジュールがひっ迫した状態となったが、他の業務とのスケジュールや要員の調整等を行って、投入量の大幅な変更や変更後の定められた期限への遅れもなく、総務省人事・恩給局の要望どおりに対応した。</p>	
当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数	当該業務に従事する職員数	878人日
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】 総務省人事恩給局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>投入量が予定よりも増加（対従来比+300人日(+52%））しているが、これは、国家公務員退職手当実態調査において、平成19年度調査の追加依頼があったこと、また、「国家公務員の機関別・地域別の退職者数集計データ(仮)」の作成業務が緊急的に追加依頼されたこと、さらに、国家公務員退職手当制度の法改正に伴い、データチェック要領が変更されるなど集計業務に大幅な変更が生じたことに対応したためであり、他の業務への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 投入量が予定よりも増加（対従来比+300人日(+52%））しているが、これは、国家公務員退職手当実態調査において、平成19年度調査の追加依頼があったこと、また、「国家公務員の機関別・地域別の退職者数集計データ(仮)」の作成業務が緊急的に追加依頼されたこと、さらに、国家公務員退職手当制度の法改正に伴い、データチェッ</p>			

ク要領が変更されるなど集計業務に大幅な変更が生じたことに対応したためであり、他の業務への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われている。

「有効性」:

人事行政の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (4) 総務省統計局委託業務(家計消費状況調査)																																
中期計画の記載事項																																	
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。																																	
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果																																	
小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果(具体的数値があれば記入)																															
	委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<p><家計消費状況調査> (1) 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="3">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> </tr> <tr> <th>予 定</th> <th>実 績</th> <th>期 限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>毎月</td> <td>データ持込後3日以内</td> <td>データ持込後3日以内に終了</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>四半期平均</td> <td>四半期末月の提出と同時</td> <td>四半期末月の提出と同時に終了</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成19年平均</td> <td>第4四半期平均と同時</td> <td>第4四半期平均と同時に終了</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成19年度平均</td> <td>20年第1四半期平均と同時</td> <td>20年第1四半期平均と同時に終了予定</td> <td>-</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 特記事項 平成18年6月分、7月分、12月分、第2～4四半期、平成18年平均及び平成18年度平均については、既に公表済みであるが、民間事業者が作成したチェック済データに重複データが含まれていることが判明したため、総務省統計局から再集計の依頼を受け、これに対応した。</p>				区 分	提出状況			満足度	予 定	実 績	期 限	毎月	データ持込後3日以内	データ持込後3日以内に終了			四半期平均	四半期末月の提出と同時	四半期末月の提出と同時に終了			平成19年平均	第4四半期平均と同時	第4四半期平均と同時に終了			平成19年度平均	20年第1四半期平均と同時	20年第1四半期平均と同時に終了予定	-	
区 分	提出状況			満足度																													
	予 定	実 績	期 限																														
毎月	データ持込後3日以内	データ持込後3日以内に終了																															
四半期平均	四半期末月の提出と同時	四半期末月の提出と同時に終了																															
平成19年平均	第4四半期平均と同時	第4四半期平均と同時に終了																															
平成19年度平均	20年第1四半期平均と同時	20年第1四半期平均と同時に終了予定	-																														
当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数	当該業務に従事する職員数	140人日																														

当該項目の評価	A
<p>【評価結果の説明】</p> <p>総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>準備事務の減少が主な要因であるが、投入量が予定よりも減少（対従来比-221人日(-61%））しており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>さらに、既に公表済みの結果分について、民間事業者が作成したデータに重複データが含まれていることが判明したため、同局から再集計の依頼を受け、これに対応している。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」:</p> <p>秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」:</p> <p>投入量が予定よりも減少（対従来比-221人日(-61%））しており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」:</p> <p>家計調査を補完する基礎資料など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>	

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (5) 公害等調整委員会事務局委託業務(公害苦情調査)																				
中期計画の記載事項																					
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。																					
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果																					
小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果(具体的数値があれば記入)																			
	委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<p>< 公害苦情調査 > (1) 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="4">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> </tr> <tr> <th>予 定</th> <th>実 績</th> <th>期 限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成18年度調査</td> <td>19.10</td> <td>19.10.25</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 提出状況 公害等調整委員会事務局から調査票データの提出の遅れがあった。</p>				区 分	提出状況				満足度	予 定	実 績	期 限	適合度	平成18年度調査	19.10	19.10.25			
区 分	提出状況				満足度																
	予 定	実 績	期 限	適合度																	
平成18年度調査	19.10	19.10.25																			
当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数	当該業務に従事する職員数	282人日																		
当該項目の評価	A																				
<p>【評価結果の説明】 公害等調整委員会事務局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、<u>同局からの調査票データの提出の遅れがあったものの、定められた期限までに製表結果が提出されている。</u>統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。 <u>投入量が予定よりも減少(対従来比-28人日(-9%))</u>しており、効率的な業務運営が行われていると認められる。 これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。 また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p>																					

「必要性」:

秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。

「効率性」:

投入量が予定よりも減少（対従来比-28人日(-9%)）しており、効率的な業務運営が行われている。

「有効性」:

環境行政の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (6)文化庁委託業務(サービス業基本調査特別集計(芸術関連産業))																			
中期計画の記載事項																				
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。																				
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果																				
小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果(具体的数値があれば記入)																		
	委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<サービス業基本調査特別集計(芸術関連産業)> (1) 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。 <table border="1" data-bbox="974 670 2094 821"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="4">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> </tr> <tr> <th>予 定</th> <th>実 績</th> <th>期 限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成16年度調査</td> <td>20. 2</td> <td>20. 1.11</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> (2) 特記事項 この集計は、文化庁から新たに受託した。			区 分	提出状況				満足度	予 定	実 績	期 限	適合度	平成16年度調査	20. 2	20. 1.11			
区 分	提出状況					満足度														
	予 定	実 績	期 限	適合度																
平成16年度調査	20. 2	20. 1.11																		
当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数	当該業務に従事する職員数	174人日																	
当該項目の評価	A																			
【評価結果の説明】 文化庁から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。 投入量が予定よりも増加(対従来比+13人日(+8%))しているが、他の業務への影響もなかったことから、問題はない。 新たに文化庁から受託した業務であるが、これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをいながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。 また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。																				

<p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p>
<p>「効率性」: 投入量が予定よりも増加（対従来比+13人日(+8%)）しているが、他の業務への影響もなかったことから、問題はない。</p>
<p>「有効性」: 文化芸術の振興など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (7) 財務省委託業務(家計調査特別集計(特定品目) 家計調査特別集計(世帯類型別))																							
中期計画の記載事項																								
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。																								
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果																								
小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果(具体的数値があれば記入)																						
	委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	1 家計調査特別集計(特定品目) 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。																						
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="3">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> </tr> <tr> <th>予 定</th> <th>実 績</th> <th>期 限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成18年調査</td> <td>19.10</td> <td>19.10.23</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成19年調査</td> <td>平成20年度に継続</td> <td>平成20年度に継続</td> <td>-</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				区 分	提出状況			満足度	予 定	実 績	期 限	適合度	平成18年調査	19.10	19.10.23			平成19年調査	平成20年度に継続	平成20年度に継続	-	
区 分		提出状況			満足度																			
		予 定	実 績	期 限		適合度																		
平成18年調査		19.10	19.10.23																					
平成19年調査	平成20年度に継続	平成20年度に継続	-																					
	2 家計調査特別集計(世帯類型別) (1) 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="3">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> </tr> <tr> <th>予 定</th> <th>実 績</th> <th>期 限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成18年調査</td> <td>19. 7</td> <td>19. 7.26</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				区 分	提出状況			満足度	予 定	実 績	期 限	適合度	平成18年調査	19. 7	19. 7.26								
区 分	提出状況			満足度																				
	予 定	実 績	期 限		適合度																			
平成18年調査	19. 7	19. 7.26																						
	(2) 特記事項 この集計は、財務省から新たに受託した。																							
当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数	当該業務に従事する職員数	1,382人日																					

当該項目の評価	A
<p>【評価結果の説明】</p> <p>財務省から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同省の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>同省からの依頼の遅れに伴い業務が平成20年度に持ち越され、投入量が予定よりも減少（対従来比-72人日(-5%)）しているが、このほかの業務全般においても効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 投入量が予定よりも減少（対従来比-72人日(-5%)）しており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 税体系の在り方の検討など行政施策の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>	

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (8) 厚生労働省委託業務(雇用動向調査、賃金構造基本統計調査)																																					
中期計画の記載事項																																						
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。																																						
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果																																						
小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果(具体的数値があれば記入)																																				
	委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<p>1 雇用動向調査</p> <p>(1) 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> </tr> <tr> <th>予定</th> <th>実績</th> <th>期限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">平成18年調査</td> <td>下半期</td> <td>19.5</td> <td>19.5.14</td> <td></td> <td rowspan="6">-</td> </tr> <tr> <td>年計</td> <td>19.5</td> <td>19.5.28</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成精度計算</td> <td>19.6</td> <td>19.5.28</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">平成19年調査</td> <td>上半期</td> <td>19.10</td> <td>19.10.26</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成精度計算(上半期)</td> <td>19.11</td> <td>19.11.8</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 特記事項 上半期と下半期の集計結果を合算して作成する年計の集計結果表について、厚生労働省からの追加依頼を受け、表章の時点が他の表と異なっている1表分について時点をそろえ、併せてこの結果表を平成16年調査までさかのぼって集計し、製表結果を提出した。</p> <p>2 賃金構造基本統計調査</p> <p>(1) 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p>				区分	提出状況				満足度	予定	実績	期限	適合度	平成18年調査	下半期	19.5	19.5.14		-	年計	19.5	19.5.28		達成精度計算	19.6	19.5.28		平成19年調査	上半期	19.10	19.10.26		達成精度計算(上半期)	19.11	19.11.8	
区分	提出状況				満足度																																	
	予定	実績	期限	適合度																																		
平成18年調査	下半期	19.5	19.5.14		-																																	
	年計	19.5	19.5.28																																			
	達成精度計算	19.6	19.5.28																																			
平成19年調査	上半期	19.10	19.10.26																																			
	達成精度計算(上半期)	19.11	19.11.8																																			

		提出状況					満足度	
		区分	予定	実績	期限	適合度		
		平成19年 調査	事業所票	19.10 (19.11)	19.11.16(再提出)			
			個人票	20. 1	20. 1.10			
		<p>(2) 提出状況 厚生労働省から提示された製表基準書に基づいて製表業務を行い、定められた期限までに製表結果を提出したが、事業所票については、製表結果の提出後、同省からの報告誤りが判明したため、これに伴うデータ訂正依頼を受け、再集計により対応し、平成19年11月に製表結果の再提出を行った。</p>						
当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数	当該業務に従事する職員数	948人日					
当該項目の評価	A							

【評価結果の説明】

厚生労働省から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同省の満足度についても、「満足できる」という状況である。

投入量が予定よりも増加（対従来比+42人日(+5%)）しているが、これは、雇用動向調査について、厚生労働省からの追加依頼に対応したこと、また、賃金構造基本統計調査について、同省からの報告誤りに対応し再集計を行ったことによるもので、他の業務への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われていると認められる。

これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。

また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。以上のことから、目標を十分達成していると判断した。

「必要性」:

秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。

「効率性」:

投入量が予定よりも増加（対従来比+42人日(+5%)）しているが、これは、雇用動向調査について、厚生労働省からの追加依頼に対応したこと、また、賃金構造基本統計調査について、同省からの報告誤りに対応し再集計を行ったことによるもので、他の業務への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われている。

「有効性」:

雇用対策の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (9) 経済産業省委託業務(平成19年商業統計調査)																									
中期計画の記載事項																										
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。																										
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果																										
小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果(具体的数値があれば記入)																								
	委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<p><平成19年商業統計調査> (1) 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="3">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> </tr> <tr> <th>予 定</th> <th>実 績</th> <th>期 限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">平成19年調査</td> <td>速報集計</td> <td>20. 2</td> <td>20. 2.27</td> <td></td> <td rowspan="3">-</td> </tr> <tr> <td>確報集計</td> <td>平成20年度に継続</td> <td>平成20年度に継続</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>2次加工集計</td> <td>平成20年度に継続</td> <td>平成20年度に継続</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 提出状況 都道府県から経済産業省に提出されたデータを都道府県に差し戻す必要が生じたため、統計センターへのデータの提出が遅れたが、経済産業省と協議して処理手順を見直し、定められた期限までに製表結果を提出した。</p>		区 分	提出状況			満足度	予 定	実 績	期 限	適合度	平成19年調査	速報集計	20. 2	20. 2.27		-	確報集計	平成20年度に継続	平成20年度に継続	-	2次加工集計	平成20年度に継続	平成20年度に継続	-
区 分	提出状況				満足度																					
	予 定	実 績	期 限	適合度																						
平成19年調査	速報集計	20. 2	20. 2.27		-																					
	確報集計	平成20年度に継続	平成20年度に継続	-																						
	2次加工集計	平成20年度に継続	平成20年度に継続	-																						
当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数	当該業務に従事する職員数	162人日																							
当該項目の評価	A																									

<p>【評価結果の説明】</p> <p>経済産業省から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。</p> <p>確報集計のデータチェックが平成20年度に持ち越されたことなどのほか、速報集計での業務効率化が図られたことにより、投入量が予定よりも減少（対従来比-90人日(-36%)）しており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>さらに、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」:</p> <p>秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」:</p> <p>速報集計での業務効率化が図られるとともに、確報集計のデータチェックが平成20年度に持ち越されたことなどにより、投入量が予定よりも減少（対従来比-90人日(-36%)）しており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」:</p> <p>経済対策などの企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (10)国土交通省総合政策局委託業務(内航船舶輸送統計調査、建設工事統計調査、建築着工統計調査、船員労働統計調査、建築物滅失統計調査、住宅用地完成面積調査、建設総合統計)
-----------	---

中期計画の記載事項

府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。

各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果（具体的数値があれば記入）						
	委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	1	内航船舶輸送統計調査 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。					
			提出状況				満足度	
			区分	予定	実績	期限	適合度	
			平成18年度自家用船舶輸送実績調査	19. 6	19. 6.25			
			内航船舶輸送実績調査	毎月	毎月25日前後	毎月25日前後に終了		
		18年度計		19. 6	19. 6.29			
		19年達成精度計算		5月分	19. 8	19. 8.30		
				11月分	20. 2	20. 2.26		
		2	建設工事統計調査 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。					

区 分		提出状況				満足度
		予 定	実 績	期 限	適合度	
平成19年建設工事施工統計調査		20. 2	20. 1.29			
建設工事受注 動態統計調査	毎月	データ持込 後3日以内	データ持込後3 日以内に終了			
	18年度計	19. 5	19. 5.11			
	18年度報	19. 6	19. 5.22			
	19年計	20. 2	20. 2.13			

3 建築着工統計調査

実施状況

製表業務の実施状況は、表のとおりである。

区 分		提出状況				満足度
		予 定	実 績	期 限	適合度	
毎月		データ持込後 3日以内	データ持込後3 日以内に終了			
平成18年度計		19. 4	19. 4.19			
平成18年報(年度計)		19. 4	19. 4.26			
平成19年計		20. 1	20. 1.24			
平成19年報(年計)		20. 2	20. 2. 5			

4 船員労働統計調査

実施状況

製表業務の実施状況は、表のとおりである。

区 分		提出状況				満足度
		予 定	実 績	期 限	適合度	
平成 18年 調査	一般船舶簡略調査 (12月分)	19. 6	19. 6. 1			
	漁船調査	19. 7	19. 7.26			
平成 19年 調査	一 般 船 船調査	6月分	20. 1	19.12.20		
		達成精 度計算	20. 3	20. 2.25		
	特殊船調査	19.12	19.12. 4			

5 建築物滅失統計調査

実施状況

製表業務の実施状況は、表のとおりである。

区 分	提出状況				満足度
	予 定	実 績	期 限	適合度	
毎月	調査票持込か ら1か月以内	調査票持込か ら1か月以内に終 了			
平成18年度計	19. 6	19. 6.28			
平成19年計	20. 3	20. 3.26			

6 住宅用地完成面積調査

実施状況

製表業務の実施状況は、表のとおりである。

区 分	提出状況				満足度
	予 定	実 績	期 限	適合度	
平成19年調査	20. 1	20. 1.31			

		<p>7 建設総合統計 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="3">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> </tr> <tr> <th>予 定</th> <th>実 績</th> <th>期 限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>毎月</td> <td>毎月中旬</td> <td>毎月中旬に終了</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成18年度計</td> <td>19. 5</td> <td>19. 5.24</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成19年計</td> <td>20. 2</td> <td>20. 2.19</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		区 分	提出状況			満足度	予 定	実 績	期 限	適合度	毎月	毎月中旬	毎月中旬に終了			平成18年度計	19. 5	19. 5.24			平成19年計	20. 2	20. 2.19		
区 分	提出状況				満足度																						
	予 定	実 績	期 限	適合度																							
毎月	毎月中旬	毎月中旬に終了																									
平成18年度計	19. 5	19. 5.24																									
平成19年計	20. 2	20. 2.19																									
当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数	当該業務に従事する職員数	2,332人日																								
当該項目の評価	A																										
<p>【評価結果の説明】 国土交通省総合政策局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。 担当者の業務の習熟等により、投入量が予定よりも減少（対従来比-65人日(-3%)）しており、効率的な業務運営が行われていると認められる。 これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体的な製表方法についてアドバイスを言いながらとりまとめているなど、効果的な支援を行っている。 また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 担当者の業務の習熟等により、投入量が予定よりも減少（対従来比-65人日(-3%)）しており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 住宅政策や交通政策などの企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>																											

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (11) 国土交通省自動車交通局委託業務(旅客自動車運送事業輸送実績調査、貨物自動車運送事業輸送実績調査)																										
中期計画の記載事項																											
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。																											
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果																											
小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果(具体的数値があれば記入)																									
	委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	1 旅客自動車運送事業輸送実績調査 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。																									
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="4">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> </tr> <tr> <th>予 定</th> <th>実 績</th> <th>期 限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成18年度調査</td> <td>20. 3</td> <td>20. 3.17</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				区 分	提出状況				満足度	予 定	実 績	期 限	適合度	平成18年度調査	20. 3	20. 3.17									
区 分	提出状況				満足度																						
	予 定	実 績	期 限	適合度																							
平成18年度調査	20. 3	20. 3.17																									
		2 貨物自動車運送事業輸送実績調査 (1) 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。																									
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="4">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> </tr> <tr> <th>予 定</th> <th>実 績</th> <th>期 限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成17年度調査</td> <td>19.12</td> <td>19. 9.19(再提出)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成18年度調査</td> <td>平成20年度に継続</td> <td>平成20年度に継続</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				区 分	提出状況				満足度	予 定	実 績	期 限	適合度	平成17年度調査	19.12	19. 9.19(再提出)				平成18年度調査	平成20年度に継続	平成20年度に継続	-		
区 分		提出状況					満足度																				
	予 定	実 績	期 限	適合度																							
平成17年度調査	19.12	19. 9.19(再提出)																									
平成18年度調査	平成20年度に継続	平成20年度に継続	-																								
	(2) 提出状況 平成17年度調査について、国土交通省自動車交通局から提示された製表基準書(平成19年4月新適用分類での平成15年度及び16年度調査の遡及集計依頼分を含む。)に基づいて製表業務を行っていたが、同局の都合により15年度調査の遡及集計の依頼が取り下げられたことから、16年度調査遡及集計結果及び17年度調査製表結果について定められた期限より早い平成19年8月に提出した。しかし、製表結果の提出後、同局からの報告誤り(両年度分)が判明したため、これに伴うデータ訂正依頼を受け、再集計により対応し、平成19年9月に再提出した。																										

当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数	当該業務に従事する職員数	825人日
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>国土交通省自動車交通局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>投入量が予定よりも増加（対従来比+119人日(+17%））しているが、これは、平成18年度旅客自動車運送事業輸送実績調査において、新規調査事項が盛り込まれたことにより、製表基準書の確認事務が増加したこと、また、調査票の記入状態が悪くなったことにより国土交通省自動車交通局への疑義が増加したことによるもので、他の業務への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」:</p> <p>秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」:</p> <p>投入量が予定よりも増加（対従来比+119人日(+17%））しているが、これは、平成18年度旅客自動車運送事業輸送実績調査において、新規調査事項が盛り込まれたことにより、製表基準書の確認事務が増加したこと、また、調査票の記入状態が悪くなったことにより国土交通省自動車交通局への疑義が増加したことによるもので、他の業務への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」:</p> <p>交通政策の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>			

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (12) 都道府県委託業務(労働力調査都道府県別集計、東京都生計分析調査、平成17年国勢調査特別集計)																														
中期計画の記載事項																															
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。																															
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果																															
小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果(具体的数値があれば記入)																													
	委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	1 労働力調査都道府県別集計 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。																													
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> </tr> <tr> <th>予定</th> <th>実績</th> <th>期限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">平成19年調査</td> <td>四半期平均</td> <td>四半期末月の翌月下旬</td> <td>四半期末月の翌月下旬に終了</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>年平均</td> <td>20. 1</td> <td>20. 1.29</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				区分	提出状況				満足度	予定	実績	期限	適合度	平成19年調査	四半期平均	四半期末月の翌月下旬	四半期末月の翌月下旬に終了			年平均	20. 1	20. 1.29							
区分	提出状況				満足度																										
	予定	実績	期限	適合度																											
平成19年調査	四半期平均	四半期末月の翌月下旬	四半期末月の翌月下旬に終了																												
	年平均	20. 1	20. 1.29																												
		2 東京都生計分析調査 (1) 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。																													
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> </tr> <tr> <th>予定</th> <th>実績</th> <th>期限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>毎月</td> <td>調査票持ち込みの翌月中旬</td> <td>調査票持ち込みの翌月中旬に終了</td> <td></td> <td>×</td> <td rowspan="3">×</td> </tr> <tr> <td>平成19年10か月報</td> <td>20. 1</td> <td>20. 1. 7</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成19年年報</td> <td>20. 2</td> <td>20. 3.14(再提出)</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>				区分	提出状況				満足度	予定	実績	期限	適合度	毎月	調査票持ち込みの翌月中旬	調査票持ち込みの翌月中旬に終了		×	×	平成19年10か月報	20. 1	20. 1. 7			平成19年年報	20. 2	20. 3.14(再提出)	×	×
区分		提出状況					満足度																								
		予定	実績	期限	適合度																										
毎月	調査票持ち込みの翌月中旬	調査票持ち込みの翌月中旬に終了		×	×																										
平成19年10か月報	20. 1	20. 1. 7																													
平成19年年報	20. 2	20. 3.14(再提出)	×	×																											

(2) 特記事項

平成20年1月調査分集計時に、プログラム誤りにより一部の結果数値に誤りのあることが判明したため、プログラム修正を行った上で、18年4月調査分までさかのぼって再集計を行った。誤りの再発防止策としては、プログラム分析を十分に行うとともに、ウォークスルーを徹底するなどの措置を講じた。

3 国勢調査特別集計

(1) 実施状況

製表業務の実施状況は、表のとおりである。

区 分		提出状況				満足度
		予 定	実 績	期 限	適合度	
川 崎 市	平成17年調査第1次基本集計	19. 7	19. 6.18			
	平成17年調査第2次基本集計	19. 8	19. 8.10			
	平成17年調査従業地・通学地集計その1	19. 9	19. 8.10			
大 阪 市	平成17年調査第1次基本集計	20. 3	20. 3. 3			
	平成17年調査第2次基本集計	20. 3	20. 3. 3			

(2) 特記事項

これらの集計は、川崎市及び大阪市から新たに受託した。

当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数	当該業務に従事する職員数	1,963人日
当該項目の評価	B		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>都道府県などから提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する都道府県などの満足度についても、労働力調査都道府県別集計及び国勢調査特別集計については、「満足できる」という状況である。</p> <p>担当者の業務の習熟等により、投入量が予定よりも減少（対従来比-524人日(-21%)）しており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめているなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>東京都生計分析調査の平成20年1月調査分集計時に、プログラム誤りにより一部の結果数値に誤りのあることが判明し、プログラム修正を行った上で、18年4月調査分までさかのぼって再集計を行っている。しかし、再発防止策として、プログラム分析を十分に行うとともに、プログラムの仕様やプログラムそのものに誤りがないか、プログラム全体にわたるチェックを徹底するなどの措置が講じられている。</p> <p>以上のことから、目標を概ね達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 担当者の業務の習熟等により、投入量が予定よりも減少（対従来比-524人日(-21%)）しており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 地方公共団体における各種行政施策の基礎資料として活用されるなど関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>			

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理に関する事項
-----------	---

中期計画の記載事項

国勢調査及び事業所・企業統計調査の結果を用いた地域メッシュ統計、社会生活統計指標、推計人口等の加工統計の作成を始めとする統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理について、総務省が明示した基準に基づいて事務を実施する。
また、統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理を行うための担当を明確化するなど、体制整備を行うとともに、研修の充実や情報処理に関する専門知識を有する者の採用等により、これに必要な知識やノウハウを有する人材の確保・育成に努める。

各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果（具体的数値があれば記入）															
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次の事項について、総務省が明示した基準に基づいて情報の蓄積、加工その他の処理を行う。 （1）統計情報データベースシステム （2）局内時系列データベース （3）平成17年に実施された国勢調査に関する地域メッシュ統計及び平成18年事業所・企業統計調査に関する地域メッシュ統計 （4）社会・人口統計体系 （5）人口推計 （6）住民基本台帳人口移動報告 （7）事業所・企業データベース （8）経済センサス （9）サービス産業動向調査 	<p>統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理に関する事項（総括）</p> <p>実施状況 業務全体の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="2">提出 状 況</th> <th rowspan="2">満足度</th> <th rowspan="2">投入量</th> </tr> <tr> <th>期 限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加工統計関係調査</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>実績 4,582 人日 対従来比 8,184人日 (64%)減</td> </tr> </tbody> </table> <p>投入量 主に、平成21年経済センサス-基礎調査の試験調査において、当初予定より基本数(調査対象事業所数)が減少(46,000事業所 14,000事業所)したほか、産業分類符号格付事務において自動格付システムの活用により人手による格付が減少したことにより、対従来比8,184人日(64%)の減少となった。</p>				区 分	提出 状 況		満足度	投入量	期 限	適合度	加工統計関係調査				実績 4,582 人日 対従来比 8,184人日 (64%)減
区 分	提出 状 況		満足度	投入量													
	期 限	適合度															
加工統計関係調査				実績 4,582 人日 対従来比 8,184人日 (64%)減													

1 統計情報データベースシステム

実施状況

業務の実施状況は、表のとおりである。

区 分	登 録 状 況				満足度
	予 定	実 績	期 限	適 合 度	
当該システムの運用 収録データの拡充整備	収録データの 公表時に随時 対応	収録データの 公表時に随時 終了			

2 局内時系列データベース

実施状況

業務の実施状況は、表のとおりである。

区 分	登 録 状 況				満足度
	予 定	実 績	期 限	適 合 度	
収録データの拡充整備	収録データの 公表時に随時 対応	収録データの 公表時に随時 終了			

3 地域メッシュ統計関係

実施状況

業務の実施状況は、表のとおりである。

区 分	提 出 状 況				満足度
	予 定	実 績	期 限	適 合 度	
平成17年に実施された国 勢調査に関する地域メッ シュ統計世界測地系集計 「その1」「その2」	20. 3	20. 2.25			
平成18年事業所・企業統計 調査に関する地域メッ シュ統計世界測地系及び日 本測地系	平成20年度に 継続	平成20年度に 継続	-		

4 社会・人口統計体系

(1) 実施状況

業務の実施状況は、表のとおりである。

区 分	提出状況				満足度
	予 定	実 績	期 限	適合度	
平成18年度市区町村データの収集・整備	19. 4	19. 4. 5			
平成19年度都道府県データの収集・整備	19.11 (20. 2)	20. 2. 7			
平成19年度市区町村データの収集・整備	平成20年度に継続	平成20年度に継続	-		

(2) 提出状況

平成19年度都道府県データの収集・整備については、総務省統計局からの製表基準書の変更により、終了予定時期が変更(平成19年11月 平成20年2月)され、変更後の定められた期限までに製表結果を提出した。

5 人口推計

実施状況

業務の実施状況は、表のとおりである。

区 分	提出状況				満足度
	予 定	実 績	期 限	適合度	
人口推計集計 基礎人口連絡表	毎月上旬	毎月上旬に終了			
人口推計年報 結果表	20. 3	20. 3.25			

6 住民基本台帳人口移動報告

(1) 実施状況

業務の実施状況は、表のとおりである。

区分	提出状況				満足度
	予定	実績	期限	適合度	
結果 表出 力	月報	調査月の翌月中旬	調査月の翌月中旬に終了		
	平成18年年報	19. 2 (19. 4)	19. 4.23		
	平成19年年報	20. 3 (20. 4)	20. 4終了予定	-	

7 事業所・企業データベース

実施状況

業務の実施状況は、表のとおりである。

8 経済センサス

実施状況

業務の実施状況は、表のとおりである。

区分	提出状況				満足度
	予定	実績	期限	適合度	
平成19年度蓄積データの登録及び整備	随時	随時終了			

区分	提出状況				満足度
	予定	実績	期限	適合度	
研究結果	20. 2	20. 2.28			

区分	提出状況				満足度
	予定	実績	期限	適合度	
試験調査 分析表	19.12	19.12.21			

当該業務に係る事業費用

7,325,211千円の内数

当該業務に従事する職員数

4,582人日

当該項目の評価	A
<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>新たな業務である平成21年経済センサス-基礎調査の試験調査において、当初予定より基本数(調査対象事業所数)が大幅に減少したという要因もあるが、産業分類符号格付事務において自動格付システムの活用により人手による格付が減少したことなど業務全般的に効率化が図られていることから、投入量が予定よりも減少(対従来比-8,184人日(-64%))しており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理に関する業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 業務全般的に効率化が図られているほか、新たな業務である平成21年経済センサス-基礎調査の試験調査において、当初予定より基本数(調査対象事業所数)が大幅に減少したこと、また、産業分類符号格付事務において自動格付システムの活用により人手による格付が減少したことなどにより、投入量が予定よりも減少(対従来比-8,184人日(-64%))しており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な統計情報の提供(公表)が行われ、行政施策の企画立案のほか、学術研究、民間事業活動など幅広く加工統計データが利活用されている。</p>	

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理に関する事項																			
中期計画の記載事項																				
<p>国勢調査及び事業所・企業統計調査の結果を用いた地域メッシュ統計、社会生活統計指標、推計人口等の加工統計の作成を始めとする統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理について、総務省が明示した基準に基づいて事務を実施する。</p> <p>また、統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理を行うための担当を明確化するなど、体制整備を行うとともに、研修の充実や情報処理に関する専門知識を有する者の採用等により、これに必要な知識やノウハウを有する人材の確保・育成に努める。</p>																				
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果																				
小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果（具体的数値があれば記入）																		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次の事項について、総務省が明示した基準に基づいて情報の蓄積、加工その他の処理を行う。 （1）統計情報データベースシステム （2）局内時系列データベース （3）平成17年に実施された国勢調査に関する地域メッシュ統計及び平成18年事業所・企業統計調査に関する地域メッシュ統計 （4）社会・人口統計体系 （5）人口推計 （6）住民基本台帳人口移動報告 （7）事業所・企業データベース （8）経済センサス （9）サービス産業動向調査 	<p>統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理に関する事項（総括）</p> <p>実施状況 業務全体の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="2">提出 状 況</th> <th rowspan="2">満足度</th> <th rowspan="2">投入量</th> </tr> <tr> <th>期 限</th> <th>適合度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加工統計関係調査</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>実績 4,582 人日</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>対従来比 8,184人日 (64%)減</td> </tr> </tbody> </table> <p>投入量 主に、平成21年経済センサス-基礎調査の試験調査において、当初予定より基本数(調査対象事業所数)が減少(46,000事業所 14,000事業所)したほか、産業分類符号格付事務において自動格付システムの活用により人手による格付が減少したことにより、対従来比8,184人日(64%)の減少となった。</p>		区 分	提出 状 況		満足度	投入量	期 限	適合度	加工統計関係調査				実績 4,582 人日					対従来比 8,184人日 (64%)減
区 分	提出 状 況		満足度		投入量															
	期 限	適合度																		
加工統計関係調査				実績 4,582 人日																
				対従来比 8,184人日 (64%)減																

1 統計情報データベースシステム

実施状況

業務の実施状況は、表のとおりである。

区 分	登 録 状 況				満足度
	予 定	実 績	期 限	適 合 度	
当該システムの運用 収録データの拡充整備	収録データの 公表時に随時 対応	収録データの 公表時に随時 終了			

2 局内時系列データベース

実施状況

業務の実施状況は、表のとおりである。

区 分	登 録 状 況				満足度
	予 定	実 績	期 限	適 合 度	
収録データの拡充整備	収録データの 公表時に随時 対応	収録データの 公表時に随時 終了			

3 地域メッシュ統計関係

実施状況

業務の実施状況は、表のとおりである。

区 分	提 出 状 況				満足度
	予 定	実 績	期 限	適 合 度	
平成17年に実施された国 勢調査に関する地域メッ シュ統計世界測地系集計 「その1」「その2」	20. 3	20. 2.25			
平成18年事業所・企業統計 調査に関する地域メッ シュ統計世界測地系及び日 本測地系	平成20年度に 継続	平成20年度に 継続	-		

4 社会・人口統計体系

(1) 実施状況

業務の実施状況は、表のとおりである。

区 分	提出状況				満足度
	予 定	実 績	期 限	適合度	
平成18年度市区町村データの収集・整備	19. 4	19. 4. 5			
平成19年度都道府県データの収集・整備	19.11 (20. 2)	20. 2. 7			
平成19年度市区町村データの収集・整備	平成20年度に継続	平成20年度に継続	-		

(2) 提出状況

平成19年度都道府県データの収集・整備については、総務省統計局からの製表基準書の変更により、終了予定時期が変更(平成19年11月 平成20年2月)され、変更後の定められた期限までに製表結果を提出した。

5 人口推計

実施状況

業務の実施状況は、表のとおりである。

区 分	提出状況				満足度
	予 定	実 績	期 限	適合度	
人口推計集計 基礎人口連絡表	毎月上旬	毎月上旬に終了			
人口推計年報 結果表	20. 3	20. 3.25			

6 住民基本台帳人口移動報告

(1) 実施状況

業務の実施状況は、表のとおりである。

区分	提出状況				満足度
	予定	実績	期限	適合度	
結果 表出 力	月報	調査月の翌月中旬	調査月の翌月中旬に終了		
	平成18年年報	19. 2 (19. 4)	19. 4.23		
	平成19年年報	20. 3 (20. 4)	20. 4終了予定	-	

(2) 提出状況

平成18年年報については、総務省統計局からの製表基準書の変更により、終了予定時期が変更(平成19年2月 平成19年4月)され、変更後の定められた期限までに製表結果を提出した。

平成19年年報についても、同様の理由により、終了予定時期が変更(平成20年3月 平成20年4月)された。

7 事業所・企業データベース

実施状況

業務の実施状況は、表のとおりである。

区分	提出状況				満足度
	予定	実績	期限	適合度	
平成19年度蓄積データの登録及び整備	随時	随時終了			

8 経済センサス

実施状況

業務の実施状況は、表のとおりである。

区分	提出状況				満足度
	予定	実績	期限	適合度	
試験調査 分析表	19.12	19.12.21			

	<p>9 サービス産業動向調査</p> <p>(1) 実施状況 業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="3">提出状況</th> <th rowspan="2">満足度</th> </tr> <tr> <th>予 定</th> <th>実 績</th> <th>期 限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究結果</td> <td>20. 2</td> <td>20. 2.28</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 提出状況 平成19年7月、8月、9月の3か月間行われた試験調査結果の個別データ(複製)を使用して、統計センターで独自に集計を行い、結果の分析及び総務省統計局への報告を行った。</p>			区 分	提出状況			満足度	予 定	実 績	期 限	研究結果	20. 2	20. 2.28		
区 分	提出状況				満足度											
	予 定	実 績	期 限													
研究結果	20. 2	20. 2.28														
当該業務に係る事業費用	7,325,211千円の内数	当該業務に従事する職員数	4,582人日													
当該項目の評価	A															
<p>【評価結果の説明】</p> <p>総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>新たな業務である平成21年経済センサス-基礎調査の試験調査において、当初予定より基本数(調査対象事業所数)が大幅に減少したという要因もあるが、産業分類符号格付事務において自動格付システムの活用により人手による格付が減少したことなど業務全般的に効率化が図られていることから、投入量が予定よりも減少(対従来比-8,184人日(-64%))しており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>また、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理に関する業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 業務全般的に効率化が図られているほか、新たな業務である平成21年経済センサス-基礎調査の試験調査において、当初予定より基本数(調査対象事業所数)が大幅に減少したこと、また、産業分類符号格付事務において自動格付システムの活用により人手による格付が減少したことなどにより、投入量が予定よりも減少(対従来比-8,184人日(-64%))しており、効率的な業務運営が行われている。</p>																

「有効性」:

製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な統計情報の提供(公表)が行われ、行政施策の企画立案のほか、学術研究、民間事業活動など幅広く加工統計データが利活用されている。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 4 技術の研究に関する事項	
中期計画の記載事項		
より効果的効率的な製表技術の開発に資するための研究を専任で行う組織体制を整備するとともに、国際的な動向等に関する情報収集についても積極的に行いつつ、必要に応じ、国内外の大学や官民の研究所、国際機関や諸外国の統計機関等の外部の機関との間で、技術協力や連携を図りながら、製表業務の高度化や製表結果の品質向上などに重点を置いて研究を実施する。 また、調査環境の変化や統計利用者のニーズの複雑多様化に対応すべく、当該研究の成果を的確に活用していくものとする。		
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果		
小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果（具体的数値があれば記入）
(1) 技術研究を専任で行う組織の充実	<ul style="list-style-type: none"> 外部研究者を必要に応じて非常勤職員として採用する。また、統計センター内に設置する研究会等への外部研究者の参加を推進する。 	<p>製表実務に適用可能な研究に重点を置き、統計分類の自動格付処理、統計データの欠測値の補定処理、個票データの二次利用の問題等の研究を実施した。</p> <p>技術研究を専任で行う組織の充実 平成18年度に引き続き、外部研究者2人を非常勤職員として採用し、欠測値の補定処理に関する研究を行うとともに、新たに調査票情報の秘匿技法の一種であるマイクロアグリゲーションに関する研究を開始した。 また、「データエディティング研究会」において引き続き外部研究者をメンバーとする等、外部研究者の積極的活用により研究体制の充実を図った。</p>
(2) 研究計画	<ul style="list-style-type: none"> 研究計画 <ul style="list-style-type: none"> ア データエディティングに関する研究 国勢調査で使用している「世帯類型補定システム」の労働力調査への適用方法について年度内に結論を得る。また、平成20年度から統計調査が開始される予定のサービス産業動向調査（仮称）の経理項目の欠測値の補定法についての検討を開始する。 	<p>サービス産業動向調査の売上高等の新たな補定方法についての検討を行うとともに、昨年度から研究を進めてきた国勢調査で用いている「世帯類型補定システムの労働力調査への適用の研究」及び「サービス業基本調査の経理項目の欠測値の補定方法の研究」についての報告書を作成した。</p>

<p>イ 統計分類の自動格付に関する研究 国内外における関連研究の動向を引き続き把握するとともに、国勢調査の産業・職業分類の自動格付の開発に向けた研究を開始するなど、統計分類の自動格付に関する研究を進める。</p>	<p>平成19年4月に「統計分類自動格付検討プロジェクト」を設置し、国勢調査を始めとする産業・職業分類及び全国消費実態調査を始めとする収支項目分類の自動格付システムの構築に向けた研究を開始した。 また、平成21年経済センサス-基礎調査における産業分類自動格付の実施を目標として、従来からの知識や技術に基づく自動格付技法の改良を図る研究を行うとともに、昨年度から研究を実施していた市区町村コード自動格付に関するアルゴリズム（解法手順）の研究についてとりまとめた。なお、この研究の成果は、平成20年住宅・土地統計調査の市区町村コード付与事務に適用することとしている。</p>
<p>ウ 統計データアーカイブに関する研究 外国統計機関、研究機関等におけるデータ提供方法の状況等を調査するとともに、統計データアーカイブに関する研究を行う。</p>	<p>平成21年4月の新統計法の全面施行に向けた匿名データの提供準備として、就業構造基本調査のデータを使用した匿名データ作成に係るプロトタイプシステムの構築、実験・検証及びデータ提供に関する運用上の課題等について検討を行った。</p>
<p>エ 情報処理技術に関する研究 (ア) プログラミング言語に関する研究 機種やOSに依存しないプログラム言語といわれるJavaについて、今後の統計調査等業務・システムの最適化計画の動向を見据え、引き続き研究を進める。</p>	<p>平成19年8月に導入した研究・開発用LAN上に、試験的にOSに依存しないプログラミング言語である「Java」言語による簡易な集計システムを構築し、検証を行った。これまでの研究では、製表システム開発への「Java」言語の適用は可能であるものの、国勢調査等の大量データを高速に処理するには、データ処理時間の短縮等を可能とするソフトウェアが必要となること、更なるハードウェアの性能向上が必要となること等が明らかになった。</p>
<p>(イ) 汎用ソフト・ツールに関する研究 「研究・開発用LANシステム」により、新たな市販の汎用ソフト・ツールの検証を行う。</p>	<p>平成19年8月に導入した「研究・開発用LANシステム」に多次元集計が可能とされる市販の汎用ソフトウェアを導入し、新汎用サマリーシステムの集計エンジンとしての適性について、運用上の自由度、機能、処理速度といった観点から現行システムの集計エンジンとの比較検証を行った。</p>
<p>(ウ) システム共通部品(フレームワーク)に関する研究 各種統計調査集計システム開発で使用可能なシステム共通部品(フレームワーク)について研究する。</p>	<p>プログラミングの標準化推進活動の一環として、各種統計調査の集計システム開発で使用可能なシステム共通部品(フレームワーク)の整備を行い、平成19年7月から順次提供を開始し、システム開発者に対する指導、支援を推進した。 なお、このフレームワークは、平成19年度就業構造基本調査集計システム、家計調査新製表システム等に組み込まれた。</p>

<p>(3) 研究成果の普及等</p>	<p>オ その他（研究成果の発表）</p> <ul style="list-style-type: none"> 製表技術の普及及び研究の促進を図るため、研究報告などの各種資料を5冊以上刊行する。また、学会等外部において研究発表を行うとともに、外部の研究者を招聘した研究会を2回以上開催する。 	<p>製表技術の研究の成果、製表実務の改善の内容等を共有し、その活用を一体的かつ効果的に推進するため、製表技術・実務検討会を設置し、「市区町村コード自動格付に関するアルゴリズムの研究」等をテーマに4回開催した。</p> <p><u>製表技術参考資料等の刊行</u> 統計センターにおける製表技術の研究成果や国内外における製表技術の研究動向の調査分析結果、製表業務のマネジメントを含む製表技術関連文献の翻訳等の資料を5冊刊行し、研究報告などの各種資料を5冊以上刊行する、という年度計画の目標を達成した。</p> <p><u>外部研究者を招聘した研究会の開催</u> データエディティングに関する技術の向上及び業務の効率化に資するため、「データエディティング研究会」を3回開催し、外部の研究者を招聘した研究会を2回以上開催する、という年度計画の目標を達成した。</p> <p><u>学会における研究発表</u> サービス業基本調査の経理項目の欠測値の補定方法に関する研究の成果をI S I (International Statistical Institute: 国際統計協会) 第56回大会で発表した。</p>	
<p>当該業務に係る事業費用</p>	<p>119,638千円</p>	<p>当該業務に従事する職員数</p>	<p>36人の内数</p>
<p>当該項目の評価</p>	<p>A</p>		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>統計センターでは、製表技術に適用可能な研究に重点を置き、研究が進められている。</p> <p>この方針の下で、データエディティングに関する研究、統計分類の自動格付に関する研究、統計ニーズの多様化に対応した製表方法に関する研究、情報処理技術に関する研究を行っている。</p> <p>このうち、<u>統計分類の自動格付に関する研究では、平成18年度まで実施されていた生活時間行動分類自動格付の研究成果を平成18年社会生活基本調査の生活時間行動分類格付事務に適用した。その結果、本事務における自動格付率約75%を達成し、人手のみによる格付方法に比べ、投入量が約20%削減されたことは、高く評価できる。</u></p> <p>さらに、平成18年度から研究を実施していた<u>市区町村コード自動格付に関するアルゴリズムの研究についてとりまとめ、この成果を平成20年住宅・土地統計調査の市区町村コード付与事務に適用することとしている。</u></p> <p>また、平成21年経済センサス-基礎調査における産業分類自動格付の実施を目標として、従来からの知識や技術に基づく自動格付技法の改良を図る研究を行うとともに、平成19年4月に「統計分類自動格付検討プロジェクト」を設置し、<u>国勢調査を始めとする産業・職業分類及び全国消費実態調査を始めとする収支項目分類の自動格付システムの構築に向けた研究を開始している。</u></p> <p>このような取組は、製表業務への適用に向けた努力がなされているものであり、今後の業務運営の効率化及び高度化にも大きく寄与することが期待できるものである。</p> <p>また、製表技術の研究成果や国内外における製表技術の研究動向の調査分析結果、製表業務のマネジメントを含む製表技術関連文献の翻訳等の資料を5冊刊行するとともに、外部の研究者を招聘した研究会である「データエディティング研究会」を3回開催したほか、サービス業基本調査の経理項目の欠測値の補定方法に関する研究</p>			

<p>の成果を I S I 第56回大会で発表するなど、積極的に製表技術の普及及び研究の促進が図られている。</p> <p>さらに、平成18年度に引き続き、外部研究者2人を非常勤職員として採用し、欠測値の補定処理に関する研究を行うとともに、新たに調査票情報の秘匿技法の一種であるマイクロアグリゲーションに関する研究を開始するなど、外部研究者の積極的活用により研究体制の充実が図られている。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p>
<p>「必要性」:</p> <p>統計センターが製表業務を迅速かつ正確に、また効率的に行うためには、製表技術に適用可能な研究を実施することが必要不可欠であると言える。</p>
<p>「効率性」:</p> <p>外部研究者の非常勤職員としての採用、外部有識者を活用した研究会の開催など研究体制の充実が図られており、また、研究成果を製表業務に適用し、投入量の削減（平成18年社会生活基本調査の生活時間行動分類格付事務で、人手のみによる格付方法に比べ約20%減）を実現するなど、効率的な業務運営が行われている。</p>
<p>「有効性」:</p> <p>上記の研究成果が製表業務に適用されれば、統計センターの業務運営は更に効率化されるものと期待される。</p>

中期計画の該当項目	第7 その他業務運営に関する事項 1 施設及び設備に関する計画		
中期計画の記載事項			
該当なし			
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果			
小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果（具体的数値があれば記入）	
	該当なし		
当該業務に係る事業費用		当該業務に従事する職員数	
当該項目の評価			
【評価結果の説明】			
「必要性」:			
「効率性」:			
「有効性」:			

中期計画の該当項目	第7 その他業務運営に関する事項 2 人事に関する計画	
中期計画の記載事項		
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果		
小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果（具体的数値があれば記入）
(1) 人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> 総務省統計局と連携して、優秀な人材の確保に努めるとともに、職員の能力向上のため、総務省統計局を始めとする国の行政機関と幅広く人事交流を行う。 	<p><u>優秀な職員の確保</u> 平成19年7月に新潟県内の専門学校に出向き、業務説明会を実施した結果、採用面接申込者22人中5人が新潟県内の専門学校生という結果となった。</p> <p><u>人事交流の実施</u> 広い視野を持った人材を養成する観点から、原則、四半期ごとに総務省統計局等と人事交流を実施した。</p> <p><u>専門知識を有する職員の採用</u> 製表技術に関する研究業務に当たる外部研究者を2人非常勤職員として平成18年度から継続採用した。また、平成17年度から引き続き、業務・システムの最適化を実現するため、CIO補佐官を1人非常勤職員として継続採用した。</p>
(2) 評価制度の導入	<ul style="list-style-type: none"> 平成17年度から実施している「目標による管理の手法を活用した評価制度」について、職員への定着を図るため、昨年度に引き続き、職員に対し、同制度の趣旨や実施方法等の情報提供を少なくとも年3回以上行う。 	<p>平成18年度に引き続き、「目標による管理」の手法を用いたSTEP制度を全組織及び全職員が実施するとともに、運用上の注意事項等について、年4回の情報提供を行うことにより、同制度の定着を図った。</p>
(3) 人員に係る指標	<ul style="list-style-type: none"> 平成19年度は、業務の効率化により11人の職員を削減する。 統計センターの業務に関して専門性を有する人材を有効に活用するため、定年退職職員について10人を再任用職員として採用する。 	<p><u>常勤職員数の削減</u> 業務の効率化により、平成19年度年度計画の目標である常勤職員11人削減を実現した(年度末常勤職員数は890人)。</p> <p><u>再任用職員の採用</u> 平成18年度末定年退職職員のうち10人を再任用職員(短時間勤務職員)として採用し、製表の専</p>

門事項の処理に当たらせることにより、業務に関して専門性を有する人材を有効に活用した。

当該業務に係る事業費用		当該業務に従事する職員数	890人の内数
-------------	--	--------------	---------

当該項目の評価	A
---------	---

【評価結果の説明】

中央集計機関としての統計センターは、利用者ニーズに即した製表業務を実施する上で、組織としての効率性を上げつつ、職員の専門的な知識・技術を向上させ、職員が意欲を持って職務に従事できる職場環境を作ることが重要である。こうした観点から、総務省統計局等との人事交流を実施し、広い視野を持った人材の養成を図るとともに、定年退職職員の再任用など専門性を有する人材を有効に活用することにより、組織としての効率性を上げつつ、職員の専門的な知識・技術の向上に努めている。

また、製表技術に関する研究業務に当たる外部研究者を2人非常勤職員として平成18年度から継続採用するとともに、平成17年度から引き続き、業務・システムの最適化を実現するため、CIO補佐官を1人非常勤職員として継続採用するなど専門的な知識を有する職員の採用にも努めている。さらに、地方の専門学校に出向き、業務説明会を実施するなど、優秀な新規職員の採用に努めている。

平成18年度に引き続き、「目標による管理」の手法を用いたSTEP制度を全組織及び全職員が実施し、職員自らが能力向上に努めている。

さらに、業務の不断の効率化により、目標どおり常勤職員を11人削減し、計画的な人員の削減に取り組んでいることは高く評価できる。

以上のことから、目標を十分達成していると判断した。

「必要性」:

統計センターに対する社会的ニーズに応えるためには、組織としての効率性を上げつつ、職員の専門的な知識・技術を向上させ、職員が意欲を持って職務に従事できる職場環境を作ることが必要不可欠である。

「効率性」:

定年退職職員の再任用など専門性を有する人材を有効に活用するとともに、外部研究者を採用し、外部の知見・能力の活用を図るなど効率的な取組が行われている。

「有効性」:

外部研究者の採用、「目標による管理」の手法を用いたSTEP制度の実施は、職員の知識・技術の向上につながり、的確な業務運営を図る上で有効である。

中期計画の該当項目	第7 その他業務運営に関する事項 3 その他業務運営に関する事項	
中期計画の記載事項		
<p>(1) 職員の安全確保 職員の安全を確保するため、安全衛生管理規程を作成する等の安全管理体制の整備を実施する。</p> <p>(2) メンタルヘルス等への対応 セクシャルハラスメントの防止、メンタルヘルス等についての管理体制の確立など、職場環境の整備を図る。</p> <p>(3) 危機管理体制の整備 災害や緊急事態に即応可能な危機管理体制を構築する。</p> <p>(4) 環境への配慮 環境への負荷の低減に資する製品の使用を推進するなど、環境に与える影響に配慮した業務運営を行う。</p>		
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果		
小項目	達成目標	達成目標に対する実施結果（具体的数値があれば記入）
(1) 職員の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> 衛生委員会を毎月開催すること等を通じて、安全衛生管理規程、職員の安全管理体制等を的確に運用する。 	平成18年度に引き続き、衛生委員会の開催、産業医による職場巡視等を実施するとともに、職場体操(リフレッシュ体操)の普及を図った。
(2) メンタルヘルス等への対応	<ul style="list-style-type: none"> メンタルヘルス学習ソフトウェアにより、職員のメンタルヘルスの基礎知識の向上を図るとともに、管理監督者のラインケアの向上を図る。また、メンタルヘルス診断ソフトウェアを用いて、年2回個人診断を実施することにより、自分のストレスへの気付きと対処を促すとともに職場内のストレス度を把握し、職場環境の改善に資する。 セクシャルハラスメント防止についての管理体制を的確に運用する。 	<p><u>メンタルヘルスへの取組</u> 平成18年度に引き続き、職員及び職場のストレス度が把握できるソフトウェアを活用した定期ストレス診断を実施し(19年5月及び11月)、年度計画の目標を達成した。</p> <p><u>セクシャルハラスメントへの対応</u> 平成18年度に引き続き、職員が注意すべき事項や監督者の役割、相談窓口等についてイントラネットに掲示し、全職員に周知することにより、セクシャルハラスメントに関する職員の認識を高めた。</p>
(3) 危機管理体制の運用	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理体制が的確に運用されるよう「地震発生時における行動マニュアル」の記載内容の周知を図るなど、防災の日等の機会を捉え、引き続き職員の防災に関する意識の向上に努める。 	<p><u>防災に関する事項の周知</u> 平成17年度に作成した「地震発生時における行動マニュアル」を引き続きイントラネットに掲示するとともに、避難経路の確認を含めた防災に関する事項について周知を徹底した。</p> <p>事業継続計画（BCP：Business Continuity Plan）の整備</p>

<p>(4) 環境への配慮</p> <p>(5) その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）に基づき、適正な環境物品の100%調達を維持する。 ・ 広報の実施 	<p>I S M S 認証取得に当たって、L A Nシステムやホストコンピュータの運用に関する規程や障害報告書等の整理、また遠隔地に設置しているデータバックアップ体制の再確認を行うことにより、事業継続計画を整備した。</p> <p>「国等による環境物品等の調達等に関する法律」（平成12年法律第100号）（いわゆるグリーン購入法）を遵守すべく調達計画を企画・立案し、環境物品の100%調達を実現した（ただし、紙製品は除く）。</p> <p>統計センターの役割、業務内容等についての理解を得るため、統計センターパンフレット（和英）を統計広報展示室「とうけいプラザ」（東京タワーフットタウン4階）等に配布するとともに、第2期中期計画を踏まえてホームページとパンフレットのリニューアルを行った。</p>	
<p>当該業務に係る事業費用</p>	<p>4,903千円</p>	<p>当該業務に従事する職員数</p>	<p>890人の内数</p>
<p>当該項目の評価</p>	<p>A</p>		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>平成18年度に引き続き、職員の安全衛生及び健康管理について、「安全衛生管理規程」に基づいた運用がなされ、良好な職場環境の維持・向上に努めている。また、メンタルヘルスの学習ソフトウェア及びストレス分析ソフトウェアを活用することにより、職員によるメンタルヘルスの学習や定期的なストレス診断が行われている。これらの取組により、各職員のメンタルヘルス意識の向上が図られているなど職員のメンタル面での健康にも十分配慮がなされている。</p> <p>また、防災に関する事項の周知徹底を図るとともに、I S M S 認証取得に当たって、L A Nシステムやホストコンピュータの運用に関する規程や障害報告書等の整理や遠隔地に設置しているデータバックアップ体制の再確認を行うことにより、事業継続計画を整備するなど、危機管理体制の整備が図られている。</p> <p>さらに、環境物品の100%調達（紙製品は除く）を引き続き達成し、環境に配慮した業務運営がなされているほか、第2期中期計画を踏まえたホームページとパンフレットのリニューアルを行うなど広報にも意欲的に努めている。</p> <p>これら年度計画による目標の達成に加え、昨年末に閣議決定した「独立行政法人整理合理化計画」における法人の自律化に関して、「独立行政法人統計センター職員の倫理の保持に関する体制について」（平成15年4月1日倫理監督官決定）、「独立行政法人統計センター公益通報者保護規程」などを既に整備するなど、職務執行のあり方を始めとする内部統制の向上に資する措置にも取り組んでいる。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」:</p> <p>上記の各取組はいずれも、社会の一員たる組織体が存続していくために必要不可欠な事項であり、引き続き、各項目については、常にその改善、改良が求められるものであり、そのための不断の努力が期待される。</p>			

<p>「<u>効率性</u>」:</p> <p>安全衛生面、メンタルヘルス面などでの対応を図るため、統計センターが独自に対応を図るのみならず、専門家を活用することで効果的・効率的に対策が進められている。</p>
<p>「<u>有効性</u>」:</p> <p>上記取組は、公共財である統計データを提供する責務を担う統計センターが、その機能を十分に発揮する上で、有効的なものである。</p>

(案)

第1期中期目標期間独立行政法人統計センターの
業務の実績に関する評価調書

- ・全体的評価表
- ・項目別評価総括表
- ・項目別評価調書

第1期中期目標期間独立行政法人統計センターの業務の実績に関する評価

目 次

	ページ	評価
全体的評価表	1	
項目別評価総括表	4	
項目別評価調書		
第1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置		
1 業務運営の高度化・効率化に関する事項	5 2	AA
2 効率的な人員の活用に関する事項	5 9	A
3 業務・システムの最適化に関する事項	6 2	A
(4 製表業務の民間開放に向けた取組)	6 4	A
第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置		
1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項		
(1) 国勢調査	6 6	AA
(2) 事業所・企業統計調査	7 0	A
(3) 住宅・土地統計調査	7 3	A
(4) 就業構造基本調査	7 6	A
(5) 全国消費実態調査	7 8	A
(6) 全国物価統計調査	8 1	A
(7) 社会生活基本調査	8 3	AA
(8) サービス業基本調査	8 5	A
(9) 労働力調査	8 8	A
(10) 小売物価統計調査	9 1	AA
(11) 家計調査	9 4	A
(12) 個人企業経済調査	9 7	A
(13) 科学技術研究調査	9 9	A
2 受託製表に関する事項	10 2	
(1) 人事院職員福祉局委託業務(民間企業の勤務条件制度等調査)	10 3	A
(2) 人事院給与局委託業務(国家公務員給与等実態調査、職種別民間給与実態調査、家計調査特別集計(標準生計費・住宅関係・各分位関係)、平成11年全国消費実態調査特別集計(標準生計費関係)遡及集計、平成16年全国消費実態調査特別集計(標準生計費関係・各分位関係))	10 5	A
(3) 総務省人事・恩給局委託業務(国家公務員(特別職・自衛官)給与実態調査、国家公務員退職手当実態調査)	10 8	A

(4) 総務省自治行政局委託業務(平成15年地方公務員給与実態調査)	111	A
(5) 総務省自治財政局委託業務(平成15年地方公務員給与実態調査特別集計)	113	A
(6) 総務省統計局委託業務(家計消費状況調査)	115	A
(7) 公害等調整委員会事務局委託業務(公害苦情調査)	117	A
(8) 文化庁委託業務(平成16年サービス業基本調査特別集計(芸術関連産業))	119	A
(9) 財務省委託業務(家計調査特別集計(特定品目)、全国消費実態調査特別集計(年間収入)、家計調査特別集計(世帯類型別))	121	A
(10)文部科学省委託業務(平成16年家計調査特別集計(教育費・教育関係費))	123	A
(11)厚生労働省委託業務(雇用動向調査、賃金構造基本統計調査)	125	A
(12)経済産業省委託業務(商業統計調査)	128	A
(13)国土交通省総合政策局委託業務(自動車輸送統計調査(特別積合せトラック調査)、内航船舶輸送統計調査(自家用船舶輸送実績調査)、建設工事統計調査、建築着工統計調査、海難統計、船舶船員統計調査、船員労働統計調査、建築物滅失統計調査、住宅用地完成面積調査、建設総合統計)	130	A
(14)国土交通省土地・水資源局委託業務(平成15年法人土地基本調査、平成15年住宅・土地統計調査特別集計(世帯に係る土地基本集計))	135	B
(15)国土交通省自動車交通局委託業務(旅客自動車運送事業輸送実績調査、貨物自動車運送事業輸送実績調査))	137	A
(16)都道府県委託業務(労働力調査都道府県別集計、東京都生計分析調査、平成17年国勢調査要計表による町丁・字別集計、平成17年国勢調査特別集計、平成15年住宅・土地統計調査県内ブロック別集計)	140	A
3 統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理に関する事項	143	A
4 技術の研究に関する事項	148	A
第3 予算(人件費の見積りを含む。)、収支計画及び資金計画	152	A
第4 短期借入金の限度額	158	-
第5 重要な財産の処分等に関する計画	159	-
第6 余剰金の使途	160	-
第7 その他業務運営に関する事項		
1 施設及び設備に関する計画	161	-
2 人事に関する計画	162	A
3 その他業務運営に関する事項	165	A

第1期中期目標期間独立行政法人統計センターの業務の実績に関する全体的評価表（案）

第 1 期中期目標期間独立行政法人統計センターの業務の実績に関する全体的評価表（案）

業務の実績に関する項目別評価総括

<p>1 業務の効率化(人事に係るマネジメント)</p>	<p>統計センターでは、小売物価統計調査新製表システムの導入、統計分類自動格付の活用などを始めとした情報通信技術の積極的な導入・活用を図ることにより、業務運営の高度化、効率化を推進し、この基盤を積極的に整備した。特に、集計機器をホストコンピュータからクライアント/サーバシステムへの移行に向けた環境整備を行っているほか、小売物価統計調査新製表システムの導入、平成 16 年全国消費実態調査における家計簿格付・入力システムの導入により、投入量の大幅な削減に寄与しており、業務の効率化を図る上で非常に有益なものとなっている。これらのことは、計画的な常勤職員数の削減の実現や職員の重点的配置を行う上での重要な要素となっている。</p> <p>また、経常調査用ホストコンピュータのリース延長、工程管理システムと人事・給与システムの一元化、ホストコンピュータ運用業務の見直し、ペーパーレス化の推進などの結果、業務経費の目標である「3%以上削減」を大きく上回る 9.8%（約 1.1 億円）削減の実現に大きく寄与している。</p> <p>効率的な人員の活用に当たっては、組織体制を従来の調査別の組織体制から事務の種類ごとの機能別組織体制に変更するとともに、業務の繁閑に応じて機動的に事務を行う体制を採用したことにより、職員の機動的な運用を可能としたことは業務の効率化に大きく寄与している。このような状況下で研修を実施するに当たり様々な工夫を行い、職員のスキル向上を図ることは評価すべき内容である。</p> <p>さらに、中期目標で示されている「独立行政法人等の業務・システム最適化計画」を踏まえ、「独立行政法人統計センターにおける業務・システム最適化計画」を平成 19 年 10 月に策定・公表を行ったことにより、ホストコンピュータのダウンサイジング、統計センター LAN システムの切替えなどを推進する取組みを行うことにより、今後の業務運営の効率化及び経費削減に大きく寄与することが期待できる。</p> <p>最後に、「規制改革・民間開放 3 か年計画（再改定）」に基づき、民間委託の方針を定め、平成 19 年就業構造基本調査及び平成 19 年全国物価統計調査の調査票の受付整理業務及び OCR 入力事務の民間委託を実施するなど、製表業務の民間開放に向けて積極的に取り組んでいると判断される。</p> <p>以上のことから、業務運営の高度化・効率化という所期の目標は、十分に達成されていると認められる。</p>
------------------------------	--

<p>2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上</p>	<p>国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表、受託製表、加工統計の作成・データベースの整備等については、全体として、総務省など委託者が策定した製表基準に基づき、効率的かつ適正に業務が実施され、要求された品質で製表結果等が期限内までに提供されている。また、これら製表結果については、委託者からも「満足できる」との回答を得ている。これらのことから、品質と納期の両面において、委託者の要求を十分満たす業務が行われていると認められる。</p> <p>特に、統計センターで最も要員の投入量が多い国勢調査では、調査票イメージデータ及び索引データベースの活用、新産業分類格付システムの適用、結果表審査事務のシステム化、符合格付事務等のシステムの動作環境の向上などにより事務の効率化が図られ、他の業務へ人員を振替えることが可能となり、統計センター全体での業務運営を効率的に運用することに大きく寄与している。また、社会生活基本調査では、生活時間行動分類符号格付事務への自動格付システムの導入、データチェック審査事務のPC化及び結果表審査事務の見直しにより、大幅な事務の効率化が図られ、中期目標期間全体での投入量は対従来比-2,205人日(-17%)と投入人員の減少による効率的な業務運営が行われているものと認められる。さらに小売物価統計調査では、新製表システムへの全面移行、各年度における業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上等により大幅な事務の効率化が図られ、中期目標期間全体での投入量は対従来比-14,992人日(-23%)の削減効果があることから、投入人員の減少による効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>受託製表業務においては、これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスを行いながら取りまとめていくなど、効果的な支援を行っている。また、ISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど組織的に情報セキュリティ対策が講じられたことは、業務運営に対する統計センター職員の意識向上に資するものと期待できる。</p> <p>技術の研究に関しては、製表技術に適用可能な研究に重点を置き、研究が進められており、データ・エディティングに関する研究、統計分類の自動格付に関する研究、統計ニーズの多様化に対応した製表方法に関する研究、情報処理技術に関する研究を行っている。特に、統計分類の自動格付に関する研究では、産業分類の自動格付の研究結果を平成16年事業所・企業統計調査の産業分類符号検査事務に活用した結果、製表要員の投入量が約55%削減したほか、生活時間行動分類の自動格付の研究結果を平成18年社会生活基本調査の生活時間行動分類格付事務に活用した結果、製表要員の投入量が約20%削減されるなど、研究成果を業務に的確に活用し、効率化に繋がる成果を出すことは高く評価でき、今後の業務運営の効率化及び高度化にも大きく寄与することが期待できる。</p> <p>以上のことから、高品質の製表結果の提供という所期の目標は、十分に達成されていると認められる。</p>
<p>3 財務内容の改善</p>	<p>業務経費の削減については、各年度で実施してきた効率化の取組みを推進した結果として、期末目標値である「3%以上の削減」に対し、これを大きく上回る9.8%(約1.1億円)削減を達成しており、中期目標期間の成果として非常に高く評価できる。</p> <p>また、中期目標期間の清算処理部分については、各年度の運営費交付金の残余の集積であることから、各年度の業務手法・体制等見直しによる効率化の結果として評価できる。</p> <p>さらに随意契約の見直しと一般競争入札の拡大を推進した結果、随意契約が件数、年間支出額がともに減少し、契約に関する公正性、透明性の確保を図った業務運営が行われているものと評価できる。</p>

4 その他	<p>専門的な知識・技術が要求される製表業務を効率的・効果的に実施するため、新規採用活動の充実、退職職員の再任用、外部有識者の採用などにより、優秀な人材の確保に努めるとともに、業務運営の効率化を推進し、計画的な人員の削減により期初の常勤職員数 953 人に対し、期末が 890 人と、<u>期末常勤職員数を期初の 94%以下とする目標を下回る 93.4%を達成したことは、高く評価できる。</u></p> <p>また、職員自ら業務に必要な能力や知識を習得する S T E P 制度を導入し、組織としての効率性を上げつつ、専門的な知識・技術の向上に努めているほか、良好な職場環境の維持・向上を図るため、安全衛生管理体制の運用による職員の安全確保、「独立行政法人統計センターセクシャルハラスメント防止規程」に基づいた管理体制の運用、メンタルヘルスの学習用ソフトウェア及びストレス分析ソフトウェアの活用などによる職員のメンタルヘルスの意識向上などの措置を講じている。</p> <p>さらに、防災に関する事項の周知徹底を図るとともに、I S M S 認証取得に当たり、L A N システムやホストコンピュータの運用に関する規程等の整理、遠隔地に設置しているデータバックアップ体制の再確認により、事業継続計画を整備するなど、危機管理体制の整備が更に進められている。</p> <p>以上のことから、製表業務運営を側面から支援する取組の実施、体制整備という目標は、十分達成されていると認められる。</p>
<p>中期計画全体の評価（項目別評価等を踏まえた中期計画全体の達成状況）</p>	
<p>項目別評価を総合すると、<u>国勢調査を始めとする各種統計調査の製表業務が基準どおり進められ、要求された品質で製表結果等が期限までに提供されたことにより、国民に対する政府統計データの迅速かつ多角的な提供に大きく貢献したと認められる。</u></p> <p>また、今後の業務運営の効率化及び高度化を図るに当たり、<u>統計分類自動格付に関する研究成果の業務に的確な活用及び組織体制の機能別組織体制への変更による職員の機動的な運用は高く評価でき、これらの成果による今後の業務運営の効率化及び高度化に大きく寄与することが期待できる。</u></p> <p>このほか、集計機器をクライアント/サーバシステムへの移行に向けた環境整備、小売物価統計調査新製表システムの導入などによる投入量の大幅削減、経常調査用調査用ホストコンピュータのリース延長、工程管理システムと人事・給与システムの一元化、ホストコンピュータ運用業務の見直しなどによる業務経費の削減などが積極的に進められている。</p> <p>以上のことから、第 1 期中期目標期間においては、中期計画を十分達成したものと認められる。</p>	
<p>組織、業務運営等の改善、その他の提言</p>	
<p>新たな中期目標期間では、投資効果を勘案しつつ、新たな製表システム等の開発に引き続き努めることが必要である。これらにより、国として不可欠な統計作成の確実かつ効率的な実施、新統計法の下での新たな業務ニーズへの対応、共通基盤の提供による政府統計全体の効率化等への貢献など、政府統計の中核的機関としての役割を果たすことが求められている。</p> <p>公的統計制度と独立行政法人制度の見直しが進められているなか、不断の努力によって高めた能力・技術の業務への適用、民間開放等の新しい統計作成リソースの有効活用、職員の専門性の向上と中核的業務への重点配置等により、従前にも増して生産性が高く、効率的で機動的な法人運営の実現を図るとともに、専門的な技術と信頼に裏打ちされた正確で質の高い公的統計の作成と新たな価値を創造する有用なサービス提供を展開するものとし、我が国の公的統計制度の改善・発達並びに国民経済の健全な発展及び国民生活の充実・向上に寄与するよう、その機能を最大限に発揮する必要がある。</p>	

第1期中期目標期間独立行政法人統計センターの業務の実績に関する項目別評価総括表（案）

第1期中期目標期間独立行政法人統計センターの業務の実績に関する項目別評価総括表(案)

評価項目		評 価	
		評 価 (AA~D)	理 由
第1 業務運営 の効率化に関する 目標を達成する ために取るべき 措置	(1) 業務運営の高度化・効率化に関する事項	AA	<p>【評価結果の説明】 平成16年8月にLANシステムの切替えを行い、共用PCの70台削減、ICカードシステムの導入によるセキュリティの向上を図るとともに、小売物価統計調査新製表システムの導入、平成16年全国消費実態調査における家計簿格付・入力システムの導入、家計調査結果表審査支援システムの導入、家計調査新製表システムの開発、平成17年国勢調査の集計機器の導入、統計分類自動格付の研究成果の活用、市販の汎用ソフトツールを活用したシステムの整備など、情報通信技術を最大限に活用した業務の高度化・効率化を推進するための基盤が積極的に整備されている。特に、小売物価統計調査新製表システムの導入により、紙ベースによる調査票の受付整理事務及びデータ入力事務が廃止となり、平成16年度における小売物価統計調査全体の要員投入量の大幅な削減（対前年度比-2,914人日（-22%））に寄与したほか、平成16年全国消費実態調査における家計簿格付・入力システムの導入により、事務の大幅な合理化が図られ、平成16年度における全国消費実態調査全体の要員投入量の大幅な削減（対従来比-5,800人日（-14%））に寄与している。平成17年国勢調査の集計機器の導入については、処理能力の精査等によって従来よりも5年間のリース総額で約2億8500万円の経費削減となる大幅な合理化が図られている。研究成果である統計分類自動格付システムの適用により、平成16年事業所・企業統計調査では約55%（1,375人日）、平成18年社会生活基本調査では約20%（304人日）の符号格付事務に係る投入量の削減が図られている。以上のことから、情報通信技術を活用した基盤整備による効率化が図られていると認められる。</p> <p>また、計画的な常勤職員数の削減を行う中で、充実・拡充を図るべき分野（研究関係部門、受託製表関係部門、情報安全・危機管理及び情報化部門、情報処理関係部門）への職員の重点的配置を確実にしている。</p> <p>さらに、経常調査用ホストコンピュータのリース延長（削減効果：約2億円（平成19年度））、工程管理システムと人事・給与システムの一元化（削減効果：年間約3500万円（19年度以降））、ホストコンピュータ運用業務の見直し（削減効果：1450万円（18年度））による業務手法・体制等の見直しを図るとともに、両面印刷の徹底や電子メールの活用などによりペーパーレス化を推進することで、総務部門のコピー用紙使用量は、年度ごとの削減目標を設定した17年度以降毎年度目標を上回る削減が図られている。これらの取組みの結果、業務経費（運営費交付金の総額から、退職手当を含む人件費及び周期統計調査に係る経費を除いたもの）について、新規追加、拡充部分を除き、期初年度に対する期末年度の割合の目標値である「3%以上削減」を大きく上回る9.8%（約1.1億円）削減に寄与しており、その経営努力は高く評価できる。</p>

		<p>「行政改革の重要方針」を踏まえ、総人件費改革に取り組み、更なる業務の効率化により、平成17年度を基準として、18年度から22年度までの5年間で5%以上の人員の削減を実現するため、18年度及び19年度の2年間に於いて2%以上の人員の削減に取り組むという中期計画の目標値を上回る2.1%削減を達成したことも高く評価できる。</p> <p>そのほか、給与水準についても対国家公務員指数を下回る水準で推移しており、問題はない。こうした取り組みの結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「AA」が4回、「A」が1回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を大幅に上回って達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 中央集計機関としての統計センターの業務運営のさらなる高度化と効率化を図るためには、情報通信技術を活用した基盤整備、職員の機動的配置、予算の効率的使用に取り組む必要がある。</p> <p>「効率性」: 経常調査用ホストコンピュータのリース延長（削減効果：約2億円（平成19年度））、工程管理システムと人事・給与システムの一元化（削減効果：年間約3500万円（19年度以降））、ホストコンピュータ運用業務の見直し（削減効果：1450万円（18年度））による業務手法・体制等の見直しや文書のペーパーレス化を通じた業務経費の削減が進められ、業務経費（運営費交付金の総額から、退職手当を含む人件費及び周期統計調査に係る経費を除いたもの）について、新規追加、拡充部分を除き、期初年度に対する期末年度の割合の目標値である「3%以上削減」を大きく上回る9.8%削減に寄与している。また、更なる業務の効率化により、平成17年度を基準として、18年度から22年度までの5年間で5%以上の人員の削減を実現するため、18年度及び19年度の2年間に於いて2%以上の人員の削減に取り組むという中期計画の目標値を上回る2.1%削減を達成している。</p> <p>「有効性」: 中央集計機関としての統計センターの責務を着実に果たすためには、情報通信技術の活用及び組織体制の充実により、高品質のサービスを低コストで提供するための基盤整備を着実に進めることが効果的である。</p>
--	--	---

	(2) 効率的な人員の活用	A	<p>【評価結果の説明】</p> <p>平成15年4月の独立行政法人化に伴い、各課室等において、業務を推進する上で必要な基礎及び専門的な知識・能力を洗い出し、OJTを中心とした研修方法の検討等、人材の育成方法の見直しを行うとともに、平成16年度と19年度に採用後数年間の研修を中心に研修体系を見直し、各年度において階層別研修の研修内容の見直しを行うとともに、各省等が実施する外部研修等に積極的に職員を派遣している。また、各課室等において、それぞれの業務に必要な知識を有する人材を育成するためや各製表事務を統一かつ正確、迅速に処理するための業務研修を実施しており、効率的な製表業務の推進に必要な高度な技術の継承・発展を図るため、研修等の職員の能力開発を積極的に行っていると認められる。</p> <p>製表部門は独立行政法人化（平成15年4月）以後、従来の調査別の組織体制を事務の種類ごとの機能別組織体制に変更するとともに、業務の繁閑に応じて機動的に事務を割り振る体制（スタッフ制）を導入した。これを踏まえ、製表部各課等においては、各調査それぞれの製表業務の進捗状況に応じて担当を超えて業務を割り振るなど、職員の機動的な運用を行っており、業務の性格に応じた機能別の組織体制が確立されている。</p> <p>また、各年度において業務体制の見直し等を行い、組織改正を実施することで、業務の効率化が推進されていると認められる。</p> <p>こうした取組みの結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「AA」が1回、「A」が4回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 中央集計機関としての統計センターが行う製表業務には高度な専門性と高い技術レベルが要求されるため、職員の専門的能力の開発・向上に重点を置いた人材育成は必須である。</p> <p>「効率性」: 各年度において研修内容の見直しを行うほか、各課室等において、それぞれの業務に必要な知識を有する人材を育成するためや各製表事務を統一かつ正確、迅速に処理するための業務研修を実施することにより、効率的な製表業務の推進に必要な高度な技術の継承・発展が図られるとともに、従来の調査別の組織体制を事務の種類ごとの機能別組織体制に変更し、業務の繁閑に応じて機動的に事務を割り振る体制（スタッフ制）を導入することにより、製表部各課等においては、各調査それぞれの製表業務の進捗状況に応じて担当を超えて業務を割り振るなど、職員の機動的な運用が可能となっている。</p> <p>「有効性」: それぞれの業務に必要な知識を有する人材を育成するためや各製表事務を統一かつ正確、迅速に処理するための業務研修を実施するとともに、従来の調査別の組織体制を事務の種類ごとの機能別組織体制に変更し、業務の繁閑に応じて機動的に事務を割り振る体制（スタッフ制）の導入によって、職員の機動的な運用を行うことは、高品質で低コストのサービスを提供する上で有効である。</p>
--	---------------	---	---

	(3) 業務・システムの最適化	A	<p>【評価結果の説明】</p> <p>平成18年度において、最適化の対象となる業務・システムについて、「業務・システム最適化計画策定指針（ガイドライン）」（平成18年3月31日各府省情報化統括責任者（CIO）連絡会議決定）に準じて現状分析及び課題抽出を行い、19年3月に「独立行政法人統計センターにおける業務・システムの見直し方針」を策定するとともに、同年10月に「独立行政法人統計センターにおける業務・システム最適化計画」（以下「最適化計画」という。）を策定し、同年12月に統計センターのホームページに掲載し公表している。</p> <p>最適化計画の対象システムに係る年間経費について、本取組を始めた平成18年度に比べて、最適化計画の最終年度である23年度に約3億9000万円の削減が見込まれており、業務運営の効率化・合理化に係る効果・目標が数値により明らかにされている。</p> <p>こうした取組みの結果、本評価項目が追加された平成18年度以降の評価は、「A」が2回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」:</p> <p>経済センサス等の新たな統計調査に係る業務、新統計法を踏まえた統計データの二次利用、政府統計共同利用システムの運用管理に係る業務など新たな役割を積極的に担うこととなる一方で、行政機関と同様に徹底した合理化が求められていることから、業務・システムの最適化計画を着実に推進し、業務運営の更なる高度化・効率化を図ることが必要である。</p> <p>「効率性」:</p> <p>業務・システムの最適化計画の策定にあたり、外部の支援業者を企画競争で選定するなど効率的に業務を行っている。</p> <p>「有効性」:</p> <p>業務・システムの最適化計画を推進することにより、ハードウェアのダウンサイジングによる経費の削減、ハードウェア資源の統合及び標準化による全体合理化と経費削減が図られるため、統計センター全体の業務運営の効率化及び経費削減に効果的である。</p>
--	-----------------	---	--

	(4) 製表業務の民間開放に向けた取組	A	<p>【評価結果の説明】</p> <p>「規制改革・民間開放推進3か年計画(再改定)」(平成18年3月31日閣議決定)に基づき、総務省統計局と一体となって、官民競争入札等監視委員会と連携しつつ、民間開放に向けた検討に資するための資料作成、検証等に取り組むとともに、<u>符号格付事務の民間開放の具体化に向けて、符号格付事務を試行的に民間事業者へ委託し、実地に検証を行ったほか、調査票の受付・整理、データ入力及び符号格付以外の製表業務の民間開放に対する考え方について整理を行い、民間委託の方針が定められた。</u>特に、符号格付事務の試行的民間委託については、格付精度向上を図るために、2回目を実施し、その結果を踏まえて今後実施予定の民間開放へ向けて準備を進めていくこととしている。</p> <p>さらに、定められた方針を受けて平成19年就業構造基本調査及び平成19年全国物価統計調査の調査票の受付整理事務及びOCR入力事務の民間委託を実施している。</p> <p>これらの取組の成果は、今後の業務運営の効率化及び経費削減に大きく寄与することが期待できることから、全体として、業務運営の高度化・効率化に向けた経営努力が積極的に行われていると判断できる。</p> <p>こうした取組みの結果、本評価項目が追加された平成19年度の評価は、「A」という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」:</p> <p>国の厳しい行財政事情の下において、民間事業者の創意と工夫を活用して業務運営の一層の効率化を実現することが必要となっており、統計センターの業務についても、業務の種類、性格、専門性等を勘案し、業務運営の一層の効率化の観点から、官民競争入札、民間競争入札その他の民間開放を推進することとされていることを踏まえると、必要な取組である。</p> <p>「効率性」:</p> <p>統計センターの製表業務における符号格付事務は、統計センター全体の製表要員の投入量の約半分を占める主要業務となっており、民間開放によって当該業務の効率化を推進することが、統計センター業務の効率化の鍵を握ることとなる。</p> <p>「有効性」:</p> <p>経済センサス等の新たな統計調査に係る業務、新統計法を踏まえた統計データの二次利用、政府統計共同利用システムの運用管理に係る業務など新たな役割を積極的に担うこととなる一方で、「行政改革の重要方針」を踏まえた、人員削減の取組みを推進するための更なる合理化策の一つとして、有効な手段となり得ることが期待できる。</p>
--	---------------------	---	---

<p>第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置</p>	<p>1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表</p>	
	<p>(1) 国勢調査</p>	<p>AA</p> <p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果を提出している。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。 平成16年度以降の各年度において、対従来比で投入量がプラスとなっているが、これは、当初計画にない追加業務(平成12年調査の新産業分類特別集計産業新大分類分析表の集計)への対応(16年度)、平成17年調査の製表基準書の変更及び調査関係書類の追送による準備事務の増加(18年度)、翌年度の予定業務を当年度に前倒して実施したことによるもの(17年度、18年度、19年度)などが主な要因である。これらの業務の前倒しは、翌年度に従来であれば投入が必要となる人員を他の業務に振り替えて投入することが可能となり、人員の活用ができることから、効率化に大きくつながるものであるといえる。 一方、平成12年調査について、調査票イメージデータ及び索引データベースの活用(15年度)、新産業分類格付システムの適用(16年度)、平成17年調査における、結果表審査事務のシステム化(18年度)、符号格付事務等のシステムの動作環境の向上(18年度、19年度)などにより事務の効率化が図られたことにより、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-1,399人日(-1%)となっており、効率的な業務運営が行われていると認められる。 プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。 さらに、平成17年調査では、平成12年調査に比べ統計センターへの調査票の提出期限が約3週間延長されたことに加え、第3次基本集計及び抽出詳細集計の公表時期がそれぞれ約3か月、6か月早期化されたことにより、全体の製表期間が大幅に短縮され負担増となったものの、業務を効率的に実施し、同局からの要望に柔軟に対応している。 また、平成17年度において、地方公共団体における産業大分類格付事務の円滑な実施と格付精度の確保を図るために、「都道府県産業大分類格付事務打合せ会」(総務省統計局主催)へ講師を派遣したほか、地方公共団体への事務支援を実施するとともに、地方公共団体における産業大分類格付事務期間中の疑義照会に対応するため、同局と合同で専門職員による体制を整備するなど、同局及び地方公共団体に対し、積極的な協力・支援に努めている。 各年度の評価について、特に、平成15年度は、調査票イメージデータ及び索引データベースの活用により調査全体で対従来比-21%となる大幅な投入量削減を高く評価し「AA」としたほか、16年度は、新産業分類格付システムの適用により、新産業分類符号格付事務などの効率化に努めた結果、投入量が当初予定比-13%と大幅に削減されていることを高く評価し「AA」とした。また、17年度は、同局から示す製表基準書について、統計センターからその標準化の提案を行うとともに、統計センターに蓄積された経験やノウハウを活用し、品質管理方法や欠測値の補定方法を提示するなど、同局に対し</p>

		<p>て効果的な支援が積極的に行われたことにより、製表基準の提示後の追加・変更回数が縮減されるなど、統計センターと委託者双方の事務負担が軽減され、投入量の増加も抑制され、無形の効果としても、業務運営に対する職員の意識が向上したことを高く評価し「AA」とした。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「AA」が3回、「A」が2回という結果である。</p> <p>以上のように、国勢調査は、我が国の最も基本となる統計調査であると同時に、統計センターが製表業務を行う中で最大規模の統計調査であり、この調査結果の公表の遅延等による行政施策、国民生活等への影響は非常に大きくなっている。このため統計センターにおいては、<u>国勢調査の製表業務に遅延等が生じないよう、常に要員の確保、人材の配置を重点的かつ優先的に行っており、他の製表業務において要員に余裕が生じた場合には、常に国勢調査の製表業務にその要員を投入し、業務を前倒しで進めるような措置を講じているところである。また、国勢調査の製表業務においては、他の調査の製表業務に先駆けて新たな製表技術を導入し、製表業務全体への適用の試金石としていることから、例えば国勢調査の投入量が一定程度増加した場合であっても統計センター全体の業務の効率化を図る上で重要な位置づけとなっている。</u></p> <p>また、我が国で最も基本となる統計調査であるゆえ、当初計画にない業務の追加依頼が多々あり、<u>行政施策、国民生活への影響を考慮した場合には、統計センターとしてはこれに応じる必要がある。</u></p> <p>このような中、製表業務の効率化により投入量の減少を生じさせ、投入を免れる要員を他の業務に振り替えられることは、統計センター全体の業務を効率よく円滑に進める上で重要な要素となっている。このため、国勢調査における投入量の抑制は、単一の調査のみならず、他の調査の製表業務の投入量の拡大に資するため非常に重要な役割を担っているところである。</p> <p>以上のことを踏まえ、目標を大幅に上回って達成していると判断した。</p> <p><u>「必要性」:</u> 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p><u>「効率性」:</u> 平成12年調査について、調査票イメージデータ及び索引データベースの活用（15年度）、新産業分類格付システムの適用（16年度）、平成17年調査について、結果表審査事務のシステム化（18年度）、符号格付事務等のシステムの動作環境の向上（18年度、19年度）などにより事務の効率化が図られ、第1期中期目標期間全体の投入量は、対従来比-1,399人日(-1%)となり、効率的な業務運営が行われている。</p> <p><u>「有効性」:</u> 国勢調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、選挙区の画定、地方交付税交付金の算出、少子高齢化対策、産業政策、防災対策など関係方面において調査結果が利活用されている。</p>
--	--	---

	(2) 事業所・企業統計調査	A	<p>【評価結果の説明】</p> <p>総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果を提出している。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>平成16年調査の産業分類符号格付検査事務における、研究成果である産業分類自動格付システムの導入（17年度）、平成18年調査の調査票乙が電子媒体形式となったことに伴う内容審査事務のシステム化（18年度）などにより、大幅な事務の効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-6,341人日（-17%）となっており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>また、平成16年調査の速報集計において、結果公表の早期化による集計期間の短縮に加えて、都道府県からのデータテーブル等の提出の遅れに伴う製表基準書の変更に対応したこと、同調査の確報集計において、名簿データテーブルのデータ訂正が約1万2000件（平成13年調査に比べ約2倍）発生したことへの対応や結果数値の特異値の処理のために再演算を行ったこと、平成18年調査において、調査票甲及び調査区内事業所名簿のプレプリントの誤り（都道府県から調査区修正情報の報告誤りによる）の処理について同局の要請に応えたこと、同調査の確報集計において、名簿データテーブルのデータ訂正が約1万件（平成13年調査に比べ約1.7倍）発生したことへの対応や同局からのデータ訂正依頼に伴い44県分の再演算を行ったこと、さらに19年度において、年度計画になかった新産業分類組替え事務の急な追加依頼に対応したことなど、非常に多くの負担増があったものの、定められた期限への遅れもなく、同局の要望どおりに対応していることは、高く評価できる。</p> <p>さらに、平成18年度においては、データチェック審査事務等において、統計センターが直接、府省・都道府県又は調査対象企業へ疑義照会を行うなど、正確性の確保と統計調査集計業務全体の合理化を図ることにより、同局への支援・協力を努めている。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「AA」が2回、「A」が2回、「B」が1回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」:</p> <p>秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p>
--	----------------	---	--

			<p>「<u>効率性</u>」: 平成16年調査の産業分類符号格付検査事務における、研究成果である産業分類自動格付システムの導入(17年度)、平成18年調査の調査票乙が電子媒体形式となったことに伴う内容審査事務のシステム化(18年度)などにより、大幅な事務の効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-6,341人日(-17%)となっており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「<u>有効性</u>」: 事業所・企業統計調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、地方税制度、経済政策、雇用政策など関係方面において調査結果が利活用されている。</p>
--	--	--	--

	(3) 住宅・土地統計調査	A	<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>平成15年調査において、従来人手で行っていた調査票の種類(甲票及び乙票)別仕分けをコンピュータ処理としたこと(15年度)、自動格付システムの採用による市区町村コード格付事務の廃止(15年度)、土地に関する面積の簡易集計を結果表審査事務に先駆けて行い、事前に特異値を検出する方法を採ったことによる結果表審査事務の効率化(16年度)などにより、大幅な事務の効率化が図られたことにより、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-5,406人日(-15%)となっており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「AA」が1回、「A」が1回、「B」が1回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 平成15年調査において、従来人手で行っていた調査票の種類(甲票及び乙票)別仕分けをコンピュータ処理としたこと(15年度)、自動格付システムの採用による市区町村コード格付事務の廃止(15年度)、土地に関する面積の簡易集計を結果表審査事務に先駆けて行い、事前に特異値を検出する方法を採ったことによる結果表審査事務の効率化(16年度)などにより、大幅な事務の効率化が図られたことにより、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-5,406人日(-15%)となっており、効率的な業務運営が行われている。</p>
--	---------------	---	--

			<p>「有効性」: 住宅・土地統計調査試験調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた（基準に合致した）処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局における迅速な統計調査結果の提供（公表）が行われ、行政施策の企画立案（住宅建設五箇年計画など）、地域・産業の振興と地域の防災計画など関係方面における調査結果の利活用が期待される。</p>
--	--	--	---

	(4) 就業構造基本調査	A	<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>独立行政法人化に伴う機動的な人員配置（15年度）符号格付事務及びチェックリスト審査事務のシステム化（調査票そのものを用いずに調査票イメージデータをPCに表示して事務を行うなど）（15年度）平成19年調査の受付整理事務の民間委託（19年度）他調査での符号格付事務経験を持つ、事務に習熟した非常勤職員を投入したことにより研修が不要になるとともに作業能率が上昇したこと（19年度）などにより、大幅な事務の効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-4,878人日（-24%）となっており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「AA」が1回、「B」が1回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 独立行政法人化に伴う機動的な人員配置（15年度）符号格付事務及びチェックリスト審査事務のシステム化（調査票そのものを用いずに調査票イメージデータをPCに表示して事務を行うなど）（15年度）平成19年調査の受付整理事務の民間委託（19年度）他調査での符号格付事務経験を持つ、事務に習熟した非常勤職員を投入したことにより研修が不要になるとともに作業能率が上昇したこと（19年度）などにより、大幅な事務の効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-4,878人日（-24%）となっており、効率的な業務運営が行われている</p>
--	--------------	---	--

			<p>「有効性」: 就業構造基本調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた（製表基準に合致した）処理を行い、製表結果の期限までに同局に提出したことにより、同局における迅速な統計調査結果の提供（公表）が行われ、行政施策の企画立案、少子高齢化対策、雇用対策など関係方面において調査結果が利活用される。</p>
--	--	--	--

	(5) 全国消費実態調査	A	<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき、定められた期限に向けて製表業務が行われている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>家計簿格付・入力システムの導入に伴い、家計簿の格付、入力等の各事務を分離して処理する方法から、一体的に処理する方法に変更したことにより、大幅な事務の効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-20,659人日(-23%)となっており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>また、同局からの製表基準書について、提示の遅れ、内容の不備、提示後の変更などがあったことにより事務の進捗よくに支障が出るとともに、新潟・福島豪雨(平成16年7月)、新潟中越地震(同年10月)等の災害の影響により、該当市町村の集計上の取扱いが別に定められたことに伴う製表基準書の変更による追加業務への対応により、負担増となったものの、同局の要望どおりに対応している。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「AA」が1回、「A」が2回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 家計簿格付・入力システムの導入に伴い、家計簿の格付、入力等の各事務を分離して処理する方法から、一体的に処理する方法に変更したことにより、大幅な事務の効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-20,659人日(-23%)となっており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 全国消費実態調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、国民経済計算の推計、年金政策、経済財政白書など関係方面において調査結果が利活用されている。</p>
--	--------------	---	--

	(6) 全国物価統計調査	A	<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき、定められた期限に向けて製表業務が行われている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>平成14年調査の大規模店舗・特売価格・小規模店舗結果の集計において、店舗分布・価格分布審査事務を充実させ、個別データの精査を十分行ったことにより、結果表審査事務が軽減されたこと、平成19年調査の受付整理事務を民間委託したことなどにより事務の効率化が図られ、<u>第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-1,450人日(-13%)</u>となっており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「A」が2回という結果である。 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 平成14年調査の大規模店舗・特売価格・小規模店舗結果の集計において、店舗分布・価格分布審査事務を充実させ、個別データの精査を十分行ったことにより、結果表審査事務が軽減されたこと、平成19年調査の受付整理事務を民間委託したことなどにより事務の効率化が図られ、<u>第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-1,450人日(-13%)</u>となっており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 全国物価統計調査の製表においては、総務省統計局からの要望内容に応じた（基準に合致した）処理を行い、製表結果の期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供（公表）が行われ、価格の店舗間格差、銘柄間格差、地域間格差など物価行政の企画立案において調査結果が利活用される。</p>
--	--------------	---	---

	(7) 社会生活基本調査	A A	<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>平成19年度において、過年度の研究成果である生活時間行動分類の符号格付事務への自動格付システムの導入、データチェック審査事務のPC化及び結果表審査事務の見直しにより、大幅な事務の効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-2,205人日(-17%)となっており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「A A」が1回、「A」が1回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を大幅に上回って達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 平成19年度において、過年度の研究成果である生活時間行動分類の符号格付事務への自動格付システムの導入、データチェック審査事務のPC化及び結果表審査事務の見直しにより、大幅な事務の効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-2,205人日(-17%)となっており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 社会生活基本調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、男女共同参画に関わる事項の基礎資料、少子高齢化対策、国民生活白書など関係方面において調査結果が利活用されている。</p>
--	--------------	-----	---

	(8) サービス業基本調査	A	<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>平成15年度について、同局からの新産業分類符号への組替事務の依頼が分類格付事務のみに変更され業務量が大幅に削減されたことなどにより、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-1,455人日(-15%)となっている。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>また、平成17年度において、速報集計では、都道府県からのデータテープ等の提出の遅れや経理項目の記入不備の増加、確報集計では、製表基準書の提示の遅れにより事務スケジュールがひっ迫するなど負担増となったものの、このような状況に対し、投入量を大幅に削減しつつ、疑義処理方法を提案するなど同局への支援を行うとともに、定められた期限への遅れもなく、同局の要望どおりに対応していることから、業務全般的に効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「A」が3回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報管理・セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 速報集計においては、都道府県からのデータテープ等の提出の遅れや経理項目の記入不備の増加、確報集計においては、製表基準の提示の遅れなどによる、負担増が生じたにもかかわらず、今中期目標期間全体で対従来比-1,455人日(-15%)と投入量を大幅に削減しつつ、総務省統計局の要望する期限までに結果を提出するなど、業務全般的に効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: サービス業基本調査の製表において、委託者からの要求内容に応じた(基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに委託者に提出したことにより、委託者による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、産業連関表の作成、国民経済計算、雇用労働政策など関係方面において調査結果が活用されている。</p>
--	---------------	---	--

	(9) 労働力調査	A	<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>平成17年度に新産業・職業分類符号格付とデータチェック審査事務を一体的に処理する方法へ全面的に移行したこと、また、各年度における業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上などにより、大幅な事務の効率化が図られ、投入量は、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績が-1,115人日(-19%)となるとともに、第1期中期目標期間における各年度の実績合計で見ると、効率化を実施されなかった場合の合計との比較で-2,229人日(-7%)の削減効果があることから、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「AA」が1回、「A」が4回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 平成17年度に新産業・職業分類符号格付とデータチェック審査事務を一体的に処理する方法へ全面的に移行したこと、また、業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上などにより、大幅な事務の効率化が図られ、投入量は、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績が-1,115人日(-19%)となるとともに、第1期中期目標期間における各年度の実績合計で見ると、効率化が実施されなかった場合の合計との比較で-2,229人日(-7%)の削減効果があることから、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 労働力調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、景気判断の指標、雇用対策、労働経済白書など関係方面において調査結果が活用されている。</p>
--	-----------	---	---

	(10) 小売物価統計調査	A A	<p>【評価結果の説明】</p> <p>総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>平成15年度における新製表システムへ全面移行したこと、また、各年度における業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上等により、大幅な事務の効率化が図られ、投入量は、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績が-4,847人日 (-37%)となるとともに、第1期中期目標期間における各年度の実績合計で見ると、効率化が実施されなかった場合の合計との比較で-14,992人日 (-23%) の削減効果があることから、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>さらに、消費者物価指数について、平成17年基準改定に伴って、平成17年8月から19年1月までの間、平成12年基準と平成17年基準の比較時価格作成を行うとともに、平成17年1月分から18年5月分までの指数について、平成17年基準で公表するために遡及集計した結果の審査を行ったことにより、負担増となったものの、同局の要望どおりに対応している。</p> <p>各年度の評価について、特に、平成15年度は、新調査システムの導入に伴い、調査票の受付整理及びデータ入力廃止となり、新製表システムへの全面移行により、作業能率が向上し、事務の大幅な効率化が図られたことを高く評価し「A A」としたほか、18年度は、投入量の対前年度比-4%が16年度(-22%)、17年度(-5%)に引き続き更に図られた累次の効率化であったこと、経常調査全体としての投入量削減目標の達成(「対前年比3%以下」に対し約9%削減)に大きく寄与したことを高く評価し「A A」とした。19年度は、投入量が対前年度比-11%と大幅な効率化であったことに加え、それが16年度、17年度、18年度(-4%)に引き続き更に図られた累次の効率化であったこと、また、経常調査全体としての投入量削減目標の達成(「対前年度以下」に対し約4%削減)に大きく寄与したことを高く評価し「A A」とした。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「A A」が3回、「A」が2回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を大幅に上回って達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 平成15年度における新製表システムへ全面移行したこと、また、各年度における業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上等により、大幅な事務の効率化が図られ、投入量は、期首年度の</p>
--	---------------	-----	---

		<p>実績に比べ、期末年度の実績が-4,847人日 (-37%)となるとともに、第1期中期目標期間における各年度の実績合計で見ると、効率化が実施されなかった場合の合計との比較で-14,992人日 (-23%) の削減効果があることから、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 小売物価統計調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、年金額の改定率の改定の基準、デフレ対策、金融政策など関係方面において調査結果が活用されているところ。</p>
--	--	---

	(11) 家計調査	A	<p>【評価結果の説明】</p> <p>総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>符号格付・入力事務の処理方法の見直し及び結果表審査支援システムの導入（17年度）、公表の早期化（集計期間短縮）に対応するための符号格付・入力事務の品質検査方法の見直し及び製表体制の見直し（18年度）のほか、各年度における業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上等により、大幅な事務の効率化が図られ、投入量は、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績が-5,822人日（-16%）となるとともに、第1期中期目標期間における各年度の実績合計で見ると、効率化を実施しなかった場合の合計との比較で-14,587人日（-8%）の削減効果があることから、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>さらに、平成17年度において、同局からの合成数値編の7月分以後について再集計の依頼に対応し、また、同局からの公表の早期化の要請に対応するとともに、製表業務の効率化を図るため、同局に対して審査方法等の見直しを提案するなどして、連携強化や事務合理化支援を図ったほか、同局からのチェック処理方法の変更や結果表の新規追加の依頼にも対応している。平成19年度において、平成20年1月からの標本改正に伴う特例的な調査世帯の交替により、受付事務が複雑化したほか、世帯票の入力事務、年間収入調査票及び貯蓄等調査票のデータチェック審査事務の事務量が増加（調査票枚数が約1.5倍）している。</p> <p>このような多くの負担増が生じているものの、同局の要望どおりに対応していることは、高く評価できる。</p> <p>各年度の評価について、特に、平成18年度は、公表の早期化（集計期間短縮）に対応するための符号格付・入力事務の品質検査方法の見直しなどにより、対前年度比-11%となる大幅な効率化を図ったこと、経常調査全体としての投入量削減目標の達成（「対前年比3%以下」に対し約9%削減）に大きく寄与したこと、さらに、製表業務の効率化を図るため、同局に対して審査方法などを見直しを提案するなどして、連携強化や事務合理化支援を行ったほか、同局からの変更や新規追加の依頼に対応するなど、同局の要望どおりに対応していることを高く評価し「AA」とした。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「AA」が1回、「A」が4回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p>
--	-----------	---	---

			<p><u>「効率性」:</u> 符号格付・入力事務の処理方法の見直し及び結果表審査支援システムの導入(17年度)、公表の早期化(集計期間短縮)に対応するための符号格付・入力事務の品質検査方法の見直し及び製表体制の見直し(18年度)のほか、各年度における業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上等により、大幅な事務の効率化が図られ、投入量は、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績が-5,822人日(-16%)となるとともに、第1期中期目標期間における各年度の実績合計で見ると、効率化を実施しなかった場合の合計との比較で-14,587人日(-8%)の削減効果があることから、効率的な業務運営が行われている。</p> <p><u>「有効性」:</u> 家計調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、政府の景気判断の指標、国民経済計算における家計消費支出の推計、経済財政白書など関係方面において調査結果が利活用されている。</p>
--	--	--	--

	(12) 個人企業経済調査	A	<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>各年度において、業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上等により、大幅な事務の効率化が図られ、投入量は、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績が-1,747人日 (-63%)となるとともに、第1期中期目標期間における各年度の実績合計で見ると、効率化を実施しなかった場合の合計との比較で-6,288人日 (-45%) の削減効果があることから、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「A」が4回、「B」が1回という結果である。以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 各年度において、業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上等により、大幅な事務の効率化が図られ、投入量は、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績が-1,747人日 (-63%)となるとともに、第1期中期目標期間における各年度の実績合計で見ると、効率化を実施しなかった場合の合計との比較で-6,288人日 (-45%) の削減効果があることから、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 個人企業統計調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、国民経済計算の推計、労働経済の分析、中小企業関係施策のための基礎資料など関係方面において調査結果が活用されている。</p>
--	---------------	---	---

	(13) 科学技術研究調査	A	<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>各年度において、業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上等により、大幅な事務の効率化が図られ、投入量は、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績が-927人日（-37%）となるとともに、第1期中期目標期間における各年度の実績合計で見ると、効率化を実施しなかった場合の合計との比較で-3,396人日（-27%）の削減効果があることから、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>また、平成17年度において、調査環境の悪化等により、調査客体への疑義照会件数が対前年度比で1,200件増加し、約7,200件となったほか、19年度においては、調査票の回収が例年に比べ遅れるとともに、秘匿処理方法の変更などがあったことにより、負担増となったものの、同局の要望どおりに対応している。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「A」が4回、「B」が1回という結果である。以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 各年度において、業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上等により、大幅な事務の効率化が図られ、投入量は、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績が-927人日（-37%）となるとともに、第1期中期目標期間における各年度の実績合計で見ると、効率化を実施しなかった場合の合計との比較で-3,396人日（-27%）の削減効果があることから、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 科学技術研究調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた（製表基準に合致した）処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供（公表）が行われ、e - J a p a n 重点計画ベンチマーク、科学技術白書、経済財政白書など関係方面において調査結果が活用されている。</p>
--	---------------	---	--

	2 受託製表	A	<p>【評価結果の説明】 人事院職員福祉局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>平成19年調査において、担当者の習熟による効率化が図られたことなどにより、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-97人日（-5%）となっており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをしながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、いずれも「A」という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 平成19年調査において、担当者の習熟による効率化が図られたことなどにより、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-97人日（-5%）となっており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 公務員制度の運営など行政施策の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	--------	---	--

(1) 人事院職員福祉局委託業務(民間企業の勤務条件制度等調査)

	<p>(2) 人事院給与局委託業務(国家公務員給与等実態調査、職種別民間給与実態調査、家計調査特別集計(標準生計費・住宅関係・各分位)平成11年全国消費実態調査特別集計(標準生計費)遡及集計、平成16年全国消費実態調査特別集計(標準生計費・各分位))</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 人事院給与局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。 第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+66人日(+4%)となっているが、これは、平成18年度の平成16年全国消費実態調査特別集計(標準生計費・各分位)で17表分の新規受託集計が追加されたことなどによるものであり、他の調査への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われていると認められる。 これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体的な製表方法についてアドバイスを言いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。 プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。 また、平成19年国家公務員給与等実態調査について、各府省で入力したデータに大量の誤りが存在したことが原因で、データ訂正件数が増大(約2.5倍)し、集計スケジュールに大きな影響が出たため、同局と協議し、同局の要望どおりに対応している。 この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、いずれも「A」という結果である。 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+66人日(+4%)となっているが、これは、平成18年度の平成16年全国消費実態調査特別集計(標準生計費・各分位)で17表分の新規受託集計が追加されたことなどによるものであり、他の調査への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 人事行政の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	---	----------	--

	<p>(3) 総務省人事・恩給局委託業務（国家公務員（特別職・自衛官）給与実態調査、国家公務員退職手当実態調査）</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 総務省人事・恩給局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+1,114人日（+29%）となっているが、これは、委託者からの追加依頼や依頼内容の変更等（平成15年度国家公務員（特別職・自衛官）給与実態調査において、結果表の追加に対応したこと、また、平成19年度国家公務員退職手当実態調査において、追加依頼があったこと、また、「国家公務員の機関別・地域別の退職者数集計データ(仮)」の作成業務が緊急的に追加依頼されたこと、さらに、国家公務員退職手当制度の法改正に伴い、データチェック要領が変更されるなど集計業務に大幅な変更が生じたこと）に対応したためであり、他の業務への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをいながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>また、製表基準書の提示遅れや変更、当初予定にない追加依頼への対応など、多くの負担増があったものの、同局の要望どおりに対応している。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、いずれも「A」という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+1,114人日（+29%）となっているが、これは、委託者からの追加依頼や依頼内容の変更等（平成15年度国家公務員（特別職・自衛官）給与実態調査において、結果表の追加に対応したこと、また、平成19年度国家公務員退職手当実態調査において、追加依頼があったこと、また、「国家公務員の機関別・地域別の退職者数集計データ(仮)」の作成業務が緊急的に追加依頼されたこと、さらに、国家公務員退職手当制度の法改正に伴い、データチェック要領が変更されるなど集計業務に大幅な変更が生じたこと）に対応したためであり、他の業務への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 人事行政の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	--	----------	--

	<p>(4) 総務省自治行政局委託業務(地方公務員給与実態調査)</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 総務省自治行政局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。</p> <p>第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+219人日(+61%)となっているが、他の調査への影響もなかったことから、問題はない。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスを言いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>この結果、今中期目標期間における年度の評価は、「A」が1回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+219人日(+61%)となっているが、他の調査への影響もなかったことから、問題はない。</p> <p>「有効性」: 人事行政の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	---------------------------------------	----------	--

	<p>(5) 総務省自治財政局委託業務(地方公務員給与実態調査特別集計)</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 総務省自治行政局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+65人日(+100%)となっているが、これは、平成16年度に新規に受託した業務で、当初予定になかったためである。このような限られた要員の中での業務の新規受託は、他の業務での効率化が図られたことで可能となることから、全体として効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをいながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>この結果、今中期目標期間における年度の評価は、「A」が1回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+65人日(+100%)となっているが、これは、平成16年度に新規に受託した業務で、当初予定になかったためである。このような限られた要員の中での業務の新規受託は、他の業務での効率化が図られたことで可能となることから、全体として効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 人事行政の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	--	----------	--

	<p>(6) 総務省統計局委託業務 (家計消費状況調査)</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。 第1期中期目標期間全体での投入量は、平成19年度において準備事務が減少したことなどにより、対従来比-142人日（-31%）となっている。 また、本業務は、平成18年度から新規に受託した業務であり、このような限られた要員の中での業務の新規受託は、他の業務での効率化が図られたことで可能となることから、全体として効率的な業務運営が行われていると認められる。 プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。 さらに、製表基準書の提示遅れや変更、当初予定にない追加依頼への対応など、多くの負担増があったものの、同局の要望どおりに対応している。 この結果、今中期目標期間における年度の評価は、「A」が2回という結果である。 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 第1期中期目標期間全体での投入量は、平成19年度において準備事務が減少したことなどにより、対従来比-142人日（-31%）となっている。 また、本業務は、平成18年度から新規に受託した業務であり、このような限られた要員の中での業務の新規受託は、他の業務での効率化が図られたことで可能となることから、全体として効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>「有効性」: 家計調査を補完する基礎資料など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	--	----------	---

	<p>(7) 公害等調整委員会事務局委託業務（公害苦情調査）</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 公害等調整委員会事務局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。 第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+291人日（+22%）となっているが、平成16年調査の製表基準書の内容変更に伴う対応を行ったためなどによるものであり、他の調査への影響もなかったことから、問題はない。 これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスを言いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。 プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。 さらに、製表基準書の変更、提出期限の早期化、疑義回答の遅れなど、多くの負担増があったものの、同局の要望どおりに対応している。 この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、いずれも「A」という結果である。 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+291人日（+22%）となっているが、平成16年調査の製表基準書の内容変更に伴う対応を行ったためなどによるものであり、他の調査への影響もなかったことから、問題はない。</p> <p>「有効性」: 環境行政の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	------------------------------------	----------	--

	<p>(8) 文化庁委託業務(サービス業基本調査特別集計(芸術関連産業))</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 文化庁から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同庁の満足度についても、「満足できる」という状況である。 第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+13人日(+8%)となっているが、他の業務への影響もなかったことから、問題はない。 また、本業務は、平成19年度において、新規に受託した業務であり、このような限られた要員の中での業務の新規受託は、他の業務での効率化が図られたことで可能となることから、全体として効率的な業務運営が行われていると認められる。 これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体的な製表方法についてアドバイスをいながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。 プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。 この結果、今中期目標期間における年度の評価は、「A」が1回という結果である。 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 投入量が予定よりも増加(対従来比+13人日(+8%))しているが、本業務は、平成18年度において、新規に受託した業務であり、このような限られた要員の中での業務の新規受託は、他の業務での効率化が図られたことで可能となることから、全体として効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>「有効性」: 文化芸術の振興など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	--	----------	--

	<p>(9) 財務省委託業務(家計調査特別集計(特定品目)全国消費実態調査特別集計(年間収入)家計調査特別集計(世帯類型別))</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 財務省から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同省の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+418人日(+6%)となっているが、これは主に、平成17年度において、統計センター全体の業務運営の効率化のため、大規模な集計である国勢調査や全国消費実態調査の製表に経験のある職員を大量に投入する必要から、家計調査特別集計(特定品目)に経験のない職員を充てたために、業務能率が低下したことによるもので、統計センター全体としての効率的な業務運営に資するものである。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをいながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「A」が4回、「B」が1回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+418人日(+6%)となっているが、これは主に、平成17年度において、統計センター全体の業務運営の効率化のため、大規模な集計である国勢調査や全国消費実態調査の製表に経験のある職員を大量に投入する必要から、家計調査特別集計(特定品目)に経験のない職員を充てたために、業務能率が低下したことによるもので、統計センター全体としての効率的な業務運営に資するものである。</p> <p>「有効性」: 税体系の在り方の検討など行政施策の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	---	----------	---

	<p>(10) 文部科学省委託業務 (平成16年家計調査 特別集計(教育費・教育関係費))</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 文部科学省から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同省の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>本業務は、総務省統計局所管の家計調査から加工する集計で平成17年度に新規に受託したものであり、本業務の製表については、統計センターの専門性からは、専任の担当者を配置することなく集計が行えたことから、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスを言いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>この結果、今中期目標期間における年度の評価は、「A」が1回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報管理・セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 総務省統計局所管の家計調査から加工する集計で平成17年度に新規に受託したものである。本業務の製表については、統計センターの専門性からは、専任の担当者を配置することなく集計が行えたことから、十分効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 教育行政の企画立案等関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	---	----------	---

	<p>(11) 厚生労働省委託業務 (雇用動向調査、賃金構造基本統計調査)</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 厚生労働省から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同省の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+1,013人日(+33%)となっているが、これは主に、平成15年雇用動向調査の集計事項の追加、平成16年雇用動向調査の結果表のEXCEL化及び製表基準書の変更による対応が生じたこと、また、平成17年賃金構造基本調査において、調査環境の変化などに伴うエラー件数の増加（対前年調査比約2倍）によるチェックリスト審査事務が増加したことによるものであり、他の調査への影響もなかったことから、問題はない。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをいりながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>さらに、疑義回答の遅れ、当初予定にない追加依頼への対応、委託元の報告誤りが原因の再集計など、多くの負担増があったものの、同局の要望どおりに対応している。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、いずれも「A」という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+1,013人日(+33%)となっているが、これは主に、平成16年度において、集計事項の追加、結果表のEXCEL化及び製表基準書の変更による対応が生じたこと、また、平成17年度において、調査環境の変化などに伴うエラー件数の増加（対前年調査比約2倍）によるチェックリスト審査事務が増加したことによるものであり、他の調査への影響もなかったことから、問題はない。</p> <p>「有効性」: 雇用対策の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	---	----------	--

	<p>(12) 経済産業省委託業務 (商業統計調査)</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 経済産業省から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同省の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>平成16年度において、集計事項の変更に伴い、結果表自動審査のための準備事務が増加したことにより投入量が予定を大幅に上回った(+130人日)が、19年度において、確報集計のデータチェックが平成20年度に持ち越されたことなどのほか、速報集計での業務効率化が図られたことにより、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+10人日(+2%)にとどまっており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスを言いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>さらに、度重なる製表基準書の変更、結果表提出後のデータの追加への対応など、多くの負担増があったものの、同省の要望どおりに対応している。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、いずれも「A」という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 平成16年度において、集計事項の変更により、結果表自動審査のための準備事務が増加したことにより投入量が予定を大幅に上回った(+130人日)が、19年度において、確報集計のデータチェックが平成20年度に持ち越されたことなどのほか、速報集計での業務効率化が図られたことにより、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+10人日(+2%)にとどまっており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 経済対策などの企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	------------------------------------	----------	---

	<p>(13) 国土交通省総合政策局委託業務(自動車輸送統計調査、内航船舶輸送統計調査、建設工事統計調査、建築着工統計調査、海難統計、船舶船員統計調査、船員労働統計調査、建築物滅失統計調査、住宅用地完成面積調査、建設総合統計)</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 国土交通省総合政策局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>建設工事統計調査について、平成16年度から従来の集計に加えて、チェックリスト審査事務を新規に受託したこと、平成19年船員労働統計調査は、調査票の変更に伴って、新たに結果表様式作成等準備事務の業務量が増加したことにより、投入量増となる一方で、平成18年及び平成19年内航船舶輸送統計調査において、担当者の業務の習熟が図られたことにより効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+396人日(+3%)にとどまっております、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体的な製表方法についてアドバイスをいりながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>さらに、製表基準書の変更、委託元からの報告誤りが原因の再集計、調査票の追加要請への対応など、多くの負担増があったものの、同局の要望どおりに対応している。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、いずれも「A」という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: チェックリスト審査事務を新規に受託したことや調査票の変更など、投入量の増加要因が存在したものの、平成18年及び平成19年内航船舶輸送統計調査において、担当者の業務の習熟が図られたことにより効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+396人日(+3%)にとどまっております、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 住宅政策や交通政策などの企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	---	----------	---

	<p>(14) 国土交通省土地・水資源局委託業務(法人土地基本調査、住宅・土地統計調査特別集計(世帯に係る土地基本集計))</p>	<p>B</p>	<p>【評価結果の説明】 平成15年住宅・土地統計調査特別集計(世帯に係る土地基本集計)の速報集計において、集計データの取扱いの誤りなどのため、再集計を行い、協議の上、予定より約1か月遅れて製表結果を提出している。この対応や基準書の変更への対応などにより、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+360人日(+46%)となっている。</p> <p>その他の調査については、国土交通省土地・水資源局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスを言いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>この結果、今中期目標期間における年度の評価は、「A」が1回、「B」が1回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を概ね達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 平成15年住宅・土地統計調査特別集計(世帯に係る土地基本集計)の速報集計の再集計や基準書の変更への対応などにより、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+360人日(+46%)となっているが、他の調査への大きな影響はなく、問題はない。</p> <p>「有効性」: 住宅政策などの企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	---	----------	---

	<p>(15) 国土交通省自動車交通局委託業務(旅客自動車運送事業輸送実績調査、貨物自動車運送事業輸送実績調査)</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 国土交通省自動車交通局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+354人日(+13%)となっているが、これは主に、平成18年度受託業務において、調査票の重複及び疑義照会件数の増加に対応したこと、また、平成19年度に受託した平成18年度旅客自動車運送事業輸送実績調査において、新規調査事項が盛り込まれたことにより、製表基準書の確認事務が増加するとともに、調査票の記入状態が悪くなかったことにより同局への疑義が増加したためであり、他の業務への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをいながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>さらに、同局の誤りが原因のデータ訂正依頼による再集計を行うなどの負担増があったものの、同局の要望どおりに対応している。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、いずれも「A」という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+354人日(+13%)となっているが、これは主に、平成18年度受託業務において、調査票の重複及び疑義照会件数の増加に対応したこと、また、平成19年度に受託した平成18年度旅客自動車運送事業輸送実績調査において、新規調査事項が盛り込まれたことにより、製表基準書の確認事務が増加するとともに、調査票の記入状態が悪くなかったことにより国土交通省自動車交通局への疑義が増加したためであり、他の業務への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 交通政策の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	--	----------	---

	<p>(16) 都道府県委託業務(労働力調査都道府県別集計、東京都生計分析調査、国勢調査特別集計、住宅・土地統計調査県内ブロック別集計)</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】</p> <p>都道府県などから提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する都道府県などの満足度については、住宅・土地統計調査県内ブロック別集計、労働力調査都道府県別集計及び国勢調査特別集計については、「満足できる」という状況である。</p> <p>第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+875人日(+19%)となっているが、これは主に、平成18年度に新規に受託することとなった東京都生計分析調査の準備事務を、平成17年度に急ぎょ実施したことなどによるものであり、限られた要員の中での業務の新規受託は、他の業務での効率化が図られたことで可能となることから、全体として効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>東京都生計分析調査について、平成18年度において、平成18年6～12月分の結果のうち一部の結果数値に誤りがあったため、再集計を行ったほか、平成19年度において、平成20年1月調査分の集計時に誤りがあったため、平成18年4月調査分までさかのぼって再集計を行った。いずれもプログラム誤りによるものであるが、誤りの再発防止策として、品質管理の徹底、結果表自動審査システムの強化、プログラム分析を十分に行うとともに、プログラムの仕様やプログラムそのものに誤りがないか、プログラム全体にわたるチェックを徹底するなどの措置が講じられている。</p> <p>また、平成17年国勢調査要計表による町丁・字等別集計については、統計センターがあらかじめ需要を想定し、都道府県に対し案内して実施したものであり、その努力は評価に値する。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「A」が4回、「B」が1回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+875人日(+19%)となっているが、これは主に、平成18年度に新規に受託することとなった東京都生計分析調査の準備事務を、平成17年度に急ぎょ実施したことなどによるものであり、限られた要員の中での業務の新規受託は、他の業務での効率化が図られたことで可能となることから、全体として効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>「有効性」: 地方公共団体における各種行政施策の基礎資料として活用されるなど関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>
--	--	----------	--

	<p>3 統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>地域メッシュ統計における予定事務の対象数・範囲等の減少（17年度）平成21年経済センサス-基礎調査の試験調査の産業分類格付事務における自動格付システムの活用（19年度）などにより、業務全般的に大幅な効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-11,329人日(-36%)となっており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「A」が4回、「B」が1回という結果である。以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理に関する業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 地域メッシュ統計における予定事務の対象数・範囲等の減少（17年度）平成21年経済センサス-基礎調査の試験調査の産業分類格付事務における自動格付システムの活用（19年度）などにより、業務全般的に大幅な効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-11,329人日(-36%)となっており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」: 製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な統計情報の提供(公表)が行われ、行政施策の企画立案のほか、学術研究、民間事業活動など幅広く加工統計データが利活用されている。</p>
--	--------------------------------------	----------	--

	4 技術の研究	A	<p>【評価結果の説明】</p> <p>外部の研究機関、大学等との人材交流を推進し、統計センター職員の研究能力の向上及び製表技術の高度化・改善を図るため、平成16年度から外部研究者を非常勤職員として採用するとともに、「データエディティング研究会」において毎年度外部研究者をメンバーとするなど、外部研究者の積極的活用による技術研究体制の充実を図っており、<u>より効果的効率的な製表技術の開発に資するための研究を専任で行う組織体制が整備されている。</u></p> <p>統計センターでは、データエディティングに関する研究、統計分類の自動格付に関する研究、統計ニーズの多様化に対応した製表方法に関する研究、情報処理技術に関する研究といった、<u>製表業務の高度化や製表結果の品質向上などに重点を置いた研究が実施されている。</u></p> <p>データエディティングに関する研究では、各年度において、当該研究の盛んな欧米諸国の学会等に参加しており、国際的な動向等に関する情報収集を積極的に行っているものと認められる。</p> <p>統計分類の自動格付に関する研究では、産業分類の自動格付の研究成果を平成16年事業所・企業統計調査の産業分類符号検査事務に活用した結果、人手のみによる検査方法に比べ、製表要員の投入量が約55%削減されるとともに、生活時間行動分類（詳細分類）の自動格付の研究成果を平成18年社会生活基本調査の生活時間行動分類格付事務に活用した結果、本事務における自動格付の格付率は約75%を達成し、人手のみによる格付方法に比べ、製表要員の投入量が約20%削減されている。さらに、市区町村コードの自動格付に関する研究を実施し、その成果を平成20年住宅・土地統計調査の製表業務に適用することとしている。</p> <p>このように<u>研究の成果を的確に活用し、効率化につながる成果を出している</u>ことは、高く評価できる。</p> <p>また、平成21年経済センサス-基礎調査における産業分類自動格付の実施を目標として、従来からの知識や技術に基づく自動格付技法の改良を図る研究を行うとともに、平成19年4月に「統計分類自動格付検討プロジェクト」を設置し、国勢調査を始めとする産業・職業分類及び全国消費実態調査を始めとする収支項目分類の自動格付システムの構築に向けた研究を開始していることは、更に製表業務への自動格付の活用に向けた努力がなされているものであり、今後の業務運営の効率化及び高度化にも大きく寄与することが期待できる。</p> <p>また、統計センターにおける製表技術の研究成果や国内外における製表技術の研究動向の調査分析結果、製表業務のマネジメントを含む製表技術関連文献の翻訳等の資料を5年間で21冊刊行するとともに、日本統計学会及びI S I（International Statistical Institute：国際統計協会）大会において研究発表を行うなど、積極的に研究成果の普及に取り組んでいる。</p> <p>この結果、今中期目標期間における<u>各年度の評価は、いずれも「A」</u>という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 統計センターが製表業務を迅速かつ正確に、また効率的に行うためには、製表技術に適用可能な研究を実施することが必要不可欠であると言える。</p> <p>「効率性」: 統計分類の自動格付の研究成果を製表業務に適用し、投入量の削減（平成16年事業所・企業統計調査の産業分類符号検査事務で人手のみによる格付方法に比べ約55%減、平成18年社会生活基本調査の</p>
--	---------	---	--

			<p>生活時間行動分類格付事務で人手のみによる格付方法に比べ約20%減)を実現するなど、統計センターの効率的な業務運営に寄与している。</p> <p>「有効性」: 研究成果が製表業務に適用されることにより、統計センターの業務運営は更に効率化されるものと期待される。</p>
--	--	--	--

第3 予算(人件費の見積りを含む。)収支計画及び資金計画

A

【評価結果の説明】

- ・業務経費の削減については、LAN切替えに伴う業務系LANと情報系LANの統合(平成16年度、17年度及び18年度の工程管理システムと人事給与システムの一元化(17年度・18年度)、経常調査用ホストコンピュータの再リース(19年度)など、各年度において実施してきた業務手法・体制等の見直しやペーパーレス化等による効率化の取組みを推進した結果、期末目標値である「3%以上の削減」に対し、目標を大幅に上回る9.8%(約1.1億円)削減を達成しており、非常に高く評価できる。
 - ・常勤職員に対する人件費(法定福利費、退職手当除く)の状況については、超過勤務の縮減、育児休業等を取得した職員への欠員補充を行わなかったことなどにより、期末年度において期初年度に比べ304百万円(5.2%)の減額となっている。しかし一方で、非常勤職員(法定福利費除く)については、期初年度に比べ期末年度は237百万円の増額になっているが、これは、平成17年国勢調査など大規模周期調査における製表業務を適切に実施するため非常勤職員の活用を図ったものである。全体の人件費(法定福利費、退職手当除く)では、期初年度に比べ期末年度は67百万円(1.1%)の減額となっており、効率的な業務運営が行われていると認められる。
 - ・期末の利益剰余金1503百万円の発生要因は、平成16年度から人件費(退職手当を除く)について、期間進行基準を採用していることにより、期間対応予算で計上する収益と実績である費用との差異から生じた利益等を積立金として整理した額の合計(700百万円)と、中期目標期間最終年度における精算処理として、運営費交付金の期末残である運営費交付金債務を収益化したもの(803百万円)である。
これらは、人件費については、前述した理由により予算段階で想定していた人件費を実績が下回ったため、期間内の業務が十分に達成されていることを考慮すると、業務運営の効率化の結果として、評価できるものである。
また、中期目標期間の精算処理部分についても、各事業年度において発生した運営費交付金の残余を翌年度に繰り越して活用してきた結果の残余であることから、中期目標期間の各年度において実施してきた業務手法・体制等の見直し等による効率化を推進した結果の累積として、評価できるものである。
 - ・物品の調達、役務の供給等に係る契約手続について、平成18年度から「公共調達の適正化について」に基づき、随意契約の見直しと一般競争入札の拡大を推進した結果、平成17年度以降において、随意契約の件数、年間支出額がともに減少し、一般競争入札の割合が増加している。また、平成18年度から契約に係る情報の公開も行われている。
こうした取組みから、契約に関する公正性、透明性の確保を図った業務運営が行われているものと評価できる。
 - ・本法人では、監事による監査のほか、法定外監査として外部監査人(監査法人)による財務諸表等に関する監査を平成16年度決算から毎年度実施しており、この監査結果についても監査を実施したすべての年度において適正意見が表明されていることは、会計処理の適正性、透明性を高める上で高く評価できる。
- 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。

		<p>「必要性」: 予算監理を適切に行うことは、独立行政法人の前提条件である。</p> <p>「効率性」: 中期目標値を大幅に上回る業務経費の削減、人件費の削減及び随意契約の適正化が図られていることから、効率的な業務運営が図られている。</p> <p>「有効性」: 予算の設定、実績の確定、予算と実績の差異分析等に関する財務書類の限りでは、有効な財務・会計管理が行われているものと判断できる。</p>
第4 短期借入金の限度額	該当なし	<p>【評価結果の説明】</p> <p>「必要性」: 「効率性」: 「有効性」:</p>
第5 重要な財産の処分等に関する計画	該当なし	<p>【評価結果の説明】</p> <p>「必要性」: 「効率性」: 「有効性」:</p>
第6 剰余金の使途	該当なし	<p>【評価結果の説明】</p> <p>「必要性」: 「効率性」: 「有効性」:</p>

	1 施設及び設備に関する 計画	該当なし	【評価結果の説明】 「必要性」: 「効率性」: 「有効性」:
--	--------------------	------	---

	<p>2 人事に関する計画</p>	<p>A</p>	<p>【評価結果の説明】</p> <p>中央集計機関としての統計センターは、利用者ニーズに即した製表業務を実施する上で、組織としての効率性を上げつつ、職員の専門的な知識・技術を向上させ、職員が意欲を持って職務に従事できる職場環境を作ることが重要である。</p> <p>こうした観点から、効果的・効率的な採用活動（毎年度（主に年度当初）全国の主要都市にある専門学校で業務説明会を実施）により優秀な職員の採用に努めるとともに、広い視野を持った人材を養成する観点から、総務省統計局等との人事交流を毎年度実施し、職員の資質向上を図っている。</p> <p>平成16年度に非常勤就業規則を改正し外部からの専門職員の採用に途を開き、外部研究者を非常勤職員として採用することにより、研究体制の強化を図るとともに、17年度からC I O補佐官を1人非常勤職員として採用し、業務・システムの最適化を推進している。また、定年退職職員を再任用職員として採用し、製表の専門事項処理に従事させている。このように専門性を有する人材を有効に活用することにより、<u>組織としての効率性を上げつつ、職員の専門的な知識・技術の向上に努めている。</u></p> <p>平成17年度から全組織及び全職員を対象に、職員自らが業務に必要な能力や知識を習得する「目標による管理」の手法を用いた<u>S T E P制度を導入し</u>、導入後は、運用上の注意事項等についてイントラネットを活用した情報提供を適時行うことで同制度の職員への定着が図られている。</p> <p>また、今中期目標期間中、業務運営の効率化を推進し、計画的な合理化減を行った結果、期初の常勤職員数953人に対し、<u>期末の常勤職員数は890人となり、期末の常勤職員数を期初の94%以下とする目標を上回る93.4%を達成したことは、高く評価できる。</u></p> <p>この結果、今中期目標期間における<u>各年度の評価は、いずれも「A」</u>という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p><u>「必要性」:</u> 統計センターに対する社会的ニーズに応えるためには、組織としての効率性を上げつつ、職員の専門的な知識・技術を向上させ、職員が意欲を持って職務に従事できる職場環境を作ることが必要不可欠である。</p> <p><u>「効率性」:</u> 定年退職職員の再任用など専門性を有する人材を有効に活用するとともに、外部研究者を採用し、外部の知見・能力の活用を図るなど効率的な取組が行われている。</p> <p><u>「有効性」:</u> 外部研究者の採用、「目標による管理」の手法を用いたS T E P制度の実施は、職員の知識・技術の向上につながり、的確な業務運営を図る上で有効である。</p>
--	-------------------	----------	---

	3 その他	A	<p>各年度において、「独立行政法人統計センター安全衛生管理規程」に基づく安全衛生管理体制を運用するとともに、衛生委員会の開催、産業医による職場巡視等を実施しており、<u>職員の安全を確保するための安全管理体制の整備が実施されている。</u></p> <p>各年度において、「独立行政法人統計センターセクシャルハラスメント防止規程」に基づいた管理体制が運用されるとともに、メンタルヘルスに係る取組みとして、職員及び職場のストレス度が把握できるソフトウェアを平成17年度に導入し、<u>定期的にストレス診断を実施しており、職場環境の整備が図られている。</u></p> <p>平成17年度に「地震発生時における行動マニュアル」、18年度に「災害における製表業務危機管理マニュアル」を決定し、防災に関する事項の周知徹底を図っている。また、平成17年3月に統計センターが保有する個人情報の適切な管理体制等を定めた「独立行政法人統計センター個人情報保護規程」の整備を行うとともに、大規模な災害に備えて、平成17年度から集計途中のデータを随時オンラインによって遠隔地に保管するデータバックアップ体制を整備し、すべての周期調査及び経常調査に適用したほか、I S M S 認証取得に当たって、LANシステムやホストコンピュータの運用に関する規程や障害報告書等の整理や遠隔地に設置しているデータバックアップ体制の再確認を行うことにより、<u>事業継続計画を整備するなど、災害や緊急事態に即応可能な危機管理体制が構築されていると認められる。</u></p> <p>昨年末に閣議決定した「独立行政法人整理合理化計画」における法人の自律化に関して、「独立行政法人統計センター職員の倫理の保持に関する体制について」（平成15年4月1日倫理監督官決定）、「独立行政法人統計センター公益通報者保護規程」などを既に整備するなど、職務執行のあり方を始めとする内部統制の向上に資する措置にも取り組んでいると認められる。</p> <p>また、平成15年度から<u>5年連続で、環境物品の100%調達（紙製品は除く）を実現し、環境に与える影響に配慮した業務運営が行われている。</u></p> <p>さらに、第2期中期計画を踏まえたホームページとパンフレットのリニューアルを行うなど広報にも意欲的に努めている。</p> <p>この結果、今中期目標期間における<u>各年度の評価は、いずれも「A」という結果である。</u></p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p><u>「必要性」:</u> 上記の各取組はいずれも、社会の一員たる組織体が存続していくために必要不可欠な事項であり、引き続き、各項目については、常にその改善、改良が求められるものであり、そのための不断の努力が期待される。</p> <p><u>「効率性」:</u> 安全衛生面、メンタルヘルス面などでの対応を図るため、統計センターが独自に対応を図るのみならず、専門家を活用することで効果的・効率的に対策が進められている。</p> <p><u>「有効性」:</u> 上記取組は、公共財である統計データを提供する責務を担う統計センターが、その機能を十分に発揮する上で、有効的なものである。</p>
--	-------	---	---

第1期中期目標期間独立行政法人統計センターの業務の実績に関する項目別評価調書（案）

独立行政法人統計センターの業務の実績に関する項目別評価調書（案）

中期計画の該当項目	第1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 業務運営の高度化・効率化に関する事項
中期目標の記載事項	
<p>(1) センターは、情報通信技術の積極的な導入・活用を図ることにより、業務運営の高度化、効率化を推進する。</p> <p>(2) センターの業務経費（運営費交付金の総額から、退職手当を含む人件費及び周期統計調査に係る経費を除いたもの）について、新規追加、拡充部分を除き、期初年度に対する期末年度の割合を97%以下とする。</p> <p>(3) センターは、「行政改革の重要方針」（平成17年12月24日閣議決定）を踏まえ、平成18年度以降の5年間に於いて、国家公務員の定員の純減目標に準じた人員の削減の取組を行うこととし、今中期目標期間中である平成18年度及び平成19年度の2年間に於いても、このための着実な取組を行う。また、併せて給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを進める。</p>	
中期計画の記載事項	
<p>(1) 情報通信技術を最大限に活用して業務の高度化・効率化を推進するための基盤を積極的に整備する。</p> <p>(2) 業務運営の高度化・効率化の推進に伴い、充実・拡充を図るべき分野への職員の重点的配置を進めつつ、計画的に常勤職員数の削減を行っていくものとする。</p> <p>(3) 業務手法・体制等の見直しや文書のペーパーレス化の推進等により、業務運営を効率化することを通じ、業務経費（運営費交付金の総額から、退職手当を含む人件費及び周期統計調査に係る経費を除いたもの）について、新規追加、拡充部分を除き、期初年度に対する期末年度の割合を97%以下にする。</p> <p>(4) 「行政改革の重要方針」（平成17年12月24日 閣議決定）を踏まえ、平成17年度を基準として、平成18年度から平成22年度までの5年間で5%以上の人員の削減を実現するため、今中期目標期間の4年目及び5年目に当たる平成18年度及び平成19年度の2年間に於いて2%以上の人員の削減に取り組む。また、役職員の給与に関し、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与規程等の見直しを進める。</p>	
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果	
小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）
(1) 情報通信技術を最大限に活用して業務の高度化・効率化を推進するための基盤を積極的に整備する。	<p>情報通信技術を最大限に活用して業務の高度化・効率化を推進するための基盤を次のとおり積極的に整備した。</p> <p>【組織横断的な取組】</p> <p style="padding-left: 20px;">LANシステムの切替え 統計センターの業務の高度化・効率化を推進するための基幹システムである統計センターLANシステム（以下「LANシステム」という。）について、平成16年8月に切替えを行い、共用PCを70台削減するとともに、ICカードシステムを導入し、セキュリティの向上を図った。</p> <p style="padding-left: 20px;">ホストコンピュータからクライアント/サーバシステムへの移行に向けた環境整備 集計機器の費用逡減を図るため、平成22年7月を目途として、ホストコンピュータで行っている処理をクライアント/サーバシステムで行えるよう、集計システム等の開発を段階的に行うこととし、各種統計調査のシステムについて、順次開発を進めている。</p>

【管理業務に関する取組】	
市販のツールによるシステム開発の進捗管理	
	<p>平成17年度から市販のツールを用いたプロジェクト管理システムの運用を各種システム開発の進捗管理に適用して実績情報の蓄積を行っている。</p> <p>平成18年度からは、統計センターに最適な工数の見積り方法の検討を行い、その結果を踏まえ、平成19年就業構造基本調査のシステム開発計画策定に係数モデル見積法を試行的に適用し、更に検証を進めた。</p>
【製表業務に関する取組】	
小売物価統計調査新製表システムの導入	
	<p>調査員が実査の段階に携帯機器を用いて直接データ入力を行う小売物価統計新調査システムが、平成15年7月調査分から全都道府県で導入されたことに伴い、統計センターでは、新製表システムを導入し、紙ベースの調査票上で記入内容を直接審査する事務形態から、送信された調査結果データをPC上で審査する事務形態に変更した。</p> <p>これに伴い、紙ベースによる調査票の受付整理事務及びデータ入力事務が廃止となり、要員投入量が大幅に削減された。</p>
平成16年全国消費実態調査における家計簿格付・入力システムの導入	
	<p>平成16年全国消費実態調査において、家計簿格付・入力システムを導入し、符号格付、データ入力、データチェックの各事務を一体的に処理する方式を実現し、事務を大幅に合理化した。</p>
家計調査結果表審査支援システムの導入	
	<p>家計調査における正確かつ効率的な結果表審査を推進するため、平成16年度から17年度にかけて家計調査結果表審査支援システムを導入したことにより、事務の効率化と正確性の向上を実現するとともに、18年3月(2月調査分)以降の公表の早期化(集計期間短縮)にも貢献した。</p>
家計調査新製表システムの開発	
	<p>平成6年度に導入した現行システムのLAN環境への適合性の低下等への対応、及び更なる効率化の推進を目的として、17年度から3年計画で新たな製表システムを開発した。なお、新製表システムへの移行については、平成20年2月調査分から段階的に開始し、以後数回に分けて移行を完了させることとしている。</p>
平成17年国勢調査の集計機器の導入	
	<p>平成17年国勢調査用の集計機器として、ホストコンピュータについては、既存機器との連携対策を講じた上で平成17年8月に新機器を導入し、処理能力の精査によって従来よりも5年間のリース総額で約2億8500万円の経費削減が見込まれる大幅な合理化を図った。</p> <p>クライアント/サーバシステムについては、平成17年9月に新たに導入し、データベース用サーバの台数を前回調査時(平成12年)の20台から2台に削減するとともに、障害対応策を強化するためにクラスタ構成に変更した。</p>

統計分類自動格付の研究成果の活用

平成16年度にまとめた産業分類の自動格付の研究成果を、平成16年事業所・企業統計調査の産業分類符号検査事務に活用した結果、人手のみによる検査方法に比べ、製表要員の投入量が約55%削減された。

また、平成18年度にまとめた生活時間行動分類（詳細分類）の自動格付の研究成果を、平成18年社会生活基本調査の生活時間行動分類格付事務に活用した結果、本事務における自動格付の格付率は約75%を達成し、人手のみによる格付方法に比べ、製表要員の投入量が約20%削減された。

市販の汎用ソフトツールを活用したシステムの整備

ホストコンピュータからクライアント/サーバシステムへの移行を踏まえ、システム開発業務の標準化を目的として、市販の汎用ソフトツールを活用して開発したシステムによる集計を拡大することとし、同システムを平成17年国勢調査従業地・通学地集計その1及び東京都生計分析調査（平成18年報）に適用した。

また、平成18年度から、市販の汎用ソフトツールを活用した新汎用サマリーシステムの開発を進め、平成18年社会生活基本調査を始め、その他各種統計調査へ適用を拡大した。

【その他】

その他

物品管理の事務負担を軽減するため、平成15年度から16年度にかけて、物品管理システムを整備して効率化を図った。また、製表業務に関する電子化された資料等が増加してきていることから、情報利用の利便性を図ることにより更に情報の共有化を推進するため、平成19年3月から、文書検索システムを導入し、同年5月から運用を開始した。

<p>(2) 業務運営の高度化・効率化の推進に伴い、充実・拡充を図るべき分野への職員の重点的配置を進めつつ、計画的に常勤職員数の削減を行っていくものとする。</p>	<p>計画的な常勤職員数の削減を行う中で、次のとおり、充実・拡充を図るべき分野への職員の重点的配置を進めた。</p> <p><u>研究関係部門</u> 業務に必要な技術の研究を行う部門として、平成15年4月に研究センターを設置し、統計や製表に係る国内外の情報・動向を積極的に収集し、製表業務の高度化及び製表結果の品質向上のための研究を専門的に行うとともに、18年4月には、職員1人を増員配置し、データエディティング等の研究体制の充実を図った。 また、情報処理課に各種情報処理技術を熟知した職員を配置することにより、情報機器やプログラミング手法に関する研究体制を拡充した。</p> <p><u>受託製表関係部門</u> 国（総務省統計局を除く。）又は地方公共団体からの受託を推進するため、平成16年4月に受託推進室を設置し、受託製表事務の一元的管理、専門職員の配置を行うとともに、製表グループ他府省担当に、企画業務及び審査業務について高い能力を有する職員を集中的に配置した。</p> <p><u>情報安全・危機管理及び情報化部門</u> 平成17年度に、総務課に情報安全対策係を設置し、情報の安全及び危機管理対策を確実に推進するとともに、情報化統括責任者（CIO）の位置付けの明確化及びCIO補佐官の配置並びに情報化推進係の設置により、業務・システムの最適化を実現するための体制を整備した。</p> <p><u>情報処理関係部門</u> 平成18年4月に、情報処理課に8人を増員配置し、アーキテクチャを担当する体制を整備するとともに、19年4月に3人を増員配置し、ホスト系システムからオープン系システム（クライアント/サーバシステム）への移行体制の拡充を図った。</p>
--	--

<p>(3) 業務手法・体制等の見直しや文書のペーパーレス化の推進等により、業務運営を効率化することを通じ、業務経費（運営費交付金の総額から、退職手当を含む人件費及び周期統計調査に係る経費を除いたもの）について、新規追加、拡充部分を除き、期初年度に対する期末年度の割合を97%以下にする。</p>	<p>業務経費について、新規追加、拡充部分を除き、期初年度に対する期末年度の割合を97%以下にするため、次のとおり業務運営の効率化を図り、目標を達成した。</p>															
	<p><u>クライアント/サーバシステムへの移行に伴う経費削減</u></p> <p>ホストコンピュータからクライアント/サーバシステムへの移行事業の一環として、平成20年度に廃止することとしている経常調査用ホストコンピュータについて、19年5月に既存機器の更新期限が到来したが、廃止時期である20年12月までリース延長して使用することとした。</p> <p>これにより、機器を更新した場合と比較すると、平成19年度においては約2億円の経費削減となった。</p>															
	<p><u>工程管理システムと人事・給与システムの一元化</u></p> <p>製表業務に係る実績管理及び計画策定等を効率的に行うための工程管理システムと、独立行政法人の制度に対応した人事管理と給与支給業務を効率的に行うための人事・給与システムを、平成15年度に導入したが、18年度に、ERPパッケージを適用した新システムの運用を開始したことにより、両システム間におけるデータの共有化等による業務運営の効率化が図られた。</p> <p>システムの一元化による経費の見通しについては、旧システムのまま運用した場合との比較でみると、完全に新システムに切り替わる平成19年度以降、大幅な経費の縮減（年間約3500万円）が図られることとなる。なお、導入経費（約7300万円）は、約2年間の運用後（平成20年度）には回収できる見込みである。</p>															
	<p><u>ペーパーレス化の推進</u></p> <p>両面印刷の徹底や電子メールの活用等により、ペーパーレス化を推進した結果、年度計画目標を設定した平成17年度以降の総務部門のコピー用紙使用量の対前年度比は、次のとおりとなった。</p>															
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">年度(平成)</th> <th style="width: 20%;">総務部門のコピー用紙使用量(対前年度比)</th> <th style="width: 20%;">年度計画目標(対前年度比)</th> <th style="width: 45%;">【参考】統計センター全体のコピー用紙使用量(対前年度比)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>17年度</td> <td>17.4%</td> <td>5%以上</td> <td>15.9%</td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td>5.1%</td> <td>5%以上</td> <td>6.1%</td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td>6.1%</td> <td>前年度以下</td> <td>0.3%</td> </tr> </tbody> </table>	年度(平成)	総務部門のコピー用紙使用量(対前年度比)	年度計画目標(対前年度比)	【参考】統計センター全体のコピー用紙使用量(対前年度比)	17年度	17.4%	5%以上	15.9%	18年度	5.1%	5%以上	6.1%	19年度	6.1%	前年度以下
年度(平成)	総務部門のコピー用紙使用量(対前年度比)	年度計画目標(対前年度比)	【参考】統計センター全体のコピー用紙使用量(対前年度比)													
17年度	17.4%	5%以上	15.9%													
18年度	5.1%	5%以上	6.1%													
19年度	6.1%	前年度以下	0.3%													
	<p><u>ホストコンピュータ運用業務の見直しによる経費削減</u></p> <p>ホストコンピュータ運用業務の見直しを行い、平成18年度においてホストコンピュータ運用に係る経費を1450万円削減した。</p>															

<p>(4) 「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)を踏まえ、平成17年度を基準として、平成18年度から平成22年度までの5年間で5%以上の人員の削減を実現するため、今中期目標期間の4年目及び5年目に当たる平成18年度及び平成19年度の2年間において2%以上の人員の削減に取り組む。また、役職員の給与に関し、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与規程等の見直しを進める。</p>	<p>「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)を踏まえ、国家公務員の定員の純減目標に準じた人員削減の取組を行うとともに、給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを実施している。</p> <p>人員の削減</p> <p>人員の削減については、次のとおり、平成18年度及び19年度の2年間における常勤職員2%以上の削減目標を達成した。</p>																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度(平成)</th> <th>常勤職員数</th> <th>平成17年度末に対する削減数</th> <th>平成17年度末に対する削減率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>17年度末</td> <td>909人</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>18年度末</td> <td>901人</td> <td>8人</td> <td>0.9%</td> </tr> <tr> <td>19年度末</td> <td>890人</td> <td>19人</td> <td>2.1%</td> </tr> </tbody> </table>	年度(平成)	常勤職員数	平成17年度末に対する削減数	平成17年度末に対する削減率	17年度末	909人	-	-	18年度末	901人	8人	0.9%	19年度末	890人	19人	2.1%		
	年度(平成)	常勤職員数	平成17年度末に対する削減数	平成17年度末に対する削減率															
	17年度末	909人	-	-															
18年度末	901人	8人	0.9%																
19年度末	890人	19人	2.1%																
<p>給与水準の現状</p> <p>「一般職の職員の給与に関する法律」(昭和25年法律第95号)に準じた給与規則を適用しているものの、組織・職員構成の違い等から、「独立行政法人の役員の報酬等及び職員の給与の水準」(平成15年度～18年度)における対国家公務員指数は、次のとおりとなっている。</p>																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度(平成)</th> <th>対国家公務員指数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15年度</td> <td>88.4</td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td>88.4</td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td>89.8</td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td>90.3</td> </tr> </tbody> </table>	年度(平成)	対国家公務員指数	15年度	88.4	16年度	88.4	17年度	89.8	18年度	90.3									
年度(平成)	対国家公務員指数																		
15年度	88.4																		
16年度	88.4																		
17年度	89.8																		
18年度	90.3																		
当該業務に係る事業費用	1,251,721千円	当該業務に従事する職員数	890人の内数																
当該項目の評価	A A																		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>平成16年8月にLANシステムの切替えを行い、共用PCの70台削減、ICカードシステムの導入によるセキュリティの向上を図るとともに、小売物価統計調査新製表システムの導入、平成16年全国消費実態調査における家計簿格付・入力システムの導入、家計調査結果表審査支援システムの導入、家計調査新製表システムの開発、平成17年国勢調査の集計機器の導入、統計分類自動格付の研究成果の活用、市販の汎用ソフトツールを活用したシステムの整備など、<u>情報通信技術を最大限に活用した業務の高度化・効率化を推進するための基盤が積極的に整備されている</u>。特に、小売物価統計調査新製表システムの導入により、紙ベースによる調査票の受付整理事務及びデータ入力事務が廃止となり、平成16年度における小売物価統計調査全体の要員投入量の大幅な削減(対前年度比-2,914人日(-22%))に寄与したほか、平成16年全国消費実態調査における家計簿格付・入力システムの導入により、事務の大幅な合理化が図られ、平成16年度における全国消費実態調査全体の要員投入量の大幅な削減(対従来比-5,800人日(-14%))に寄与している。平成17年国勢調査の集計機器の導入については、処理能力の精査等によって従来よりも5年間のリース総額で約2億8500万円の経費削減となる大幅な合理化が図られている。研究成果である統計分類自動格付システムの適用により、平成16年事業所・企業統計調査では約55%(1,375人日)、平成18年社会生活基本調査では約20%(304人日)の符号格付事務に係る投入量の削減が図られている。以上のことから、情報通信技術を活用した基盤整備による効率化が図られていると認められる。</p>																			

また、計画的な常勤職員数の削減を行う中で、充実・拡充を図るべき分野（研究関係部門、受託製表関係部門、情報安全・危機管理及び情報化部門、情報処理関係部門）への職員の重点的配置を確実にしている。

さらに、経常調査用ホストコンピュータのリース延長（削減効果：約2億円（平成19年度））、工程管理システムと人事・給与システムの一元化（削減効果：年間約3500万円（19年度以降））

ホストコンピュータ運用業務の見直し（削減効果：1450万円（18年度））による業務手法・体制等の見直しを図るとともに、両面印刷の徹底や電子メールの活用などによりペーパーレス化を推進することで、総務部門のコピー用紙使用量は、年度ごとの削減目標を設定した17年度以降毎年度目標を上回る削減が図られている。これらの取組みの結果、業務経費（運営費交付金の総額から、退職手当を含む人件費及び周期統計調査に係る経費を除いたもの）について、新規追加、拡充部分を除き、期初年度に対する期末年度の割合の目標値である「3%以上削減」を大きく上回る9.8%（約1.1億円）削減に寄与しており、その経営努力は高く評価できる。

「行政改革の重要方針」を踏まえ、総人件費改革に取り組み、更なる業務の効率化により、平成17年度を基準として、18年度から22年度までの5年間で5%以上の人員の削減を実現するため、18年度及び19年度の2年間に於いて2%以上の人員の削減に取り組むという中期計画の目標値を上回る2.1%削減を達成したことも高く評価できる。

そのほか、給与水準についても対国家公務員指数を下回る水準で推移しており、問題はない。

こうした取組みの結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「AA」が4回、「A」が1回という結果である。

以上のことから、目標を大幅に上回って達成していると判断した。

「必要性」:

中央集計機関としての統計センターの業務運営の高度化と効率化を図るためには、情報通信技術を活用した基盤整備、職員の機動的配置、予算の効率的使用に取り組む必要がある。

「効率性」:

経常調査用ホストコンピュータのリース延長（削減効果：約2億円（平成19年度））、工程管理システムと人事・給与システムの一元化（削減効果：年間約3500万円（19年度以降））、ホストコンピュータ運用業務の見直し（削減効果：1450万円（18年度））による業務手法・体制等の見直しや文書のペーパーレス化を通じた業務経費の削減が進められ、業務経費（運営費交付金の総額から、退職手当を含む人件費及び周期統計調査に係る経費を除いたもの）について、新規追加、拡充部分を除き、期初年度に対する期末年度の割合の目標値である「3%以上削減」を大きく上回る9.8%削減に寄与している。また、更なる業務の効率化により、平成17年度を基準として、18年度から22年度までの5年間で5%以上の人員の削減を実現するため、18年度及び19年度の2年間に於いて2%以上の人員の削減に取り組むという中期計画の目標値を上回る2.1%削減を達成している。

「有効性」:

中央集計機関としての統計センターの責務を着実に果たすためには、情報通信技術の活用及び組織体制の充実による高品質のサービスを低コストで提供するための基盤整備を着実に進めることが効果的である。

中期計画の該当項目	第1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 効率的な人員の活用に関する事項
中期目標の記載事項	
効率的な製表業務の推進に必要な高度な技術の継承・発展を図るため、センターは、研修等により職員の能力開発を積極的に行う。また、センターは、業務の性格に応じた機能的な組織体制の整備や人員の重点的配置を行う。	
中期計画の記載事項	
効率的な製表業務の推進に必要な高度な技術の継承・発展を図るため、研修等の職員の能力開発を積極的に行う。また、組織体制を見直し、業務の性格に応じた機能別の組織体制とするとともに、人員の重点的配置を行う。	
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果	
小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）
効率的な製表業務の推進に必要な高度な技術の継承・発展を図るため、研修等の職員の能力開発を積極的に行う。また、組織体制を見直し、業務の性格に応じた機能別の組織体制とするとともに、人員の重点的配置を行う。	<p>次のとおり、効率的な製表業務の推進に必要な高度な技術の継承・発展を図るため、研修等の職員の能力開発を次のとおり積極的に行ったほか、組織体制を見直し、業務の性格に応じた機能別の組織体制とするとともに、人員の重点的配置を行った。</p> <p>(1) 職員の能力開発</p> <p><u>専門的能力の開発に重点を置いた人材育成方法の検討</u> 平成15年4月の独立行政法人化に伴い、各課室等においては、その業務を推進する上で必要な基礎及び専門的な知識・能力を洗い出すとともに、OJTを中心とした研修方法の検討等、人材の育成方法の見直しを行った。</p> <p><u>内部研修の見直し、外部研修等への職員の派遣及び業務研修の実施</u></p> <p><u>ア 統計センターにおける内部研修の見直し及び外部研修等への職員の派遣</u> 平成16年度と19年度には、人材育成の更なる充実を図るため、採用後数年間の研修を中心に研修体系を見直すとともに、階層別研修については、各年度において研修内容の見直しを行った。 また、業務に必要な専門能力を向上させるため、各省等が実施する外部研修等に積極的に職員を派遣した。</p> <p><u>イ 各課室等における業務研修の実施</u> 内部研修及び外部研修に加え、各課室等において、それぞれの業務に必要な知識を有する人材を育成するためや各製表事務を統一かつ正確、迅速に処理するための業務研修を実施した。</p> <p><u>職員自らが業務に必要な能力を身に付けるための環境の定着化</u> 職員自らが業務に必要な能力や知識を習得する「目標による管理」の手法を用いたSTEP制度を導入し、その定着を図るために手引書の配布、イントラネットへの情報掲示、質疑応答体制の確立等を行い、平成17年度からは幹部を除く全職員が実施する環境となった。</p>

	<p>(2) 組織体制の見直し</p> <p>機能別事務処理体制への変更による職員の機動的配置</p> <p>製表部門は独立行政法人化（平成15年4月）以後、従来の調査別の組織体制を事務の種類ごとの機能別組織体制に変更するとともに、業務の繁閑に応じて機動的に事務を割り振る体制（スタッフ制）を導入した。これを踏まえ、製表部各課等においては、各調査それぞれの製表業務の進捗状況に応じて担当を超えて業務を割り振るなど、職員の機動的な運用を行っている。</p> <p>現行業務体制の点検</p> <p>各年度において業務体制の見直し等を行い、組織改正を実施することにより、業務の効率化を推進した。</p>		
当該業務に係る事業費用		当該業務に従事する職員数	890人の内数
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>平成15年4月の独立行政法人化に伴い、各課室等において、業務を推進する上で必要な基礎及び専門的な知識・能力を洗い出し、OJTを中心とした研修方法の検討等、人材の育成方法の見直しを行うとともに、平成16年度と19年度に採用後数年間の研修を中心に研修体系を見直し、各年度において階層別研修の研修内容の見直しを行うとともに、各省等が実施する外部研修等に積極的に職員を派遣している。また、各課室等において、それぞれの業務に必要な知識を有する人材を育成するためや各製表事務を統一かつ正確、迅速に処理するための業務研修を実施しており、効率的な製表業務の推進に必要な高度な技術の継承・発展を図るため、<u>研修等の職員の能力開発を積極的に行っている</u>と認められる。</p> <p>製表部門は独立行政法人化（平成15年4月）以後、従来の調査別の組織体制を事務の種類ごとの機能別組織体制に変更するとともに、業務の繁閑に応じて機動的に事務を割り振る体制（スタッフ制）を導入した。これを踏まえ、製表部各課等においては、各調査それぞれの製表業務の進捗状況に応じて担当を超えて業務を割り振るなど、職員の機動的な運用を行っており、業務の性格に応じた機能別の組織体制が確立されている。</p> <p>また、各年度において業務体制の見直し等を行い、組織改正を実施することで、業務の効率化が推進されていると認められる。</p> <p>こうした取組みの結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「AA」が1回、「A」が4回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」:</p> <p>中央集計機関としての統計センターが行う製表業務には高度な専門性と高い技術レベルが要求されるため、職員の専門的能力の開発・向上に重点を置いた人材育成は必須である。</p> <p>「効率性」:</p> <p>各年度において研修内容の見直しを行うほか、各課室等において、それぞれの業務に必要な知識を有する人材を育成するためや各製表事務を統一かつ正確、迅速に処理するための業務研修を実施することにより、効率的な製表業務の推進に必要な高度な技術の継承・発展が図られるとともに、従来の調査別の組織体制を事務の種類ごとの機能別組織体制に変更し、業務の繁閑に応じて機動的に事務を割り振る体制（スタッフ制）を導入することにより、製表部各課等においては、各調査それぞれの製表業務の進捗状況に応じて担当を超えて業務を割り振るなど、職員の機動的な運用が可能となっている。</p>			

「有効性」:

それぞれの業務に必要な知識を有する人材を育成するためや各製表事務を統一的かつ正確、迅速に処理するための業務研修を実施するとともに、従来の調査別の組織体制を事務の種類ごとの機能別組織体制に変更し、業務の繁閑に応じて機動的に事務を割り振る体制（スタッフ制）の導入によって、職員の機動的な運用を行うことは、高品質で低コストのサービスを提供する上で有効である。

中期計画の該当項目	第1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 業務・システムの最適化に関する事項		
中期目標の記載事項			
センターは、「独立行政法人等の業務・システム最適化実現方策」(平成17年6月29日各府省情報化統括責任者(CIO)連絡会議決定)を踏まえ、国の行政機関の取組に準じて、主要な業務・システムに係る監査及び刷新可能性調査を実施し、業務・システムの最適化を実現するための取組を行う。また、業務・システムに関する最適化計画については、平成19年度末までのできる限り早期に策定し、公表する。			
中期計画の記載事項			
「独立行政法人等の業務・システム最適化実現方策」(平成17年6月29日各府省情報化統括責任者(CIO)連絡会議決定)に基づき、システムコスト削減、システム調達における透明性の確保及び業務運営の合理化を実現するため、国の行政機関の取組に準じて、刷新可能性調査等を通じ、平成19年度末までのできる限り早期に業務・システムに関する最適化計画を策定する。その策定に当たっては、業務運営の効率化・合理化に係る効果・目標を数値により明らかにする。なお、策定した最適化計画は速やかにインターネットの利用その他の方法により公表する。			
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果			
小項目	小項目に対する実施結果(具体的数値があれば記入)		
「独立行政法人等の業務・システム最適化実現方策」に基づき、システムコスト削減、システム調達における透明性の確保及び業務運営の合理化を実現するため、国の行政機関の取組に準じて、刷新可能性調査等を通じ、平成19年度末までのできる限り早期に業務・システムに関する最適化計画を策定する。その策定に当たっては、業務運営の効率化・合理化に係る効果・目標を数値により明らかにする。なお、策定した最適化計画は速やかにインターネットの利用その他の方法により公表する。	業務・システムの見直し方針及び最適化計画の策定 平成18年度において、最適化の対象となる業務・システムについて、「業務・システム最適化計画策定指針(ガイドライン)」(平成18年3月31日各府省情報化統括責任者(CIO)連絡会議決定)に準じて現状分析及び課題抽出を行い、19年3月に「独立行政法人統計センターにおける業務・システムの見直し方針」を策定するとともに、同年10月に「独立行政法人統計センターにおける業務・システム最適化計画」(以下「最適化計画」という。)を決定し、同年12月に、統計センターのホームページに掲載し公表した。 なお、最適化計画の対象システムに係る年間経費については、本取組を始めた平成18年度に比べて、最適化計画の最終年度である23年度に約3億9000万円の削減が見込まれている。		
当該業務に係る事業費用	83,913千円	当該業務に従事する職員数	890人の内数
当該項目の評価	A		

<p>【評価結果の説明】 平成18年度において、最適化の対象となる業務・システムについて、「業務・システム最適化計画策定指針（ガイドライン）」（平成18年3月31日各府省情報化統括責任者（CIO）連絡会議決定）に準じて現状分析及び課題抽出を行い、19年3月に「独立行政法人統計センターにおける業務・システムの見直し方針」を策定するとともに、同年10月に「独立行政法人統計センターにおける業務・システム最適化計画」（以下「最適化計画」という。）を策定し、同年12月に統計センターのホームページに掲載し公表している。</p>
<p>最適化計画の対象システムに係る年間経費について、本取組を始めた平成18年度に比べて、最適化計画の最終年度である23年度に約3億9000万円の削減が見込まれており、業務運営の効率化・合理化に係る効果・目標が数値により明らかにされている。 こうした取組みの結果、本評価項目が追加された平成18年度以降の評価は、「A」が2回という結果である。 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p>
<p>「必要性」: 経済センサス等の新たな統計調査に係る業務、新統計法を踏まえた統計データの二次利用、政府統計共同利用システムの運用管理に係る業務など新たな役割を積極的に担うこととなる一方で、行政機関と同様に徹底した合理化が求められていることから、業務・システムの最適化計画を着実に推進し、業務運営の更なる高度化・効率化を図ることが必要である。</p>
<p>「効率性」: 業務・システムの最適化計画の策定にあたり、外部の支援業者を企画競争で選定するなど効率的に業務を行っている。</p>
<p>「有効性」: 業務・システムの最適化計画を推進することにより、ハードウェアのダウンサイジングによる経費の削減、ハードウェア資源の統合及び標準化による全体合理化と経費削減が図られるため、統計センター全体の業務運営の効率化及び経費削減に効果的である。</p>

中期計画の該当項目	第1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置		
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果			
小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）		
「規制改革・民間開放推進3か年計画（再改定）」（平成18年3月31日閣議決定）に基づき、製表業務の種類、性格、専門性等に応じた民間開放を推進する。平成19年度に実施する就業構造基本調査及び全国物価統計調査については、調査票の受付・整理及びデータ入力業務を民間委託する。また、符号格付業務の民間開放の具体化に向けて、符号格付業務を試行的に民間委託し、実証的な検証を行う。	製表業務の民間開放の推進 統計センターの業務の民間開放については、製表業務の中核を占める符号格付業務を試行的に民間事業者に委託して実地に検証を行ったほか、製表業務の民間開放に対する考え方について整理を行った。 その結果、既に民間委託を実施しているデータ入力事務に加え、平成19年度の大規模周期調査から調査票の受付整理事務の民間開放を実施するとともに、国勢調査を始めとする一定の業務量と業務期間を有する大規模周期調査の符号格付事務についても順次民間開放を実施する方針とされた。この方針を受けて、平成19年就業構造基本調査及び平成19年全国物価統計調査の調査票の受付整理事務とOCR入力事務について民間委託を実施した。		
当該業務に係る事業費用	71,351千円	当該業務に従事する職員数	890人の内数
当該項目の評価	A		
【評価結果の説明】 「規制改革・民間開放推進3か年計画（再改定）」（平成18年3月31日閣議決定）に基づき、総務省統計局と一体となって、官民競争入札等監理委員会と連携しつつ、民間開放に向けた検討に資するための資料作成、検証等に取り組むとともに、 <u>符号格付事務の民間開放の具体化に向けて、符号格付事務を試行的に民間事業者に委託し、実地に検証を行ったほか、調査票の受付・整理、データ入力及び符号格付以外の製表業務の民間開放に対する考え方について整理を行い、民間委託の方針が定められた。</u> 特に、符号格付事務の試行的民間委託については、格付精度向上を図るために、2回目を実施し、その結果を踏まえて今後実施予定の民間開放へ向けて準備を進めていくこととしている。 さらに、定められた方針を受けて <u>平成19年就業構造基本調査及び平成19年全国物価統計調査の調査票の受付整理事務及びOCR入力事務の民間委託を実施している。</u> これらの取組の成果は、今後の業務運営の効率化及び経費削減に大きく寄与することが期待できることから、全体として、業務運営の高度化・効率化に向けた経営努力が積極的に行われていると判断できる。 こうした取組みの結果、本評価項目が追加された <u>平成19年度の評価は、「A」という結果である。</u> 以上のことから、目標を十分達成していると判断した			
「必要性」: 国の厳しい行財政事情の下において、民間事業者の創意と工夫を活用して業務運営の一層の効率化を実現することが必要となっており、統計センターの業務についても、業務の種類、性格、専門性等を勘案し、業務運営の一層の効率化の観点から、官民競争入札、民間競争入札その他の民間開放を推進することとされていることを踏まえると、必要な取組である。			

「効率性」:

統計センターの製表業務における符号格付事務は、統計センター全体の製表要員の投入量の約半分を占める主要業務となっており、民間開放によって当該業務の効率化を推進することが、統計センター業務の効率化の鍵を握ることとなる。

「有効性」:

経済センサス等の新たな統計調査に係る業務、新統計法を踏まえた統計データの二次利用、政府統計共同利用システムの運用管理に係る業務など新たな役割を積極的に担うこととなる一方で、「行政改革の重要方針」を踏まえた、人員削減の取組みを推進するための更なる合理化策の一つとして、有効な手段となり得ることが期待できる。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (1) 国勢調査
-----------	---

中期目標の記載事項

各種施策その他の基礎資料を得るために総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、センターは、社会・経済情勢に対応した統計データを迅速かつ的確に作成するとの観点から、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに該当区分の製表結果を総務省に提出する。また、製表結果の精度確保やプライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期計画の記載事項

総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）										
・平成12年に実施された国勢調査に関する製表事務を引き続き進める。 ・平成17年に実施される国勢調査に関する製表事務を行う。	<製表事務の実施状況> 製表事務の実施状況は、表のとおりである。										
	（単位：人日）										
		平成12年調査		平成17年調査		計			期限	適合度	満足度
		従来ベース 予定 ¹	実績	従来ベース 予定	実績	従来ベース 予定	実績	対従来比 ²			
	15年度	58,079	45,940	961	972	59,040	46,912	-12,128 (-21%)			
	16年度	11,739	13,425	5,984	5,972	17,723	19,397	+1,674 (+9%)			
	17年度	-	-	43,896	46,504	43,896	46,504	+2,608 (+6%)			
	18年度	-	-	86,964	87,755	86,964	87,755	+791 (+1%)			
19年度	-	-	58,025	63,681	58,025	63,681	+5,656 (+10%)				
合計	69,818	59,365	195,830	204,884	265,648	264,249	-1,399 (-1%)				

1 「従来ベース予定」とは、自動化や民間委託などの効率化を見込まない従来の方式で今回の製表業務を行った場合の予定投入量である。

2 「対従来比」とは、従来ベース予定に対する実績の差である。

3 平成15年度においては、「適合度」「満足度」の把握は行っていない。

	<p>ア 投入量 平成16年度以降の各年度において、対従来比で投入量がプラスとなっているが、これは、当初計画にない追加業務（平成12年調査の新産業分類特別集計産業新大分類分析表の集計）への対応（16年度）、平成17年調査の製表基準書の変更及び調査関係書類の追送による準備事務の増加（18年度）、翌年度の予定業務を当年度に前倒しして実施したことによるもの（17年度、18年度、19年度）などが主な要因である。</p> <p>一方、平成12年調査の調査票イメージデータ及び索引データベースの活用（15年度）、平成17年調査の符号格付事務等のシステムの動作環境の向上（18年度、19年度）などにより事務の効率化が図られた。</p> <p>この結果、第1期中期目標期間全体では、対従来比1,399人日（1%）の減少となった。</p> <p>イ 特記事項 （ア）総務省統計局及び地方公共団体への支援 地方公共団体における産業大分類格付事務の円滑な実施と格付精度の確保を図るために、「都道府県産業大分類格付事務打合せ会」（総務省統計局主催）へ講師を派遣した。また、地方公共団体への事務支援を実施するとともに、地方公共団体における産業大分類格付事務期間中の疑義照会に対応するため、総務省統計局と合同で専門職員による体制を整備するなど、同局及び地方公共団体に対し、積極的な協力・支援に努めた。</p> （イ）公表の早期化への対応 平成17年国勢調査の製表に当たっては、平成12年国勢調査に比べて統計センターへの調査票の提出期限が約3週間延長されたこと、第3次基本集計及び抽出詳細集計の公表時期がそれぞれ約3か月、6か月早期化されたことにより、全体の製表期間が大幅に短縮されたことで業務の負担増となったが、総務省統計局の要望どおりに対応した。		
当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	264,249人日
当該項目の評価	A A		

【評価結果の説明】

総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果を提出している。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。

平成16年度以降の各年度において、対従来比で投入量がプラスとなっているが、これは、当初計画にない追加業務（平成12年調査の新産業分類特別集計産業新大分類分析表の集計）への対応（16年度）、平成17年調査の製表基準書の変更及び調査関係書類の追送による準備事務の増加（18年度）、翌年度の予定業務を当年度に前倒して実施したことによるもの（17年度、18年度、19年度）などが主な要因である。これらの業務の前倒しは、翌年度に従来であれば投入が必要となる人員を他の業務に振り替えて投入することが可能となり、人員の活用ができることから、効率化に大きくつながるものであるといえる。

一方、平成12年調査について、調査票イメージデータ及び索引データベースの活用（15年度）、新産業分類格付システムの適用（16年度）、平成17年調査における、結果表審査事務のシステム化（18年度）、符号格付事務等のシステムの動作環境の向上（18年度、19年度）などにより事務の効率化が図られたことにより、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-1,399人日(-1%)となっており、効率的な業務運営が行われていると認められる。

プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。

さらに、平成17年調査では、平成12年調査に比べ統計センターへの調査票の提出期限が約3週間延長されたことに加え、第3次基本集計及び抽出詳細集計の公表時期がそれぞれ約3か月、6か月早期化されたことにより、全体の製表期間が大幅に短縮され負担増となったものの、業務を効率的に実施し、同局からの要望に柔軟に対応している。

また、平成17年度において、地方公共団体における産業大分類格付事務の円滑な実施と格付精度の確保を図るために、「都道府県産業大分類格付事務打合せ会」（総務省統計局主催）へ講師を派遣したほか、地方公共団体への事務支援を実施するとともに、地方公共団体における産業大分類格付事務期間中の疑義照会に対応するため、同局と合同で専門職員による体制を整備するなど、同局及び地方公共団体に対し、積極的な協力・支援に努めている。

各年度の評価について、特に、平成15年度は、調査票イメージデータ及び索引データベースの活用により調査全体で対従来比-21%となる大幅な投入量削減を高く評価し「A A」としたほか、16年度は、新産業分類格付システムの適用により、新産業分類符号格付事務などの効率化に努めた結果、投入量が当初予定比-13%と大幅に削減されていることを高く評価し「A A」とした。また、17年度は、同局から示す製表基準書について、統計センターからその標準化の提案を行うとともに、統計センターに蓄積された経験やノウハウを活用し、品質管理方法や欠測値の補定方法を提示するなど、同局に対して効果的な支援が積極的に行われたことにより、製表基準の提示後の追加・変更回数が縮減されるなど、統計センターと委託者双方の事務負担が軽減され、投入量の増加も抑制され、無形の効果としても、業務運営に対する職員の意識が向上したことを高く評価し「A A」とした。

この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「A A」が3回、「A」が2回という結果である。

以上のように、国勢調査は、我が国の最も基本となる統計調査であると同時に、統計センターが製表業務を行う中で最大規模の統計調査であり、この調査結果の公表の遅延等による行政施策、国民生活等への影響は非常に大きくなっている。このため統計センターにおいては、国勢調査の製表業務に遅延等が生じないように、常に要員の確保、人材の配置を重点的かつ優先的に行っており、他の製表業務において要員に余裕が生じた場合には、常に国勢調査の製表業務にその要員を投入し、業務を前倒して進めるような措置を講じているところである。また、国勢調査の製表業務においては、他の調査の製表業務に先駆けて新たな製表技術を導入し、製表業務全体への適用の試金石としていることから、例えば国勢調査の投入量が一定程度増加した場合であっても統計センター全体の業務の効率化を図る上で重要な位置づけとなっている。

また、我が国で最も基本となる統計調査であるゆえ、当初計画にない業務の追加依頼が多々あり、行政施策、国民生活への影響を考慮した場合には、統計センターとしてはこれに応じる必要がある。

このような中、製表業務の効率化により投入量の減少を生じさせ、投入を免れる要員を他の業務に振り替えられることは、統計センター全体の業務を効率よく円滑に進める上での重要な要素となっている。このため、国勢調査における投入量の抑制は、単一の調査のみならず、他の調査の製表業務の投入量の拡大に資するため非常に重要な役割を担っているところである。

以上のことを踏まえ、目標を大幅に上回って達成していると判断した。

「必要性」:

秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。

「効率性」:

平成12年調査について、調査票イメージデータ及び索引データベースの活用（15年度）、新産業分類格付システムの適用（16年度）、平成17年調査について、結果表審査事務のシステム化（18年度）、符号格付事務等のシステムの動作環境の向上（18年度、19年度）などにより事務の効率化が図られ、第1期中期目標期間全体の投入量は、対従来比-1,399人日（-1%）となり、効率的な業務運営が行われている。

「有効性」:

国勢調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた（製表基準に合致した）処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供（公表）が行われ、選挙区の画定、地方交付税交付金の算出、少子高齢化対策、産業政策、防災対策など関係方面において調査結果が利活用されている。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (2) 事業所・企業統計調査
-----------	---

中期目標の記載事項

各種施策その他の基礎資料を得るために総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、センターは、社会・経済情勢に対応した統計データを迅速かつ的確に作成するとの観点から、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに該当区分の製表結果を総務省に提出する。また、製表結果の精度確保やプライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期計画の記載事項

総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）																																																																																																													
<ul style="list-style-type: none"> 平成13年に実施された事業所・企業統計調査（甲調査及び乙調査）に関する製表事務を引き続き進める。 平成16年に実施される事業所・企業統計調査（簡易調査）に関する製表事務を行う。 平成18年に実施される事業所・企業統計調査（甲調査及び乙調査）に関する製表事務を行う。 	<p><製表事務の実施状況> 製表事務の実施状況は、表のとおりである。</p> <p style="text-align: right;">（単位：人日）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">平成13年調査</th> <th colspan="2">平成16年調査</th> <th colspan="2">平成18年調査</th> <th colspan="3">計</th> <th rowspan="2">期限</th> <th rowspan="2">適合度</th> <th rowspan="2">満足度</th> </tr> <tr> <th>従来ベース 予定</th> <th>実績</th> <th>従来ベース 予定</th> <th>実績</th> <th>従来ベース 予定</th> <th>実績</th> <th>従来ベース 予定</th> <th>実績</th> <th>対従来比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15年度</td> <td>3,506</td> <td>3,540</td> <td>343</td> <td>968</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>3,849</td> <td>4,508</td> <td>+659 (+17%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2,444</td> <td>2,330</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2,444</td> <td>2,330</td> <td>-114 (-5%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>16,817</td> <td>9,150</td> <td>1,326</td> <td>1,199</td> <td>18,143</td> <td>10,349</td> <td>-7,794 (-43%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>6,891</td> <td>6,490</td> <td>6,891</td> <td>6,490</td> <td>-401 (-6%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>6,948</td> <td>8,257</td> <td>6,948</td> <td>8,257</td> <td>+1,309 (+19%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3,506</td> <td>3,540</td> <td>19,604</td> <td>12,448</td> <td>15,165</td> <td>15,946</td> <td>38,275</td> <td>31,934</td> <td>-6,341 (-17%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>											平成13年調査		平成16年調査		平成18年調査		計			期限	適合度	満足度	従来ベース 予定	実績	従来ベース 予定	実績	従来ベース 予定	実績	従来ベース 予定	実績	対従来比	15年度	3,506	3,540	343	968	-	-	3,849	4,508	+659 (+17%)				16年度	-	-	2,444	2,330	-	-	2,444	2,330	-114 (-5%)				17年度	-	-	16,817	9,150	1,326	1,199	18,143	10,349	-7,794 (-43%)				18年度	-	-	-	-	6,891	6,490	6,891	6,490	-401 (-6%)				19年度	-	-	-	-	6,948	8,257	6,948	8,257	+1,309 (+19%)				合計	3,506	3,540	19,604	12,448	15,165	15,946	38,275	31,934	-6,341 (-17%)			
		平成13年調査		平成16年調査		平成18年調査		計				期限	適合度	満足度																																																																																																
		従来ベース 予定	実績	従来ベース 予定	実績	従来ベース 予定	実績	従来ベース 予定	実績	対従来比																																																																																																				
	15年度	3,506	3,540	343	968	-	-	3,849	4,508	+659 (+17%)																																																																																																				
	16年度	-	-	2,444	2,330	-	-	2,444	2,330	-114 (-5%)																																																																																																				
	17年度	-	-	16,817	9,150	1,326	1,199	18,143	10,349	-7,794 (-43%)																																																																																																				
	18年度	-	-	-	-	6,891	6,490	6,891	6,490	-401 (-6%)																																																																																																				
	19年度	-	-	-	-	6,948	8,257	6,948	8,257	+1,309 (+19%)																																																																																																				
合計	3,506	3,540	19,604	12,448	15,165	15,946	38,275	31,934	-6,341 (-17%)																																																																																																					

ア 投入量

平成18年調査の結果表審査の段階で総務省統計局からデータ訂正依頼があったことにより、平成19年度は、再度、データ訂正、チェックリスト審査事務、結果表審査事務を行ったこと及び年度計画になかった新産業分類組替事務が急ぎよ依頼されたことにより、投入量が増加した。特に、新産業分類組替事務については、事務期間が約2か月間と非常にタイトなスケジュールであった。このため、コンピュータによる自動組替を行ったが、自動組替ができない事業所が約33万件と非常に多くなったために、自動組替ができない事業所については、キーワードにより個別データを検索した上で自動格付処理を行うなどして、格付精度を確保しつつ事務の効率化を図り対応した。

一方、平成16年調査の産業分類符号格付検査事務において、研究成果である産業分類自動格付システムの導入（17年度）、平成18年調査の調査票乙が電子媒体形式となったことに伴う内容審査事務のシステム化（18年度）などにより、大幅な事務の効率化が図られた。この結果、第1期中期目標期間全体では、対従来比6,341人日（17%）の減少となった。

イ 特記事項

データチェック審査事務等において、統計センターが直接、府省・都道府県又は調査対象企業へ疑義照会を行うなど、正確性の確保と統計調査集計業務全体の合理化を図ることにより、総務省統計局への支援・協力を努めた。

また、次の（ア）～（エ）の件により、業務の負担増となったが、他の業務とのスケジュールや要員の調整等を行って、投入量の大幅な変更や定められた期限への遅れもなく、同局の要望どおりに対応した。

（ア）平成16年事業所・企業統計調査の速報集計

都道府県からのデータテープ等の提出が遅れたことに伴い、総務省統計局は2段階提出とするよう製表基準書を変更した（平成17年12月下旬）。このため、統計センターにおけるデータテープの検査事務が二重となり煩雑となった。さらに、結果公表の早期化による集計期間の短縮も伴って、事務スケジュールがひっ迫した状態となった。

（イ）平成16年事業所・企業統計調査の確報集計

名簿データテープのデータ訂正が約1万2000件（平成13年調査に比べ約2倍）と非常に多く発生し、さらに、総務省統計局からの製表基準書の一部について、詳細な取扱いの決定が遅れたことから、データ訂正・チェックリスト審査事務が煩雑となり、事務スケジュールもひっ迫した状態となった。また、結果数値に特異値があったために、18県分についてデータ訂正・チェックリスト審査事務から再演算を行うこととなり、結果表審査事務のスケジュールがひっ迫した状態となった。

（ウ）平成18年事業所・企業統計調査のプレプリントデータの修正及び再作成への対応

総務省統計局からの製表基準書に基づいて作成した調査票等のプレプリントの内容について、都道府県からの調査区修正情報の報告漏れや報告誤りが原因で、調査区番号等に一部誤りがあることが総務省統計局において判明した。このため、調査への影響を考慮し同局からのプレプリントデータの修正、再作成の要請にこたえることとし、45県分（6,855事業所）について調査開始までに対応した。

（エ）平成18年事業所・企業統計調査の確報集計

名簿データテープのデータ訂正が約1万件（平成13年調査に比べ約1.7倍）と非常に多く発生し、データ訂正・チェックリスト審査事務が煩雑となり、事務スケジュールがひっ迫した状態となり、チェックリストの出力方法を改善するなどして対応した。

さらに、結果表審査の段階においても、総務省統計局からのデータ訂正依頼があったために、44県分についてデータ訂正・チェックリスト審査事務から再演算を行うこととなり、結果表審査事務のスケジュールがひっ迫した状態となった。

当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	31,934人日
当該項目の評価	A		

【評価結果の説明】

総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果を提出している。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。

平成16年調査の産業分類符号格付検査事務における、研究成果である産業分類自動格付システムの導入（17年度）、平成18年調査の調査票乙が電子媒体形式となったことに伴う内容審査事務のシステム化（18年度）などにより、大幅な事務の効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-6,341人日(-17%)となっており、効率的な業務運営が行われていると認められる。

プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。

また、平成16年調査の速報集計において、結果公表の早期化による集計期間の短縮に加えて、都道府県からのデータテープ等の提出の遅れに伴う製表基準書の変更に対応したこと、同調査の確報集計において、名簿データテープのデータ訂正が約1万2000件（平成13年調査に比べ約2倍）発生したことへの対応や結果数値の特異値の処理のために再演算を行ったこと、平成18年調査において、調査票甲及び調査区内事業所名簿のプレプリントの誤り（都道府県から調査区修正情報の報告誤りによる）の処理について同局の要請に応えたこと、同調査の確報集計において、名簿データテープのデータ訂正が約1万件（平成13年調査に比べ約1.7倍）発生したことへの対応や同局からのデータ訂正依頼に伴い44県分の再演算を行ったこと、さらに19年度において、年度計画になかった新産業分類組替え事務の急な追加依頼に対応したことなど、非常に多くの負担増があったものの、定められた期限への遅れもなく、同局の要望どおりに対応していることは、高く評価できる。

さらに、平成18年度においては、データチェック審査事務等において、統計センターが直接、府省・都道府県又は調査対象企業へ疑義照会を行うなど、正確性の確保と統計調査集計業務全体の合理化を図ることにより、同局への支援・協力を努めている。

この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「AA」が2回、「A」が2回、「B」が1回という結果である。

以上のことから、目標を十分達成していると判断した。

「必要性」:

秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。

「効率性」:

平成16年調査の産業分類符号格付検査事務における、研究成果である産業分類自動格付システムの導入（17年度）、平成18年調査の調査票乙が電子媒体形式となったことに伴う内容審査事務のシステム化（18年度）などにより、大幅な事務の効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-6,341人日(-17%)となっており、効率的な業務運営が行われている。

「有効性」:

事業所・企業統計調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、地方税制度、経済政策、雇用政策など関係方面において調査結果が活用されている。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (3) 住宅・土地統計調査
-----------	--

中期目標の記載事項

各種施策その他の基礎資料を得るために総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、センターは、社会・経済情勢に対応した統計データを迅速かつ的確に作成するとの観点から、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに該当区分の製表結果を総務省に提出する。また、製表結果の精度確保やプライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期計画の記載事項

総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）
-----	--------------------------

・平成15年に実施される住宅・土地統計調査に関する製表事務を行う。
・平成20年に実施される住宅・土地統計調査に関する製表事務を行う。

< 製表事務の実施状況 >
製表事務の実施状況は、表のとおりである。

（単位：人日）

	平成15年調査		平成20年調査 (試験調査)		計			期限	適合度	満足度
	従来 ベース 予定	実績	従来 ベース 予定	実績	従来 ベース 予定	実績	対従来比			
15年度	13,822	11,382	-	-	13,822	11,382	-2,440 (-18%)			
16年度	21,481	18,385	-	-	21,481	18,385	-3,096 (-14%)			
19年度	-	-	447	577	447	577	+130 (+29%)			
合計	35,303	29,767	447	577	35,750	30,344	-5,406 (-15%)			

投入量
平成20年調査の試験調査では、前回からの結果表数増加（9表 11表）総務省統計局から提示された製表基準書の一部不明瞭による同局への確認や疑義等のやり取りのために、投入量が増加した。
一方、平成15年調査において、従来人手で行っていた調査票の種類(甲票及び乙票)別仕分けをコンピュータ処理としたこと（15年

	<p>度) 自動格付システムの採用による市区町村コード格付事務の廃止(15年度) 土地に関する面積の簡易集計を結果票審査事務に先駆けて行い、事前に特異値を検出する方法を採ったことによる結果表審査事務の効率化(16年度)などにより、大幅な事務の効率化が図られた。</p> <p>この結果、第1期中期目標期間全体では、対従来比5,406人日(15%)の減少となった。</p>		
当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	30,344人日
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>平成15年調査において、従来人手で行っていた調査票の種類(甲票及び乙票)別仕分けをコンピュータ処理としたこと(15年度) 自動格付システムの採用による市区町村コード格付事務の廃止(15年度) 土地に関する面積の簡易集計を結果表審査事務に先駆けて行い、事前に特異値を検出する方法を採ったことによる結果表審査事務の効率化(16年度)などにより、大幅な事務の効率化が図られたことにより、<u>第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-5,406人日(-15%)</u>となっており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「AA」が1回、「A」が1回、「B」が1回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」:</p> <p>秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」:</p> <p>平成15年調査において、従来人手で行っていた調査票の種類(甲票及び乙票)別仕分けをコンピュータ処理としたこと(15年度) 自動格付システムの採用による市区町村コード格付事務の廃止(15年度) 土地に関する面積の簡易集計を結果表審査事務に先駆けて行い、事前に特異値を検出する方法を採ったことによる結果表審査事務の効率化(16年度)などにより、大幅な事務の効率化が図られたことにより、<u>第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-5,406人日(-15%)</u>となっており、効率的な業務運営が行われている。</p>			

「有効性」:

住宅・土地統計調査試験調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた（基準に合致した）処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局における迅速な統計調査結果の提供（公表）が行われ、行政施策の企画立案（住宅建設五箇年計画など）、地域・産業の振興と地域の防災計画など関係方面における調査結果の利活用が期待される。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (4) 就業構造基本調査
-----------	---

中期目標の記載事項

各種施策その他の基礎資料を得るために総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、センターは、社会・経済情勢に対応した統計データを迅速かつ的確に作成するとの観点から、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに該当区分の製表結果を総務省に提出する。また、製表結果の精度確保やプライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期計画の記載事項

総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）																																																														
<p>・平成14年に実施された就業構造基本調査に関する製表事務を引き続き進める。</p> <p>・平成19年に実施される就業構造基本調査に関する製表事務を行う。</p>	<p><製表事務の実施状況> 製表事務の実施状況は、表のとおりである。</p> <p style="text-align: right;">（単位：人日）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">平成14年調査</th> <th colspan="2">平成19年調査</th> <th colspan="3">計</th> <th rowspan="2">期限</th> <th rowspan="2">適合度</th> <th rowspan="2">満足度</th> </tr> <tr> <th>従来ベース 予定</th> <th>実績</th> <th>従来ベース 予定</th> <th>実績</th> <th>従来ベース 予定</th> <th>実績</th> <th>対従来比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15年度</td> <td>4,925</td> <td>3,643</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>4,925</td> <td>3,643</td> <td>-1,282 (-26%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>15,023</td> <td>11,427</td> <td>15,023</td> <td>11,427</td> <td>-3,596 (-24%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,925</td> <td>3,643</td> <td>15,023</td> <td>11,427</td> <td>19,948</td> <td>15,070</td> <td>-4,878 (-24%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>								平成14年調査		平成19年調査		計			期限	適合度	満足度	従来ベース 予定	実績	従来ベース 予定	実績	従来ベース 予定	実績	対従来比	15年度	4,925	3,643	-	-	4,925	3,643	-1,282 (-26%)				19年度	-	-	15,023	11,427	15,023	11,427	-3,596 (-24%)				合計	4,925	3,643	15,023	11,427	19,948	15,070	-4,878 (-24%)								
		平成14年調査		平成19年調査		計			期限	適合度	満足度																																																				
		従来ベース 予定	実績	従来ベース 予定	実績	従来ベース 予定	実績	対従来比																																																							
	15年度	4,925	3,643	-	-	4,925	3,643	-1,282 (-26%)																																																							
19年度	-	-	15,023	11,427	15,023	11,427	-3,596 (-24%)																																																								
合計	4,925	3,643	15,023	11,427	19,948	15,070	-4,878 (-24%)																																																								
<p>投入量</p> <p>独立行政法人化に伴う機動的な人員配置（15年度）平成19年調査の受付整理事務の民間委託（19年度）他調査での符号格付事務経験を持つ、事務に習熟した非常勤職員を投入したことにより研修が不要になるとともに作業能率が上昇したこと（19年度）などにより、大幅な事務の効率化が図られた。</p> <p>この結果、第1期中期目標期間全体では、対従来比4,878人日（24%）の減少となった。</p>																																																															

当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	15,070人日
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>独立行政法人化に伴う機動的な人員配置（15年度） 符号格付事務及びチェックリスト審査事務のシステム化（調査票そのものを用いずに調査票イメージデータをPCに表示して事務を行うなど）（15年度） 平成19年調査の受付整理事務の民間委託（19年度） 他調査での符号格付事務経験を持つ、事務に習熟した非常勤職員を投入したことにより研修が不要になるとともに作業能率が上昇したこと（19年度）などにより、大幅な事務の効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-4,878人日（-24%）となっており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「AA」が1回、「B」が1回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」:</p> <p>秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」:</p> <p>独立行政法人化に伴う機動的な人員配置（15年度） 符号格付事務及びチェックリスト審査事務のシステム化（調査票そのものを用いずに調査票イメージデータをPCに表示して事務を行うなど）（15年度） 平成19年調査の受付整理事務の民間委託（19年度） 他調査での符号格付事務経験を持つ、事務に習熟した非常勤職員を投入したことにより研修が不要になるとともに作業能率が上昇したこと（19年度）などにより、大幅な事務の効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-4,878人日（-24%）となっており、効率的な業務運営が行われている</p> <p>「有効性」:</p> <p>就業構造基本調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた（製表基準に合致した）処理を行い、製表結果の期限までに同局に提出したことにより、同局における迅速な統計調査結果の提供（公表）が行われ、行政施策の企画立案、少子高齢化対策、雇用対策など関係方面において調査結果が利活用される。</p>			

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (5) 全国消費実態調査
-----------	---

中期目標の記載事項

各種施策その他の基礎資料を得るために総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、センターは、社会・経済情勢に対応した統計データを迅速かつ的確に作成するとの観点から、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに該当区分の製表結果を総務省に提出する。また、製表結果の精度確保やプライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期計画の記載事項

総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）																																						
・平成16年に実施される全国消費実態調査に関する製表事務を行う。	<p>＜製表事務の実施状況＞ 製表事務の実施状況は、表のとおりである。</p> <p style="text-align: right;">（単位：人日）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">平成16年調査</th> <th rowspan="2">期限</th> <th rowspan="2">適合度</th> <th rowspan="2">満足度</th> </tr> <tr> <th>従来ベース予定</th> <th>実績</th> <th>対従来比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16年度</td> <td>42,392</td> <td>36,592</td> <td>-5,800 (-14%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td>47,899</td> <td>33,160</td> <td>-14,739 (-31%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td>415</td> <td>295</td> <td>-120 (-29%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>90,706</td> <td>70,047</td> <td>-20,659 (-23%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ア 投入量 家計簿格付・入力システムの導入に伴い、家計簿の格付、入力等の各事務を分離して処理する方法から、一体的に処理する方法に変更したことにより、大幅な事務の効率化が図られた。 この結果、第1期中期目標期間全体で、対従来比20,659人日（23%）の減少となった。</p>		平成16年調査			期限	適合度	満足度	従来ベース予定	実績	対従来比	16年度	42,392	36,592	-5,800 (-14%)				17年度	47,899	33,160	-14,739 (-31%)				18年度	415	295	-120 (-29%)				合計	90,706	70,047	-20,659 (-23%)			
	平成16年調査			期限	適合度				満足度																														
	従来ベース予定	実績	対従来比																																				
16年度	42,392	36,592	-5,800 (-14%)																																				
17年度	47,899	33,160	-14,739 (-31%)																																				
18年度	415	295	-120 (-29%)																																				
合計	90,706	70,047	-20,659 (-23%)																																				

	<p>イ 特記事項</p> <p>総務省統計局からの製表基準書について、提示の遅れ、内容の不備、提示後の変更などがあったことにより事務の進捗よくに支障が出るとともに、新潟・福島豪雨（平成16年7月）、新潟中越地震（同年10月）等の災害の影響により、該各市町村の集計上の取扱いが別に定められたことに伴って製表基準書が変更され、製表業務が追加された。</p> <p>これらにより、業務の負担増となったが、他の業務とのスケジュールや要員の調整等を行って、投入量の大幅な変更や定められた期限への遅れもなく、同局の要望どおりに対応した。</p>		
当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	70,047人日
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>総務省統計局から提示された製表基準書に基づき、定められた期限に向けて製表業務が行われている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>家計簿格付・入力システムの導入に伴い、家計簿の格付、入力等の各事務を分離して処理する方法から、一体的に処理する方法に変更したことにより、大幅な事務の効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-20,659人日（-23%）となっており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>また、同局からの製表基準書について、提示の遅れ、内容の不備、提示後の変更などがあったことにより事務の進捗よくに支障が出るとともに、新潟・福島豪雨（平成16年7月）、新潟中越地震（同年10月）等の災害の影響により、該各市町村の集計上の取扱いが別に定められたことに伴う製表基準書の変更による追加業務への対応により、負担増となったものの、同局の要望どおりに対応している。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「AA」が1回、「A」が2回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」： 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」： 家計簿格付・入力システムの導入に伴い、家計簿の格付、入力等の各事務を分離して処理する方法から、一体的に処理する方法に変更したことにより、大幅な事務の効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-20,659人日（-23%）となっており、効率的な業務運営が行われている。</p>			

「有効性」:

全国消費実態調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、国民経済計算の推計、年金政策、経済財政白書など関係方面において調査結果が利活用されている。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (6) 全国物価統計調査
-----------	---

中期目標の記載事項

各種施策その他の基礎資料を得るために総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、センターは、社会・経済情勢に対応した統計データを迅速かつ的確に作成するとの観点から、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに該当区分の製表結果を総務省に提出する。また、製表結果の精度確保やプライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期計画の記載事項

総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）
-----	--------------------------

・平成14年に実施された全国物価統計調査に関する製表事務を引き続き進める。
・平成19年に実施される全国物価統計調査に関する製表事務を行う。

<製表事務の実施状況>
製表事務の実施状況は、表のとおりである。

(単位：人日)

	平成14年調査		平成19年調査		計			期限	適合度	満足度
	従来ベース 予定	実績	従来ベース 予定	実績	従来ベース 予定	実績	対従来比			
15年度	6,092	4,839	-	-	6,092	4,839	-1,253 (-21%)			
19年度	-	-	4,651	4,454	4,651	4,454	-197 (-4%)			
合計	6,092	4,839	4,651	4,454	10,743	9,293	-1,450 (-13%)			

投入量
平成14年調査の大規模店舗・特売価格・小規模店舗結果の集計において、店舗分布・価格分布審査事務を充実させ、個別データの精査を十分行ったことにより、結果表審査事務が軽減されたこと、平成19年調査の受付整理事務を民間委託したことなどにより事務の効率化が図られた。
この結果、第1期中期目標期間全体で、対従来比1,450人日（13%）の減少となった。

当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	9,293人日
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>総務省統計局から提示された製表基準書に基づき、定められた期限に向けて製表業務が行われている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>平成14年調査の大規模店舗・特売価格・小規模店舗結果の集計において、店舗分布・価格分布審査事務を充実させ、個別データの精査を十分行ったことにより、結果表審査事務が軽減されたこと、平成19年調査の受付整理事務を民間委託したことなどにより事務の効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-1,450人日(-13%)となっており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「A」が2回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」:</p> <p>秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」:</p> <p>平成14年調査の大規模店舗・特売価格・小規模店舗結果の集計において、店舗分布・価格分布審査事務を充実させ、個別データの精査を十分行ったことにより、結果表審査事務が軽減されたこと、平成19年調査の受付整理事務を民間委託したことなどにより事務の効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-1,450人日(-13%)となっており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」:</p> <p>全国物価統計調査の製表においては、総務省統計局からの要望内容に応じた(基準に合致した)処理を行い、製表結果の期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、価格の店舗間格差、銘柄間格差、地域間格差など物価行政の企画立案において調査結果が利活用される。</p>			

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (7) 社会生活基本調査
-----------	---

中期目標の記載事項

各種施策その他の基礎資料を得るために総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、センターは、社会・経済情勢に対応した統計データを迅速かつ的確に作成するとの観点から、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに該当区分の製表結果を総務省に提出する。また、製表結果の精度確保やプライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期計画の記載事項

総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）
-----	--------------------------

・平成18年に実施される社会生活基本調査に関する製表事務を行う。

<製表事務の実施状況>
製表事務の実施状況は、表のとおりである。

（単位：人日）

	平成18年調査			期限	適合度	満足度
	従来ベース予定	実績	対従来比			
18年度	7,594	7,768	+174 (+2%)			
19年度	5,717	3,338	-2,379 (-42%)			
合計	13,311	11,106	-2,205 (-17%)			

投入量

平成18年度は、結果表数の増加及び結果表自動審査の拡充のための準備等により対従来比で投入量がプラスとなったが、19年度は、生活時間行動分類の符号格付事務への自動格付システムの導入、データチェック審査事務のPC化及び結果表審査事務の見直しにより、大幅な事務の効率化が図られた。

この結果、第1期中期目標期間全体では、対従来比2,205人日（17%）の減少となった。

当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	11,106人日
当該項目の評価	A A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>平成19年度において、過年度の研究成果である生活時間行動分類の符号格付事務への自動格付システムの導入、データチェック審査事務のPC化及び結果表審査事務の見直しにより、大幅な事務の効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-2,205人日（-17%）となっており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「AA」が1回、「A」が1回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を大幅に上回って達成していると判断した。</p> <p>「必要性」:</p> <p>秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」:</p> <p>平成19年度において、過年度の研究成果である生活時間行動分類の符号格付事務への自動格付システムの導入、データチェック審査事務のPC化及び結果表審査事務の見直しにより、大幅な事務の効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-2,205人日（-17%）となっており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」:</p> <p>社会生活基本調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、男女共同参画に関わる事項の基礎資料、少子高齢化対策、国民生活白書など関係方面において調査結果が利活用されている。</p>			

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (8) サービス業基本調査
-----------	--

中期目標の記載事項

各種施策その他の基礎資料を得るために総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、センターは、社会・経済情勢に対応した統計データを迅速かつ的確に作成するとの観点から、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに該当区分の製表結果を総務省に提出する。また、製表結果の精度確保やプライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期計画の記載事項

総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）
-----	--------------------------

・平成16年に実施されるサービス業基本調査に関する製表事務を行う。

＜製表事務の実施状況＞
製表事務の実施状況は、表のとおりである。

（単位：人日）

	平成16年調査			期限	適合度	満足度
	従来ベース予定	実績	対従来比			
15年度	3,113	1,246	-1,867 (-60%)			
16年度	3,310	3,417	+107 (+3%)			
17年度	2,987	3,292	+305 (+10%)			
合計	9,410	7,955	-1,455 (-15%)			

ア 投入量
平成15年度は、総務省統計局からの新産業分類符号への組替事務の依頼が分類格付事務のみに変更され業務量が大幅に削減されたことで、投入量が大幅に減少した。一方、平成17年度は、調査票の経理項目の記入不備が増加したことにより投入量が増加した。この結果、第1期中期目標期間全体では、対従来比1,455人日（15%）の減少となった。

イ 特記事項
次の（ア）及び（イ）の件により、業務の負担増となったが、他の業務とのスケジュールや要員の調整等を行って、投入量の大幅

	<p>な変更や定められた期限への遅れもなく、総務省統計局の要望どおりに対応した。</p> <p>(ア) 速報集計 都道府県からのデータテープ等の提出の遅れによる影響から集計スケジュールがひっ迫した状態になった。また、総務省統計局から経理項目に関する製表基準書の変更（平成17年4月中旬）があったことから、データ訂正や表章方法の変更等が発生し、事務の進ちょくに支障が出た。 こうした中で、結果表審査事務においては、同局と連携して、あらかじめ特異値が発生しやすい経理項目について産業分類別に審査を進めていたが、記入不備等もあり疑義が多く発生し、同局で期限内に疑義の処理ができない状況となった。このため、統計センターにおいてその処理方法案を逆提示するなどして疑義処理の支援を行った。</p> <p>(イ) 確報集計 平成16年調査では、調査対象事業所の主産業について、同時実施した平成16年事業所・企業統計調査の確定済み産業分類を用いたが、平成16年事業所・企業統計調査で、総務省統計局からの製表基準書の一部について詳細な取扱いの決定が遅れ、産業分類の確定が遅れたことから、データチェック審査事務については約1か月遅れて、結果表審査事務については約1か月半遅れて着手するなど事務スケジュールがひっ迫した状態になった。</p>		
当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	7,955人日
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。 平成15年度について、同局からの新産業分類符号への組替事務の依頼が分類格付事務のみに変更され業務量が大幅に削減されたことなどにより、<u>第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-1,455人日（-15%）</u>となっている。 プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月には<u>I S M S 認証を取得し</u>、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。 また、平成17年度において、速報集計では、都道府県からのデータテープ等の提出の遅れや経理項目の記入不備の増加、確報集計では、製表基準書の提示の遅れにより事務スケジュールがひっ迫するなど負担増となったものの、このような状況に対し、投入量を大幅に削減しつつ、疑義処理方法を提案するなど同局への支援を行うとともに、定められた期限への遅れもなく、同局の要望どおりに対応していることから、業務全般的に効率的な業務運営が行われていると認められる。 この結果、<u>今中期目標期間における各年度の評価は、「A」が3回</u>という結果である。 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p>			

「必要性」:

秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報管理・セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。

「効率性」:

速報集計においては、都道府県からのデータテープ等の提出の遅れや経理項目の記入不備の増加、確報集計においては、製表基準の提示の遅れなどによる、負担増が生じたにもかかわらず、今中期目標期間全体で対従来比-1,455人日（-15%）と投入量を大幅に削減しつつ、総務省統計局の要望する期限までに結果を提出するなど、業務全般的に効率的な業務運営が行われている。

「有効性」:

サービス業基本調査の製表において、委託者からの要求内容に応じた（基準に合致した）処理を行い、製表結果を期限までに委託者に提出したことにより、委託者による迅速な調査結果の提供（公表）が行われ、産業連関表の作成、国民経済計算、雇用労働政策など関係方面において調査結果が利活用されている。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (9) 労働力調査
-----------	--

中期目標の記載事項

各種施策その他の基礎資料を得るために総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、センターは、社会・経済情勢に対応した統計データを迅速かつ的確に作成するとの観点から、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに該当区分の製表結果を総務省に提出する。また、製表結果の精度確保やプライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期計画の記載事項

総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）																																																	
<p>・平成14年度から平成19年度に実施される労働力調査に関する製表事務を行う。</p>	<p><製表事務の実施状況> 製表事務の実施状況は、表のとおりである。</p> <p style="text-align: right;">（単位：人日）</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>年度 (平成)</th> <th>実績</th> <th>期首年度との 差・増減率</th> <th>前年度との差・ 増減率</th> <th>期限</th> <th>適合度</th> <th>満足度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15年度</td> <td>6,179</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td>5,711</td> <td>-468 (-8%)</td> <td>-468 (-8%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td>5,897</td> <td>-282 (-5%)</td> <td>186 (+3%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td>5,855</td> <td>-324 (-5%)</td> <td>-42 (-1%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td>5,024</td> <td>-1,155 (-19%)</td> <td>-831 (-14%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>28,666 (30,895 1)</td> <td>2 -2,229 (-7%)</td> <td>-1,155 (-19%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>1 平成15年度以降効率化を実施しなかった場合の各年度における投入量合計（15年度実績×5年分）</p> <p>2 各年度の実績の投入量合計と平成15年度以降効率化を実施しなかった場合の各年度における投入量合計との差。</p>	年度 (平成)	実績	期首年度との 差・増減率	前年度との差・ 増減率	期限	適合度	満足度	15年度	6,179	-	-				16年度	5,711	-468 (-8%)	-468 (-8%)				17年度	5,897	-282 (-5%)	186 (+3%)				18年度	5,855	-324 (-5%)	-42 (-1%)				19年度	5,024	-1,155 (-19%)	-831 (-14%)				合計	28,666 (30,895 1)	2 -2,229 (-7%)	-1,155 (-19%)			
年度 (平成)	実績	期首年度との 差・増減率	前年度との差・ 増減率	期限	適合度	満足度																																												
15年度	6,179	-	-																																															
16年度	5,711	-468 (-8%)	-468 (-8%)																																															
17年度	5,897	-282 (-5%)	186 (+3%)																																															
18年度	5,855	-324 (-5%)	-42 (-1%)																																															
19年度	5,024	-1,155 (-19%)	-831 (-14%)																																															
合計	28,666 (30,895 1)	2 -2,229 (-7%)	-1,155 (-19%)																																															

	<p>投入量</p> <p>平成17年度は、新産業分類符号への移行に伴う符号格付事務の総合テストに係る事務が非経常業務として委託されたため業務が増加したが、一方で、産業・職業分類符号格付とデータチェック審査事務を一体的に処理する方法へ全面的に移行したことにより、対前年度比186人日（3%）の増加にとどまった。</p> <p>その他の各年度においては、業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上等により事務の効率化を図ったことから、いずれも対前年度比で減少した。</p> <p>この結果、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績は1,115人日（19%）の減少となった。</p> <p>また、第1期中期目標期間における各年度の実績合計では、効率化を実施しなかった場合の合計と比較して2,229人日（7%）の減少となった。</p>		
当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	28,666人日
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>平成17年度に新産業・職業分類符号格付とデータチェック審査事務を一体的に処理する方法へ全面的に移行したこと、また、各年度における業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上などにより、大幅な事務の効率化が図られ、投入量は、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績が-1,115人日(-19%)となるとともに、第1期中期目標期間における各年度の実績合計でみると、効率化を実施されなかった場合の合計との比較で-2,229人日(-7%)の削減効果があることから、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「AA」が1回、「A」が4回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」:</p> <p>秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p>			

「効率性」:

平成17年度に新産業・職業分類符号格付とデータチェック審査事務を一体的に処理する方法へ全面的に移行したこと、また、業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上などにより、大幅な事務の効率化が図られ、投入量は、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績が-1,115人日 (-19%) となるとともに、第1期中期目標期間における各年度の実績合計で見ると、効率化が実施されなかった場合の合計との比較で-2,229人日 (-7%) の削減効果があることから、効率的な業務運営が行われている。

「有効性」:

労働力調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、景気判断の指標、雇用対策、労働経済白書など関係方面において調査結果が利活用されている。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (10) 小売物価統計調査(消費者物価指数)
-----------	---

中期目標の記載事項

各種施策その他の基礎資料を得るために総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、センターは、社会・経済情勢に対応した統計データを迅速かつ的確に作成するとの観点から、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに該当区分の製表結果を総務省に提出する。また、製表結果の精度確保やプライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期計画の記載事項

総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	小項目に対する実施結果(具体的数値があれば記入)
-----	--------------------------

・平成14年度から平成19年度に実施される小売物価統計調査に関する製表事務を行う。

<製表事務の実施状況>
製表事務の実施状況は、表のとおりである。

(単位:人日)

年度(平成)	実績	期首年度との差・増減率	前年度との差・増減率	期限	適合度	満足度
15年度	13,187	-	-			
16年度	10,273	-2,914 (-22%)	-2,914 (-22%)			
17年度	9,763	-3,424 (-26%)	-510 (-5%)			
18年度	9,380	-3,807 (-29%)	-383 (-4%)			
19年度	8,340	-4,847 (-37%)	-1,040 (-11%)			
合計	50,943 (65,935)	-14,992 (-23%)	-4,847 (-37%)			

ア 投入量

平成15年度において、調査員が実査の段階に携帯機器を用いて直接データ入力を行う小売物価統計新調査システムが導入されたことに伴い、調査票の受付整理及びデータ入力を廃止し、新製表システムへ全面移行したほか、各年度における業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上等により、大幅な事務の効率化が図られた。

この結果、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績は4,847人日(37%)の減少となった。

	<p>また、第1期中期目標期間における各年度の実績合計では、効率化を実施しなかった場合の合計と比較して14,992人日(23%)の減少となった。</p> <p>イ 特記事項 消費者物価指数については、平成17年基準改定に伴って、平成17年8月から19年1月までの間、平成12年基準と平成17年基準の比較時価格作成を行った。 また、平成17年1月分から18年5月分までの指数について、平成17年基準で公表するために遡及集計した結果の審査を行った。 これらにより、業務の負担増となったが、総務省統計局の要望どおりに対応した。</p>		
当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	50,943人日
当該項目の評価	A A		
<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>平成15年度における新製表システムへ全面移行したこと、また、各年度における業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上等により、大幅な事務の効率化が図られ、投入量は、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績が-4,847人日(-37%)となるとともに、第1期中期目標期間における各年度の実績合計でみると、効率化が実施されなかった場合の合計との比較で-14,992人日(-23%)の削減効果があることから、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>さらに、消費者物価指数について、平成17年基準改定に伴って、平成17年8月から19年1月までの間、平成12年基準と平成17年基準の比較時価格作成を行うとともに、平成17年1月分から18年5月分までの指数について、平成17年基準で公表するために遡及集計した結果の審査を行ったことにより、負担増となったものの、同局の要望どおりに対応している。</p> <p>各年度の評価について、特に、平成15年度は、新調査システムの導入に伴い、調査票の受付整理及びデータ入力廃止となり、新製表システムへの全面移行により、作業能率が向上し、事務の大幅な効率化が図られたことを高く評価し「A A」としたほか、18年度は、投入量の対前年度比-4%が16年度(-22%)、17年度(-5%)に引き続き更に図られた累次の効率化であったこと、経常調査全体としての投入量削減目標の達成(「対前年比3%以下」に対し約9%削減)に大きく寄与したことを高く評価し「A A」とした。19年度は、投入量が対前年度比-11%と大幅な効率化であったことに加え、それが16年度、17年度、18年度(-4%)に引き続き更に図られた累次の効率化であったこと、また、経常調査全体としての投入量削減目標の達成(「対前年度以下」に対し約4%削減)に大きく寄与したことを高く評価し「A A」とした。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「A A」が3回、「A」が2回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を大幅に上回って達成していると判断した。</p>			

「必要性」:

秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。

「効率性」:

平成15年度における新製表システムへ全面移行したこと、また、各年度における業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上等により、大幅な事務の効率化が図られ、投入量は、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績が-4,847人日(-37%)となるとともに、第1期中期目標期間における各年度の実績合計で見ると、効率化が実施されなかった場合の合計との比較で-14,992人日(-23%)の削減効果があることから、効率的な業務運営が行われている。

「有効性」:

小売物価統計調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、年金額の改定率の改定の基準、デフレ対策、金融政策など関係方面において調査結果が利活用されているところ。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (11) 家計調査
-----------	--

中期目標の記載事項

各種施策その他の基礎資料を得るために総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、センターは、社会・経済情勢に対応した統計データを迅速かつ的確に作成するとの観点から、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに該当区分の製表結果を総務省に提出する。また、製表結果の精度確保やプライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期計画の記載事項

総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）
-----	--------------------------

・平成14年度から平成19年度に実施される家計調査に関する製表事務を行う。

<製表事務の実施状況>
製表事務の実施状況は、表のとおりである。

（単位：人日）

年度 (平成)	実績	期首年度との 差・増減率	前年度との差・ 増減率	期限	適合度	満足度
15年度	37,269	-	-			
16年度	35,729	-1,540 (-4%)	-1,540 (-4%)			
17年度	35,582	-1,687 (-5%)	-147 (-0%)			
18年度	31,731	-5,538 (-15%)	-3,851 (-11%)			
19年度	31,447	-5,822 (-16%)	-284 (-1%)			
合計	171,758 (186,345)	-14,587 (-8%)	-5,822 (-16%)			

ア 投入量

符号格付・入力事務の処理方法の見直し及び結果表審査支援システムの導入（17年度）、公表の早期化（集計期間短縮）に対応するための符号格付・入力事務の品質検査方法の見直し及び製表体制の見直し（18年度）のほか、各年度における業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上等により、大幅な事務の効率化が図られた。

	<p>この結果、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績は5,822人日（16%）の減少となった。 また、第1期中期目標期間における各年度の実績合計では、効率化を実施しなかった場合の合計と比較して14,587人日（8%）の減少となった。</p> <p>イ 特記事項 次の（ア）から（ウ）の件により、業務の負担増となったが、他の業務とのスケジュールや要員の調整等を行って、投入量の大幅な変更や定められた期限への遅れもなく、総務省統計局の要望どおりに対応した。</p> <p>（ア）再集計への対応 平成17年度において、総務省統計局が民間事業者に委託して作成している家計消費状況調査の数値が平成16年7月にさかのぼって再集計されたため、この数値を用いて集計する合成数値編についても7月分以後について再集計の依頼があり、これに対応した。</p> <p>（イ）公表の早期化等への対応 平成17年度において、総務省統計局からの公表の早期化の要請（平成18年2月調査分からの移行実現）に対応するとともに、製表業務の効率化を図るため、同局に対して審査方法等の見直しを提案するなどして、連携強化や事務合理化支援を図った。 このほか、同局からのチェック処理方法の変更や結果表の新規追加の依頼にも対応した。</p> <p>（ウ）標本改正に伴う追加業務 平成19年度において、平成20年1月からの標本改正に伴う調査打ち切り市町村及び調査開始市町村が多く、特例的な調査世帯の交替が発生したため、受付事務が複雑になるとともに、平成20年1月から世帯票の入力事務、年間収入調査票及び貯蓄等調査票のデータチェック審査事務の事務量が増加（調査票枚数が約1.5倍）した。</p>		
当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	171,758人日
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>符号格付・入力事務の処理方法の見直し及び結果表審査支援システムの導入（17年度）、公表の早期化（集計期間短縮）に対応するための符号格付・入力事務の品質検査方法の見直し及び製表体制の見直し（18年度）のほか、各年度における業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上等により、大幅な事務の効率化が図られ、投入量は、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績が-5,822人日（-16%）となるとともに、第1期中期目標期間における各年度の実績合計でみると、効率化を実施しなかった場合の合計との比較で-14,587人日（-8%）の削減効果があることから、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p>			

さらに、平成17年度において、同局からの合成数値編の7月分以後について再集計の依頼に対応し、また、同局からの公表の早期化の要請に対応するとともに、製表業務の効率化を図るため、同局に対して審査方法等の見直しを提案するなどして、連携強化や事務合理化支援を図ったほか、同局からのチェック処理方法の変更や結果表の新規追加の依頼にも対応している。平成19年度において、平成20年1月からの標本改正に伴う特例的な調査世帯の交替により、受付事務が複雑化したほか、世帯票の入力事務、年間収入調査票及び貯蓄等調査票のデータチェック審査事務の事務量が増加（調査票枚数が約1.5倍）している。

このような多くの負担増が生じているものの、同局の要望どおりに対応していることは、高く評価できる。

各年度の評価について、特に、平成18年度は、公表の早期化(集計期間短縮)に対応するための符号格付・入力事務の品質検査方法の見直しなどにより、対前年度比-11%となる大幅な効率化を図ったこと、経常調査全体としての投入量削減目標の達成（「対前年比3%以下」に対し約9%削減）に大きく寄与したこと、さらに、製表業務の効率化を図るため、同局に対して審査方法などの見直しを提案するなどして、連携強化や事務合理化支援を行ったほか、同局からの変更や新規追加の依頼に対応するなど、同局の要望どおりに対応していることを高く評価し「AA」とした。

この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「AA」が1回、「A」が4回という結果である。

以上のことから、目標を十分達成していると判断した。

「必要性」:

秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。

「効率性」:

符号格付・入力事務の処理方法の見直し及び結果表審査支援システムの導入（17年度）、公表の早期化（集計期間短縮）に対応するための符号格付・入力事務の品質検査方法の見直し及び製表体制の見直し（18年度）のほか、各年度における業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上等により、大幅な事務の効率化が図られ、投入量は、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績が-5,822人日（-16%）となるとともに、第1期中期目標期間における各年度の実績合計でみると、効率化を実施しなかった場合の合計との比較で-14,587人日（-8%）の削減効果があることから、効率的な業務運営が行われている。

「有効性」:

家計調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、政府の景気判断の指標、国民経済計算における家計消費支出の推計、経済財政白書など関係方面において調査結果が利活用されている。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (12) 個人企業経済調査
-----------	--

中期目標の記載事項

各種施策その他の基礎資料を得るために総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、センターは、社会・経済情勢に対応した統計データを迅速かつ的確に作成するとの観点から、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに該当区分の製表結果を総務省に提出する。また、製表結果の精度確保やプライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期計画の記載事項

総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）
-----	--------------------------

・平成14年度から平成19年度に実施される個人企業経済調査に関する製表事務を行う。

< 製表事務の実施状況 >
製表事務の実施状況は、表のとおりである。

（単位：人日）

年度 (平成)	実績	期首年度との 差・増減率	前年度との差・ 増減率	期限	適合度	満足度
15年度	2,781	-	-			
16年度	1,443	-1,338 (-48%)	-1,338 (-48%)			
17年度	1,315	-1,466 (-53%)	-128 (-9%)			
18年度	1,044	-1,737 (-62%)	-271 (-21%)			
19年度	1,034	-1,747 (-63%)	-10 (-1%)			
合計	7,617 (13,905)	-6,288 (-45%)	-1,747 (-63%)			

ア 投入量

各年度において、業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上等により、大幅な事務の効率化が図られた。この結果、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績は1,747人日（63%）の減少となった。

また、第1期中期目標期間における各年度の実績合計では、効率化を実施しなかった場合の合計と比較して6,288人日（45%）の減少となった。

	<p>イ 特記事項 総務省統計局において、統計調査の企画を除く調査の実施に関する業務を民間事業者に包括的に委託する民間開放・市場化テストの本格導入に向けて、個人企業に関する経済調査（平成18年7月～9月期（1期目）及び18年10月～12月期（2期目））が実施された。 統計センターでは、同局からの要請を受け、この調査の調査票、調査対象事業所名簿及び書き直した元の調査票に係る製表（結果表延べ48表）を個人企業経済調査の製表と並行して行った。</p>		
当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	7,617人日
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。 各年度において、業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上等により、大幅な事務の効率化が図られ、投入量は、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績が-1,747人日（-63%）となるとともに、第1期中期目標期間における各年度の実績合計で見ると、効率化を実施しなかった場合の合計との比較で-6,288人日（-45%）の削減効果があることから、効率的な業務運営が行われていると認められる。 プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。 この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「A」が4回、「B」が1回という結果である。 以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p>			
<p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p>			
<p>「効率性」: 各年度において、業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上等により、大幅な事務の効率化が図られ、投入量は、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績が-1,747人日（-63%）となるとともに、第1期中期目標期間における各年度の実績合計で見ると、効率化を実施しなかった場合の合計との比較で-6,288人日（-45%）の削減効果があることから、効率的な業務運営が行われている。</p>			
<p>「有効性」: 個人企業統計調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた（製表基準に合致した）処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供（公表）が行われ、国民経済計算の推計、労働経済の分析、中小企業関係施策のための基礎資料など関係方面において調査結果が利活用されている。</p>			

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項 (13) 科学技術研究調査
-----------	--

中期目標の記載事項

各種施策その他の基礎資料を得るために総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、センターは、社会・経済情勢に対応した統計データを迅速かつ的確に作成するとの観点から、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに該当区分の製表結果を総務省に提出する。また、製表結果の精度確保やプライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期計画の記載事項

総務省が実施する国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査のうち、次に掲げるものについて、総務省が明示した基準に基づいて事務を進め、総務省が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を総務省に提出する。なお、これらの事務遂行に当たっては、製表結果の精度を確保するため、必要に応じ、前回調査等の製表業務内容を検証し、審査事務等の事務体制の整備を行うとともに、事務処理マニュアルの作成等を行い事務の透明化を図る。また、プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置を講じる。

中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）
-----	--------------------------

・平成15年度から平成19年度に実施される科学技術研究調査に関する製表事務を行う。

<製表事務の実施状況>
製表事務の実施状況は、表のとおりである。

（単位：人日）

年度 (平成)	実績	期首年度との 差・増減率	前年度との差・ 増減率	期限	適合度	満足度
15年度	2,507	-	-			
16年度	1,853	-654 (-26%)	-654 (-26%)			
17年度	1,718	-789 (-31%)	-135 (-7%)			
18年度	1,481	-1,026 (-41%)	-237 (-14%)			
19年度	1,580	-927 (-37%)	+99 (+7%)			
合計	9,139 (12,535)	-3,396 (-27%)	-927 (-37%)			

ア 投入量

各年度において、業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上等により、大幅な事務の効率化が図られた。この結果、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績は927人日（37%）の減少となった。また、第1期中期目標期間における各年度の実績合計では、効率化を実施しなかった場合の合計と比較して3,396人日（27%）の減

	<p>少となった。</p> <p>イ 特記事項 平成17年度において、調査環境の悪化等により、調査客体への疑義照会件数が1,200件増加（対前年度比）し、約7,200件となった。 また、平成19年度においては、総務省統計局が行っていた調査票の送付・回収（督促）照会対応（記入指導等）事務が、民間事業者に委託されたこともあり、調査票の回収が例年に比べ遅れるとともに、秘匿処理方法の変更等があった。 これらにより業務の負担増となったが、他の業務とのスケジュールや要員の調整を行って、定められた期限への遅れもなく、同局の要望どおりに対応した。</p>		
当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	9,139人日
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>各年度において、業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上等により、大幅な事務の効率化が図られ、投入量は、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績が-927人日（-37%）となるとともに、第1期中期目標期間における各年度の実績合計で見ると、効率化を実施しなかった場合の合計との比較で-3,396人日（-27%）の削減効果があることから、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>また、平成17年度において、調査環境の悪化等により、調査客体への疑義照会件数が対前年度比で1,200件増加し、約7,200件となったほか、19年度においては、調査票の回収が例年に比べ遅れるとともに、秘匿処理方法の変更などがあったことにより、負担増となったものの、同局の要望どおりに対応している。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「A」が4回、「B」が1回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」： 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」： 各年度において、業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上等により、大幅な事務の効率化が図られ、投入量は、期首年度の実績に比べ、期末年度の実績が-927人日（-37%）となるとともに、第1期中期目標期間における各年度の実績合計で見ると、効率化を実施しなかった場合の合計との比較で-3,396人日（-27%）の削減効果があることから、効率的な業務運営が行われている。</p>			

「有効性」:

科学技術研究調査の製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な調査結果の提供(公表)が行われ、e - J a p a n重点計画ベンチマーク、科学技術白書、経済財政白書など関係方面において調査結果が利活用されている。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項																															
中期目標の記載事項																																
センターは、次に掲げる統計調査について、府省等からの委託を受けて製表事務を行う。なお、この際、委託府省等と緊密な連携をとりつつ、事務を進めるものとする。																																
中期計画の記載事項																																
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。																																
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果																																
小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）																															
委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<p>< 受託製表に関する事務（総括） > 投入量 受託製表業務全体の投入量は、表のとおりである。 （単位：人日）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度 (平成)</th> <th colspan="3">受託製表</th> </tr> <tr> <th>従来ベース予定</th> <th>実績</th> <th>対従来比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15年度</td> <td>8,855</td> <td>10,145</td> <td>+1,290 (+15%)</td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td>8,759</td> <td>10,614</td> <td>+1,855 (+21%)</td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td>7,921</td> <td>10,067</td> <td>+2,146 (+27%)</td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td>8,745</td> <td>9,063</td> <td>+318 (+4%)</td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td>10,337</td> <td>9,683</td> <td>-654 (-6%)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>44,617</td> <td>49,572</td> <td>4,955 (+11%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>主に次の要因により、第1期中期目標期間全体で、対従来比4,955人日（11%）の増加となった。</p> <p>平成15年度：平成11年全国消費実態調査 特別集計（標準生計費関係）遡及集計の新規受託 国家公務員（特別職・自衛官）給与実態調査の結果表の追加 平成16年度：建設工事統計調査のチェックリスト審査事務及び地方公務員給与実態調査特別集計の新規受託 公害苦情調査の製表基準書の変更 平成17年度：新規の東京都生計分析調査に係る準備（平成18年4月調査から受託のため） 賃金構造基本調査の調査環境の変化などに伴うエラー件数増加によるチェックリスト審査事務の増加 平成18年度：家計消費実態調査などの新規受託 旅客自動車運送事業輸送実績調査での調査票の重複及び疑義照会件数の増加</p>	年度 (平成)	受託製表			従来ベース予定	実績	対従来比	15年度	8,855	10,145	+1,290 (+15%)	16年度	8,759	10,614	+1,855 (+21%)	17年度	7,921	10,067	+2,146 (+27%)	18年度	8,745	9,063	+318 (+4%)	19年度	10,337	9,683	-654 (-6%)	合計	44,617	49,572	4,955 (+11%)
年度 (平成)	受託製表																															
	従来ベース予定	実績	対従来比																													
15年度	8,855	10,145	+1,290 (+15%)																													
16年度	8,759	10,614	+1,855 (+21%)																													
17年度	7,921	10,067	+2,146 (+27%)																													
18年度	8,745	9,063	+318 (+4%)																													
19年度	10,337	9,683	-654 (-6%)																													
合計	44,617	49,572	4,955 (+11%)																													

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (1) 人事院職員福祉局委託業務(民間企業の勤務条件制度等調査)																													
中期目標の記載事項																														
センターは、次に掲げる統計調査について、府省等からの委託を受けて製表事務を行う。なお、この際、委託府省等と緊密な連携をとりつつ、事務を進めるものとする。																														
中期計画の記載事項																														
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。																														
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果																														
小項目	小項目に対する実施結果(具体的数値があれば記入)																													
委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<p><人事院職員福祉局委託業務> 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査名</th> <th>年度 (平成)</th> <th>期限</th> <th>適合 度</th> <th>満足 度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">民間企業の勤務条件制度等調査</td> <td>15年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				調査名	年度 (平成)	期限	適合 度	満足 度	民間企業の勤務条件制度等調査	15年度				16年度				17年度				18年度				19年度			
調査名	年度 (平成)	期限	適合 度	満足 度																										
民間企業の勤務条件制度等調査	15年度																													
	16年度																													
	17年度																													
	18年度																													
	19年度																													
当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	1,996人日																											
当該項目の評価	A																													

【評価結果の説明】

人事院職員福祉局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。

平成19年調査において、担当者の習熟による効率化が図られたことなどにより、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-97人日(-5%)となっており、効率的な業務運営が行われていると認められる。

これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスを言いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。

プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。

この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、いずれも「A」という結果である。

以上のことから、目標を十分達成していると判断した。

「必要性」:

秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。

「効率性」:

平成19年調査において、担当者の習熟による効率化が図られたことなどにより、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-97人日(-5%)となっており、効率的な業務運営が行われている。

「有効性」:

公務員制度の運営など行政施策の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (2) 人事院給与局委託業務(国家公務員給与等実態調査、職種別民間給与実態調査、家計調査特別集計(標準生計費・住宅関係・各分位関係)、平成11年全国消費実態調査特別集計(標準生計費関係)遡及集計、平成16年全国消費実態調査特別集計(標準生計費関係・各分位関係))																																															
中期目標の記載事項																																																
センターは、次に掲げる統計調査について、府省等からの委託を受けて製表事務を行う。なお、この際、委託府省等と緊密な連携をとりつつ、事務を進めるものとする。																																																
中期計画の記載事項																																																
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。																																																
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果																																																
小項目	小項目に対する実施結果(具体的数値があれば記入)																																															
委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<p data-bbox="568 639 896 687">< 人事院給与局委託業務 > 実施状況</p> <p data-bbox="613 703 1133 735">製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1" data-bbox="591 767 1641 1201"> <thead> <tr> <th data-bbox="598 772 1151 836">調査名</th> <th data-bbox="1151 772 1317 836">年度 (平成)</th> <th data-bbox="1317 772 1424 836">期限</th> <th data-bbox="1424 772 1532 836">適合度</th> <th data-bbox="1532 772 1637 836">満足度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="598 836 1151 1023" rowspan="5">国家公務員給与等実態調査</td> <td data-bbox="1151 836 1317 884">15年度</td> <td data-bbox="1317 836 1424 884"></td> <td data-bbox="1424 836 1532 884" style="text-align: center;">/</td> <td data-bbox="1532 836 1637 884" style="text-align: center;">/</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1151 884 1317 932">16年度</td> <td data-bbox="1317 884 1424 932"></td> <td data-bbox="1424 884 1532 932"></td> <td data-bbox="1532 884 1637 932"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1151 932 1317 979">17年度</td> <td data-bbox="1317 932 1424 979"></td> <td data-bbox="1424 932 1532 979"></td> <td data-bbox="1532 932 1637 979"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1151 979 1317 1027">18年度</td> <td data-bbox="1317 979 1424 1027"></td> <td data-bbox="1424 979 1532 1027"></td> <td data-bbox="1532 979 1637 1027"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1151 1027 1317 1075">19年度</td> <td data-bbox="1317 1027 1424 1075"></td> <td data-bbox="1424 1027 1532 1075"></td> <td data-bbox="1532 1027 1637 1075"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="598 1023 1151 1201" rowspan="5">職種別民間給与実態調査</td> <td data-bbox="1151 1023 1317 1070">15年度</td> <td data-bbox="1317 1023 1424 1070"></td> <td data-bbox="1424 1023 1532 1070" style="text-align: center;">/</td> <td data-bbox="1532 1023 1637 1070" style="text-align: center;">/</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1151 1070 1317 1118">16年度</td> <td data-bbox="1317 1070 1424 1118"></td> <td data-bbox="1424 1070 1532 1118"></td> <td data-bbox="1532 1070 1637 1118"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1151 1118 1317 1166">17年度</td> <td data-bbox="1317 1118 1424 1166"></td> <td data-bbox="1424 1118 1532 1166"></td> <td data-bbox="1532 1118 1637 1166" style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1151 1166 1317 1214">18年度</td> <td data-bbox="1317 1166 1424 1214"></td> <td data-bbox="1424 1166 1532 1214"></td> <td data-bbox="1532 1166 1637 1214"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1151 1214 1317 1262">19年度</td> <td data-bbox="1317 1214 1424 1262"></td> <td data-bbox="1424 1214 1532 1262"></td> <td data-bbox="1532 1214 1637 1262"></td> </tr> </tbody> </table>	調査名	年度 (平成)	期限	適合度	満足度	国家公務員給与等実態調査	15年度		/	/	16年度				17年度				18年度				19年度				職種別民間給与実態調査	15年度		/	/	16年度				17年度			-	18年度				19年度			
調査名	年度 (平成)	期限	適合度	満足度																																												
国家公務員給与等実態調査	15年度		/	/																																												
	16年度																																															
	17年度																																															
	18年度																																															
	19年度																																															
職種別民間給与実態調査	15年度		/	/																																												
	16年度																																															
	17年度			-																																												
	18年度																																															
	19年度																																															

	<table border="1"> <tr> <td rowspan="5">家計調査特別集計（標準生計費・住宅関係・各分位）</td> <td>15年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">平成11年全国消費実態調査特別集計（標準生計費関係）遡及集計</td> <td>15年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">平成16年全国消費実態調査特別集計（標準生計費関係・各分位関係）</td> <td>15年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td>-</td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			家計調査特別集計（標準生計費・住宅関係・各分位）	15年度				16年度				17年度				18年度				19年度				平成11年全国消費実態調査特別集計（標準生計費関係）遡及集計	15年度				16年度				17年度				18年度				19年度				平成16年全国消費実態調査特別集計（標準生計費関係・各分位関係）	15年度				16年度				17年度	-		-	18年度				19年度			
					家計調査特別集計（標準生計費・住宅関係・各分位）	15年度																																																												
						16年度																																																												
						17年度																																																												
						18年度																																																												
				19年度																																																														
				平成11年全国消費実態調査特別集計（標準生計費関係）遡及集計	15年度																																																													
					16年度																																																													
					17年度																																																													
					18年度																																																													
					19年度																																																													
				平成16年全国消費実態調査特別集計（標準生計費関係・各分位関係）	15年度																																																													
					16年度																																																													
					17年度	-		-																																																										
					18年度																																																													
19年度																																																																		
<p>特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 国家公務員給与等実態調査 平成19年調査について、各府省で入力したデータの誤りが大量に存在することが判明した。これによりデータ訂正件数が増大大きな影響が出たため、人事院と協議し、集計手順の変更を行うとともに、他の業務とのスケジュールや要員の調整を行って、同院の要望どおりに対応した。 																																																																		
当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	1,791人日																																																															
当該項目の評価	A																																																																	

【評価結果の説明】

人事院給与局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。

第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+66人日(+4%)となっているが、これは、平成18年度の平成16年全国消費実態調査特別集計(標準生計費・各分位)で17表分の新規受託集計が追加されたことなどによるものであり、他の調査への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われていると認められる。

これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。

プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。

また、平成19年国家公務員給与等実態調査について、各府省で入力したデータに大量の誤りが存在したことが原因で、データ訂正件数が増大(約2.5倍)し、集計スケジュールに大きな影響が出たため、同局と協議し、同局の要望どおりに対応している。

この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、いずれも「A」という結果である。

以上のことから、目標を十分達成していると判断した。

「必要性」:

秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。

「効率性」:

第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+66人日(+4%)となっているが、これは、平成18年度の平成16年全国消費実態調査特別集計(標準生計費・各分位)で17表分の新規受託集計が追加されたことなどによるものであり、他の調査への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われている。

「有効性」:

人事行政の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (3) 総務省人事・恩給局委託業務(国家公務員(特別職・自衛官)給与実態調査、国家公務員退職手当実態調査)																																															
中期目標の記載事項																																																
センターは、次に掲げる統計調査について、府省等からの委託を受けて製表事務を行う。なお、この際、委託府省等と緊密な連携をとりつつ、事務を進めるものとする。																																																
中期計画の記載事項																																																
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。																																																
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果																																																
小項目	小項目に対する実施結果(具体的数値があれば記入)																																															
委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<p><総務省人事・恩給局委託業務> 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査名</th> <th>年度(平成)</th> <th>期限</th> <th>適合度</th> <th>満足度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">国家公務員(特別職・自衛官)給与実態調査</td> <td>15年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">国家公務員退職手当実態調査</td> <td>15年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>特記事項 ・ 国家公務員退職手当実態調査 平成17年度調査は、総務省人事・恩給局からの製表基準書の提示が約1か月半遅れた上、事務着手後に製表基準書の変更が発生するなど、事務の進ちょくに支障が出た。</p>	調査名	年度(平成)	期限	適合度	満足度	国家公務員(特別職・自衛官)給与実態調査	15年度				16年度				17年度				18年度			-	19年度			-	国家公務員退職手当実態調査	15年度				16年度				17年度			-	18年度			-	19年度			
調査名	年度(平成)	期限	適合度	満足度																																												
国家公務員(特別職・自衛官)給与実態調査	15年度																																															
	16年度																																															
	17年度																																															
	18年度			-																																												
	19年度			-																																												
国家公務員退職手当実態調査	15年度																																															
	16年度																																															
	17年度			-																																												
	18年度			-																																												
	19年度																																															

	<p>平成18年度調査は、同局からの集計早期化の要請により、業務終了予定時期を平成19年2月から18年11月へ変更し、集計期間が短縮されたため、スケジュールがひっ迫した状態であった。さらに、当初予定に含まれていなかった速報集計として結果表6表分が追加された。</p> <p>平成19年度調査は、当初予定に含まれていなかったデータの作成業務の追加依頼があったことに加え、データチェック要領の変更により集計業務に大幅な変更が生じたことなどから、業務終了予定時期が平成19年12月から20年3月に変更されたものの、集計スケジュールがひっ迫した状態となった。</p> <p>これらによって業務の負担増となったが、他の業務とのスケジュールや要員の調整等を行って、変更後の期限への遅れもなく、同局の要望どおりに対応した。</p>		
当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	4,965人日
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>総務省人事・恩給局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+1,114人日（+29%）となっているが、これは、委託者からの追加依頼や依頼内容の変更等（平成15年度国家公務員（特別職・自衛官）給与実態調査において、結果表の追加に対応したこと、また、平成19年度国家公務員退職手当実態調査において、追加依頼があったこと、また、「国家公務員の機関別・地域別の退職者数集計データ(仮)」の作成業務が緊急的に追加依頼されたこと、さらに、国家公務員退職手当制度の法改正に伴い、データチェック要領が変更されるなど集計業務に大幅な変更が生じたこと）に対応したためであり、他の業務への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>また、製表基準書の提示遅れや変更、当初予定にない追加依頼への対応など、多くの負担増があったものの、同局の要望どおりに対応している。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、いずれも「A」という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p>			

「必要性」:

秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。

「効率性」:

第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+1,114人日(+29%)となっているが、これは、委託者からの追加依頼や依頼内容の変更等(平成15年度国家公務員(特別職・自衛官)給与実態調査において、結果表の追加に対応したこと、また、平成19年度国家公務員退職手当実態調査において、追加依頼があったこと、また、「国家公務員の機関別・地域別の退職者数集計データ(仮)」の作成業務が緊急的に追加依頼されたこと、さらに、国家公務員退職手当制度の法改正に伴い、データチェック要領が変更されるなど集計業務に大幅な変更が生じたこと)に対応したためであり、他の業務への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われている。

「有効性」:

人事行政の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (4) 総務省自治行政局委託業務(平成15年地方公務員給与実態調査)				
中期目標の記載事項					
センターは、次に掲げる統計調査について、府省等からの委託を受けて製表事務を行う。なお、この際、委託府省等と緊密な連携をとりつつ、事務を進めるものとする。					
中期計画の記載事項					
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。					
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果					
小項目	小項目に対する実施結果(具体的数値があれば記入)				
委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<総務省自治行政局委託業務> 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。				
	調査名	年度 (平成)	期限	適合度	満足度
	平成15年地方公務員給与実態調査	15年度			
当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	579人日		
当該項目の評価	A				
【評価結果の説明】 総務省自治行政局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。 第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+219人日(+61%)となっているが、他の調査への影響もなかったことから、問題はない。 これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体的な製表方法についてアドバイスをいながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。 プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。					

この結果、今中期目標期間における年度の評価は、「A」が1回という結果である。
以上のことから、目標を十分達成していると判断した。

「必要性」:

秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。

「効率性」:

第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+219人日（+61%）となっているが、他の調査への影響もなかったことから、問題はない。

「有効性」:

人事行政の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (5) 総務省自治財政局委託業務(平成15年地方公務員給与実態調査特別集計)				
中期目標の記載事項					
センターは、次に掲げる統計調査について、府省等からの委託を受けて製表事務を行う。なお、この際、委託府省等と緊密な連携をとりつつ、事務を進めるものとする。					
中期計画の記載事項					
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。					
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果					
小項目	小項目に対する実施結果(具体的数値があれば記入)				
委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<総務省自治財政局委託業務> 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。				
	調査名	年度 (平成)	期限	適合 度	満足 度
	平成15年地方公務員給与実態調査 特別集計	16年度			
当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	65人日		
当該項目の評価	A				

【評価結果の説明】

総務省自治行政局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。

第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+65人日(+100%)となっているが、これは、平成16年度に新規に受託した業務で、当初予定になかったためである。このような限られた要員の中での業務の新規受託は、他の業務での効率化が図られたことで可能となることから、全体として効率的な業務運営が行われていると認められる。

これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。

プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。

この結果、今中期目標期間における年度の評価は、「A」が1回という結果である。

以上のことから、目標を十分達成していると判断した。

「必要性」:

秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。

「効率性」:

第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+65人日(+100%)となっているが、これは、平成16年度に新規に受託した業務で、当初予定になかったためである。このような限られた要員の中での業務の新規受託は、他の業務での効率化が図られたことで可能となることから、全体として効率的な業務運営が行われている。

「有効性」:

人事行政の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (6) 総務省統計局委託業務(家計消費状況調査)																	
中期目標の記載事項																		
センターは、次に掲げる統計調査について、府省等からの委託を受けて製表事務を行う。なお、この際、委託府省等と緊密な連携をとりつつ、事務を進めるものとする。																		
中期計画の記載事項																		
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。																		
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果																		
小項目	小項目に対する実施結果(具体的数値があれば記入)																	
委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<p><総務省統計局委託業務> 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査名</th> <th>年度 (平成)</th> <th>期限</th> <th>適合 度</th> <th>満足 度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">家計消費状況調査</td> <td>18年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>特記事項 平成17年12月に総務省統計局から業務委託について照会があった後、製表基準書の提示が遅れた上、提示後の変更もあったために、18年5月の集計開始までの準備期間が十分ではなかった。また、本集計開始後、同局からの集計乗率の変更に伴う18年4月分から12月分までの遡及集計の依頼があり、これに対応した。 さらに、既に公表済みの平成18年6月分、7月分、12月分、第2～4四半期、18年平均及び18年度平均について、民間事業者が作成したチェック済データに重複データが含まれていることが判明し、同局から再集計の依頼を受け、これに対応した。これらにより業務の負担増となったが、他の業務とのスケジュールや要員の調整を行って、定められた期限への遅れもなく、同局の要望どおりに対応した。</p>				調査名	年度 (平成)	期限	適合 度	満足 度	家計消費状況調査	18年度				19年度			
調査名	年度 (平成)	期限	適合 度	満足 度														
家計消費状況調査	18年度																	
	19年度																	
当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	316人日															
当該項目の評価	A																	

【評価結果の説明】

総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。

第1期中期目標期間全体での投入量は、平成19年度において準備事務が減少したことなどにより、対従来比-142人日（-31%）となっている。

また、本業務は、平成18年度から新規に受託した業務であり、このような限られた要員の中での業務の新規受託は、他の業務での効率化が図られたことで可能となることから、全体として効率的な業務運営が行われていると認められる。

プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。

さらに、製表基準書の提示遅れや変更、当初予定にない追加依頼への対応など、多くの負担増があったものの、同局の要望どおりに対応している。

この結果、今中期目標期間における年度の評価は、「A」が2回という結果である。

以上のことから、目標を十分達成していると判断した。

「必要性」:

秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。

「効率性」:

第1期中期目標期間全体での投入量は、平成19年度において準備事務が減少したことなどにより、対従来比-142人日（-31%）となっている。

また、本業務は、平成18年度から新規に受託した業務であり、このような限られた要員の中での業務の新規受託は、他の業務での効率化が図られたことで可能となることから、全体として効率的な業務運営が行われていると認められる。

「有効性」:

家計調査を補完する基礎資料など関係方面において調査結果の利活用が期待される。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (7) 公害等調整委員会事務局委託業務(公害苦情調査)																										
中期目標の記載事項																											
センターは、次に掲げる統計調査について、府省等からの委託を受けて製表事務を行う。なお、この際、委託府省等と緊密な連携をとりつつ、事務を進めるものとする。																											
中期計画の記載事項																											
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。																											
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果																											
小項目	小項目に対する実施結果(具体的数値があれば記入)																										
委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<p>< 公害等調整委員会事務局委託業務 > 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査名</th> <th>年度 (平成)</th> <th>期限</th> <th>適合 度</th> <th>満足 度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">公害苦情調査</td> <td>15年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>特記事項 平成14年度調査(平成15年度受託)は、公害等調整委員会事務局からの調査票データの追加要請があった(業務終了予定時期は平成15年9月から11月へ変更)。 平成16年度調査(平成17年度受託)は、提出期限が前年度調査に比べて1か月早期化されたにもかかわらず、データチェック審査事務の疑義照会において、同事務局からの疑義回答の遅れが発生するなど、事務の進ちょくに支障が出た。 平成17年度調査(平成18年度受託)は、同事務局からの調査票及び調査票データの提出の遅れ、データチェックリスト審査事務の疑義照会における疑義回答の遅れ及び製表基準書の変更があった(終了予定時期は18年9月から11月に変更)。さらに、平成18年度調査(平成19年度受託)においても調査票データの提出の遅れ等があった。 これらにより、業務の大幅な負担増となったが、他の業務とのスケジュールや要員の調整等を行って、定められた期限、また、期限を変更したものは変更後の期限への遅れもなく、同事務局の要望どおりに対応した。</p>	調査名	年度 (平成)	期限	適合 度	満足 度	公害苦情調査	15年度				16年度				17年度			-	18年度			-	19年度			
調査名	年度 (平成)	期限	適合 度	満足 度																							
公害苦情調査	15年度																										
	16年度																										
	17年度			-																							
	18年度			-																							
	19年度																										

当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	1,590人日
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>公害等調整委員会事務局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+291人日（+22%）となっているが、平成16年調査の製表基準書の内容変更に伴う対応を行ったためなどによるものであり、他の調査への影響もなかったことから、問題はない。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>さらに、製表基準書の変更、提出期限の早期化、疑義回答の遅れなど、多くの負担増があったものの、同局の要望どおりに対応している。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、いずれも「A」という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」:</p> <p>秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」:</p> <p>第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+291人日（+22%）となっているが、平成16年調査の製表基準書の内容変更に伴う対応を行ったためなどによるものであり、他の調査への影響もなかったことから、問題はない。</p> <p>「有効性」:</p> <p>環境行政の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>			

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (8)文化庁委託業務(平成16年サービス業基本調査特別集計(芸術関連産業))														
中期目標の記載事項															
センターは、次に掲げる統計調査について、府省等からの委託を受けて製表事務を行う。なお、この際、委託府省等と緊密な連携をとりつつ、事務を進めるものとする。															
中期計画の記載事項															
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。															
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果															
小項目	小項目に対する実施結果(具体的数値があれば記入)														
委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<p><文化庁委託業務> 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査名</th> <th>年度(平成)</th> <th>期限</th> <th>適合度</th> <th>満足度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成16年サービス業基本調査 特別集計 (芸術関連産業)</td> <td>19年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					調査名	年度(平成)	期限	適合度	満足度	平成16年サービス業基本調査 特別集計 (芸術関連産業)	19年度			
調査名	年度(平成)	期限	適合度	満足度											
平成16年サービス業基本調査 特別集計 (芸術関連産業)	19年度														
当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	174人日												
当該項目の評価	A														
<p>【評価結果の説明】</p> <p>文化庁から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同庁の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+13人日(+8%)となっているが、他の業務への影響もなかったことから、問題はない。</p> <p>また、本業務は、平成19年度において、新規に受託した業務であり、このような限られた要員の中での業務の新規受託は、他の業務での効率化が図られたことで可能となることから、全体として効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをいりながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p>															

プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月には ISMS 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。

この結果、今中期目標期間における 年度の評価は、「A」が1回という結果である。

以上のことから、目標を十分達成していると判断した。

「必要性」:

秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。

「効率性」:

投入量が予定よりも増加（対従来比+13人日(+8%)）しているが、本業務は、平成19年度において、新規に受託した業務であり、このような限られた要員の中での業務の新規受託は、他の業務での効率化が図られたことで可能となることから、全体として効率的な業務運営が行われていると認められる。

「有効性」:

文化芸術の振興など関係方面において調査結果の利活用が期待される。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (9) 財務省委託業務(家計調査特別集計(特定品目)、全国消費実態調査特別集計(年間収入)、家計調査特別集計(世帯類型別))					
中期目標の記載事項						
センターは、次に掲げる統計調査について、府省等からの委託を受けて製表事務を行う。なお、この際、委託府省等と緊密な連携をとりつつ、事務を進めるものとする。						
中期計画の記載事項						
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。						
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果						
小項目	小項目に対する実施結果(具体的数値があれば記入)					
委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<財務省委託業務> 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。					
	家計調査 特別集計(特定品目)	年度(平成)	期限	適合度	満足度	
		15年度				
		16年度				
		17年度				
		18年度				
	全国消費実態調査特別集計(年間収入)	15年度				
		16年度				
		17年度				
		18年度				-
		19年度				
	家計調査 特別集計(世帯類型別)	15年度				
		16年度				
		17年度				
		18年度				
19年度						

当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	7,968人日
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>財務省から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同省の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+418人日(+6%)となっているが、これは主に、平成17年度において、統計センター全体の業務運営の効率化のため、大規模な集計である国勢調査や全国消費実態調査の製表に経験のある職員を大量に投入する必要から、家計調査特別集計(特定品目)に経験のない職員を充てたために、業務能率が低下したことによるもので、統計センター全体としての効率的な業務運営に資するものである。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「A」が4回、「B」が1回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+418人日(+6%)となっているが、これは主に、平成17年度において、統計センター全体の業務運営の効率化のため、大規模な集計である国勢調査や全国消費実態調査の製表に経験のある職員を大量に投入する必要から、家計調査特別集計(特定品目)に経験のない職員を充てたために、業務能率が低下したことによるもので、統計センター全体としての効率的な業務運営に資するものである。</p> <p>「有効性」: 税体系の在り方の検討など行政施策の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>			

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (10) 文部科学省委託業務(平成16年家計調査特別集計(教育費・教育関係費))				
中期目標の記載事項					
センターは、次に掲げる統計調査について、府省等からの委託を受けて製表事務を行う。なお、この際、委託府省等と緊密な連携をとりつつ、事務を進めるものとする。					
中期計画の記載事項					
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。					
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果					
小項目	小項目に対する実施結果(具体的数値があれば記入)				
委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<文部科学省委託業務> 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。				
	調査名	年度 (平成)	期限	適合度	満足度
	平成16年家計調査 特別集計 (教育費・教育関係費)	17年度			
当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数			
当該項目の評価	A				

【評価結果の説明】

文部科学省から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同省の満足度についても、「満足できる」という状況である。

本業務は、総務省統計局所管の家計調査から加工する集計で平成17年度に新規に受託したものであり、本業務の製表については、統計センターの専門性からは、専任の担当者を配置することなく集計が行えたことから、効率的な業務運営が行われていると認められる。

これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。

プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはISMS認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。

この結果、今中期目標期間における年度の評価は、「A」が1回という結果である。

以上のことから、目標を十分達成していると判断した。

「必要性」:

秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報管理・セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。

「効率性」:

総務省統計局所管の家計調査から加工する集計で平成17年度に新規に受託したものである。本業務の製表については、統計センターの専門性からは、専任の担当者を配置することなく集計が行えたことから、十分効率的な業務運営が行われている。

「有効性」:

教育行政の企画立案等関係方面において調査結果の利活用が期待される。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (11) 厚生労働省委託業務（雇用動向調査、賃金構造基本統計調査）																																																		
中期目標の記載事項																																																			
センターは、次に掲げる統計調査について、府省等からの委託を受けて製表事務を行う。なお、この際、委託府省等と緊密な連携をとりつつ、事務を進めるものとする。																																																			
中期計画の記載事項																																																			
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。																																																			
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果																																																			
小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）																																																		
委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<p>< 厚生労働省委託業務 > 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査名</th> <th>年度 (平成)</th> <th>期限</th> <th>適合 度</th> <th>満足 度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">雇用動向調査</td> <td>15年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">賃金構造基本統計調査</td> <td>15年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>特記事項 ア 雇用動向調査 平成15年調査の上半期集計結果表については、データチェック要領の不備による異常値が発見されたため、厚生労働省の依頼に基づき個別データを修正したことにより、結果表の再演算を行い、予定より1か月遅れて製表結果を提出した。 平成16年調査の達成精度計算については、同省からの製表基準書の変更により、終了予定時期が17年5月から10月に変更され、</p>				調査名	年度 (平成)	期限	適合 度	満足 度	雇用動向調査	15年度				16年度				17年度				18年度				19年度				賃金構造基本統計調査	15年度				16年度				17年度				18年度				19年度			
調査名	年度 (平成)	期限	適合 度	満足 度																																															
雇用動向調査	15年度																																																		
	16年度																																																		
	17年度																																																		
	18年度																																																		
	19年度																																																		
賃金構造基本統計調査	15年度																																																		
	16年度																																																		
	17年度																																																		
	18年度																																																		
	19年度																																																		

	<p>変更後の定められた期限までに製表結果を提出した。</p> <p>また、平成19年度において、上半期と下半期の集計結果を合算して作成する年計の集計結果表について、厚生労働省からの追加依頼を受けたことにより、業務の負担増となったが、定められた期限までに、同省の要望どおりに対応した。</p> <p>イ 賃金構造基本統計調査</p> <p>平成17年調査の個人票のデータチェックにおいて、16年調査に比べてエラー件数が約2倍と著しく増加したほか、データチェック審査事務の疑義照会において厚生労働省からの疑義回答の遅れがあり、事務の進ちょくに支障が出た。</p> <p>平成18年調査は、同省からの報告誤りに伴うデータ訂正依頼に対応したため、再集計を行い、事業所票は18年12月、個人票は19年2月に製表結果の再提出を行った。</p> <p>平成19年調査は、事業所票について、製表結果の提出後、同省からの報告誤りが判明したため、これに伴うデータ訂正依頼を受け、再集計により対応し、19年11月に製表結果の再提出を行った。</p> <p>これらにより、業務の負担増となったが、他の業務とのスケジュールや要員の調整等を行って、定められた期限への遅れもなく、同省の要望どおりに対応した。</p>		
当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	4,093人日
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>厚生労働省から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同省の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+1,013人日(+33%)となっているが、これは主に、平成15年雇用動向調査の集計事項の追加、平成16年雇用動向調査の結果表のEXCEL化及び製表基準書の変更による対応が生じたこと、また、平成17年賃金構造基本調査において、調査環境の変化などに伴うエラー件数の増加（対前年調査比約2倍）によるチェックリスト審査事務が増加したことによるものであり、他の調査への影響もなかったことから、問題はない。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをしながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>さらに、疑義回答の遅れ、当初予定にない追加依頼への対応、委託元の報告誤りが原因の再集計など、多くの負担増があったものの、同局の要望どおりに対応している。この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、いずれも「A」という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p>			

「必要性」:

秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。

「効率性」:

第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+1,013人日(+33%)となっているが、これは主に、平成16年度において、集計事項の追加、結果表のEXCEL化及び製表基準書の変更による対応が生じたこと、また、平成17年度において、調査環境の変化などに伴うエラー件数の増加(対前年調査比約2倍)によるチェックリスト審査事務が増加したことによるものであり、他の調査への影響もなかったことから、問題はない。

「有効性」:

雇用対策の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (12)(商業統計調査)																										
中期目標の記載事項																											
センターは、次に掲げる統計調査について、府省等からの委託を受けて製表事務を行う。なお、この際、委託府省等と緊密な連携をとりつつ、事務を進めるものとする。																											
中期計画の記載事項																											
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。																											
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果																											
小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）																										
委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<p><経済産業省委託業務> 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査名</th> <th>年度 (平成)</th> <th>期限</th> <th>適合度</th> <th>満足度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">商業統計調査</td> <td>15年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>特記事項 平成14年調査については、15年6月に結果表を提出したが、経済産業省からの個別データの追加に対応したため、約1週間遅れて、15年7月に業務を終了した。 平成16年調査の速報集計については、同省からの製表基準書の変更があり（終了予定時期は17年4月から5月に変更）、確報集計についても、同省からの製表基準書の変更があった（終了予定時期は17年9月から11月に変更）。 さらに、平成19年調査の地方分査用システム等の開発について、同省から業務完了時期直前に製表基準書の変更があった（終了予定時期は18年12月から19年1月に変更）。 これらにより業務の負担増となったが、変更後の定められた期限までに、同省の要望どおりに対応した。</p>	調査名	年度 (平成)	期限	適合度	満足度	商業統計調査	15年度				16年度				17年度			-	18年度				19年度			-
調査名	年度 (平成)	期限	適合度	満足度																							
商業統計調査	15年度																										
	16年度																										
	17年度			-																							
	18年度																										
	19年度			-																							

当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	486人日
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>経済産業省から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同省の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>平成16年度において、集計事項の変更に伴い、結果表自動審査のための準備事務が増加したことにより投入量が予定を大幅に上回った(+130人日)が、19年度において、確報集計のデータチェックが平成20年度に持ち越されたことなどのほか、速報集計での業務効率化が図られたことにより、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+10人日(+2%)にとどまっており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>さらに、度重なる製表基準書の変更、結果表提出後のデータの追加への対応など、多くの負担増があったものの、同省の要望どおりに対応している。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、いずれも「A」という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」:</p> <p>秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」:</p> <p>平成16年度において、集計事項の変更により、結果表自動審査のための準備事務が増加したことにより投入量が予定を大幅に上回った(+130人日)が、19年度において、確報集計のデータチェックが平成20年度に持ち越されたことなどのほか、速報集計での業務効率化が図られたことにより、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+10人日(+2%)にとどまっており、効率的な業務運営が行われている。</p> <p>「有効性」:</p> <p>経済対策などの企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。</p>			

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (13) 国土交通省総合政策局委託業務（自動車輸送統計調査（特別積合せトラック調査）、内航船舶輸送統計調査（自家用船舶輸送実績調査）、建設工事統計調査、建築着工統計調査、海難統計、船舶船員統計調査、船員労働統計調査、建築物滅失統計調査、住宅用地完成面積調査、建設総合統計）
-----------	--

中期目標の記載事項

センターは、次に掲げる統計調査について、府省等からの委託を受けて製表事務を行う。なお、この際、委託府省等と緊密な連携をとりつつ、事務を進めるものとする。

中期計画の記載事項

府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。

中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）																																															
委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<p>< 国土交通省総合政策局委託業務 > 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査名</th> <th>年度 (平成)</th> <th>期限</th> <th>適合 度</th> <th>満足 度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">自動車輸送統計調査（特別積合せトラック調査）</td> <td>15年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">内航船舶輸送統計調査 (自家用船舶輸送実績調査)</td> <td>15年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	調査名	年度 (平成)	期限	適合 度	満足 度	自動車輸送統計調査（特別積合せトラック調査）	15年度				16年度				17年度				18年度				19年度				内航船舶輸送統計調査 (自家用船舶輸送実績調査)	15年度				16年度				17年度				18年度				19年度			
調査名	年度 (平成)	期限	適合 度	満足 度																																												
自動車輸送統計調査（特別積合せトラック調査）	15年度																																															
	16年度																																															
	17年度																																															
	18年度																																															
	19年度																																															
内航船舶輸送統計調査 (自家用船舶輸送実績調査)	15年度																																															
	16年度																																															
	17年度																																															
	18年度																																															
	19年度																																															

内航船舶輸送統計調査 (内航船舶輸送実績調査)	15年度			
	16年度			
	17年度			
	18年度			
	19年度			
建設工事統計調査	15年度			
	16年度			-
	17年度			-
	18年度			
	19年度			
建築着工統計調査	15年度			
	16年度			-
	17年度			
	18年度			-
	19年度			
海難統計	15年度			
	16年度			
	17年度			
	18年度			
	19年度			
船舶船員統計調査	15年度			
	16年度			
	17年度			-
	18年度			
	19年度			
船員労働統計調査	15年度			
	16年度			
	17年度			-
	18年度			-
	19年度			

建築物滅失統計調査	15年度			
	16年度			-
	17年度			-
	18年度			-
	19年度			
住宅用地完成面積調査	15年度			
	16年度			-
	17年度			-
	18年度			
	19年度			
建設総合統計	15年度			
	16年度			
	17年度			-
	18年度			-
	19年度			

特記事項

ア 自動車輸送統計調査（特別積合せトラック調査）

平成14年10月調査（平成15年度受託）は、国土交通省総合政策局からの結果表様式変更に対応したため、当初予定より約1か月遅れて結果表を提出した。また、平成15年10月調査及び16年6月調査（ともに平成16年度受託）の内容検査については、同局での事務スケジュールが見直しされ、併せて業務終了予定時期が変更され、それぞれ変更後の定められた期限までに製表結果を提出した。

イ 内航船舶輸送統計調査

平成18年度に実施した内航船舶輸送実績調査7月分については、同局からの報告誤りに伴う個別データ訂正依頼に対応したため、再集計を行い、製表結果の再提出を行った。

ウ 建設工事統計調査

平成17年度の建設工事施工統計調査のデータチェックリスト審査事務の終盤において、国土交通省総合政策局から製表基準書の変更が示されたため、データチェックリスト審査事務終了後にデータ訂正を行うなど、事務の重複が発生し、事務の進捗よくに支障が出た。

これにより業務の負担増となったが、他の業務とのスケジュールや要員の調整等を行って、定められた期限への遅れもなく、同局の要望どおりに対応した。

また、平成18年度の建設工事施工統計調査のデータチェックリスト審査事務について、同局から約1か月の早期完了の要請を受けた。このため、同局に対し、データチェックリスト審査方法を逆提示するなどして、事務の効率化を図り、さらに、他の業

	<p>務とのスケジュールや要員の調整等を行って、同局の要望どおり早期化に対応した。</p> <p>エ 建築着工統計調査 平成17年10月分、17年計、18年3月分及び17年度計については、国土交通省総合政策局からの報告誤りに伴う個別データ訂正依頼に対応したため、製表結果の再提出を行った。</p> <p>オ 船舶船員統計調査 平成15年調査の船舶調査については、国土交通省総合政策局からの調査票の追加要請に対応したため、当初予定より1か月遅れて16年2月に製表結果を提出した。平成16年調査の船舶調査については、同局での疑義処理事務が予定以上に期間を要したため、協議の上、当初予定より約2週間遅れて17年2月に製表結果を提出した。</p> <p>カ 住宅用地完成面積調査 平成16年度調査については、国土交通省総合政策局からの個別データ修正依頼に対応したため、協議の上、予定より約1か月遅れて17年2月に製表結果を提出した。</p> <p>キ 建設総合統計 平成17年10月、11月、12月分及び17年計については、集計に用いる建築着工統計調査の再集計の影響から、再集計を行った。</p>		
当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	15,858人日
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>国土交通省総合政策局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>建設工事統計調査について、平成16年度から従来の集計に加えて、チェックリスト審査事務を新規に受託したこと、平成19年船員労働統計調査は、調査票の変更に伴って、新たに結果表様式作成等準備事務の業務量が増加したことにより、投入量増となる一方で、平成18年及び平成19年内航船舶輸送統計調査において、担当者の業務の習熟が図られたことにより効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+396人日(+3%)にとどまっております。効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体的な製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>さらに、製表基準書の変更、委託元からの報告誤りが原因の再集計、調査票の追加要請への対応など、多くの負担増があったものの、同局の要望どおりに対応している。この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、いずれも「A」という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p>			

「必要性」:

秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。

「効率性」:

チェックリスト審査事務を新規に受託したことや調査票の変更など、投入量の増加要因が存在したものの、平成18年及び平成19年内航船舶輸送統計調査において、担当者の業務の習熟が図られたことにより効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+396人日(+3%)にとどまっており、効率的な業務運営が行われている。

「有効性」:

住宅政策や交通政策などの企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (14) 国土交通省土地・水資源局委託業務（平成15年法人土地基本調査、平成15年住宅・土地統計調査特別集計（世帯に係る土地基本集計））																										
中期目標の記載事項																											
センターは、次に掲げる統計調査について、府省等からの委託を受けて製表事務を行う。なお、この際、委託府省等と緊密な連携をとりつつ、事務を進めるものとする。																											
中期計画の記載事項																											
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。																											
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果																											
小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）																										
委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<p><国土交通省土地・水資源局委託業務> 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査名</th> <th>年度 (平成)</th> <th>期限</th> <th>適合度</th> <th>満足度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">平成15年法人土地基本調査</td> <td>16年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">平成15年住宅・土地統計調査 特別集計 (世帯に係る土地基本集計)</td> <td>16年度</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>特記事項 ・平成15年住宅・土地統計調査特別集計（世帯に係る土地基本集計） 速報集計について、平成16年度において集計データの取扱いの誤りなどのため再集計を行い、協議の上、予定より約1か月遅れて提出した。</p>				調査名	年度 (平成)	期限	適合度	満足度	平成15年法人土地基本調査	16年度				17年度				平成15年住宅・土地統計調査 特別集計 (世帯に係る土地基本集計)	16年度	×	×	-	17年度			-
調査名	年度 (平成)	期限	適合度	満足度																							
平成15年法人土地基本調査	16年度																										
	17年度																										
平成15年住宅・土地統計調査 特別集計 (世帯に係る土地基本集計)	16年度	×	×	-																							
	17年度			-																							
当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	1,147人日																								
当該項目の評価	B																										

【評価結果の説明】

平成15年住宅・土地統計調査特別集計（世帯に係る土地基本集計）の速報集計において、集計データの取扱いの誤りなどのため、再集計を行い、協議の上、予定より約1か月遅れて製表結果を提出している。この対応や基準書の変更への対応などにより、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+360人日(+46%)となっている。

その他の調査については、国土交通省土地・水資源局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。

これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをしながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。

プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。

この結果、今中期目標期間における年度の評価は、「A」が1回、「B」が1回という結果である。

以上のことから、目標を概ね達成していると判断した。

「必要性」:

秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。

「効率性」:

平成15年住宅・土地統計調査特別集計（世帯に係る土地基本集計）の速報集計の再集計や基準書の変更への対応などにより、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+360人日(+46%)となっているが、他の調査への大きな影響はなく、問題はない。

「有効性」:

住宅政策などの企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (15) 国土交通省自動車交通局委託業務（旅客自動車運送事業輸送実績調査、貨物自動車運送事業輸送実績調査）																																															
中期目標の記載事項																																																
センターは、次に掲げる統計調査について、府省等からの委託を受けて製表事務を行う。なお、この際、委託府省等と緊密な連携をとりつつ、事務を進めるものとする。																																																
中期計画の記載事項																																																
府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。																																																
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果																																																
小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）																																															
委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<p><国土交通省自動車交通局委託業務> 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査名</th> <th>年度 (平成)</th> <th>期限</th> <th>適合 度</th> <th>満足 度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">旅客自動車運送事業輸送実績調査</td> <td>15年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">貨物自動車運送事業輸送実績調査</td> <td>15年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>特記事項 ア 旅客自動車運送事業輸送実績調査 平成16年度調査について、国土交通省自動車交通局から対象外調査票が含まれていたことに伴うデータ訂正依頼を受け、提出期日を協議の上、再集計を行い、平成18年2月に製表結果を提出した。</p>	調査名	年度 (平成)	期限	適合 度	満足 度	旅客自動車運送事業輸送実績調査	15年度				16年度				17年度				18年度				19年度				貨物自動車運送事業輸送実績調査	15年度				16年度				17年度				18年度				19年度			
調査名	年度 (平成)	期限	適合 度	満足 度																																												
旅客自動車運送事業輸送実績調査	15年度																																															
	16年度																																															
	17年度																																															
	18年度																																															
	19年度																																															
貨物自動車運送事業輸送実績調査	15年度																																															
	16年度																																															
	17年度																																															
	18年度																																															
	19年度																																															

	<p>イ 貨物旅客自動車運送事業輸送実績調査</p> <p>平成17年度調査については、同局から提示された製表基準書（19年4月新適用分類での15年度及び16年度調査の遡及集計依頼分を含む。）に基づいて製表業務を行っていたが、同局の都合により15年度調査の遡及集計の依頼が取り下げられたことから、16年度調査遡及集計結果及び17年度調査集計結果について定められた期限より早い19年8月に提出した。しかし、その後に同局からの報告誤り（両年度分）が判明したため、これに伴うデータ訂正に対応し、再集計を行い、19年9月に再提出した。</p>		
当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	3,141人日
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>国土交通省自動車交通局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+354人日(+13%)となっているが、これは主に、平成18年度受託業務において、調査票の重複及び疑義照会件数の増加に対応したこと、また、平成19年度に受託した平成18年度旅客自動車運送事業輸送実績調査において、新規調査事項が盛り込まれたことにより、製表基準書の確認事務が増加するとともに、調査票の記入状態が悪くなかったことにより同局への疑義が増加したためであり、他の業務への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをしながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>さらに、同局の誤りが原因のデータ訂正依頼による再集計を行うなどの負担増があったものの、同局の要望どおりに対応している。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、いずれも「A」という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」:</p> <p>秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」:</p> <p>第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+354人日(+13%)となっているが、これは主に、平成18年度受託業務において、調査票の重複及び疑義照会件数の増加に対応したこと、また、平成19年度に受託した平成18年度旅客自動車運送事業輸送実績調査において、新規調査事項が盛り込まれたことにより、製表基準書の確認事務が増加するとともに、調査票の記入状態が悪くなかったことにより国土交通省自動車交通局への疑義が増加したためであり、他の業務への影響もなかったことから、問題はなく、効率的な業務運営が行われている。</p>			

「有効性」:

交通政策の企画立案など関係方面において調査結果の利活用が期待される。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 受託製表に関する事項 (16) 都道府県委託業務（労働力調査都道府県別集計、東京都生計分析調査、平成17年国勢調査要計表による町丁・字別集計、平成17年国勢調査特別集計、平成15年住宅・土地統計調査県内ブロック別集計）
-----------	--

中期目標の記載事項

センターは、次に掲げる統計調査について、府省等からの委託を受けて製表事務を行う。なお、この際、委託府省等と緊密な連携をとりつつ、事務を進めるものとする。

中期計画の記載事項

府省等の委託を受けて行う次に掲げる統計調査の製表について、委託府省等と緊密な連携をとり、委託府省等が明示した基準に基づいて事務を進め、委託府省等が集計区分ごとに定める期限までに、該当区分の製表結果を各府省等に提出する。

中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）																																																	
委託府省等が明示した基準に基づいて期限までに製表結果を各府省等に提出する。	<p>< 都道府県委託業務 > 実施状況 製表業務の実施状況は、表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査名</th> <th>年度 (平成)</th> <th>期限</th> <th>適合度</th> <th>満足度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">労働力調査 都道府県別集計</td> <td>15年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">東京都生計分析調査</td> <td>15年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>	調査名	年度 (平成)	期限	適合度	満足度	労働力調査 都道府県別集計	15年度				16年度				17年度				18年度				19年度				東京都生計分析調査	15年度				16年度				17年度				18年度			×	-	19年度			×	×
調査名	年度 (平成)	期限	適合度	満足度																																														
労働力調査 都道府県別集計	15年度																																																	
	16年度																																																	
	17年度																																																	
	18年度																																																	
	19年度																																																	
東京都生計分析調査	15年度																																																	
	16年度																																																	
	17年度																																																	
	18年度			×	-																																													
	19年度			×	×																																													

	平成17年国勢調査 要計表による町丁・字別集計			15年度			
				16年度			
				17年度			-
				18年度			
				19年度			
	平成17年国勢調査 特別集計			15年度			
				16年度			
				17年度			
				18年度			
				19年度			
	平成15年住宅・土地統計調査県内ブロック別集計			15年度			
				16年度	-		
				17年度			
				18年度			
				19年度			
<p>特記事項</p> <p>ア 平成15年住宅・土地統計調査県内ブロック別集計 平成15年調査については、都道府県からの委託に基づいて17年3月までに製表結果の提出を行ったが、その後、総務省統計局から平成15年住宅・土地統計調査の製表基準書の変更が示されたため、提出期日を協議の上、再集計を行い、17年5月に再提出した。</p> <p>イ 東京都生計分析調査 平成18年度において、平成18年6～12月分の結果のうち一部の結果数値に誤りがあったため、再集計を行ったほか、平成19年度においては、平成20年1月調査分の集計時に誤りがあったため、平成18年4月調査分までさかのぼって再集計を行った。いずれもプログラム誤りによるもので、誤りの再発防止策として、品質管理を徹底するとともに、本集計結果に関して、結果表自動審査システムを強化する等の措置を講じた。</p>							
当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	5,403人日				
当該項目の評価	A						

【評価結果の説明】

都道府県などから提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する都道府県などの満足度については、住宅・土地統計調査県内ブロック別集計、労働力調査都道府県別集計及び国勢調査特別集計については、「満足できる」という状況である。

第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+875人日(+19%)となっているが、これは主に、平成18年度に新規に受託することとなった東京都生計分析調査の準備事務を、平成17年度に急ぎょ実施したことなどによるものであり、限られた要員の中での業務の新規受託は、他の業務での効率化が図られたことで可能となることから、全体として効率的な業務運営が行われていると認められる。

これまで統計センターに蓄積されてきた経験やノウハウなどに基づき、製表委託元から提示された具体の製表方法についてアドバイスをを行いながらとりまとめていくなど、効果的な支援を行っている。

プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。

東京都生計分析調査について、平成18年度において、平成18年6～12月分の結果のうち一部の結果数値に誤りがあったため、再集計を行ったほか、平成19年度において、平成20年1月調査分の集計時に誤りがあったため、平成18年4月調査分までさかのぼって再集計を行った。いずれもプログラム誤りによるものであるが、誤りの再発防止策として、品質管理の徹底、結果表自動審査システムの強化、プログラム分析を十分に行うとともに、プログラムの仕様やプログラムそのものに誤りがないか、プログラム全体にわたるチェックを徹底するなどの措置が講じられている。

また、平成17年国勢調査要計表による町丁・字等別集計については、統計センターがあらかじめ需要を想定し、都道府県に対し案内して実施したものであり、その努力は評価に値する。

この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「A」が4回、「B」が1回という結果である。

以上のことから、目標を十分達成していると判断した。

「必要性」:

秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において製表業務を実施させることが必要不可欠である。

「効率性」:

第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比+875人日(+19%)となっているが、これは主に、平成18年度に新規に受託することとなった東京都生計分析調査の準備事務を、平成17年度に急ぎょ実施したことなどによるものであり、限られた要員の中での業務の新規受託は、他の業務での効率化が図られたことで可能となることから、全体として効率的な業務運営が行われていると認められる。

「有効性」:

地方公共団体における各種行政施策の基礎資料として活用されるなど関係方面において調査結果の利活用が期待される。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理に関する事項
-----------	---

中期目標の記載事項

地域メッシュ統計、社会生活統計指標、推計人口等の加工統計の作成を始めとする統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理について、センターは、総務省が明示した基準に基づいて事務を実施する。

また、センターは、統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理を行うための体制を整備するとともに、これに必要な知識やノウハウを有する人材の確保・育成に努める。

中期計画の記載事項

国勢調査及び事業所・企業統計調査の結果を用いた地域メッシュ統計、社会生活統計指標、推計人口等の加工統計の作成を始めとする統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理について、総務省が明示した基準に基づいて事務を実施する。

また、統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理を行うための担当を明確化するなど、体制整備を行うとともに、研修の充実や情報処理に関する専門知識を有する者の採用等により、これに必要な知識やノウハウを有する人材の確保・育成に努める。

中期目標の期間における小項目ごとの実施結果

小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）
-----	--------------------------

総務省が明示した基準に基づいて事務を実施する。

<統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理に関する事項>
投入量

（単位：人日）

年度 (平成)	加工統計関係		
	従来ベース予定	実績	対従来比
15年度	5,716	5,384	-332 (-6%)
16年度	6,659	4,051	-2,608 (-39%)
17年度	3,634	3,308	-326 (-9%)
18年度	2,931	3,052	121 (4%)
19年度	12,766	4,582	-8,184 (-64%)
合計	31,706	20,377	-11,329 (-36%)

平成18年度において、製表基準書の変更等による業務量の増加により、対従来比で投入量がプラスとなったが、その他の年度では、地域メッシュ統計における予定事務の対象数・範囲等の減少（17年度）、平成21年経済センサス-基礎調査の試験調査の産業分類格付事務における自動格付システムの活用（19年度）などにより、大幅な事務の効率化が図られた。

この結果、第1期中期目標期間全体で、対従来比11,329人日（36%）の減少となった。

提出状況、適合度、満足度

業務名	年度 (平成)	期限	適合度	満足度
統計情報データベースシステム	15年度			
	16年度			
	17年度			
	18年度			
	19年度			
局内時系列データベース	15年度			
	16年度			
	17年度			
	18年度			
	19年度			
地域メッシュ統計関係	15年度			
	16年度			
	17年度			
	18年度			
	19年度			
社会・人口統計体系	15年度			
	16年度			
	17年度			
	18年度			
	19年度			
人口推計	15年度			
	16年度			
	17年度			
	18年度			
	19年度			

住民基本台帳人口移動報告	15年度			
	16年度			
	17年度			
	18年度			
	19年度			
事業所・企業データベース	15年度			
	16年度			
	17年度			
	18年度			
	19年度			
平成21年経済センサス-基礎調査	15年度			
	16年度			
	17年度			
	18年度			
	19年度			
サービス産業動向調査	15年度			
	16年度			
	17年度			
	18年度			
	19年度			
日本統計月報	15年度			
	16年度			
	17年度			
	18年度			
	19年度			

特記事項

ア 社会・人口統計体系

平成18年度都道府県データの収集・整備については、総務省統計局からの製表基準書の変更により、提出予定時期が18年11月から12月に変更され、変更後の定められた期限までに製表結果を提出した。

また、平成19年度都道府県データの収集・整備については、同局からの製表基準書の変更により、終了予定時期が平成19年11月から20年2月に変更され、変更後の定められた期限までに製表結果を提出した。

	<p>イ 人口推計 平成18年度人口推計年報については、総務省統計局からの製表基準書の変更により、提出予定時期が19年2月から3月に変更され、変更後の定められた期限までに製表結果を提出した。</p> <p>ウ 住民基本台帳人口移動報告 平成18年年報については、総務省統計局からの製表基準書の変更により、提出予定時期が平成19年2月から4月に変更され、変更後の定められた期限までに製表結果を提出した。 また、平成19年年報については、同局からの製表基準書の変更により、提出予定時期が平成20年3月から4月に変更され、変更後の製表基準書に基づいて、製表業務を進めている。</p>		
当該業務に係る事業費用	37,871,293千円の内数	当該業務に従事する職員数	20,377人日
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】 総務省統計局から提示された製表基準書に基づき製表業務が行われ、定められた期限までに製表結果が提出されている。統計センターに委託した製表業務に対する同局の満足度についても、「満足できる」という状況である。</p> <p>地域メッシュ統計における予定事務の対象数・範囲等の減少（17年度）、平成21年経済センサス-基礎調査の試験調査の産業分類格付事務における自動格付システムの活用（19年度）などにより、業務全般的に大幅な効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-11,329人日（-36%）となっており、効率的な業務運営が行われていると認められる。</p> <p>プライバシー等の秘密の保護のために必要な措置として、規則に基づいた調査票等の適正かつ厳重な管理を行うとともに、情報セキュリティポリシー及び関係規定の見直しとその浸透に向けた取組を実施したほか、平成19年10月にはI S M S 認証を取得し、職員のセキュリティレベル及び対外的信頼性の向上を図るなど、組織的に情報セキュリティ対策が講じられている。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、「A」が4回、「B」が1回という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 秘密の保護、結果精度の保持を図り、政府統計に対する信頼性の確保及び統計技術の向上に資するためには、製表に関する専門的な知見・能力を有する職員及びシステムを有し、かつ情報セキュリティ対策が徹底されている「独立行政法人統計センター」において統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理に関する業務を実施させることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」: 地域メッシュ統計における予定事務の対象数・範囲等の減少（17年度）、平成21年経済センサス-基礎調査の試験調査の産業分類格付事務における自動格付システムの活用（19年度）などにより、業務全般的に大幅な効率化が図られ、第1期中期目標期間全体での投入量は、対従来比-11,329人日（-36%）となっており、効率的な業務運営が行われている。</p>			

「有効性」:

製表において、総務省統計局からの要望内容に応じた(製表基準に合致した)処理を行い、製表結果を期限までに同局に提出したことにより、同局による迅速な統計情報の提供(公表)が行われ、行政施策の企画立案のほか、学術研究、民間事業活動など幅広く加工統計データが利活用されている。

中期計画の該当項目	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 4 技術の研究に関する事項
中期目標の記載事項	
センターは、より効率的かつ効果的な製表業務の運営に資するための技術の研究について、そのための体制を整備するとともに、必要に応じ、国際機関や諸外国の統計機関等と交流すること等により国際的な動向をも踏まえつつ、積極的に実施する。 また、当該研究の成果を十分に活用し、調査環境の変化や統計利用者のニーズの複雑多様化に、よりの確に対応できるように努める。	
中期計画の記載事項	
より効果的効率的な製表技術の開発に資するための研究を専任で行う組織体制を整備するとともに、国際的な動向等に関する情報収集についても積極的に行いつつ、必要に応じ、国内外の大学や官民の研究所、国際機関や諸外国の統計機関等の外部の機関との間で、技術協力や連携を図りながら、製表業務の高度化や製表結果の品質向上などに重点を置いて研究を実施する。 また、調査環境の変化や統計利用者のニーズの複雑多様化に対応すべく、当該研究の成果を的確に活用していくものとする。	
各事業年度又は中期目標の期間における小項目ごとの実施結果	
小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）
より効果的効率的な製表技術の開発に資するための研究を専任で行う組織体制を整備するとともに、国際的な動向等に関する情報収集についても積極的に行いつつ、必要に応じ、国内外の大学や官民の研究所、国際機関や諸外国の統計機関等の外部の機関との間で、技術協力や連携を図りながら、製表業務の高度化や製表結果の品質向上などに重点を置いて研究を実施する。 また、調査環境の変化や統計利用者のニーズの複雑多様化に対応すべく、当該研究の成果を的確に活用していくものとする。	<p>技術研究を専任で行う組織の充実 外部の研究機関、大学等との人材交流を推進し、統計センター職員の研究能力の向上及び製表技術の高度化・改善を図るため、平成16年度から外部研究者を非常勤職員として採用（16年度及び17年度：各1人、18年度及び19年度：各2人）した。 また、「データエディティング研究会」において毎年度外部研究者をメンバーとするなど、外部研究者の積極的活用による技術研究体制の充実を図った。</p> <p>データエディティングに関する研究 データエディティングに関する技術の向上及び業務の効率化に資するため、「データエディティング研究会」を毎年度開催（5年間の合計で11回）するとともに、欧米諸国で開催された学会等への参加及び文献の収集・分析を通じ、諸外国における研究動向の把握に努めた。 また、経理項目の欠測値の補定方法及び「世帯類型補定システム」の労働力調査への適用に関する研究を実施した。</p>

	<p>統計分類の自動格付に関する研究</p> <p>製表業務の中核の一つである分類符号格付事務の自動化を図ることを目的として、事業所・企業統計調査の産業分類及び社会生活基本調査の生活時間行動分類の自動格付に関する研究を実施した。</p> <p>産業分類の自動格付の研究成果は、平成16年事業所・企業統計調査の産業分類符号検査事務に活用した結果、人手のみによる検査方法に比べ、製表要員の投入量が約55%削減された。</p> <p>一方、生活時間行動分類（詳細分類）の自動格付の研究成果は、平成18年社会生活基本調査の生活時間行動分類格付事務に活用した結果、本事務における自動格付の格付率は約75%を達成し、人手のみによる格付方法に比べ、製表要員の投入量が約20%削減された。</p> <p>さらに、市区町村コードの自動格付に関する研究を実施し、その成果を平成20年住宅・土地統計調査の製表業務に適用することとした。</p> <p>また、平成19年4月には、「統計分類自動格付検討プロジェクト」を設置し、国勢調査を始めとする産業・職業分類及び全国消費実態調査を始めとする収支項目分類の自動格付システムの構築に向けた研究に着手するなど、製表業務への自動格付導入の拡大を図っている。</p> <p>統計ニーズの多様化に対応した製表方法に関する研究</p> <p>集計表の秘匿処理に関する研究を実施するとともに、匿名化技法として近年欧米諸国で調査研究が進められている「マイクロアグリゲーション(micro-aggregation)」の有効性に関する研究に着手した。</p> <p>また、統計調査の個票データを二次利用のために提供・保管する統計データアーカイブに関する国内外の情報収集及び資料整備を行うとともに、これらの資料に基づき、平成21年4月の新統計法の全面施行に向けて匿名データの提供準備を行っている。</p> <p>情報処理技術に関する研究</p> <p>ア プログラミング言語に関する研究</p> <p>現在、製表システム開発業務で主に使用しているプログラミング言語「Visual Basic.NET」は、LANシステムにおけるOSの選択肢を狭めていること等の課題があることから、機種やOSに依存しないプログラミング言語である「Java」について調査、研究を行った。</p> <p>これまでの研究で、製表システム開発への「Java」言語の適用は可能であるものの、国勢調査等の大量データを高速に処理するには、データ処理時間の短縮等を可能とするソフトウェアが必要となること、更なるハードウェアの性能向上が必要となること等が明らかになった。</p> <p>イ プログラミングの標準化に関する研究</p> <p>システム開発の効率性を図るため、IT関連企業の技術支援を活用することなどにより、プログラミングの標準化に関する研究を進め、平成18年度に、システム設計における基本方針の企画、プログラム共有部品の企画・開発及び各種システムの開発者に対する設計方針の指導・支援に関する業務を行うアーキテクチャ担当を情報処理課に設置した。</p> <p>また、平成19年度には、各種統計調査の集計システム開発で使用可能なシステム共通部品（フレームワーク）の整備を行い、実際に、平成19年就業構造基本調査集計システム、家計調査新製表システム等に組み込まれたことにより、システム開発における事務の効率化が図られた。</p>
--	---

		<p>研究成果の普及等</p> <p>ア 製表技術参考資料等の刊行 統計センターにおける製表技術の研究成果や国内外における製表技術の研究動向の調査分析結果、製表業務のマネジメントを含む製表技術関連文献の翻訳等の資料を5年間で21冊刊行した。</p> <p>イ 学会における研究発表 製表技術に関して学識研究者との情報交流を推進し、研究の促進を図ることを目的として、日本統計学会及びI S I (International Statistical Institute: 国際統計協会) 大会において研究発表を行った。</p>	
当該業務に係る事業費用	611,306千円	当該業務に従事する職員数	36人の内数
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>外部の研究機関、大学等との人材交流を推進し、統計センター職員の研究能力の向上及び製表技術の高度化・改善を図るため、平成16年度から外部研究者を非常勤職員として採用するとともに、「データエディティング研究会」において毎年度外部研究者をメンバーとするなど、外部研究者の積極的活用による技術研究体制の充実を図っており、より効果的効率的な製表技術の開発に資するための研究を専任で行う組織体制が整備されている。</p> <p>統計センターでは、データエディティングに関する研究、統計分類の自動格付に関する研究、統計ニーズの多様化に対応した製表方法に関する研究、情報処理技術に関する研究といった、製表業務の高度化や製表結果の品質向上などに重点を置いた研究が実施されている。</p> <p>データエディティングに関する研究では、各年度において、当該研究の盛んな欧米諸国の学会等に参加しており、国際的な動向等に関する情報収集を積極的に行っているものと認められる。</p> <p>統計分類の自動格付に関する研究では、産業分類の自動格付の研究成果を平成16年事業所・企業統計調査の産業分類符号検査事務に活用した結果、人手のみによる検査方法に比べ、製表要員の投入量が約55%削減されるとともに、生活時間行動分類（詳細分類）の自動格付の研究成果を平成18年社会生活基本調査の生活時間行動分類格付事務に活用した結果、本事務における自動格付の格付率は約75%を達成し、人手のみによる格付方法に比べ、製表要員の投入量が約20%削減されている。さらに、市区町村コードの自動格付に関する研究を実施し、その成果を平成20年住宅・土地統計調査の製表業務に適用することとしている。</p> <p>このように研究の成果を的確に活用し、効率化につながる成果を出していることは、高く評価できる。</p> <p>また、平成21年経済センサス-基礎調査における産業分類自動格付の実施を目標として、従来からの知識や技術に基づく自動格付技法の改良を図る研究を行うとともに、平成19年4月に「統計分類自動格付検討プロジェクト」を設置し、国勢調査を始めとする産業・職業分類及び全国消費実態調査を始めとする収支項目分類の自動格付システムの構築に向けた研究を開始していることは、更に製表業務への自動格付の活用に向けた努力がなされているものであり、今後の業務運営の効率化及び高度化にも大きく寄与することが期待できる。</p> <p>また、統計センターにおける製表技術の研究成果や国内外における製表技術の研究動向の調査分析結果、製表業務のマネジメントを含む製表技術関連文献の翻訳等の資料を5年間で21冊刊行するとともに、日本統計学会及びI S I (International Statistical Institute: 国際統計協会) 大会において研究発表を行うなど、積極的に研究成果の普及に取り組んでいる。</p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、いずれも「A」という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p>			

「必要性」:

統計センターが製表業務を迅速かつ正確に、また効率的に行うためには、製表技術に適用可能な研究を実施することが必要不可欠であると言える。

「効率性」:

統計分類の自動格付の研究成果を製表業務に適用し、投入量の削減（平成16年事業所・企業統計調査の産業分類符号検査事務で人手のみによる格付方法に比べ約55%減、平成18年社会生活基本調査の生活時間行動分類格付事務で人手のみによる格付方法に比べ約20%減）を実現するなど、統計センターの効率的な業務運営に寄与している。

「有効性」:

研究成果が製表業務に適用されることにより、統計センターの業務運営は更に効率化されるものと期待される。

中期計画の該当項目	第3 予算（人件費の見積りを含む。） 収支計画及び資金計画																																																														
中期目標の記載事項	運営費交付金を充当して行う事業については、「第2 業務運営の効率化に関する事項」で定める事項について配慮した中期計画の予算を作成し、当該予算による運営を行うこととする。																																																														
中期計画の記載事項	予算、収支計画及び資金計画については別添1による。																																																														
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）																																																														
小項目	<p style="text-align: center;">中期計画予算と決算額の対比</p> <p style="text-align: right;">単位：百万円</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区 別</th> <th style="text-align: center;">中期計画額</th> <th style="text-align: center;">決算額</th> <th style="text-align: center;">差額(増 減)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収入</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 運営費交付金収入</td> <td style="text-align: right;">53,936</td> <td style="text-align: right;">49,012</td> <td style="text-align: right;">4,924</td> </tr> <tr> <td> 受託収入</td> <td style="text-align: right;">43</td> <td style="text-align: right;">59</td> <td style="text-align: right;">16</td> </tr> <tr> <td> その他の収入</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">11</td> <td style="text-align: right;">11</td> </tr> <tr> <td>収入合計</td> <td style="text-align: right;">53,979</td> <td style="text-align: right;">49,082</td> <td style="text-align: right;">4,897</td> </tr> <tr> <td>支出</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 業務経費</td> <td style="text-align: right;">11,547</td> <td style="text-align: right;">9,848</td> <td style="text-align: right;">1,699</td> </tr> <tr> <td> 経常統計調査等に係る経費</td> <td style="text-align: right;">4,428</td> <td style="text-align: right;">4,273</td> <td style="text-align: right;">155</td> </tr> <tr> <td> 周期統計調査に係る経費</td> <td style="text-align: right;">7,119</td> <td style="text-align: right;">5,575</td> <td style="text-align: right;">1,544</td> </tr> <tr> <td> 受託経費</td> <td style="text-align: right;">43</td> <td style="text-align: right;">59</td> <td style="text-align: right;">16</td> </tr> <tr> <td> 一般管理費</td> <td style="text-align: right;">687</td> <td style="text-align: right;">1,104</td> <td style="text-align: right;">417</td> </tr> <tr> <td> 人件費</td> <td style="text-align: right;">41,702</td> <td style="text-align: right;">36,529</td> <td style="text-align: right;">5,173</td> </tr> <tr> <td> その他臨時損失</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td>支出合計</td> <td style="text-align: right;">53,979</td> <td style="text-align: right;">47,540</td> <td style="text-align: right;">6,439</td> </tr> </tbody> </table> <p>本章の各表における数値については、計数をそれぞれ四捨五入によっているため、合計が合致しないものがある。</p>			区 別	中期計画額	決算額	差額(増 減)	収入				運営費交付金収入	53,936	49,012	4,924	受託収入	43	59	16	その他の収入	0	11	11	収入合計	53,979	49,082	4,897	支出				業務経費	11,547	9,848	1,699	経常統計調査等に係る経費	4,428	4,273	155	周期統計調査に係る経費	7,119	5,575	1,544	受託経費	43	59	16	一般管理費	687	1,104	417	人件費	41,702	36,529	5,173	その他臨時損失	0	0	0	支出合計	53,979	47,540	6,439
区 別	中期計画額	決算額	差額(増 減)																																																												
収入																																																															
運営費交付金収入	53,936	49,012	4,924																																																												
受託収入	43	59	16																																																												
その他の収入	0	11	11																																																												
収入合計	53,979	49,082	4,897																																																												
支出																																																															
業務経費	11,547	9,848	1,699																																																												
経常統計調査等に係る経費	4,428	4,273	155																																																												
周期統計調査に係る経費	7,119	5,575	1,544																																																												
受託経費	43	59	16																																																												
一般管理費	687	1,104	417																																																												
人件費	41,702	36,529	5,173																																																												
その他臨時損失	0	0	0																																																												
支出合計	53,979	47,540	6,439																																																												

業務経費削減目標の達成状況

中期目標において削減目標が示されている業務経費のうち、経常統計調査等に係る経費については、平成16年度のLAN切替えに伴う業務系LANと情報系LANの統合、17年度及び18年度の工程管理システムと人事給与システムの一元化、19年度の経常調査用ホストコンピュータの再リース等により、期初年度に比べ7.2%(64百万円)の減額となった。

一般管理費については、消灯運動やエアコンの設定温度の見直し等による水道光熱費の削減、庁舎維持管理経費等の減少により、期初年度に比べ19.3%(47百万円)の減額となった。

これらの結果、期末年度における業務経費は、期初年度に比べ90.2%となり、中期目標の目標値(97%)を大きく上回る効率化を実現した。

単位：千円

【業務経費】	期初年度 平成15年度	16年度	17年度	18年度	期末年度 19年度
経常統計調査等に係る経費	882,085	860,385	859,306	852,480	818,255
一般管理費	242,232	238,465	227,540	200,794	195,389
業務経費合計	1,124,317	1,098,850	1,086,846	1,053,274	1,013,643
期初年度に対する割合	-	97.7%	96.7%	93.7%	90.2%

人件費の状況

業務の効率化等により、期末年度における常勤職員の給与は、期初年度に比べ304百万円(5.2%)の減額となった。

一方、期末年度における非常勤職員の給与については、期初年度に比べ237百万円の増額となった。これは、平成17年国勢調査など大規模周期調査において、製表業務を適切に実施するため、非常勤職員の活用を図ったためである。

なお、上記のほか法定福利費を含めた統計センター全体の人件費では、期初年度に比べ総額10百万円(0.2%)の減額となった。各年度の固有の事情により変動する退職手当は除いている。

予算と実績の乖離の是正について

平成18年度から、予算と実績の乖離の是正措置の一環として、過年度の予算未執行分の一部(18年度4.7億円(人件費3.5億円、業務経費1.2億円)、19年度11.7億円(人件費2.9億円、退職手当8.8億円))を繰り越して使用することにより、中期目標期間における収支の均衡を図るよう調整し、財政支出額の負担軽減を図った。

なお、この調整によって、期間進行基準の収益対象となる当年度の交付予算は減少することとなり、18年度以降当期利益は大きく減少している。

収支計画と決算額の対比

単位：百万円

区 別	中期計画額	決算額	差額(増 減)
費用の部	54,072	47,534	6,538
経常費用	54,072	47,079	6,993
製表業務費	49,720	38,219	11,501
受託業務費	43	59	16
一般管理費	4,188	4,511	323
減価償却費	121	4,290	4,169
財務費用	0	261	261
臨時損失	0	194	194
収益の部	54,072	49,037	5,035
運営費交付金収益	53,908	48,388	5,520
受託収入	43	59	16
資産見返負債戻入	121	384	263
資産見返運営費交付金戻入	13	264	251
資産見返物品受贈額戻入	108	120	12
その他収入	0	1	1
財務収益	0	0	0
臨時利益	0	204	204
純利益	0	1,503	1,503
目的積立金取崩額	0	0	0
総利益	0	1,503	1,503

本中期目標期間の総利益の明細は、以下のとおりである。

期間進行基準によって得た利益（詳細は前ページ参照）	728,472千円
会計基準第80による精算のための収益額（全額利益）	802,685千円
リース資産の会計処理上の損失等	39,195千円
預託金返還収入等	10,753千円

中期目標期間の総利益 1,502,716千円

資金計画と決算額の対比

単位：百万円

区 別	中期計画額	決算額	差額(増 減)
資金支出	53,979	45,929	8,050
業務活動による支出	53,951	41,540	12,411
投資活動による支出	28	569	541
財務活動による支出	0	3,821	3,821
資金収入	53,979	49,067	4,912
業務活動による収入	53,979	49,056	4,923
運営費交付金による収入	53,936	49,012	4,924
受託収入	43	44	1
その他収入	0	1	1
投資活動による収入	0	10	10
その他の収入	0	10	10
財務活動による収入	0	0	0
現預金残高	0	3,138	3,138

随意契約の適正化に向けた取組

統計センターでは、物品の調達、役務の供給等に係る契約手続について、従前から一般競争入札の拡大に向けて取り組んできたところであるが、「公共調達の適正化について」(平成18年8月25日財計第2017号)等を踏まえ、更なる随意契約の縮減に向けた取組を行っている。

具体的には、仕様書の要件等を見直すことにより、特定の者以外の者でも契約の履行が可能となるようにしたほか、必ずしも価格のみの評価による契約相手方の決定が適切とはならない案件(コンサルタント業務、広報業務など)については、企画競争方式を採用した。

これらの取組により、平成19年度においては、企画競争又は公募によらない、いわゆる1社随意契約(その他欄)について、17年度と比較すると契約締結の件数ベースでは約64%、年間支出金額ベースでは約34%減少した。

また、契約に関する情報公開については、既に平成17年度よりホームページに開示しており、積極的な情報の公開に取り組んできた。

	<p align="center">外部監査人による監査の実施</p> <p>統計センターは、政令に規定する外部監査人による監査を受ける義務は生じないものの、会計処理に関する信頼性、透明性をより高めるため、監事による監査のほか、法定外監査として外部監査人（監査法人）による財務諸表等に関する監査を平成16年度決算から毎年度実施している。</p> <p>なお、この監査結果は、監査を実施したすべての年度において適正意見が表明されている。</p>		
当該業務に係る事業費用		当該業務に従事する職員数	890人の内数
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務経費の削減については、LAN切替えに伴う業務系LANと情報系LANの統合（平成16年度）17年度及び18年度の工程管理システムと人事給与システムの一元化（17年度・18年度）経常調査用ホストコンピュータの再リース（19年度）など、各年度において実施してきた業務手法・体制等の見直しやペーパーレス化等による効率化の取組みを推進した結果、期末目標値である「3%以上の削減」に対し、<u>目標を大幅に上回る9.8%（約1.1億円）削減を達成</u>しており、非常に高く評価できる。 ・常勤職員に対する人件費（法定福利費、退職手当除く）の状況については、超過勤務の縮減、育児休業等を取得した職員への欠員補充を行わなかったことなどにより、期末年度において期初年度に比べ304百万円（5.2%）の減額となっている。しかし一方で、非常勤職員（法定福利費除く）については、期初年度に比べ期末年度は237百万円の増額になっているが、これは、平成17年国勢調査など大規模周期調査における製表業務を適切に実施するため非常勤職員の活用を図ったものである。全体の人件費（法定福利費、退職手当除く）では、<u>期初年度に比べ期末年度は67百万円（1.1%）の減額</u>となっており、効率的な業務運営が行われていると認められる。 ・期末の利益剰余金1503百万円の発生要因は、平成16年度から人件費（退職手当を除く）について、期間進行基準を採用していることにより、期間対応予算で計上する収益と実績である費用との差異から生じた利益等を積立金として整理した額の合計（700百万円）と、中期目標期間最終年度における精算処理として、運営費交付金の期末残である運営費交付金債務を収益化したもの（803百万円）である。 <p>これらは、人件費については、前述した理由により予算段階で想定していた人件費を実績が下回ったため、期間内の業務が十分に達成されていることを考慮すると、業務運営の効率化の結果として、評価できるものである。</p> <p>また、中期目標期間の精算処理部分についても、各事業年度において発生した運営費交付金の残余を翌年度に繰り越して活用してきた結果の残余であることから、中期目標期間の各年度において実施してきた業務手法・体制等の見直し等による効率化を推進した結果の累積として、評価できるものである。 ・物品の調達、役務の供給等に係る契約手続について、平成18年度から「公共調達の適正化について」に基づき、<u>随意契約の見直しと一般競争入札の拡大を推進</u>した結果、平成17年度以降において、随意契約の件数、年間支出額がともに減少し、一般競争入札の割合が増加している。また、平成18年度から契約に係る情報の公開も行われている。 <p>こうした取組みから、契約に関する公正性、透明性の確保を図った業務運営が行われているものと評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本法人では、監事による監査のほか、<u>法定外監査として外部監査人（監査法人）による財務諸表等に関する監査を平成16年度決算から毎年度実施</u>しており、この監査結果についても監査を実施した<u>すべての年度において適正意見が表明されている</u>ことは、会計処理の適正性、透明性を高める上で高く評価できる。 <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」: 予算監理を適切に行うことは、独立行政法人の前提条件である。</p> </p>			

「効率性」:

中期目標値を大幅に上回る業務経費の削減、人件費の削減及び随意契約の適正化が図られていることから、効率的な業務運営が図られている。

「有効性」:

予算の設定、実績の確定、予算と実績の差異分析等に関する財務書類の限りでは、有効な財務・会計管理が行われているものと判断できる。

中期計画の該当項目 第4 短期借入金の限度額			
中期目標の記載事項			
運営費交付金を充当して行う事業については、「第2 業務運営の効率化に関する事項」で定める事項について配慮した中期計画の予算を作成し、当該予算による運営を行うこととする。			
中期計画の記載事項			
各年度の運営費交付金等の交付期日にずれが生じることが想定されるため、短期借入金を借りることができるものとし、その限度額を26億円とする。			
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果			
小項目		小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）	
各年度の運営費交付金等の交付期日にずれが生じることが想定されるため、短期借入金を借りることができるものとし、その限度額を26億円とする。		なし。	
当該業務に係る事業費用		当該業務に従事する職員数	
当該項目の評価		該当なし。	
【評価結果の説明】			
「必要性」:			
「効率性」:			
「有効性」:			

中期計画の該当項目 第5 重要な財産の処分等に関する計画			
中期目標の記載事項			
運営費交付金を充当して行う事業については、「第2 業務運営の効率化に関する事項」で定める事項について配慮した中期計画の予算を作成し、当該予算による運営を行うこととする。			
中期計画の記載事項			
なし。			
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果			
小項目		小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）	
なし。		該当なし。	
当該業務に係る事業費用		当該業務に従事する職員数	
当該項目の評価		該当なし	
【評価結果の説明】			
「必要性」:			
「効率性」:			
「有効性」:			

中期計画の該当項目 第6 剰余金の使途			
中期目標の記載事項			
運営費交付金を充当して行う事業については、「第2 業務運営の効率化に関する事項」で定める事項について配慮した中期計画の予算を作成し、当該予算による運営を行うこととする。			
中期計画の記載事項			
1 IT関連機器の整備 2 人材育成、能力開発 3 職場環境の改善 4 広報、成果の発表・展示			
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果			
小項目		小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）	
1 IT関連機器の整備 2 人材育成、能力開発 3 職場環境の改善 4 広報、成果の発表・展示		該当なし。	
当該業務に係る事業費用		当該業務に従事する職員数	
当該項目の評価		該当なし。	
【評価結果の説明】			
「必要性」:			
「効率性」:			
「有効性」:			

中期計画の該当項目	第7 その他業務運営に関する事項 1 施設及び設備に関する計画		
中期目標の記載事項			
1 センターは、業務の実施に必要な設備等の適切な整備に努める。 2 センターは、職員の安全確保、メンタルヘルス等の労務課題への適切な対応を図る。 3 センターは、災害や緊急事態に即応可能な危機管理体制を構築する。 4 センターは、業務の運営に当たって、環境保全の観点から環境に与える影響に配慮し、適切な対応を図るよう努める。			
中期計画の記載事項			
該当なし。			
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果			
小項目		小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）	
該当なし。		該当なし。	
当該業務に係る事業費用		当該業務に従事する職員数	
当該項目の評価			
【評価結果の説明】			
「必要性」:			
「効率性」:			
「有効性」:			

中期計画の該当項目	第7 その他業務運営に関する事項 2 人事に関する計画
中期目標の記載事項	
1 センターは、業務の実施に必要な設備等の適切な整備に努める。 2 センターは、職員の安全確保、メンタルヘルス等の労務課題への適切な対応を図る。 3 センターは、災害や緊急事態に即応可能な危機管理体制を構築する。 4 センターは、業務の運営に当たって、環境保全の観点から環境に与える影響に配慮し、適切な対応を図るよう努める。	
中期計画の記載事項	
人事に関する計画 1 方針 (1) 情報化の推進等による業務の充実、高度化を進めるとともに、職員の能力開発や人材育成の充実により、職員の専門性の一層の向上を図る。 (2) 周期性を有するという製表業務の特性に対応し、職員の機動的かつ重点的な配置を実現するための人事運用面の体制整備を図る。 (3) 当該中期目標の期間中に、新たな評価制度を導入し、専門性の高い職員がその能力を活かしていくことに対してインセンティブを与える就業環境を形成する。 2 人員に係る指標 当該中期目標の期間中、業務運営の効率化、定型的業務の外部委託推進などにより計画的な合理化減を行い、人員を抑制する。 (参考1) 常勤職員数の状況 期末の常勤職員数を期初の94%以下とする。なお、常勤役員数については3人である。 (1) 期初の常勤職員数 953人 (2) 期末の常勤職員数の見込み 894人 (参考2) 中期目標期間中の人件費総額見込み 30,296百万円 ただし、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当、超過勤務手当、退職者給与及び国際機関派遣職員給与に相当する範囲の費用である。 3 専門性の向上、人材育成 (1) 職員の採用は、人事院の行う国家公務員採用試験合格者からの採用を基本とし、今後、任期付任用、業務に関し高度な専門性を有する者の選考採用について検討する。 (2) 業務に関し専門性を有するものについて再任用制度を活用する。 (3) 業務に関する高度な専門知識や技術を持った人材を育成するとともに、職員の能力向上に重点をおいた研修の内容や体系の充実を図り、職員の自己研鑽を推進する。 (4) 統計局を始めとする関係機関と幅広く人事交流を行い、職員の資質の向上を図る。	
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果	
小項目	小項目に対する実施結果(具体的な数値があれば記入)
(1) 人材の確保	優秀な職員の確保 毎年度(主に年度当初)全国の主要都市にある専門学校に出向き、国家公務員試験を受験する専門学校生に対し、統計センターの業務内容や職場の雰囲気などについて業務説明会を行った。 また、若手職員のメッセージ文を掲載した新規採用職員募集用パンフレットを作成することなどにより、優秀な職員の採用に努めた。

(2) 専門知識を有する職員の採用	<p>人事交流の実施 広い視野を持った人材を養成する観点から、毎年度（原則四半期ごと）総務省統計局等と人事交流を行い、職員の資質向上を図った。</p>																																	
	<p>外部研究者等の採用 平成16年度に、非常勤職員の基本給の額を職務の内容等に応じて定めることができるよう非常勤職員就業規則を改正し、製表技術に関する研究業務に当たる外部研究者を非常勤職員として採用（平成16年度及び17年度：各1人、18年度及び19年度：各2人）することにより、研究体制の強化を図るとともに、業務・システムの最適化を実現するため、17年度からCIO補佐官を1人非常勤職員として採用した。</p>																																	
	<p>情報処理の専門知識を有する新規職員の採用 新規職員の採用に当たっては、情報処理関係の試験区分（電気・情報）の合格者の積極的な採用に努めた。</p>																																	
	<p>平成15年度及び16年度において一部の職員を対象に試行的に評価制度を実施し、その結果等を踏まえ、17年度に「目標による管理」の手法を用いたSTEP制度（6ページ参照）を全組織及び全職員を対象に導入した。導入後は、運用上の注意事項等についてイントラネットを活用した情報提供を適時行うことで同制度の職員への定着が図られた。</p>																																	
(3) 評価制度の導入																																		
(4) 人員に係る指標	<p>常勤職員数の削減 業務の効率化により、表のとおり段階的に常勤職員数の削減を図り、期末の常勤職員数を期初の94%以下とする目標を達成した。</p>																																	
	<table border="1"> <tr> <td colspan="6">平成15年度期初 953人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15年度期末</td> <td>16年度期末</td> <td>17年度期末</td> <td>18年度期末</td> <td>19年度期末</td> </tr> <tr> <td></td> <td>937人</td> <td>925人</td> <td>909人</td> <td>901人</td> <td>890人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>16人 (1.7%)</td> <td>12人 (1.3%)</td> <td>16人 (1.7%)</td> <td>8人 (0.9%)</td> <td>11人 (1.2%)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>16人 (1.7%)</td> <td>28人 (2.9%)</td> <td>44人 (4.6%)</td> <td>52人 (5.5%)</td> <td>63人 (6.6%)</td> </tr> </table> <p>常勤職員数には、「国家公務員法」（昭和22年法律第120号）第79条の規定による退職者及び「国家公務員の育児休業等に関する法律」（平成3年法律第109号）第3条第1項の規定により育児休業をしている者を含む。</p>					平成15年度期初 953人							15年度期末	16年度期末	17年度期末	18年度期末	19年度期末		937人	925人	909人	901人	890人		16人 (1.7%)	12人 (1.3%)	16人 (1.7%)	8人 (0.9%)	11人 (1.2%)	計	16人 (1.7%)	28人 (2.9%)	44人 (4.6%)	52人 (5.5%)
平成15年度期初 953人																																		
	15年度期末	16年度期末	17年度期末	18年度期末	19年度期末																													
	937人	925人	909人	901人	890人																													
	16人 (1.7%)	12人 (1.3%)	16人 (1.7%)	8人 (0.9%)	11人 (1.2%)																													
計	16人 (1.7%)	28人 (2.9%)	44人 (4.6%)	52人 (5.5%)	63人 (6.6%)																													
	<p>再任用職員の採用 専門性を有する統計センターの業務に必要な人材を確保するため、定年退職した職員を再任用短時間勤務職員として5年間で合計52人採用した。採用後は製表部（主に製表グループ）に配置し、上級製表職として製表の専門事項の処理に当たさせた。</p>																																	
当該業務に係る事業費用				当該業務に従事する職員数	890人の内数																													

当該項目の評価	A
<p>【評価結果の説明】</p> <p>中央集計機関としての統計センターは、利用者ニーズに即した製表業務を実施する上で、組織としての効率性を上げつつ、職員の専門的な知識・技術を向上させ、職員が意欲を持って職務に従事できる職場環境を作ることが重要である。</p> <p>こうした観点から、効果的・効率的な採用活動（毎年度（主に年度当初）、全国の主要都市にある専門学校で業務説明会を実施）により優秀な職員の採用に努めるとともに、広い視野を持った人材を養成する観点から、総務省統計局等との人事交流を毎年度実施し、職員の資質向上を図っている。</p> <p>平成16年度に非常勤就業規則を改正し外部からの専門職員の採用に途を開き、外部研究者を非常勤職員として採用することにより、研究体制の強化を図るとともに、17年度からC I O補佐官を1人非常勤職員として採用し、業務・システムの最適化を推進している。また、定年退職職員を再任用職員として採用し、製表の専門事項処理に従事させている。このように専門性を有する人材を有効に活用することにより、<u>組織としての効率性を上げつつ、職員の専門的な知識・技術の向上に努めている。</u></p> <p>平成17年度から全組織及び全職員を対象に、職員自らが業務に必要な能力や知識を習得する「目標による管理」の手法を用いたSTEP制度を導入し、導入後は、運用上の注意事項等についてイントラネットを活用した情報提供を適時行うことで同制度の職員への定着が図られている。</p> <p>また、今中期目標期間中、業務運営の効率化を推進し、計画的な合理化減を行った結果、期初の常勤職員数953人に対し、期末の常勤職員数は890人となり、<u>期末の常勤職員数を期初の94%以下とする目標を上回る93.4%を達成したことは、高く評価できる。</u></p> <p>この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、いずれも「A」という結果である。</p> <p>以上のことから、目標を十分達成していると判断した。</p> <p>「必要性」:</p> <p>統計センターに対する社会的ニーズに応えるためには、組織としての効率性を上げつつ、職員の専門的な知識・技術を向上させ、職員が意欲を持って職務に従事できる職場環境を作ることが必要不可欠である。</p> <p>「効率性」:</p> <p>定年退職職員の再任用など専門性を有する人材を有効に活用するとともに、外部研究者を採用し、外部の知見・能力の活用を図るなど効率的な取組が行われている。</p> <p>「有効性」:</p> <p>外部研究者の採用、「目標による管理」の手法を用いたSTEP制度の実施は、職員の知識・技術の向上につながり、的確な業務運営を図る上で有効である。</p>	

中期計画の該当項目	第7 その他業務運営に関する事項 3 その他業務運営に関する事項
中期目標の記載事項	
<p>1 センターは、業務の実施に必要な設備等の適切な整備に努める。</p> <p>2 センターは、職員の安全確保、メンタルヘルス等の労務課題への適切な対応を図る。</p> <p>3 センターは、災害や緊急事態に即応可能な危機管理体制を構築する。</p> <p>4 センターは、業務の運営に当たって、環境保全の観点から環境に与える影響に配慮し、適切な対応を図るよう努める。</p>	
中期計画の記載事項	
<p>(1) 職員の安全確保 職員の安全を確保するため、安全衛生管理規程を作成する等の安全管理体制の整備を実施する。</p> <p>(2) メンタルヘルス等への対応 セクシャルハラスメントの防止、メンタルヘルス等についての管理体制の確立など、職場環境の整備を図る。</p> <p>(3) 危機管理体制の整備 災害や緊急事態に即応可能な危機管理体制を構築する。</p> <p>(4) 環境への配慮 環境への負荷の低減に資する製品の使用を推進するなど、環境に与える影響に配慮した業務運営を行う。</p>	
中期目標の期間における小項目ごとの実施結果	
小項目	小項目に対する実施結果（具体的数値があれば記入）
(1) 職員の安全確保 職員の安全を確保するため、安全衛生管理規程を作成する等の安全管理体制の整備を実施する。	各年度において、「独立行政法人統計センター安全衛生管理規程」に基づく安全衛生管理体制を運用するとともに、衛生委員会の開催、産業医による職場巡視等を実施した。
(2) メンタルヘルス等への対応 セクシャルハラスメントの防止、メンタルヘルス等についての管理体制の確立など、職場環境の整備を図る。	<p><u>セクシャルハラスメントへの対応</u> 各年度において、「独立行政法人統計センターセクシャルハラスメント防止規程」に基づいた管理体制を運用するとともに、職員が注意すべき事項や監督者の役割、相談窓口等についてイントラネットに掲示し、全職員に周知することにより、セクシャルハラスメントに関する職員の認識を高めた。</p> <p><u>メンタルヘルスへの取組</u> 職員及び職場のストレス度が把握できるソフトウェアを平成17年度に導入し、17年度は1回、18年度及び19年度は各2回の定期ストレス診断を実施した。</p>

<p>(3) 危機管理体制の整備 災害や緊急事態に即応可能な危機管理体制を構築する。</p> <p>(4) 環境への配慮 環境への負荷の低減に資する製品の使用を推進するなど、環境に与える影響に配慮した業務運営を行う。</p> <p>(5) その他</p>	<p>行動マニュアル等の作成及び防災に関する事項の周知 平成17年度に「地震発生時における行動マニュアル」、18年度に「災害における製表業務危機管理マニュアル」を決定し、イントラネットに掲示するなどして、広く職員に周知を図った。 また、多数の人事異動がある4月及び防災の日(9月1日)に合わせた時期には、避難経路の確認を含めた防災に関する事項について周知を図った。 個人情報保護への対応 平成17年3月に統計センターが保有する個人情報の適切な管理体制等を定めた「独立行政法人統計センター個人情報保護規程」の整備を行うとともに、その内容について職員に周知した。 データバックアップ体制の整備 大規模な災害に備えて、平成17年度から集計途中のデータを随時オンラインによって遠隔地に保管するデータバックアップ体制を整備し、すべての周期調査及び経常調査に適用した。 事業継続計画(BCP: Business Continuity Plan)の整備 大規模な災害などの発生によって、業務が停止する事態が生じた場合でも、迅速に復旧する体制の確立が必要であることから、平成19年度にISMS認証取得の要求項目の一つである事業継続計画を整備した。</p> <p>平成15年度から5年連続で、環境物品の100%調達を実現した(ただし、紙製品は除く。)</p> <p>統計センターについての理解を得ることを目的として、統計センターホームページの開設、統計センターパンフレットを作成して統計広報展示室「とうけいプラザ」(東京タワーフットタウン4階)等へ配布するなどの広報活動を行った。</p>		
当該業務に係る事業費用	110,806千円	当該業務に従事する職員数	890人の内数
当該項目の評価	A		
<p>【評価結果の説明】</p> <p>各年度において、「独立行政法人統計センター安全衛生管理規程」に基づく安全衛生管理体制を運用するとともに、衛生委員会の開催、産業医による職場巡視等を実施しており、職員の安全を確保するための安全管理体制の整備が実施されている。</p> <p>各年度において、「独立行政法人統計センターセクシャルハラスメント防止規程」に基づいた管理体制が運用されるとともに、メンタルヘルスに係る取組みとして、職員及び職場のストレス度が把握できるソフトウェアを平成17年度に導入し、定期的にストレス診断を実施しており、職場環境の整備が図られている。</p> <p>平成17年度に「地震発生時における行動マニュアル」、18年度に「災害における製表業務危機管理マニュアル」を決定し、防災に関する事項の周知徹底を図っている。また、平成17年3月に統計センターが保有する個人情報の適切な管理体制等を定めた「独立行政法人統計センター個人情報保護規程」の整備を行うとともに、大規模な災害に備えて、平成17年度から集計途中のデータを随時オンラインによって遠隔地に保管するデータバックアップ体制を整備し、すべての周期調査及び経常調査に適用</p>			

したほか、I S M S 認証取得に当たって、L A Nシステムやホストコンピュータの運用に関する規程や障害報告書等の整理や遠隔地に設置しているデータバックアップ体制の再確認を行うことにより、事業継続計画を整備するなど、災害や緊急事態に即応可能な危機管理体制が構築されていると認められる。

昨年末に閣議決定した「独立行政法人整理合理化計画」における法人の自律化に関して、「独立行政法人統計センター職員の倫理の保持に関する体制について」(平成15年4月1日倫理監督官決定)、「独立行政法人統計センター公益通報者保護規程」などを既に整備するなど、職務執行のあり方を始めとする内部統制の向上に資する措置にも取り組んでいると認められる。

また、平成15年度から5年連続で、環境物品の100%調達(紙製品は除く)を実現し、環境に与える影響に配慮した業務運営が行われている。

さらに、第2期中期計画を踏まえたホームページとパンフレットのリニューアルを行うなど広報にも意欲的に努めている。

この結果、今中期目標期間における各年度の評価は、いずれも「A」という結果である。

以上のことから、目標を十分達成していると判断した。

「必要性」:

上記の各取組はいずれも、社会の一員たる組織体が存続していくために必要不可欠な事項であり、引き続き、各項目については、常にその改善、改良が求められるものであり、そのための不断の努力が期待される。

「効率性」:

安全衛生面、メンタルヘルス面などでの対応を図るため、統計センターが独自に対応を図るのみならず、専門家を活用することで効果的・効率的に対策が進められている。

「有効性」:

上記取組は、公共財である統計データを提供する責務を担う統計センターが、その機能を十分に発揮する上で、有効的なものである。

(参考1) 平成19年度統計センターの業務実績に関する項目別評価結果(案)のポイント

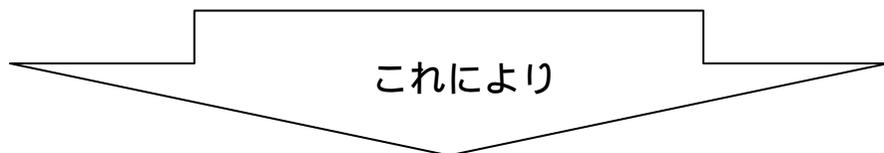
A A (目標を100%を超えて達成)

業務運営の高度化・効率化	分類の自動格付の研究成果を業務に適用したことによる投入量削減、経常調査用ホストコンピュータのリース延長による約2億円の経費削減、業務経費の9.8%削減(目標:3%以上削減)
就業構造基本調査	他調査の格付経験を有する非常勤職員の投入による作業能率向上等により、投入量を対従来比24%削減
社会生活基本調査	生活時間行動分類符号格付の自動格付、データチェック審査事務のPC化、結果表審査事務の見直しにより、投入量を対従来比42%削減
労働力調査	事務の効率化により投入量を対前年度比14%削減し、平成19年度年度計画の目標(経常調査の投入量を対前年度以下)の達成に大きく寄与
小売物価統計調査	事務の効率化による投入量の対前年度比11%削減を累次の効率化に加えて更に図り、平成19年度年度計画の目標(経常調査の投入量を対前年度以下)の達成に大きく寄与

B (目標の80%程度以上を達成)

都道府県委託業務	都道府県委託業務のうち、東京都生計分析調査において、プログラム誤りにより一部の結果数値に誤りがあつたことから、再集計を行っている。このため、他の業務について着実に実施しているものの、B評価とした。
----------	--

その他の評価項目については、年度計画の着実な実施により、A評価とした。



AA : 5、A : 26、B : 1

【参考】過去の評価結果

	AA	A	B
15年度	4	24	4
16年度	3	23	3
17年度	3	24	1
18年度	4	24	0
19年度(案)	5	26	1

(参考2) 第1期中期目標期間統計センターの業務実績に関する項目別評価結果(案)のポイント

A A(目標を100%を超えて達成)

業務運営の高度化・効率化	情報通信技術の積極的な導入・活用により、業務運営の高度化、効率化を推進し、基盤を積極的に整備、業務経費の目標である「3%以上削減」を大きく上回る9.8%(1.1億円)削減の実現、組織体制を事務の種類ごとの機能別組織体制とすることによる業務の繁閑に応じた職員の機動的配置の実現など
国勢調査	調査票イメージデータ及び索引データベースの活用、新産業分類格付システムの適用、結果表審査事務のシステム化、符合格付事務等のシステムの動作環境の向上などに加え、最も基本となる統計調査であることから統計センター全体の業務効率化を図ることに寄与
社会生活基本調査	生活時間行動分類符号格付の自動格付、データチェック審査事務のPC化、結果表審査事務の見直しなどにより、第1期中期目標期間全体での投入量が対従来比-17%の大幅削減
小売物価統計調査	新製表システムへの全面移行、各年度における業務の繁閑に即応した人員配置、職員の専門性の向上などにより、中期目標期間全体での投入量が従来比-23%

B(目標の80%程度以上を達成)

国土交通省土地・水資源局委託業務 国土交通省土地・水資源局委託業務のうち、平成15年住宅・土地統計調査と区別集計の速報集計においてデータの取扱い誤りなどのため、製表結果の提供が遅れたため、B評価とした。

その他の評価項目については、中期計画の着実な実施により、A評価とした。

これにより

AA : 4、A : 3 3、B : 1

【参考】各年度の評価結果

	AA	A	B
15年度	4	2 4	4
16年度	3	2 3	3
17年度	3	2 4	1
18年度	4	2 4	0
19年度(案)	5	2 6	1